

学校と社会をつなぐ調査

第1回調査(2013年秋実施)分析結果報告

—1時点目(高校2年生)報告書—

2014年6月

京都大学 高等教育研究開発推進センター
学校法人河合塾 教育研究開発本部



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

河合塾

はしがき

いま大学は、学生の学びと成長をもとにした学習・学生中心主義の教育へと転換をはかろうとしています。学士課程答申（2008年）・質的転換答申（2012年）をもとに進んでいる昨今の大学教育改革も、大きく見れば、学生がしっかり学び、そして成長する場としての大学教育の構築であると言えます。もはや、大学卒の資格や特定の大学のブランド力だけに頼って、高校から大学へ進学する時代は終わりを告げているとさえ言えます。

しかしながら、京都大学と電通育英会とが共同で進めてきた大学生調査（『大学生のキャリア意識調査』。2007年から3年おきに全国調査を実施している。詳しくは<https://www.dentsu-ikueikai.or.jp/research/> を参照のこと）の結果からは、大学が教育改革をいくら進めても、主体的に学ぶ力、豊かな対人関係や活動性、高いキャリア意識などを持たない学生は、十分に成長していない、できていないのではないかと理解されるような結果が示されてきました。具体的に言えば、学び成長する学生はそうでない学生に比べて、「教室外学習」「対人関係・課外活動」「キャリア意識」の特徴を強く持ちます。キャリア意識というと、大学関係者の多くはまだまだ就職と繋げる程度のものとししか理解していないことが多く、それが学習に及ぼす影響力を過小評価しているのが現実ではありますが、先の見えにくい時代において、学び成長する者のキャリア意識は高いというのが、大学生調査の一貫して示してきた成果でありました。また、学習が単なる知識習得型からアクティブラーニング型へと拡張する中で、コミュニケーション力や対人関係力が弱い学生が、拡張された学習についてきていないのではないかとという新たな仮説も、データから推測して考えられるようになってきました。

いま大学は、学生の学びと成長をしっかり実現していくためにも、教室の中での授業改革のみならず、学生の「教室外学習」「対人関係・課外活動」「キャリア意識」に関する能力や態度まで、改革の手を総合的に伸ばしています。言うまでもなく、主体的に学ぶ力、豊かな対人関係や活動性、高いキャリア意識を、大学生になって一から身に付けていくことは難しく、高校までの基礎があつてこそそのものであると理解されます。新しい時代における学校教育（高校・大学・短大・専門学校等ならびにその接続）の役割（学校と仕事・社会との接続）を明らかにするために、本プロジェクトは、高校2年生を対象に調査をスタートし、約10年間彼らを追跡調査いたします。そして、どのような高校生がどのような大学生（あるいは短大生、専門学校生等）になり、どのような社会人になっていくのかのパターンを解明します。本報告書は、その1時点目の結果報告書であり、2時点目以降の調査結果を理解していくための基礎資料となります。

最後に、調査にご協力くださいました全国の高等学校・生徒のみなさま、並びに教育委員会の関係者に、厚くお礼を申し上げます。

2014年6月

京都大学 高等教育研究開発推進センター
学校法人河合塾 教育研究開発本部

目次

はしがき	1
目次	2
第1章 なぜ10年トランジション調査か-調査の背景と概要-(溝上慎一)	3
第1節 調査の背景	3
第2節 10年トランジション調査に向けて	4
第3節 10年トランジション調査の概要	5
引用文献	8
第2章 生徒タイプの分析から見えてくる高校生の特徴(溝上慎一)	10
はじめに	10
第1節 生徒タイプの作成	10
第2節 生徒タイプに関するその他の分析	18
第3節 まとめと2時点目(大学1年生)に向けての課題	27
第3章 高校生の生活に関するジェンダー差(伊佐夏実・知念渉)	29
はじめに	29
第1節 設問別に見たジェンダー差	29
第2節 共学と別学の差異	38
第3節 ジェネリックスキルとジェンダー	42
おわりに	44
第4章 事例研究-島根県立横田高校-(棕本洋)	45
はじめに	45
第1節 横田高校の諸特徴	46
第2節 アンケート調査結果の内容	48
第3節 生徒インタビューの結果	60
第4節 横田高校の今と未来予想図	68
おわりに	79
巻末資料A 単純集計結果	81
巻末資料B 調査票(高校2年生対象)	119

第1章 なぜ10年トランジション調査か ー調査の背景と概要ー

溝上慎一（京都大学）

第1節 調査の背景

知識基盤社会、社会の情報化・グローバル化、生涯学習社会など、社会の大きな変化を背景に、いま大学教育の現場は急激に改革を進めている。その特徴のポイントを端的に表すならば、それは、教員が何を教えるかではなくて、学生が何を学びどのように成長するかという「学生の学びと成長（student learning and development）」の観点に求められる（溝上, 2012, 2014a）。その観点に基づく大学教育改革は、学生に学習をさせ、さまざまな活動の機会を与え、育てる、そうしてしっかりと育てた学生を社会に送り出す教育機関へと変わっていくための改革であると言える。

ところが、京都大学高等教育研究開発推進センターと公益財団法人電通育英会が2007年より実施している「大学生のキャリア意識調査」^{注1}が年を重ねて順調に実施され、途中2度の追跡調査もおこなわれるなかで、徐々に、大学教育の問題は、入り口手前の高校との接続（高大接続）、出口の就職・初期キャリアとの接続をもって検討されていかなければならないと考えられるようになった。というのも、大学生の成長を規定する変数として見出されてきた、とくにキャリア意識（二つのライフ）や教室外学習（授業外学習 / 自主学習）が、大学生の3年、4年の間でなかなか変わりにくいという結果が出てきたからであった^{注2}。キャリア意識や教室外学習は、主観的な意識や個人の意志に基づく行動であるから、「人は本気になればそんなこといつでもできるようになるよ。気にしなくていい」とおっしゃる方もたくさんいたが、なかなか「本気にならない」のが人である。わかっている人も人は「そんなこと」をなかなかできないものだし、人はそんなに簡単に変わらないものである。これが、上記のデータから言えることであった。

大学生のときの経験（学習や生活のしかた、キャリア意識等）と職場での仕事のしかたとの関係や構造については、東京大学の中原淳氏、電通育英会の助力を得て調査をおこない検討した。2012年3月に予備調査、4月に本調査を実施し、会社員（25・39歳）3,000名のデータを収集して分析した。その成果は、中原・溝上編（2014）『活躍する組織人の探究ー大学から企業へのトランジションー』（東京大学出版会）としてまとめられているので、詳しくはそちらを参照して欲しいが、簡単に関係する結果だけを述べると、次のようになる。

^{注1} 各回の調査結果は <https://www.dentsu-ikueikai.or.jp/research/> を参照のこと。同データを用いた結果は、溝上（2009, 2012）にも示されている。

^{注2} 保田・溝上（2014）に整理したデータ結果の知見をまとめている。なお、キャリア意識（二つのライフ）や教室外学習（授業外学習 / 自主学習）が大学生のあいだで変わりにくいことは、筆者が関わっている大阪府立大学のIRデータでも同様の結果が出ている（たとえば、高橋・深野・溝上, 2014）。

第 1 に、大学時代の豊かな人間関係が、卒業後の職場での仕事のしかたにポジティブな影響を及ぼしていたことである。ビジネスパーソンからは、卒業後仕事に役立つ大学時代の経験として、クラブ・サークル活動やアルバイトを通しての豊かな人間関係がよく挙げられてきたが、調査の結果はまずそれを確認するものであった。

第 2 に、勉強それ自体は卒業後の職場での仕事のしかたにネガティブな効果を及ぼしていたが、主体的な学修態度を採る勉強のしかたをしていれば、それは先の豊かな人間関係といった、これまで多くのビジネスパーソンが重要な経験だと述べてきたことと同程度の効果を示していたことである。

第 3 に、高いキャリア意識（二つのライフ）が、卒業後の職場での仕事のしかたにポジティブな影響を及ぼしていたことである。その影響度は、第 1、第 2 でまとめてきた豊かな人間関係・主体的な学習態度よりも高いものであった。この結果は、これまで大学生を対象とした調査で、二つのライフが学習や知識・能力の獲得に効くとされてきたこれまでの結果とかなり整合するものであった。

これまで多くのビジネスパーソンは、学生時代に将来のことをさほど考えてきたとは言わなかったし、この調査の結果からも全サンプルの 50%の者は高校・大学時代とまったく将来のことを考えてこなかったと回答した。そして、高いキャリア意識を持つ学生がよく学び、幅広く活動をし、そして知識や能力を身につけているという結果を提示しても、多くの場合、訝しがられるばかりで、大学教育と仕事の世界をつなぐのはかなりハードルが高いと考えられてきた。しかし、この調査結果からは、将来の見通しを持つ、加えてその実現に向けて努力することが、豊かな人間関係や主体的な学修態度と同等、あるいはそれ以上で、職場での仕事のしかたに影響を及ぼすことを示唆していた。ビジネスパーソンの個人的な経験論と決定的にずれるポイントであった。

第 2 節 10 年トランジション調査に向けて

京都大学と電通育英会で実施している「大学生のキャリア意識調査」は、全国の大学生を対象に、2007 年以来 3 年おきに 3 回大きく実施してきた（2007 年・2010 年・2013 年）。その間に、いくつかの個別の課題に焦点を当てた調査もおこなってきた。追跡調査も 2 度おこなった。公開はできないものの、同様の質問票を用いて、個別大学・学部での調査もかなりおこなってきた。そして、これらの調査からは、大学生の学びと成長に、

- ・主体的に学ぶ力（教室外学習、主体的な学習態度）
- ・豊かな対人関係や活動性
- ・キャリア意識（二つのライフ）

の活動や意識が関わっているという結果が、ある程度一貫して示されてきた。そして、このような活動や意識が、調査対象者や振り返り式の調査であることなど、調査の限界はありながらも、卒業後の職場での仕事のしかたに影響を及ぼしている結果も示された。

今後、もっとデータを集めて、上記の知見の一般化を確固たるものにしていくことは、

継続してなされるべき重要な作業である。他方で、同一参加者のパネルデータを縦断的に収集して、上記の知見がパネルデータからどの程度一般的に言えるかを示すことが、喫緊の課題として突きつけられるようになっていた。とくに、主体的に学ぶ力（教室外学習、主体的な学習態度）や豊かな対人関係や活動性を、18、19 歳にもなった大学生を相手に、一から育てられるとは考えにくいこと、大学生のなかでキャリア意識（二つのライフ）の高い者の多くは、中学生以前から、あるいは高校 1・2 年生頃から将来のことを考え始めたことと回答する結果が出ていたこと（保田・溝上, 2014）、この 2 点をふまえて、パネル調査は、せめて高校生から始めて、大学卒業後 3 年くらいまで、およそ 10 年かけて実施されなければならないと考えられるようになっていた（以後「10 年トランジション調査」）。どのような学習・生活をして、どの程度のキャリア意識を持つ高校生が、どのような大学生になって、そして、大学を卒業後どのようなビジネスパーソンになるのか、どのような社会生活を送っているのか、この関連や構造を明らかにするパネル調査である^{注3}。

幸い、学校法人河合塾教育研究開発本部が、この 10 年トランジション調査に協力してくれることになり、京都大学高等教育研究開発推進センターとの共催事業として実施されることとなった。高校・大学と併せて 70 名近くの助言者・連携協力者、全国の教育委員会、約 400 校の高校の協力も得て、全国調査が 2013 年 10 月から 12 月にかけて実施されることとなった。概要は、次節で示すとおりである。

第 3 節 10 年トランジション調査の概要

(1) 調査名

「学校と社会をつなぐ調査」（通称「10 年トランジション調査」）

(2) 実施機関

- ・ 京都大学高等教育研究開発推進センター（役割：調査企画や分析等）
- ・ 学校法人 河合塾教育研究開発本部（役割：調査実施や事務管理等）

(3) 目的

高校 2 年生から約 10 年の追跡調査をおこない、学校での学習や日常生活の過ごし方が、大学での学びや社会に出てからの仕事や人生の過ごし方にどのような影響を及ぼすかを検討する。

(4) 調査票

作成の手続き 「大学生のキャリア意識調査」（第 1 節）ほか、大学で実施されてきた各種調査票を参考にして、筆者が高校 2 年生用の調査票をたたき台として作成・提案し、高校・教育委員会の教員・関係者と数回の議論を経て、巻末資料 B（高校 2 年生を対象）に示す

^{注3} 「学校から仕事へのトランジション（school-to-work transition）」という概念は、高校卒業者や中退者に関して、あるいはフリーター、ニートなど社会的弱者に関して、世界的にかなりの研究蓄積がある。しかしながら、大学卒業者を対象にした研究や、大学卒業後から初期キャリアまでを対象としたトランジション研究は、ほとんどなされていない。このあたりの学術的整理は、溝上（2014b）でおこなっているので、興味のある方は参照されたい。

調査票が仕上げられた。下記に、質問番号に合わせて、大きな質問内容を記す。

- ・問 1 性、学科、中高一貫校、SSH 経験など（5 項目）
- ・問 2 学校や日々の生活（16 項目）
- ・問 3 部活動と学習との両立、アクティブラーニングの取り組み、生活の充実感（4 項目）
- ・問 4 一週間の活動時間（平日・休日それぞれ 12 項目）
- ・問 5 友だち関係（9 項目）
- ・問 6 技能・態度の獲得（18 項目）
- ・問 7 自尊感情（6 項目）
- ・問 8 キャリア意識（9 項目）
- ・問 9 進学や将来の職業、生き方について考える機会（3 項目）

質問項目の説明 調査票作成時にかなり議論と検討をした以下 2 問についてのみ、説明をしておく。

①問 4 一週間の活動時間 大学生では、一週間の活動のタイプによって、学生の学びと成長が部分的に説明される（溝上, 2009, 2012）。この成果を受けて、高校生を対象とする本調査においても一週間の活動を尋ねること、一週間の活動を生徒タイプの作成時（第 2 章）の基本変数とすること、が調査前から計画されていた。しかし、尋ね方については、大学生調査と違って、以下 2 点の大きな改訂をしたので、それをここで説明しておく^{注4}。

第一に、一週間の活動時間数を直接数字で記入させたことである。「大学生のキャリア意識調査」だけでなく、山田編（2009）で示される JCSS も含めて、大学生調査における一週間の活動項目は、以下のような 8 段階評定で尋ねられるのが一般的であった。

(1)全然ない (2)1 時間未満 (3)1-2 時間 (4)3-5 時間 (5)6-10 時間 (6)11-15 時間 (7)16-20 時間 (8)21 時間以上
--

ご覧の通り、順位尺度にはなっていない点、間隔尺度以上のものになっていない点が問題である。とくに、大学生調査のなかでは、一週間の活動項目のなかに授業学習や授業外学習が含まれるのが一般的であり、昨今中教審で示される学習時間の問題をしっかりと検討していくためにも、（時間数を直接記入させた）比率尺度にして、学修の平均時間を計算できるようにしておくほうが望ましいことは言うまでもないことである。

ところが、時間数を記入させると、分析上の問題は格段に軽減するが、生徒に回答の負担を過度にかけることになり、回答の質が悪くなるのではないかと懸念された。具体的には、巻末資料 B に示すように、一週間の活動として「部活動」～「睡眠」まで 9 項目、それに「その他」の自由項目を 3 つ加えて、計 12 項目設定していたが、いい加減に数字を書き込んで、すべての活動時間を合計したときに、24 時間をはるかに超える生徒が出てくる

^{注4} 「大学生のキャリア意識調査」でも、2013 年度の調査票からは、ここで示す第一の点と同じく、時間の直接記入の方式に変更している。

かもしれないと考えられたのである。この問題は、実は上述の(1) 全然ない～(8) 21 時間以上で評定されるこれまでの大学生調査においても、生じていた問題ではあったが、時間数の四則計算が適切になされるようになる今回の調査票においては、より露骨に問題化したと言える。この問題に対処するために、調査票では、すべての活動項目の時間数を合計して 24 時間になることを確認させて、そうして表を仕上げるという方式を採ることとした。しかしながら、第 1 回目の予備調査で、ある高校の生徒のほとんどはこの項目自体を回答せず飛ばし、もう 1 つの高校の生徒は、まじめに回答して計算もしてくれたが、「面倒くさい」「これはやってられない」というコメントを残したのであった。

結局、合計して 24 時間になることを確認させる方式は取りやめ、得られたデータに一定の条件を当てはめて分析をおこなうことで、また、記入箇所の下に

*縦の合計が、学校での授業時間（7～8 時間）を含めて 24 時間を越えないように注意してください。

と注意書きを入れることで、この問題に対処することとした。

第二に、(1) 平日（月～金曜日）と(2) 休日（土・日曜日）とを分けて尋ねたことである。これも、「大学生のキャリア意識調査」をはじめとする大学生調査にも当てはまる、共通の問題である。大学生調査では、「一週間の平均的な時間数を記入して下さい」という注意書きを入れて、学生に平均的な時間数を回答させてきたのであった。

高校・教育委員会の教員・関係者との議論のなかで、平日と休日とを分けて尋ねるべきだとの議論が優勢であり、最終的には、巻末資料 B に示すように、(1) 平日と(2) 休日とを分けて尋ねることとした。また、平日でも曜日によって過ごし方の異なることへの配慮が必要だとの意見が多く、

*曜日によって過ごし方は異なると思いますが（たとえば、部活動は週 2 回で、部活動のある曜日とない曜日とでは過ごし方が異なる場合）、あなたを理解するためのもっとも典型的な過ごし方を教えてください（たとえば、部活動があなたにとって重要であれば、部活動のある日の一般的な過ごし方を記入する、など）。

という注意書きも加えて質問をおこなった^{注5}。

②問 7 自尊感情 自尊感情は、日本も含めて世界的に Rosenberg (1965) の尺度（本調査では、櫻井訳 [1997] を使用している）がもっとも多く使用されてきており、項目も 10 項

^{注5} 調査実施後にデータを分析した結果からは、たしかに平日と休日とでは、活動の時間数はまったく異なるものであったが、活動パターン（部活動ばかりか、勉学と部活動を両立しているか、ゲームばかりしているか等）の観点からは、平日と休日とをどうしても分けなければならないという結果は見られなかった。つまり、平日に部活動ばかりする生徒は休日もそうであり、平日に勉学と部活動を両立させている生徒は、休日においてもそうである、といった結果だったのである。この点補足しておく。

目と少なく、定評のある心理尺度である。しかしながら、10項目のなかに、調査に回答する生徒に負の影響が懸念される4項目があり、高校・教育委員会の教員・関係者との協議の結果、削除して調査実施することとした。

筆者の所有する大学生データ（ $n=492$ 、平均年齢 19.72 [SD=1.27]）では、Rosenberg の10項目尺度得点と以下4項目を除いた6項目の尺度得点とのピアソンの積率相関係数は $r=.942$ であり、最終的には、4項目削除に大きな問題はないと判断した。

- ・私は、自分がだめな人間だと思う。
- ・私は、自分が役立たずだと感じる。
- ・私は自分が、少なくとも他人ぐらいは価値のある人間だと思う。
- ・自分を失敗者だと思いがちである。

(5) 調査の実施

大学進学率約 7～8 割の高校（河合塾の資料より全国約 1,500 校の生徒を対象）を調査対象の母集団として設定し、全国都道府県の教育委員会、高校に協力を要請して実施。教室での配布、インターネット、郵送等で、165,687 名の高校生 2 年生に調査票への回答を求め、結果、45,311 名が回答（27.6%回答率）。2013（平成 25）年 10～12 月に実施された。

なお、予備調査は 2 段階でおこなわれた。第 1 段階は、2013 年 6 月に、千葉県私立高校と神奈川県立高校の 2 校に依頼して、高校 2 年生を対象に実施された。第 2 段階は、2013 年 7 月に、北海道の県立高校 1 校に依頼をし、同様に高校 2 年生を対象に実施された。本調査で使った調査票は、以上の 2 段階の予備調査を経て仕上げられたものである。

(6) 調査実施の流れ



引用文献

溝上慎一 (2009). 「大学生生活の過ごし方」から見た学生の学びと成長の検討ー正課・正課外のバランスのとれた活動が高い成長を示すー 京都大学高等教育研究, 15, 107-118.

- 溝上慎一 (2012). 学生の学びと成長 京都大学高等教育研究開発推進センター (編) 生成する大学教育学 ナカニシヤ出版 pp.119-145.
- 溝上慎一 (2014a). アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換 東信堂 印刷中
- 溝上慎一 (2014b). 学校から仕事へのトランジションとは 溝上慎一・松下佳代 (編) 高校・大学から仕事へのトランジションー変容する能力・アイデンティティと教育ー ナカニシヤ出版 pp.1-39.
- 中原淳・溝上慎一 (編) (2014). 活躍する組織人の探究ー大学から企業へのトランジションー 東京大学出版会
- Rosenberg, M. (1965). *Society and the adolescent self-image*. Princeton, New Jersey: Princeton University Press.
- 桜井茂男 (1997). 現代に生きる若者たちの心理ー嗜癖・性格・動機づけー 風間書房
- 高橋哲也・深野政之・溝上慎一 (2014). 大阪府立大学の IR の取組 2ー学生調査と教務データの活用ー 京都大学高等教育研究開発推進センター主催『第 20 回大学教育研究フォーラム発表論文集』 pp.34-35.
- 山田礼子 (編) (2009). 大学教育を科学するー学生の教育評価の国際比較ー 東信堂
- 保田江美・溝上慎一 (2014). 初期キャリア以降の探求ー「大学時代のキャリア見通し」と「企業におけるキャリアとパフォーマンス」を中心に 中原淳・溝上慎一編 活躍する組織人の探究ー大学から企業へのトランジションー 東京大学出版会 pp.139-173.

第2章 生徒タイプの分析から見てくる高校生の特徴

溝上慎一（京都大学）

はじめに

1 時点目（高校2年生）から2 時点（大学1年生）への影響については、カテゴリーや変数を用いての関連や構造分析になると考えられるが、本章では、キャリア意識に結びつく高校生の経験（学習や活動、友だち関係・自尊感情など）がいかなるものかを、一括して「生徒タイプ」として示すべく分析をおこなう。キャリア意識に関連させて生徒タイプをつくる理由は、**第1章**で述べたとおり、それが大学生の学びと成長、ひいては大学での経験と職場での仕事のしかたに影響を及ぼす意識だと考えられるからである。筆者の知る限り、キャリア意識は、高校生対象の調査でほとんど尋ねられてこなかったものであり、言い換えれば、高大接続あるいは10年トランジション調査であるからこそ、尋ねられた質問であると言える。

なお、生徒タイプを作る際の条件として、

条件1 一週間の活動を基礎とすること

条件2 条件1をもとに、可能ならキャリア意識に差が出てくるような生徒タイプを作ること

条件3 条件1・2をもとに、可能なら、高校教育の現場から重要だと聞いてきた活動（たとえば、部活動や学校行事への参加）、さらには、社会から求められる活動や意識（ボランティア活動や将来海外で仕事をしたいか等）において、得点差が見られるような生徒タイプを作ること

を考えた。一般的な分析の観点からすると、この工夫は、生徒タイプを抽出するための変数を多くしてしまい、美しくない手続きとも受け取られがちである。しかしながら、実践的には、一目でキャリア意識に直結するある生徒タイプを示し、同時に、他の活動や意識（たとえば、部活動や学校行事への参加）、社会的に求められる活動や意識（ボランティア活動や将来海外で仕事をしたいか等）の得点を知ることができて、クロス集計を重ねて知見をまとめて理解するよりはるかに有用である。

以下では、分析上の問題を承知しつつ実践的有用性を優先させて、生徒タイプを抽出し、他の変数との関係から、抽出された生徒タイプの特徴を明らかにしていく。そして、その結果をふまえた、2 時点目（大学1年生）に向けての仮説を立てる。

第1節 生徒タイプの作成

(1) タイプ作成にあたってのデータ整理

一週間の活動時間について 一週間の活動時間（問4）合計の平均（SD）は、**図表1**に示すように、(1) 平日で12.8h (3.3)、(2) 休日で18.5h (5.7)であった。平日には授業が7~8h

あることと、睡眠で 5~8h くらい取ることを考えると、休日がやや長めに記入されているということはあるものの、全体的には大きな問題のないデータが収集されたと言える。

しかし、**第 1 章第 3 節 (4)** で述べたように、活動時間の合計が極端に長すぎる者、短すぎる者、記入のない者がいるので、それらを除外したデータセットを作る必要がある。ただ、できるだけ多くのサンプルを残したい意図もあるし、記入の時間自体が厳密な数字でないこともふまえて、ゆるやかに以下の基準すべてに合致するサンプルを分析対象として、それ以外を除外することとした。この基準値には、上述の授業時間（平日）、睡眠（平日・休日）が考慮されている。言うまでもなく、基準値をどこに採るかは複数の選択肢があり得るので、以下では、この基準値の下で分析が進められたと理解して欲しい。基準値のいずれかに合致しないサンプルを除外すると、分析対象として残ったサンプルは、収集サンプルの 86.5%である 39,210 人（男子 18,601 人、女子 19,914 人、答えたくない / 未記入 695 名）であった。

基準 1: 平日の活動時間の合計が 5.5~20.0 時間であり、休日の活動時間の合計が 5.5~25.0 時間であること。

基準 2: 睡眠時間が 3 時間以上。

図表 1 一週間の活動時間の合計・平均

時間(h)	平日	休日
0.0	850 (1.9)	1,327 (2.9)
0.5-5.0	218 (0.5)	143 (0.3)
5.5-10.0	3,069 (6.8)	655 (1.4)
10.5-15.0	31,556 (69.6)	5,934 (13.1)
15.5-20.0	8,618 (19.0)	19,299 (42.6)
20.5-25.0	790 (1.7)	14,116 (31.2)
25.5-30.0	149 (0.3)	2,780 (6.1)
30.5-35.0	38 (0.1)	727 (1.6)
35.5-40.0	13 (0.0)	222 (0.5)
40.5-45.0	4 (0.0)	72 (0.2)
45.5-50.0	3 (0.0)	21 (0.0)
50.5-55.0	2 (0.0)	12 (0.0)
55.5-60.0	1 (0.0)	3 (0.0)
合計	45,311 (100.0)	45,311 (100.0)
平均h(SD)	12.8h (3.3)	18.5h (5.7)

進学・就職について 本調査は、基本的に、高校卒業後大学に進学して、大学を卒業後 3 年までの約 10 年間を追跡する調査である。しかし、大学進学率約 7~8 割の高校を調査対象として調査を実施したことから、**図表 2**に見られるように、約 4%の者は「就職する」「就職も進学もしない」「まだわからない」「その他」の回答となっている。また、「進学する」の 95.5%の者のなかには、短大や専門学校など、大学以外の進学者も含まれている。

本章では、生徒タイプを作成するにあたって、この「(大学、短大、専門学校などに) 進

学する」と回答した者 37,448 名 (95.5%) を分析対象として抽出する。以下の考察や解釈等では、記述が冗長になることを避けるために、分析対象者がすべて大学進学者であるかのように記述されることもあるが、実際には、そのなかに短大や専門学校などへの進学者が含まれていることに留意されたい。

図表 2 高校卒業後の進学・就職予定

1 (大学、短大、専門学校などに)進学する	37,448 (95.5)
2 就職する	537 (1.4)
3 就職も進学もしない	25 (0.1)
4 まだわからない	1,006 (2.6)
5 その他	31 (0.1)
未回答	163 (0.4)
計	39,210 (100.0)

友だち関係・自尊感情の項目について 調査では、友だち関係 (問 5) の項目を 9 項目、自尊感情は Rosenberg (1965) の尺度 (問 7) 10 項目 (櫻井, 1997 訳) を尋ねている。ここでは、生徒タイプを作成するにあたって、友だち関係項目については、因子分析をおこなって、因子寄与率のもっとも高い項目を、自尊感情項目については、全体の尺度得点ともっとも相関の高い項目を抽出することにした。自尊感情については、尺度得点を 1 項目と見なし分析を進める方法も可能であったが、生徒タイプに使用する他の項目が尺度項目でないことを受けて、その方法を採らなかった。

友だち関係項目について、因子分析 (最尤法・プロマックス回転) をおこない、固有値の減衰状況 (2.484、1.274、1.084) から 3 因子に分かれると考えられ (説明率 35.2%)、それぞれの因子にもっとも高く寄与している下記の 3 項目 (因子順) を抽出した。生徒タイプの作成には、この 3 項目を使用していくこととした。

問 5(2) 初対面の人とでもすぐ友だちになる

問 5(8) 悩み語いとなど相談できる友だちがいる

問 5(3) 友だちというより、ひとりであるほうが気持ちが落ち着く

自尊感情項目については、問 7 の(4)(5)の逆転処理をおこない、6 項目のクロンバックの α 係数を求めたところ、 $\alpha = .691$ が得られた。やや低い値であったが、問題のない値として分析を進めた。合計得点と各項目の相関係数を見て、もっとも全体得点と相関の高い下記の項目を抽出して、生徒タイプの分析に使用していくこととした。

問 7(2) 私が、自分には見どころがあると思う

(2) 生徒タイプの作成

(1) で抽出した 37,448 名の高校生を、非階層クラスタ分析 (k-means 法) によって、いくつかの生徒タイプに分類する作業をおこなった。クラスタ分析で生徒タイプを作成するときの条件は、**はじめに**で述べたように、

条件 1 一週間の活動を基礎とすること

条件 2 条件 1 をもとに、可能ならキャリア意識に差が出てくるような生徒タイプを作ること

条件 3 条件 1・2 をもとに、可能なら、高校教育の現場から重要だと聞いてきた活動（たとえば、部活動や学校行事への参加）、さらには、社会から求められる活動や意識（ボランティア活動や将来海外で仕事をしたいか等）において、得点差が見られるような生徒タイプを作ること

の 3 点であった。このポイントをにらんで使用したのが、以下の項目群である（生徒タイプ作成の条件 1～3 にしたがって、項目を並び替えている）。

・問 4 一週間の活動時間（平日・休日それぞれ 12 項目）

＊自由に記入する活動項目「その他 1」～「その他 3」については、記入者数が平日 6.6%、休日 6.9%だったので、分析が複雑になることを避けて、分析項目からは除外した。

・問 8 キャリア意識（3 項目）

＊項目(3A)(3B)(4)を使用した。これらの項目は、得点を逆転処理して分析に使用した。なお、これらの項目は、本分析の対象となっている「(大学、短大、専門学校などに進学する」と回答した者のみが回答する選択項目である。

・問 2 学校や日々の生活（13 項目）

＊項目(8)～(10)は(7)「私は、授業の内容を理解している」で代表できると考え、分析項目から除外した。

・問 5 友だち関係（3 項目）

＊前項(1)で説明したように、項目(2)(8)(3)を抽出した。なお、項目(2)(8)は肯定項目で、(3)は否定項目なので、分析にはこの順で使用した。

・問 7 自尊感情（1 項目）

＊前項(1)で説明したように、項目(2)を抽出した。

項目の得点はスケールが異なるため、すべて標準化処理をおこない、標準化得点を用いて非階層クラスタ分析（K-means 法）をおこなった。手続きは、大きく 2 段階でおこなわれた。

第 1 に、4～8 のクラスタ数でクラスタ分析を実施し、それぞれ得られたクラスタの特徴を見て、解釈のしやすいクラスタ数を仮に決定するという手続きである。クラスタ数は、教育現場の生徒を理解していくための数でもある。少なすぎるとは、生徒を単純に理解しすぎることになるし、多すぎるとは、細かく理解しすぎることになり、実際に教育や指導に活かしにくいことになる。ここでは、これらの間の数として 4～8 で検討することが妥当であると考えられた。

第 2 に、解釈のしやすいクラスタ数がおおよそ定まってくれば、クラスタを独立変数、項目得点を従属変数とする一要因分散分析をおこない、1%水準の有意差、かつ中程度の効果量（ η^2 ）が得られた項目のみを残し、再度クラスタ分析をおこない、再度得られたクラ

スタの特徴を解釈する、という手続きである。これは、分析に使用する項目数を、最終的にできるだけ減らすためである。もっとも項目数が少なくなり、十分に特徴が解釈されるクラスタを得るまで、この手続きを繰り返す。

こうして、最終的に採用されたクラスタ数は 7 であった。生徒タイプを作る際に設定した条件 1（一週間の活動を基礎とすること）は、結果として、大学生だけでなく、高校生にもうまく当てはまり、7つのクラスタは基本的に一週間の活動時間によって分類されることが明らかとなった。その上で、条件 2、条件 3 もうまく考慮して、項目が最終決定されている。

(3) 生徒タイプの命名と特徴

各クラスタは、項目の得点から解釈して、「勉強タイプ」「勉強ほどタイプ」「部活動タイプ」「交友通信タイプ」「読書マンガ傾向タイプ」「ゲーム傾向タイプ」「行事不参加タイプ」と命名された（図表 3 参照）。ここから先、クラスタを「(生徒) タイプ」と呼んで使用していく。以下、それぞれの生徒タイプの特徴を説明していく。

①**勉強タイプ** 他の生徒に比べて、「授業以外の学習時間」が長いこと（平均時間は平日 2.73h、休日 4.47h）を特徴として分類されるタイプである。このタイプのなかには、部活動と両立している者も多く含まれている。当然、「授業の内容を理解している」の得点は高いが、そのほかにも「規則正しい生活を送っている」、「将来海外の大学や学校に行きたい」、「将来海外で仕事をしたい」、「自分に見どころがあると思う」（自尊感情）、「進学先についてよく考えている」（キャリア意識）、「進学準備を始めている」（キャリア意識）、「進学先を卒業後どのような仕事をしたいか見通しを持っている」（キャリア意識）の得点が、他の生徒に比べて高い。概して、よく学び、将来に向けて頑張り、個人の成長を実感している生徒タイプであると言えよう。

②**勉強ほどタイプ** 「授業以外の学習時間」が長いことを特徴として分類されるタイプであるが、勉強タイプより「授業以外の学習時間」がやや短い（平均時間は平日 1.85h、休日 2.82h）。「ボランティア活動に参加してきた」は、他の生徒に比べてもっとも得点が高い。勉強タイプが高い得点を示した「授業の内容を理解している」、「規則正しい生活を送っている」、「将来海外の大学や学校に行きたい」、「将来海外で仕事をしたい」、「自分に見どころがあると思う」（自尊感情）、「進学先についてよく考えている」（キャリア意識）、「進学準備を始めている」（キャリア意識）、「進学先を卒業後どのような仕事をしたいか見通しを持っている」（キャリア意識）の項目については、おおむね勉強タイプに次いでの高い得点を示している。図表 3 では、平日・休日の「読書をする（マンガ・雑誌を除く）」時間が、読書マンガ傾向タイプに次いで長く見えるが、平均時間を算出すると、平日 0.89h、休日 1.45h であり、そこまで長いと言えるほどのものではない。得点を標準化して分析していることから生じている結果であると考えられる。概して、準勉強タイプとでも呼ぶべきタイプであると言えよう。

③**部活動タイプ** 他の生徒に比べて、「部活動」の時間が長いこと（平均時間は平日 2.63h、

休日は 4.78h) を特徴として分類されるタイプである。全体のなかで「授業以外の学習時間」が比較的短く、勉強タイプのなかに部活動と両立している者が多く含まれていることを併せて考えると、部活動をやりながら勉強をあまりしない生徒の多くが、この部活動タイプに分類されていると考えられる。「学校行事に積極的に参加する」、「悩み事を相談する友だちがいる」(友だち関係)は比較的得点が高いが、「進学先についてよく考えている」(キャリア意識)、「進学準備を始めている」(キャリア意識)、「進学先を卒業後どのような仕事をしたいか見通しを持っている」(キャリア意識)の得点はかなり低い。概して、部活動を中心に高校生活を過ごし、良好な友だち関係や集団行動には適応しているが、勉強はあまりやらず、将来のこともあまり考えていないタイプであると言えよう。

④交友通信タイプ 他の生徒に比べて、「友だちと遊ぶ」(平均時間は平日 0.56h、休日 3.28h)、「友だちと電話・LINE・メール交換、ツイッター・SNS など」(平均時間は平日 1.40h、休日 2.28h)の時間が長いことを特徴として分類されるタイプである。全体のなかで「授業以外の学習時間」が比較的短い、「学校行事に積極的に参加する」、「初対面の人とすぐ友だちになる」(友だち関係)、「悩み事を相談する友だちがいる」(友だち関係)の得点は全体のなかでもっとも高い。また、「進学準備を始めている」(キャリア意識)の得点はあまり高くないながらも、「進学先についてよく考えている」(キャリア意識)、「進学先を卒業後どのような仕事をしたいか見通しを持っている」(キャリア意識)の得点は、勉強タイプ、勉強ほどタイプに次いで高い得点を示す。概して、友だちと遊んだり通信したりすることが高校生活の中心であり、良好な友だち関係を築いていたり集団行動に適応していたりする。勉強はあまりしないが、将来のことは比較的よく考えているタイプであると言えよう。

⑤読書マンガ傾向タイプ 他の生徒に比べて、「読書をする(マンガ・雑誌を除く)」(平均時間は平日 1.98h、休日 3.05h)、「マンガ・雑誌を読む」(平均時間は平日 0.51h、休日 0.79h)の時間が長いことを特徴として分類されるタイプである。全体のなかで、「ひとりであるほうが気持ちが落ち着く」(友だち関係)の得点がもっとも高く、ほか、「規則正しい生活を送っている」、「将来海外の大学や学校に行きたい」、「将来海外で仕事をしたい」、「悩み事を相談する友だちがいる」(友だち関係)、「自分に見どころがあると思う」(自尊感情)、「進学先についてよく考えている」(キャリア意識)、「進学先を卒業後どのような仕事をしたいか見通しを持っている」(キャリア意識)の得点が低い。概して、読書したりマンガ・雑誌を読んだりして、ひとりで過ごすことが多く、友だち関係は弱く、自尊感情、キャリア意識は低いタイプであると言えよう。

⑥ゲーム傾向タイプ 他の生徒に比べて、「ゲームをする」時間が長いこと(平均時間は平日 2.07h、休日 3.40h)を特徴として分類されるタイプである。全体のなかで、「規則正しい生活を送っている」、「授業の内容を理解している」、「進学先についてよく考えている」(キャリア意識)、「進学準備を始めている」(キャリア意識)の得点がもっとも低い。ほか、「ひとりであるほうが気持ちが落ち着く」(友だち関係)の得点が高く、「将来海外の大学や学

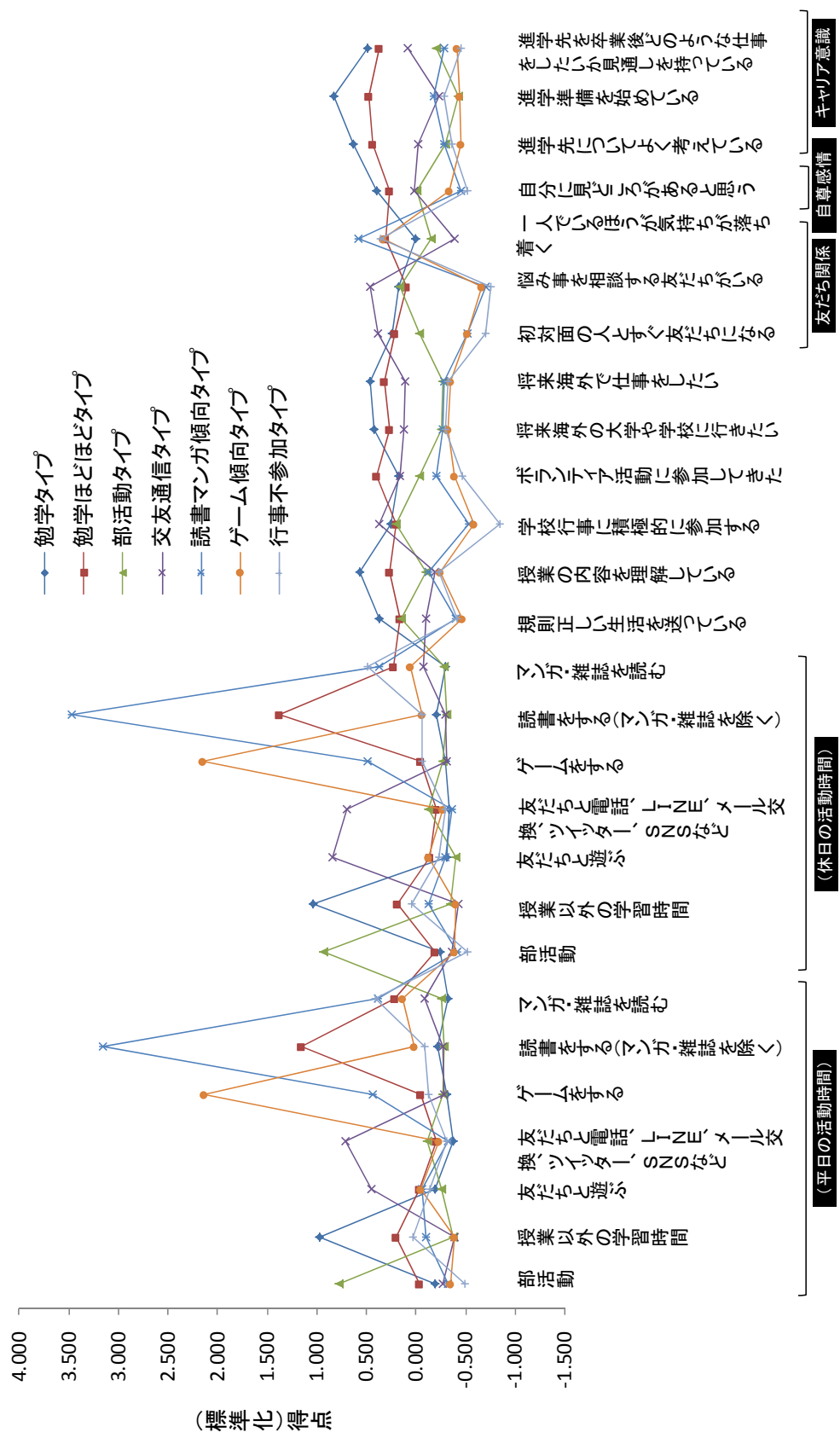
校に行きたい」、「将来海外で仕事をしたい」、「悩み事を相談する友だちがいる」（友だち関係）、「進学先を卒業後どのような仕事をしたいか見通しを持っている」（キャリア意識）の得点が低い。概して、ゲームをしてひとりで過ごすことが多く、勉強はしない、友だち関係は弱い、キャリア意識も低いタイプであると言えよう。

⑦行事不参加タイプ 他の生徒に比べて、「学校行事に積極的に参加する」の得点がもっとも低いことを特徴として分類されるタイプである。7つの生徒タイプのなかで唯一、一週間の活動以外の項目で分類されるタイプであるが、高校教育の現場で学校行事への参加が重要だと言われることが多いことを理由に、このタイプをあえて抽出した。全体のなかで、「部活動」の時間がもっとも短く、「ボランティア活動に参加してきた」、「初対面の人とすぐ友だちになる」（友だち関係）、「悩み事を相談する友だちがいる」（友だち関係）、「自分に見どころがある」（自尊感情）、「進学先を卒業後どのような仕事をしたいか見通しを持っている」（キャリア意識）の得点がもっとも低い。ほか、「授業の内容を理解している」、「将来海外の大学や学校に行きたい」、「将来海外で仕事をしたい」、「進学先についてよく考えている」、「進学準備を始めている」の得点が低い。概して、友だち関係が弱く、自尊感情の低いことが学校行事への消極的参加につながっていると考えられ、将来のことも考えられていないタイプであると言えよう。

以下 2 点は、調査実施前に予想していたことが、分析結果からは見いだせなかったことである。

第 1 に、平日と休日の活動パターンは、当初予想されたほど大きな差を示すものではなかったことである。たしかに平日と休日とでは、活動の時間数はまったく異なるものであったが、上記で示してきたように、生徒タイプの観点からは、たとえば勉学タイプの生徒は他の生徒に比べて、平日も休日もよく「授業以外の学習」をおこない、部活動タイプは他の生徒に比べて、平日も休日もよく「部活動」をおこなっていたのであった。

第 2 に、勉学と部活動との両立タイプは抽出されなかったことである。両立タイプの分析をおこなった図表 12 の結果を先取って参考にして言えば、勉学（ここでは「授業以外の学習時間」）をしながら部活動もする生徒（まさに勉学と部活動の両立タイプ）の多くは、上述のとおり、「勉学タイプ」に分類されており、部活動が一週間の活動の中心であり、かつ勉学をあまりしない者の多くは、「部活動タイプ」に分類されている。勉学と部活動との両立の意味については、後に別途検討することとする。



図表 3 クラス分析 (k-means 法) による生徒7タイプ

(4) 男女別に見た生徒タイプの割合

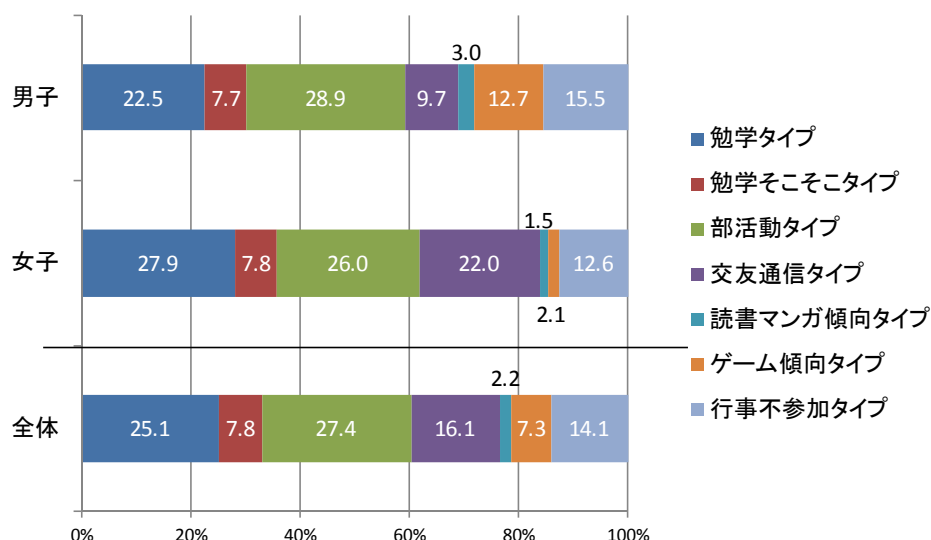
男女別に見た生徒タイプの割合を、**図表 4** に示す。それを見ると、「交友通信タイプ」は女子（22.0%）のほうが男子よりも多く、「ゲーム傾向タイプ」は男子（12.7%）のほうが女子よりも多かった。その他のタイプは、大きな男女差は見られなかった。

図表 4 男女別に見た生徒 7 タイプの割合

数字：人数（%）

	勉学タイプ	勉学 そこそこタイプ	部活動タイプ	交友通信 タイプ	読書マンガ 傾向タイプ	ゲーム傾向 タイプ	行事不参加 タイプ	全体
男子	3,742 (22.5)	1,275 (7.7)	4,802 (28.9)	1,610 (9.7)	490 (3.0)	2,107 (12.7)	2,580 (15.5)	16,606 (47.8)
女子	5,048 (27.9)	1,415 (7.8)	4,712 (26.0)	3,981 (22.0)	280 (1.5)	387 (2.1)	2,291 (12.6)	18,114 (52.2)
全体	8,790 (25.1)	2,690 (7.8)	9,514 (27.4)	5,591 (16.1)	770 (2.2)	2,494 (7.3)	4,871 (14.1)	34,720 (100.0)

*全体には性を答えたくない / 未記入の者を含む



第 2 節 生徒タイプに関するその他の分析

ここでは、生徒タイプの技能・態度の獲得との関連、共学・男子校・女子校別、中高一貫別、大学進学グループ別、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の参加別、アクティブラーニングの参加状況別に見た生徒タイプの割合を検討する。

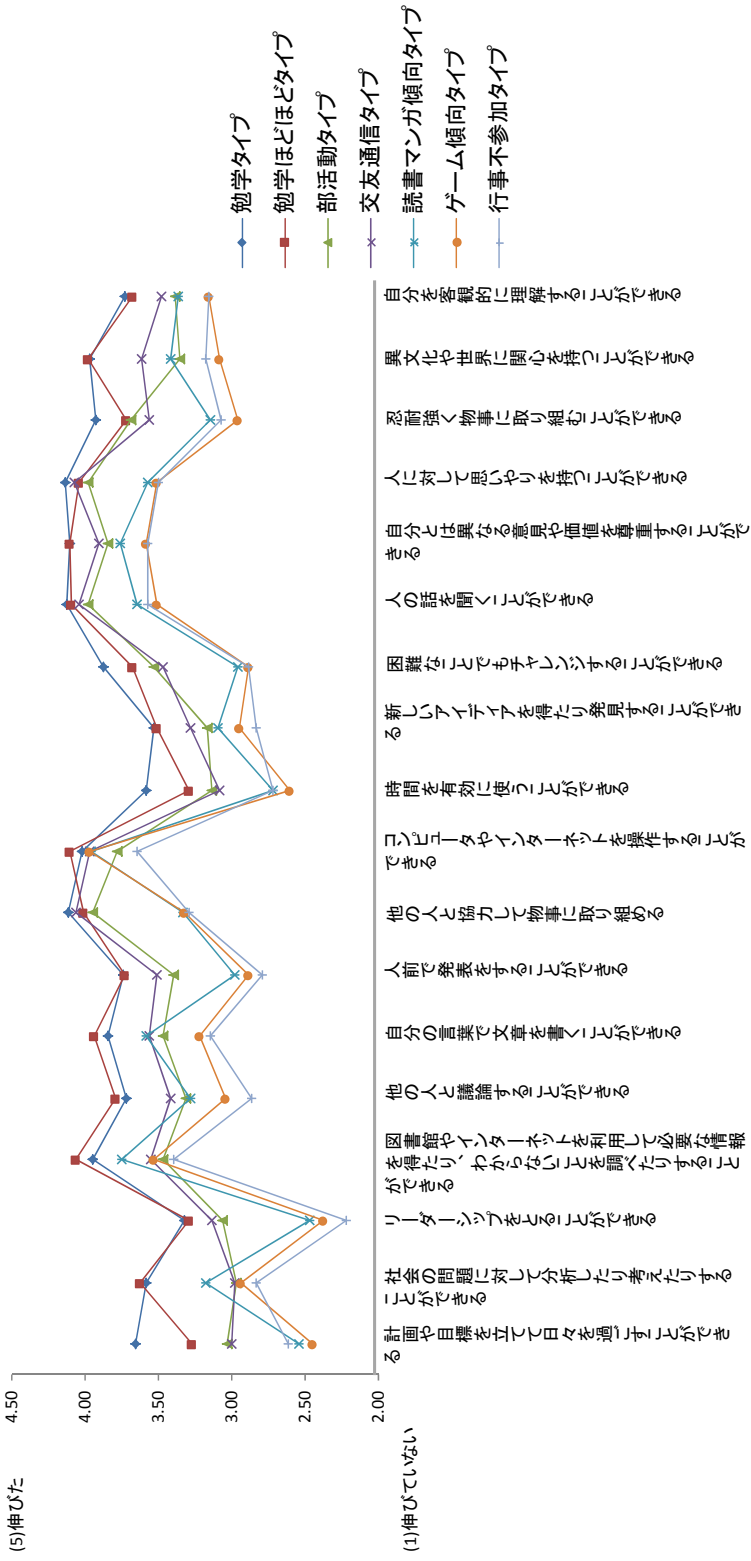
(1) 生徒タイプの技能・態度の獲得との関連

生徒タイプ別に見た技能・獲得の得点を、**図表 5** に示す。それを見ると、全体的に「勉学タイプ」「勉学ほどほどタイプ」の得点が高く、次いで「交友通信タイプ」「部活動タイプ」が中程度の得点を示していた。「交友通信タイプ」「部活動タイプ」は、いずれも友達関係や集団行動に強いタイプなので、「他の人と協力して物事に取り組める」「人の話を聞くことができる」「人に対して思いやりを持つことができる」といった項目の得点は、「勉学タイプ」「勉学ほどほどタイプ」と同程度の高い得点を示していた。しかし、「他の人と議論することができる」「人前で発表することができる」の得点は、中程度の得点を示していたことから、これらの活動は学習と関連した技能・態度だと考えることもできる。

全体的に得点が低かったのは、「行事不参加タイプ」「ゲーム傾向タイプ」であった。加

図表 5 生徒タイプの技能・態度の獲得との関連

	計画や 目標を 立てて 日々を 過ごす ことが できる	社会の 問題に 対して 分析し たり考 えたりす ることが できる	リー ダー シップ をとる ことが できる	図書館やイン ターネットを利 用して必要 な情報を 得たり、 わからな いことを 調べたり することが できる	他の人 と議論 すること ができる	自分の 言葉で 文章を 書くこと ができる	人前 で発表 すること ができる	他の人 と協力 して物 事に取 り組め る	コン ピュータ やイン ターネッ トを操 作する ことが できる	時間 を有効 に使う ことが できる	新しい アイディ アを得 たり発 見する ことが できる	困難な ことでも まよひ なくし て進め ることが できる	人との 話や 価値観 を尊重 すること ができる	自分と 異なる 意見や 価値観 を尊重 すること ができる	人に対 して思 いやり を持つ ことが できる	忍耐強 く物事 に取り組 むこと ができる	異文化 や世界 に関心 を持つ ことが できる	自分を 客観的 に理解 すること ができる
勉学タイプ	3.65	3.58	3.32	3.94	3.72	3.84	3.73	4.11	4.02	3.58	3.52	3.87	4.12	4.10	4.13	3.93	3.97	3.73
勉学ほどタイプ	3.27	3.62	3.29	4.05	3.79	3.94	3.73	4.00	4.10	3.29	3.51	3.67	4.08	4.10	4.03	3.72	3.97	3.67
部活動タイプ	3.03	2.97	3.06	3.47	3.31	3.47	3.39	3.94	3.77	3.13	3.17	3.52	3.98	3.84	3.97	3.68	3.35	3.38
交友通信タイプ	3.00	2.98	3.14	3.55	3.41	3.56	3.51	4.06	3.97	3.08	3.28	3.46	4.03	3.90	4.07	3.56	3.61	3.48
読書マンガ傾向タイプ	2.54	3.17	2.47	3.75	3.28	3.58	2.98	3.33	3.95	2.71	3.09	2.95	3.64	3.76	3.57	3.14	3.41	3.36
ゲーム傾向タイプ	2.44	2.94	2.38	3.53	3.04	3.21	2.88	3.32	3.96	2.60	2.95	2.88	3.51	3.58	3.50	2.96	3.08	3.15
行事不参加タイプ	2.61	2.83	2.22	3.39	2.86	3.14	2.78	3.29	3.65	2.72	2.83	2.88	3.57	3.57	3.49	3.07	3.17	3.15



えて、項目によっては中程度の得点を示すが、同様に全体的に得点が低かったのは、「読書マンガ傾向タイプ」であった。これら3つの生徒タイプは、昨今求められる技能や態度（ジェネリックスキルやコンピテンシー、21世紀型スキルなど）の獲得に困難を示す可能性の高いタイプであると考えられる。

(2) 共学・男子校・女子校別に見た生徒タイプの割合

共学・男子校・女子校別に見た生徒タイプの割合を、図表6に示す。それを見ると、「勉強タイプ」は女子校で多く見られ（37.3%）、「ゲーム傾向タイプ」は男子校で多く見られた（11.6%）。逆に少なかったのは、女子校の「部活動タイプ」（16.9%）と男子校の「交友通信タイプ」（8.1%）であった。「行事不参加タイプ」は、共学、男子校、女子校いずれにおいても、約15%前後の割合を示していた。

図表6 共学・男子校・女子校別に見た生徒タイプの割合

数字：人数（%）

	勉強タイプ	勉強 そこそこタイプ	部活動タイプ	交友通信 タイプ	読書マンガ 傾向タイプ	ゲーム傾向 タイプ	行事不参加 タイプ	全体
共学	6,827 (22.8)	2,212 (7.4)	8,691 (29.0)	5,082 (17.0)	662 (2.2)	2,225 (7.4)	4,245 (14.2)	29,944 (100.0)
男子校	534 (26.6)	183 (9.1)	494 (24.7)	162 (8.1)	70 (3.5)	232 (11.6)	329 (16.4)	2,004 (100.0)
女子校	537 (37.3)	107 (7.4)	244 (16.9)	264 (18.3)	25 (1.7)	27 (1.9)	237 (16.4)	1,441 (100.0)
全体	7,898 (23.7)	2,502 (7.5)	9,429 (28.2)	5,508 (16.5)	757 (2.3)	2,484 (7.4)	4,811 (14.4)	33,389 (100.0)



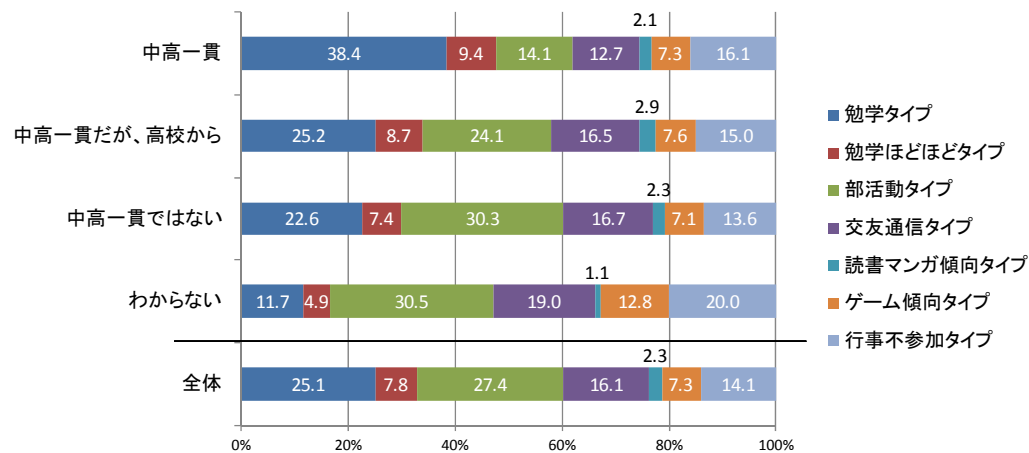
(3) 中高一貫別に見た生徒タイプの割合

中高一貫別に見た生徒タイプの割合を、図表7に示す。それを見ると、中高一貫校は、「勉強タイプ」が多く（38.4%）、「部活動タイプ」が少ないという特徴を示していた。それ以外のタイプは、いずれも同程度の割合であった。

図表7 中高一貫別に見た生徒タイプの割合

数字：人数（%）

	勉強タイプ	勉強 そこそこタイプ	部活動タイプ	交友通信 タイプ	読書マンガ 傾向タイプ	ゲーム傾向 タイプ	行事不参加 タイプ	全体
中高一貫	2,085 (38.4)	509 (9.4)	763 (14.1)	690 (12.7)	112 (2.1)	396 (7.3)	872 (16.1)	5,427 (15.4)
中高一貫だが、高校から 中高一貫ではない	670 (25.2)	230 (8.7)	641 (24.1)	438 (16.5)	77 (2.9)	201 (7.6)	399 (15.0)	2,656 (7.6)
中高一貫ではない	6,020 (22.6)	1,964 (7.4)	8,067 (30.3)	4,437 (16.7)	599 (2.3)	1,901 (7.1)	3,606 (13.6)	26,594 (75.7)
わからない	55 (11.7)	23 (4.9)	143 (30.5)	89 (19.0)	5 (1.1)	60 (12.8)	94 (20.0)	469 (1.3)
全体	8,830 (25.1)	2,726 (7.8)	9,614 (27.4)	5,654 (16.1)	793 (2.3)	2,558 (7.3)	4,971 (14.1)	35,146 (100.0)



(4) 大学進学グループ別に見た生徒タイプの割合

河合塾の進学資料を用いて、高校を下記のグループⅠ・Ⅱ・Ⅲのいずれかに分類した。

- ・グループⅠ：難関国公立大・私立大に多数進学
- ・グループⅡ：中堅国公立大・私立大に多数進学
- ・グループⅢ：その他の私立大・短大等に多数進学

大学進学グループ別に見た生徒タイプの割合を、**図表 8** に示す。それを見ると、「勉強タイプ」は大学進学グループⅠで多く見られ（36.1%）、「部活動タイプ」（30.6%）、「交友通信タイプ」（20.8%）は大学進学グループⅢで多く見られた。「読書マンガ傾向タイプ」「ゲーム傾向タイプ」「行事不参加タイプ」は、大学進学グループに関係なく、同程度の割合が見られた。

図表 8 大学進学グループ別に見た生徒タイプの割合

数字：人数（%）

	勉強タイプ	勉強 そこそこタイプ	部活動タイプ	交友通信 タイプ	読書マンガ 傾向タイプ	ゲーム傾向 タイプ	行事不参加 タイプ	全体
グループⅠ	2,512 (36.1)	629 (9.1)	1,642 (23.6)	648 (9.3)	133 (1.9)	416 (6.0)	970 (14.0)	6,950 (20.9)
グループⅡ	2,417 (27.9)	661 (7.6)	2,369 (27.3)	1,173 (13.5)	176 (2.0)	557 (6.4)	1,324 (15.3)	8,677 (26.0)
グループⅢ	2,928 (16.5)	1,205 (6.8)	5,418 (30.6)	3,681 (20.8)	447 (2.5)	1,508 (8.5)	2,507 (14.2)	17,694 (53.1)
全体	7,857 (23.6)	2,495 (7.5)	9,429 (28.3)	5,502 (16.5)	756 (2.3)	2,481 (7.4)	4,801 (14.4)	33,321 (100.0)



(5) SSH の参加状況別に見た生徒タイプの割合

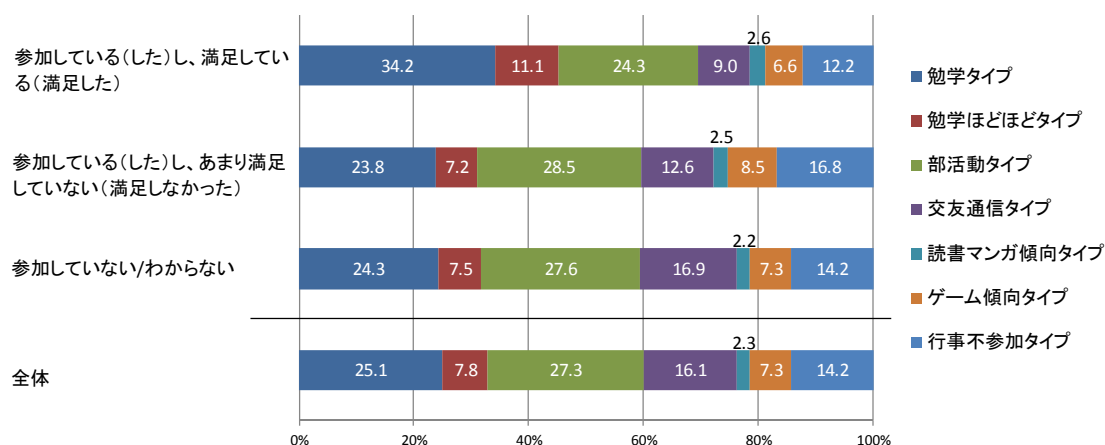
SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の参加状況別に見た生徒タイプの割合を、**図表 9**に示す。それを見ると、「(SSH に) 参加している（した）し、満足している（満足した）」と回答した者（＝SSH 参加・満足者）のなかで、「勉学タイプ」の割合が多く（34.2%）、「交友通信タイプ」の割合が少なく見られた（9.0%）。SSH に参加しても、満足していない（しなかった）者（SSH 参加・不満足者）を見ると、「勉学タイプ」は、「参加していない / わからない」者（SSH 非参加者）とほとんど変わらない割合であった。

周知のとおり、SSH は、文部科学省が科学技術や理科・数学教育を重点的におこなう高校を指定する制度であり、そのプログラムに参加する生徒は、参加しない生徒よりも学習が豊かであるイメージがある。**図表 9**の結果からは、たしかに、SSH 参加・満足者の「勉学タイプ」は多く見られたが、その割合（34.2%）は、以上で見てきた、たとえば大学進学グループ I の 36.1%と比べて、格段高い値だとは言えないものであった。むしろ、SSH 参加・満足者のなかでも、「行事不参加タイプ」（12.2%）や「ゲーム傾向タイプ」（6.6%）の割合が少なからずいて、その割合が SSH 非参加者と比べて同程度であることに驚きを感じるといえる結果であった。今後、SSH のプログラムの効果検証がなされていくことと思われるし、本調査も 2 時点目、3 時点目と調査を重ねていくので、SSH に参加することの影響を引き続き検討していきたい。

図表 9 SSH 参加状況別に見た生徒タイプの割合

数字：人数（%）

	勉学タイプ	勉学 そこそこタイプ	部活動タイプ	交友通信 タイプ	読書マンガ 傾向タイプ	ゲーム傾向 タイプ	行事不参加 タイプ	全体
参加している(した)し、満足している(満足した)	1,041 (34.2)	336 (11.1)	739 (24.3)	273 (9.0)	79 (2.6)	202 (6.6)	370 (12.2)	3,040 (8.7)
参加している(した)し、あまり満足していない(満足しなかった)	313 (23.8)	94 (7.2)	374 (28.5)	166 (12.6)	33 (2.5)	112(8.5)	221 (16.8)	1,313 (3.8)
参加していない/わからない	7,437 (24.3)	2,293 (7.5)	8,441 (27.6)	5,179 (16.9)	675 (2.2)	2,228 (7.3)	4,359 (14.2)	30,612 (87.6)
全体	8,791 (25.1)	2,723 (7.8)	9,554 (27.3)	5,618 (16.1)	787 (2.3)	2,542 (7.3)	4,950 (14.2)	34,965 (100.0)



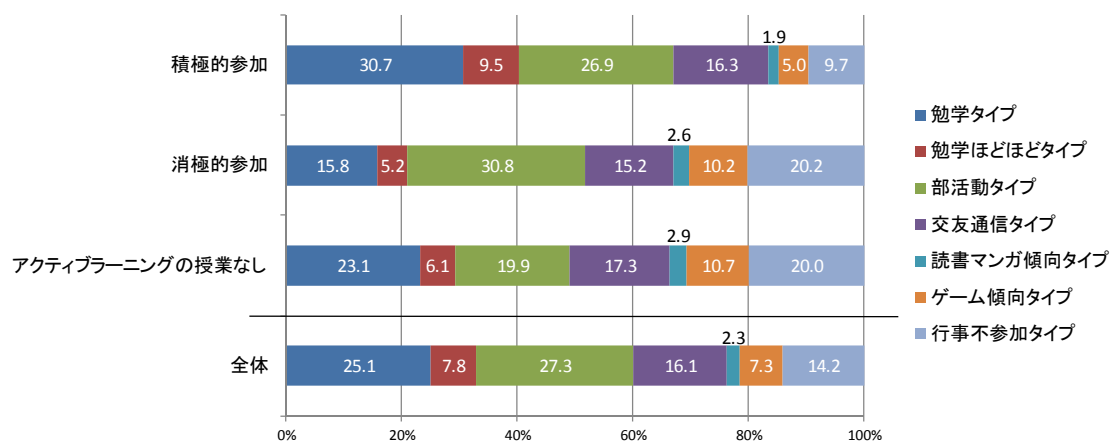
(6) アクティブラーニングの参加状況別に見た生徒タイプの割合

問 3(2)の「授業におけるディスカッション（話し合い）・プレゼンテーション（発表）などに精いっぱい取り組んでいますか」という問いへの回答を、「積極的参加」（取り組んでいる・まあまあ取り組んでいる）、「消極的参加」（あまり取り組んでいない・取り組んでいない）、「アクティブラーニングの授業なし」（そういう授業はない）と整理をして、生徒タイプ別に割合を見たものを、**図表 10** に示す。それを見ると、積極的参加者のなかに「勉強タイプ」が多く（30.7%）、「行事不参加タイプ」（9.7%）が少ないという特徴が見られた。消極的参加とアクティブラーニングの授業なしの者のなかに、「行事不参加タイプ」が多く見られた（それぞれ 20.2%、20.0%）。

図表 10 アクティブラーニングの状況別に見た生徒タイプの割合

数字：人数（%）

	勉強タイプ	勉強 そこそこタイプ	部活動タイプ	交友通信 タイプ	読書マンガ 傾向タイプ	ゲーム傾向 タイプ	行事不参加 タイプ	全体
積極的参加	6,183 (30.7)	1,911 (9.5)	5,412 (26.9)	3,292 (16.3)	390 (1.9)	1,005 (5.0)	1,948 (9.7)	20,141 (57.2)
消極的参加	1,774 (15.8)	584 (5.2)	3,449 (30.8)	1,699 (15.2)	292 (2.6)	1,146 (10.2)	2,262 (20.2)	11,206 (31.8)
アクティブラーニングの 授業なし	898 (23.1)	239 (6.1)	773 (19.9)	674 (17.3)	113 (2.9)	417 (10.7)	778 (20.0)	3,892 (11.0)
全体	8,855 (25.1)	2,734 (7.8)	9,634 (27.3)	5,665 (16.1)	795 (2.3)	2,568 (7.3)	4,988 (14.2)	35,239 (100.0)



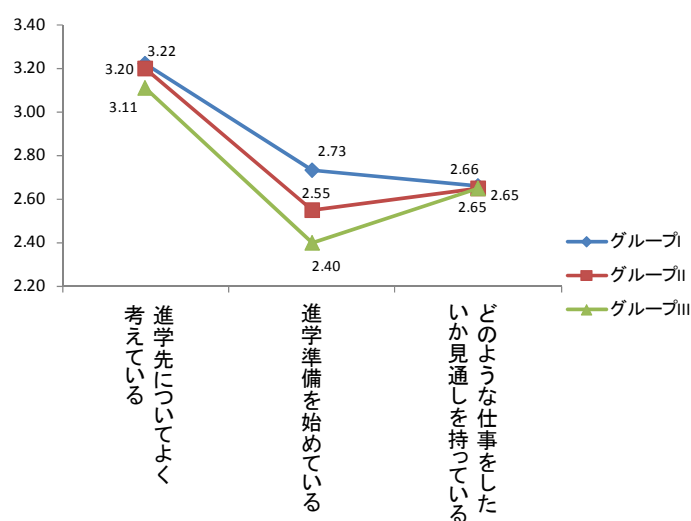
(7) 大学進学グループとキャリア意識との関連

第1節(3)で示した「勉強タイプ」「勉強ほどほどタイプ」の特徴から、授業以外の学習時間とキャリア意識は高い関連を持っていることが示唆されている。「勉強タイプ」は、大学進学グループ I（**前項(4)**を参照）や SSH 参加・満足者（**前項(5)**を参照）に多いことから、必然的に、高校の大学進学実績と密接に関連していることが容易に推測される。ここでは、大学進学グループとキャリア意識の3項目（「進学先についてよく考えている」「進学準備を始めている」「どのような仕事をしたいか見通しを持っている」）との関連を見て、大学進学グループとキャリア意識との間に関連があるのかを検討しておく。

結果を、**図表 11** に示す。それを見ると、「進学先についてよく考えている」は、大学進学グループ I・II でもっとも高いが（順に 3.22、3.20）、グループ III でも決して低くはな

い(3.11)。むしろ、大学進学グループのⅠ・Ⅱ・Ⅲに差がつくのは、「進学準備を始めている」かどうかである(順に2.73、2.55、2.40)。興味深いのは、「どのような仕事をしたいか見通しを持っている」の得点は、大学進学グループいずれもほとんど差が見られなかった。

以上の結果より、大学進学実績の高い高校の生徒は、進学準備をはやくから始める傾向があること、しかしながら、進学先について考える、将来の仕事を考えることについては、高校の大学進学実績はあまり関係のないことが明らかとなった。



図表 11 大学進学グループとキャリア意識との関連

(8) 部活動と学習との両立との関連

第1節(3)で述べたように、調査実施前には、一週間の活動時間からクラスタ分析によって、勉学と部活動との両立タイプが抽出されると予想していた。しかしながら、分析をおこなった結果、両立タイプは見いだすことができなかった。ここでは、問3(1)の「部活動と学習とを両立させることができますか」の質問項目を用いて、回答を「両立できている」(できている・まあまあできている)、「両立できていない」(あまりできていない・できていない)、「部活動をしていない」(部活動をやっていない)と整理して、上述の生徒タイプとの関連を詳しく検討する。

図表12は、生徒タイプと部活動と学習との両立をクロスさせた表である。部活動と学習との両立には、「両立できている」「両立できていない」「部活動をしていない」の3つの状態があるので、生徒タイプ(7)×部活動と学習との両立(3)で、計21の両立タイプが作成されることになる。部活動タイプに分類されながら、「部活動をしていない」と回答した者が9名いたので、これを欠損値として分析から除外して、結果計20の両立タイプが計算されることになる。分析対象は34,366名である。

図表の右端に、両立タイプそれぞれにおける「授業以外の学習時間」(問4の一週間の活

動時間：平日・休日）の平均時間を記しておく。部活動と学習とを両立できていると回答する者のなかでも、生徒タイプによって、実際の学習時間のかかなり異なることが見て取れる。たとえば、両立タイプ1（勉学タイプ×両立できている）は平日の授業以外の学習時間が2.64h、休日が4.37hであるのに対して、両立タイプ7（部活動タイプ×両立できている）のそれは、平日が1.29h、休日が1.92hである。両立タイプ2（勉学タイプ×両立できていない）は、両立タイプ1よりは若干学習時間が短いものの（平日2.54h、休日4.07h）、他のどの生徒タイプの学習時間より長い。興味深い結果である。

さて、両立タイプと技能・態度の獲得との関連はどのようなものであろうか。結果をわかりやすくするために、該当者の多い両立タイプを全体の5%以上の該当率を基準として、計7つの両立タイプ（1, 3, 7, 8, 10, 19, 21）を抽出して、**図表13**に結果を示す。それを見ると、全体的にもっとも得点が高いのは、両立タイプ1（勉学タイプ×両立できている）、次いで両立タイプ3（勉学タイプ×部活動をしていない）である。もっとも得点が高いのは、両立タイプ21（行事不参加タイプ×部活動をしていない）であり、次いで両立タイプ19（行事不参加タイプ×両立できている）である。同じ生徒タイプのなかでの得点差は見られるが、全体的には、勉学タイプの得点が高く、行事不参加タイプの得点が低いという、生徒タイプで見た特徴（**前項(1)**を参照）とほぼ同様の結果である。

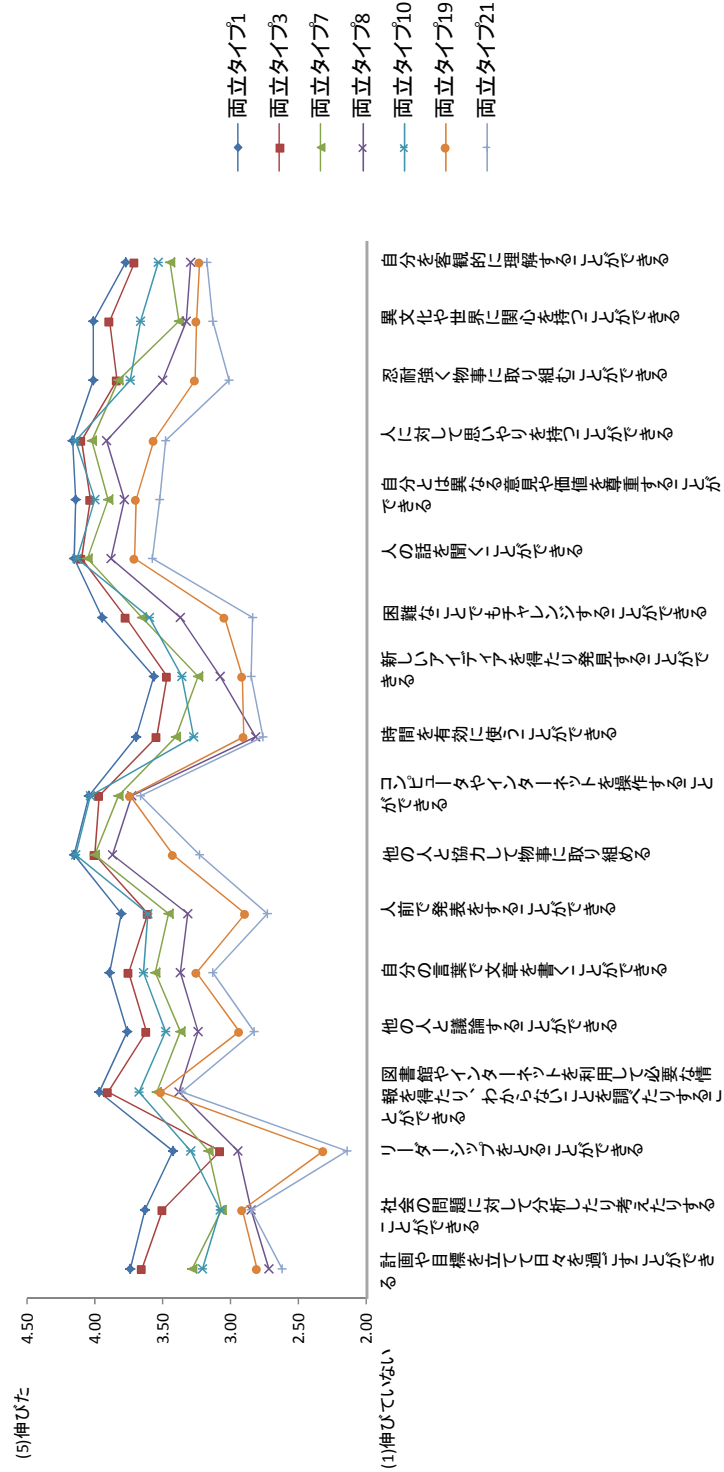
とは言え、高校教育の現場からよく聞いてきた、部活動と学習との両立が生徒の成長に大きな意味を持つという見方は、**勉学タイプ**における部活動との両立という形態で、実証的に支持されると言えよう。

図表12 部活動と学習との両立タイプの作成

生徒タイプ	部活動と学習との両立	両立タイプ	該当数(%)	分析対象 (5%以上の該当率)	授業以外の 学習時間 (平日)	授業以外の 学習時間 (休日)
勉学タイプ	両立できている	1	5,536 (16.1)	★	2.64	4.37
勉学タイプ	両立できていない	2	1,172 (3.4)		2.54	4.07
勉学タイプ	部活動をしていない	3	1,984 (5.8)	★	3.09	5.00
勉学そこそこタイプ	両立できている	4	1,646 (4.8)		1.85	2.80
勉学そこそこタイプ	両立できていない	5	547 (1.6)		1.69	2.62
勉学そこそこタイプ	部活動をしていない	6	489 (1.4)		2.03	3.15
部活動タイプ	両立できている	7	5,078 (14.8)	★	1.29	1.92
部活動タイプ	両立できていない	8	4,276 (12.4)	★	1.10	1.69
部活動タイプ	部活動をしていない	9	0 (0.0)		-	-
交友通信タイプ	両立できている	10	2,381 (6.9)	★	1.25	1.77
交友通信タイプ	両立できていない	11	1,527 (4.4)		1.05	1.49
交友通信タイプ	部活動をしていない	12	1,573 (4.6)		1.20	1.62
読書マンガ傾向タイプ	両立できている	13	313 (0.9)		1.56	2.31
読書マンガ傾向タイプ	両立できていない	14	226 (0.7)		1.27	1.94
読書マンガ傾向タイプ	部活動をしていない	15	233 (0.7)		1.67	2.36
ゲーム傾向タイプ	両立できている	16	822 (2.4)		1.25	1.86
ゲーム傾向タイプ	両立できていない	17	814 (2.4)		1.01	1.44
ゲーム傾向タイプ	部活動をしていない	18	880 (2.6)		1.28	1.77
行事不参加タイプ	両立できている	19	1,812 (5.3)	★	1.72	2.67
行事不参加タイプ	両立できていない	20	1,295 (3.8)		1.49	2.26
行事不参加タイプ	部活動をしていない	21	1,762 (5.1)	★	1.74	2.66
		全体	34,366 (100.0)			

図表 13 両立タイプと技能・態度の獲得との関連

	計画や目標を立てて日々を過ごすことができる	社会の問題に対して分析したり考えたりすることができ	リーダーシップをとることができる	図書館やインターネットを利用し必要な情報を得たり、わからないことを調べたりすることができる	他の人と議論することができる	自分の言葉で文章を書くことができる	人前で発表することができる	他の人と協力して物事に取り組める	コンピュータやインターネットを操作することができる	時間を有効に使うことができる	新しいアイデアを発見することができる	困難なことでもチャレンジすることができる	人の話を聞くことができる	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	人に対して思いやりを持つことができる	忍耐強く物事に取り組むことができる	異文化や世界に関心を抱くことができる	自分を客観的に理解することができる
両立タイプ1	3.74	3.64	3.43	3.96	3.77	3.89	3.80	4.16	4.04	3.69	3.57	3.94	4.15	4.14	4.16	4.01	4.01	3.77
両立タイプ3	3.66	3.50	3.07	3.91	3.62	3.75	3.61	4.00	3.97	3.54	3.47	3.77	4.10	4.04	4.10	3.84	3.89	3.71
両立タイプ7	3.29	3.07	3.16	3.55	3.37	3.56	3.45	4.00	3.82	3.40	3.24	3.65	4.06	3.90	4.02	3.83	3.38	3.45
両立タイプ8	2.72	2.85	2.95	3.38	3.24	3.37	3.32	3.88	3.72	2.82	3.07	3.37	3.88	3.78	3.92	3.51	3.33	3.30
両立タイプ10	3.21	3.08	3.30	3.68	3.48	3.65	3.60	4.14	4.03	3.28	3.36	3.60	4.13	4.00	4.14	3.74	3.66	3.53
両立タイプ19	2.80	2.92	2.31	3.51	2.94	3.26	2.89	3.43	3.74	2.90	2.91	3.05	3.71	3.70	3.57	3.27	3.25	3.23
両立タイプ21	2.63	2.85	2.14	3.36	2.82	3.13	2.73	3.23	3.66	2.76	2.85	2.84	3.57	3.52	3.48	3.01	3.13	3.17



第3節 まとめと2時点目（大学1年生）に向けての課題

本章では、1時点目（高校2年生）を対象におこなった調査から、高校教育の現場に、高大接続あるいは10年トランジション調査の観点から結果をフィードバックするべく、クラス分析を用いて生徒タイプの抽出をおこなった。分析の結果、高校生は、平日・休日の一週間の過ごし方、行事参加、対人関係、自尊感情、キャリア意識の観点から、**図表14**にまとめるような特徴を示す7つの生徒タイプに分類されることが明らかとなった。

図表14 生徒タイプの特徴のまとめ

	生徒タイプ	特徴	学習	友だち関係	自尊感情	キャリア意識
1	勉学タイプ	よく学び、将来に向けて頑張り、個人の成長を実感している生徒タイプ	○	○	○	○
2	勉学ほどほどタイプ	準勉学タイプ	○		○	○
3	部活動タイプ	部活動を中心に高校生活を過ごし、良好な友だち関係や集団行動には適応しているが、勉強はあまりやらず、将来のこともあまり考えていないタイプ	×	○		×
4	交友通信タイプ	友だちと遊んだり通信したりすることが高校生活の中心であり、良好な友だち関係を築いたり集団行動に適応していたりする。勉強はあまりしないが、将来のことは比較的良好に考えているタイプ	×	○		
5	読書マンガ傾向タイプ	読書したりマンガ・雑誌を読んだりして、ひとりで過ごすことが多く、友だち関係は弱く、自尊感情、キャリア意識は低いタイプ		×	×	×
6	ゲーム傾向タイプ	ゲームをしてひとりで過ごすことが多く、勉強はしない、友だち関係は弱い、キャリア意識も低いタイプ	×	×	×	×
7	行事不参加タイプ	友だち関係が弱く、自尊感情の低いことが学校行事への消極的参加につながっていると考えられ、将来のことも考えられていないタイプ		×	×	×

本章の結果が示唆することは、第1に、学習（授業以外の学習）とキャリア意識との密接な関連である。これは、「勉学タイプ」の特徴から明らかにされている。**第1章**で述べたように、この結果は、これまで大学生調査から得られてきたもの、振り返り調査ではあったが、ビジネスパーソンを対象におこなった調査から得られたものと、ほぼ同じである。

第2に、学習（授業以外の学習）と技能・態度の獲得との密接な関連である。これも「勉学タイプ」から明らかにされているし、大学生調査の結果と同じである。学習はあまりしないが、良好な友だち関係や集団行動に適応した「部活動タイプ」や「交友通信タイプ」は、対人関係に関する技能・態度項目において高い得点を示していたが、昨今社会が求める「他の人と議論することができる」「人前で発表することができる」の得点では、高い値を示さなかった。友だち関係や集団行動が良好であるということと、ディスカッションやプレゼンテーションができることとは、別次元の技能・態度であると理解する必要がある。

第3に、友だち関係や集団行動が弱い「行事不参加タイプ」「ゲーム傾向タイプ」「読書マンガ傾向タイプ」は、技能・態度の獲得、自尊感情、キャリア意識の側面において否定

的な特徴を示したことである。残り 4 つの生徒タイプの友だち関係や集団行動が肯定的であることを考えると、友だち関係や集団行動の弱さは、行事不参加やゲーム・読書マンガなど、どちらかといえば、ひとりで過ごす時間や生活への志向を高め、そのことが社会参加や社会性を弱め、ひいては技能・態度の獲得やキャリア意識も弱めてしまうのではないかと考えられる。今後、さらなる検討をしていきたい。

第 4 に、高校教育の現場からよく聞いてきた、部活動と学習との両立が生徒の成長に大きな意味を持つという見方は、勉強タイプにおける部活動との両立という形態で、実証的に支持されたことである。他方で、部活動と学習とを両立していると回答していても、その生徒が他の生徒タイプ（部活動タイプ、交友通信タイプ、行事不参加タイプ）であると、技能・態度の獲得の得点は、勉強タイプのそれよりも低いものであった。部活動と学習との両立はたしかに重要であるが、授業以外の学習時間がどの程度あるかが問題にされなければならないと言える。

第 5 に、難関大学への進学が多いグループ I では「勉強タイプ」が多く、そうでないグループ III では「交友通信タイプ」が多く見られた。「行事不参加タイプ」は、大学進学グループに関係なく、どの学校にも 10～15%はいることがわかった。

最後に、2 時点目（大学 1 年生、2015 年実施予定）に向けての課題を 2 点述べる。

第 1 に、本調査からは、勉強タイプにおける部活動と学習の両立が、さまざまな側面における肯定的な特徴を示していたが、果たしてこれが、大学生になってからの力強い学びと成長につながるのか。興味深い検討課題である。

第 2 に、大学進学グループ I では、たしかに他のグループと比べて「勉強タイプ」の割合が多く見られたが、**図表 8**を見ると、大学進学グループ I でも、「部活動タイプ」～「行事不参加タイプ」まで、約 6 割の生徒が該当していた。彼らのなかには、3 年生になって受験勉強を一生懸命して、短期間で仕上げ、難関大学へ進学する者が少なからずいるだろうと考えられる。しかし、彼らの大学生になってからの学びと成長、技能・態度の獲得、キャリア意識はどうなるのだろうか。高校 2 年生のときに、できていなかった授業以外の学習やキャリア意識が、大学生になってできるようになっているのだろうか。逆に、大学進学グループ III のなかでも、割合は相対的に少ないながらも、「勉強タイプ」がいないわけではない。彼らの大学生になった後の学びと成長はいかなるものとなっているのだろうか。2008 年の学士課程答申以来の施策の根幹を問う問いである。結果を待ちたい。

第3章 高校生の生活に関するジェンダー差

伊佐夏実（大阪大学）・知念渉（大阪大学）

はじめに

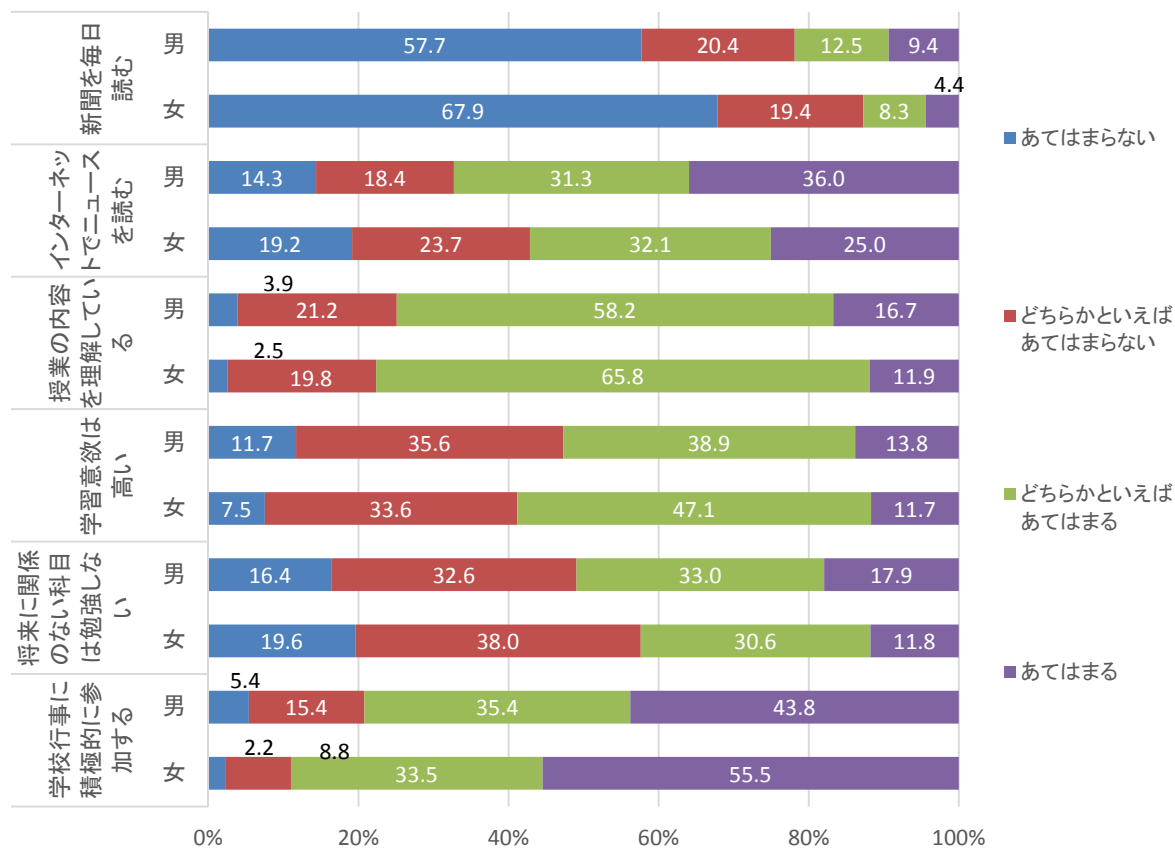
本章では、高校生の生活に関するジェンダー差に焦点をあて、学校生活や日常生活、あるいは意識の面において、それがどのように表れているのかを検討する。まず**第1節**では、各設問のジェンダー差を確認し、特徴的な傾向がみられた項目を取り出した上で、見出された差異について考察する。**第2節**では、男子校、女子校、共学といった学校タイプごとの分析を行い、**第3節**では、高校生活で伸びた力（ジェネリックスキル）に注目し、学校タイプや大学進学グループに注目しながらジェンダーによる差異について検討する。

第1節 設問別にみたジェンダー差

まずは、各項目に対する回答のジェンダー差を確認していこう。今回調査における性別に関する回答状況は、男 46.9% (21,238 サンプル)、女 49.9% (22,588 サンプル)、答えたくない 1.7% (782 サンプル) となっている。「答えたくない」と回答したサンプルについては、その意味合いを十分に判断することが難しいため、以下の分析では、男/女の2カテゴリーのみで比較する（カイ2乗検定で有意水準0.1%以下、Cramer V係数が0.09以上を取り上げる）。

① 高校での生活

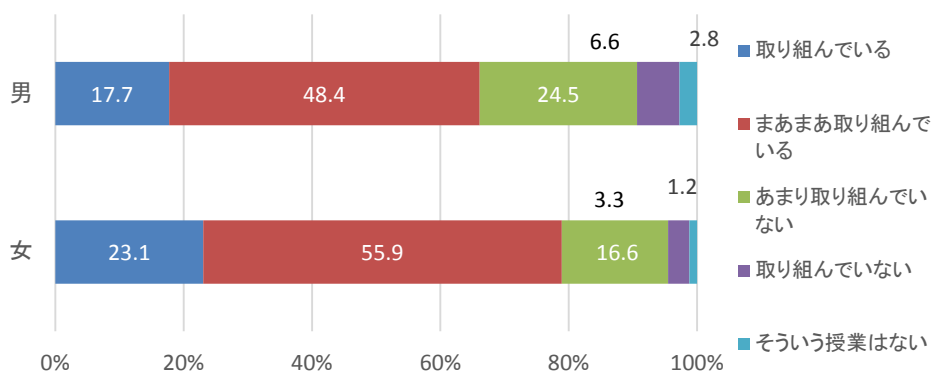
		単位:度数(%)						CramerのV
		あてはまらない	どちらかといえばあてはまらない	どちらかといえばあてはまる	あてはまる	計		
新聞を毎日読む	男	12,214 (57.7)	4,324 (20.4)	2,646 (12.5)	1,981 (9.4)	21,165 (100.0)	0.13	
	女	15,284 (67.9)	4,376 (19.4)	1,875 (8.3)	990 (4.4)	22,525 (100.0)		
インターネットでニュースを読む	男	3,038 (14.3)	3,887 (18.4)	6,635 (31.3)	7,614 (36.0)	21,174 (100.0)	0.13	
	女	4,316 (19.2)	5,340 (23.7)	7,237 (32.1)	5,644 (25.0)	22,537 (100.0)		
授業の内容を理解している	男	823 (3.9)	4,487 (21.2)	12,304 (58.2)	3,538 (16.7)	21,152 (100.0)	0.09	
	女	569 (2.5)	4,469 (19.8)	14,826 (65.8)	2,676 (11.9)	22,540 (100.0)		
学習意欲は高い	男	2,474 (11.7)	7,539 (35.6)	8,240 (38.9)	2,924 (13.8)	21,177 (100.0)	0.09	
	女	1,694 (7.5)	7,586 (33.6)	10,629 (47.1)	2,639 (11.7)	22,548 (100.0)		
将来に関係のない科目は勉強しない	男	3,481 (16.4)	6,900 (32.6)	6,986 (33.0)	3,796 (17.9)	21,163 (100.0)	0.10	
	女	4,420 (19.6)	8,560 (38.0)	6,896 (30.6)	2,652 (11.8)	22,528 (100.0)		
学校行事に積極的に参加する	男	1,141 (5.4)	3,255 (15.4)	7,487 (35.4)	9,251 (43.8)	21,134 (100.0)	0.15	
	女	504 (2.2)	1,970 (8.8)	7,549 (33.5)	12,487 (55.5)	22,510 (100.0)		



図表 1 日常生活におけるジェンダー差

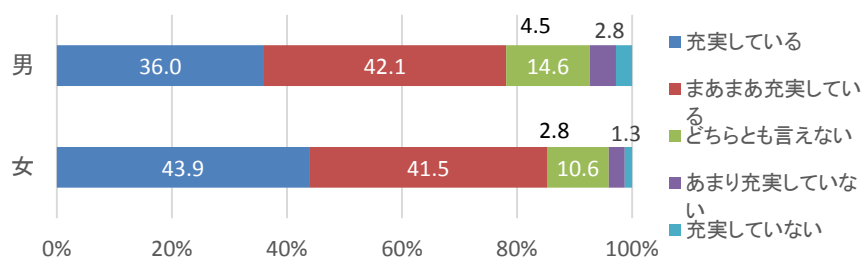
単位:度数(%)

	取り組んでいる	まあまあ取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	そういう授業はない	計	CramerのV
男	3,752 (17.7)	10,244 (48.4)	5,186 (24.5)	1,397 (6.6)	583 (2.8)	21,162	0.15
女	5,206 (23.1)	12,615 (55.9)	3,735 (16.6)	712 (3.2)	280 (1.2)	22,548	



図表 2 教科以外の学習に精一杯取り組む

単位:度数(%)										
	充実している		まあまあ充実している		どちらとも言えない		あまり充実していない		充実していない	
男	7,614	(36.0)	8,902	(42.1)	3,082	(14.6)	958	(4.5)	591	(2.8)
女	9,884	(43.9)	9,344	(41.5)	2,396	(10.6)	624	(2.8)	287	(1.3)
計	21,147 (100.0)									
										CramerのV
										0.11

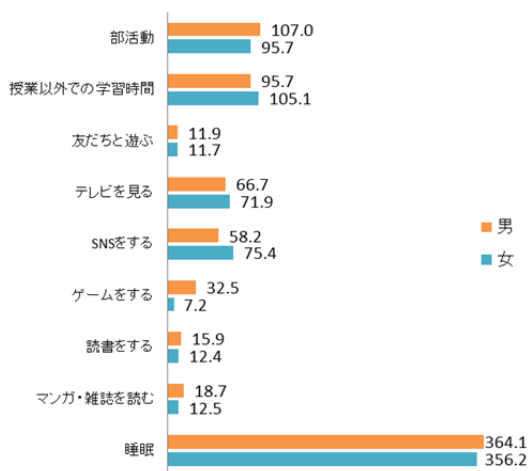


図表3 高校生活は充実している

「学校行事に積極的に参加する」(図表1 参照)や、「高校生活は充実している」(図表3)などに対して肯定的に回答する割合が高いのは男子よりも女子であり、授業理解度や学習意欲の高さ、「教科以外の学習(総合的な学習の時間やHRなど)に精一杯取り組む」(図表2)などからみても、学校生活を全体的に楽しんでいるのは女子のほうであると言えそう。一方男子で高いのは、「将来に関係のない勉強はしない」や「インターネットでニュースを読む」「新聞を毎日読む」といった項目である。

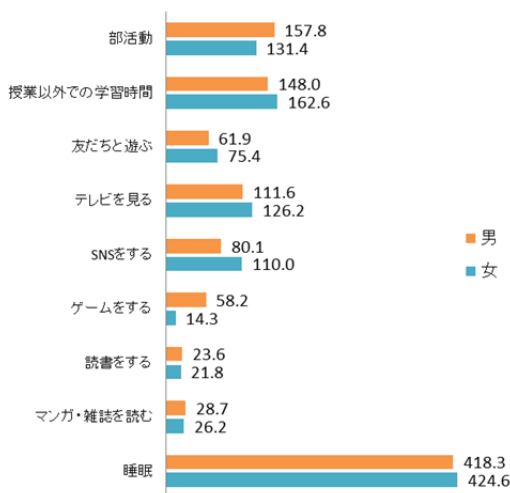
② 生活時間

単位:分(度数)										
	部活動	授業以外での学習時間	友だちと遊ぶ	テレビを見る	SNSをする	ゲームをする	読書をする	マンガ・雑誌を読む	睡眠	
男	(18,601)	107.0	95.7	11.9	66.7	58.2	32.5	15.9	18.7	364.1
女	(19,914)	95.7	105.1	11.7	71.9	75.4	7.2	12.4	12.5	356.2



図表4 生活時間のジェンダー差(平日)

		単位:分(度数)								
		部活動	授業以外の学習時間	友だちと遊ぶ	テレビを見る	SNSをする	ゲームをする	読書をする	マンガ・雑誌を読む	睡眠
男	(18,601)	157.8	148.0	61.9	111.6	80.1	58.2	23.6	28.7	418.3
女	(19,914)	131.4	162.6	75.4	126.2	110.0	14.3	21.8	26.2	424.6

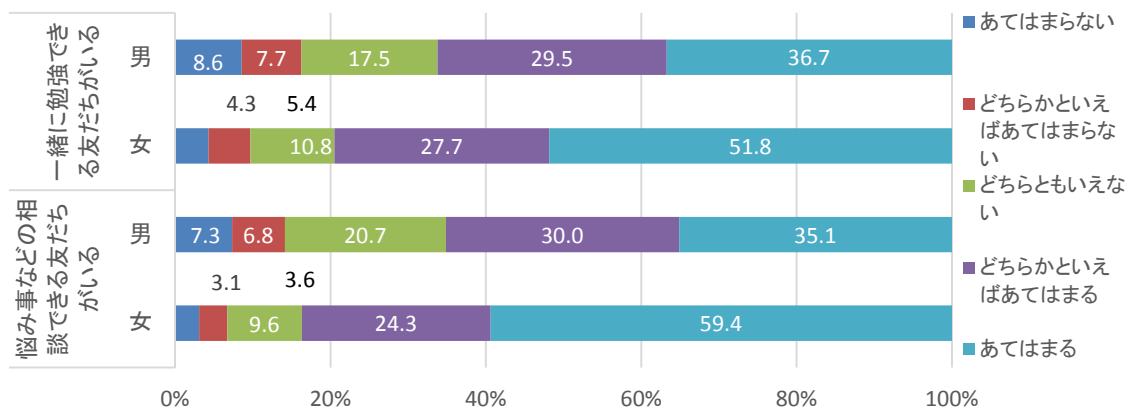


図表 5 生活時間のジェンダー差 (休日)

生活時間については、一日の生活合計時間が 24 時間を大幅に上回る、もしくは下回るもの、睡眠時間が極端に短い回答などを除外したサンプル (男: 18,601、女: 19,914) を対象に分析を行った。図表 4「平日の過ごし方」における「友達と遊ぶ」以外において、ジェンダー差が見られるが、特に、SNS の時間とゲームをする時間について、平日・休日ともに男女で異なる傾向が見られる。すなわち前者は女子で、後者は男子でそれぞれ長く、他者とのコミュニケーションに関わるツールに多くの時間を費やしている女子と、比較的、自己の世界を楽しむツールを多く用いている男子という違いがあるとも言えそうだ。

③ 友人関係

		単位:度数(%)								計	CramerのV
		あてはまらない	どちらかといえばあてはまらない	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまる	あてはまる					
一緒に勉強できる友だちがいる	男	1,810 (8.6)	1,622 (7.7)	3,704 (17.5)	6,233 (29.5)	7,760 (36.7)			21,129 (100.0)	0.17	
	女	971 (4.3)	1,211 (5.4)	2,434 (10.8)	6,230 (27.7)	11,678 (51.8)			22,524 (100.0)		
悩み事などの相談できる友だちがいる	男	1,549 (7.3)	1,435 (6.8)	4,375 (20.7)	6,341 (30.0)	7,415 (35.1)			21,115 (100.0)	0.26	
	女	695 (3.1)	816 (3.6)	2,163 (9.6)	5,465 (24.3)	13,368 (59.4)			22,507 (100.0)		

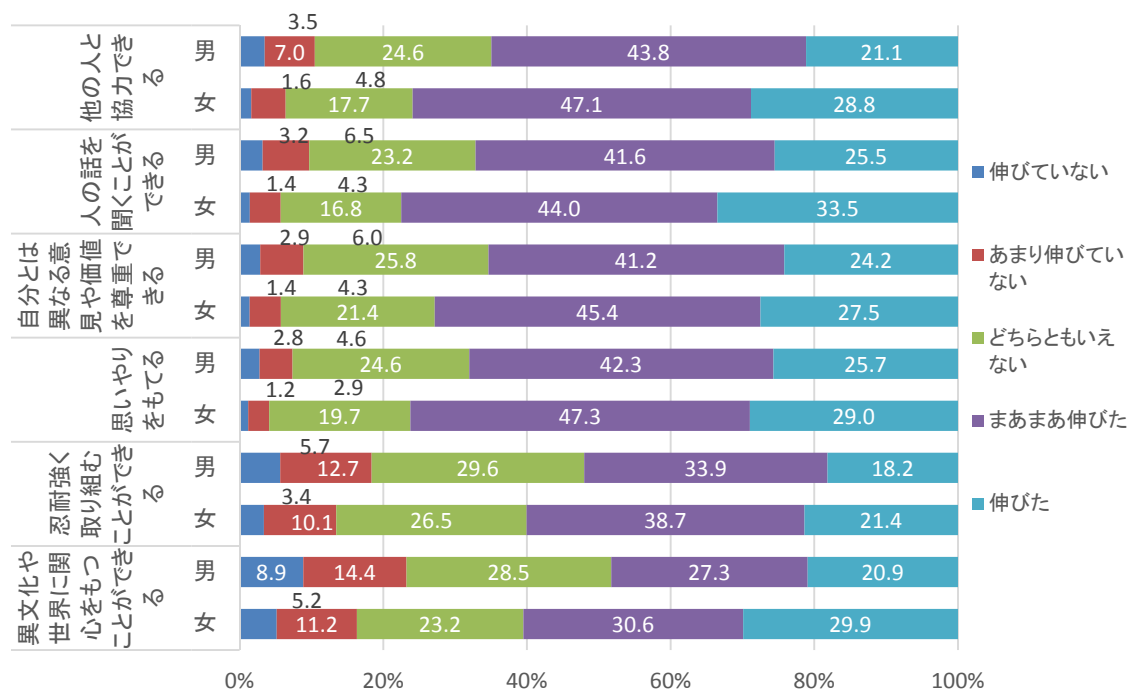


図表 6 友人関係のジェンダー差

友人関係に関しては、「友だちをたくさん作るように心がけている」や、「友だちというより、ひとりであるほうが気持ちが落ち着く」など、全部で 9 つの設問が設定されているが、その多くでジェンダー差は確認されなかった。しかしながら、図表 6 の「一緒に勉強できる友だちがいる」と「悩み事など相談できる友だちがいる」の 2 項目では、比較的顕著な違いが見られ、どちらにおいても女子のほうが肯定的であり、女子の 5 割程度が「あてはまる」という最も積極的な回答をしている。

④ ジェネリックスキル

単位:度数(%)									
		伸びていない	あまり伸びていない	どちらともいえない	まあまあ伸びた	伸びた	計	CramerのV	
他の人と協力できる	男	736 (3.5)	1,472 (7.0)	5,185 (24.6)	9,239 (43.8)	4,461 (21.1)	21,093 (100.0)	0.13	
	女	365 (1.6)	1,076 (4.8)	3,974 (17.7)	10,595 (47.1)	6,480 (28.8)	22,490 (100.0)		
人の話を聞くことができる	男	678 (3.2)	1,366 (6.5)	4,887 (23.2)	8,784 (41.6)	5,385 (25.5)	21,100 (100.0)	0.13	
	女	318 (1.4)	970 (4.3)	3,775 (16.8)	9,901 (44.0)	7,531 (33.5)	22,495 (100.0)		
自分とは異なる意見や価値を尊重できる	男	603 (2.9)	1,269 (6.0)	5,437 (25.8)	8,684 (41.2)	5,099 (24.2)	21,092 (100.0)	0.09	
	女	315 (1.4)	976 (4.3)	4,820 (21.4)	10,206 (45.4)	6,186 (27.5)	22,503 (100.0)		
思いやりをもてる	男	588 (2.8)	967 (4.6)	5,191 (24.6)	8,933 (42.3)	5,421 (25.7)	21,100 (100.0)	0.10	
	女	270 (1.2)	656 (2.9)	4,423 (19.7)	10,633 (47.3)	6,518 (29.0)	22,500 (100.0)		
忍耐強く取り組むことができる	男	1,193 (5.7)	2,685 (12.7)	6,242 (29.6)	7,144 (33.9)	3,831 (18.2)	21,095 (100.0)	0.09	
	女	760 (3.4)	2,265 (10.1)	5,957 (26.5)	8,698 (38.7)	4,805 (21.4)	22,485 (100.0)		
異文化や世界に関心をもつことができる	男	1,871 (8.9)	3,032 (14.4)	6,008 (28.5)	5,768 (27.3)	4,413 (20.9)	21,092 (100.0)	0.14	
	女	1,161 (5.2)	2,510 (11.2)	5,216 (23.2)	6,878 (30.6)	6,726 (29.9)	22,491 (100.0)		



図表 7 ジェネリックスキルのジェンダー差

高校生活の 2 年間で伸びたと思う力（ジェネリックスキル）についてジェンダー差が顕在化した項目はすべて、女子のほうが「伸びた」と答えている。そして、それらの多くが対人関係に関するものである（図表 7 参照）。高校生活で伸びた力を図る項目のなかには、たとえば、「リーダーシップをとることができる」や「他の人と議論することができる」、「自分の言葉で文章を書くことができる」など合計で 18 の項目が含まれているが、その中でも他者との関係性に関わる項目でジェンダー差が顕著に見られる。「他の人と協力できる」「人の話を聞くことができる」「自分とは異なる意見や価値を尊重できる」「思いやりをもてる」など、いずれも女子のほうが伸びたと評価しており、対人関係調整能力の多くの側面において、女子は男子よりも肯定的に評価している。

⑤ 自尊感情

単位:度数(%)						CramerのV
	いいえ	どちらかといえばいいえ	どちらかといえばはい	はい	計	
男	3,083 (14.7)	5,226 (24.8)	8,026 (38.1)	4,709 (22.4)	21,044 (100.0)	0.14
女	1,871 (8.3)	4,364 (19.4)	9,395 (41.8)	6,832 (30.4)	22,462 (100.0)	

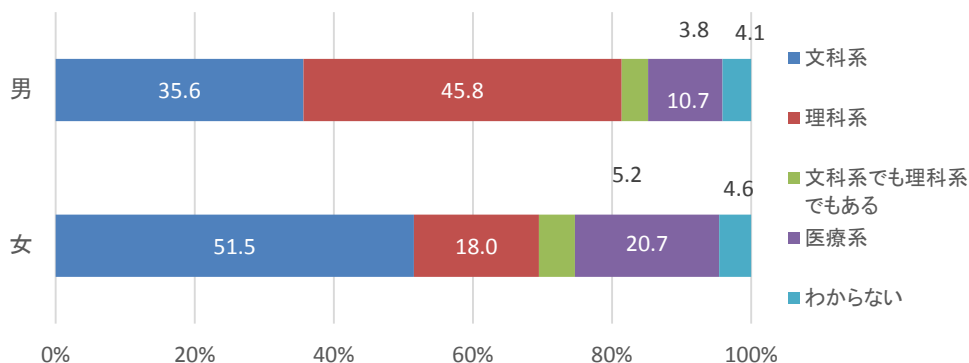


図表 8 自分を尊敬できたと思う

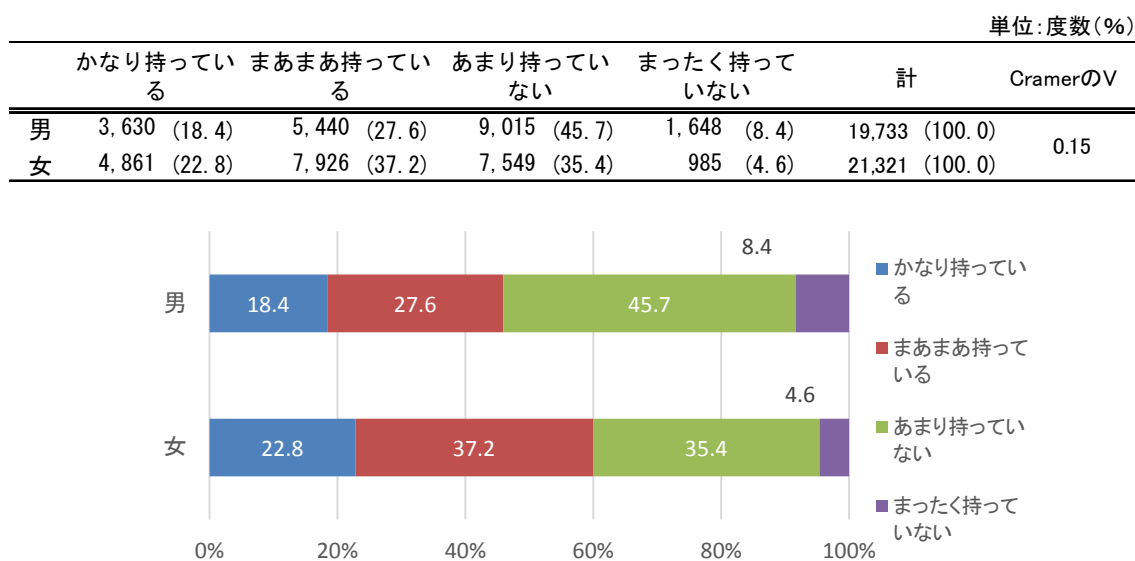
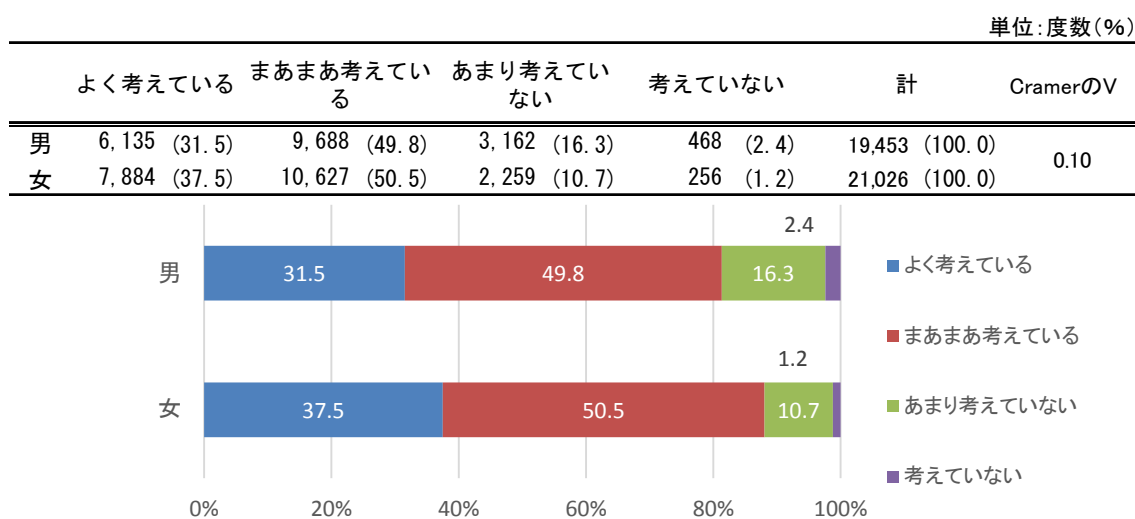
自尊感情では、図表 8 の「自分を尊敬できたと思う」で男女に差が見られ、女子のほうがそのような考えている割合が高い。自尊感情に関する項目は、全体的に見て女子のほうがやや肯定的回答割合が低いという傾向が見られたが、有意差が出たのはこの項目のみである。

⑥ キャリア意識

単位:度数(%)							
	文科系	理科系	文科系でも理科系でもある	医療系	わからない	計	CramerのV
男	7,162 (35.6)	9,206 (45.8)	762 (3.8)	2,150 (10.7)	829 (4.1)	20,109 (100.0)	0.30
女	11,194 (51.5)	3,904 (18.0)	1,127 (5.2)	4,505 (20.7)	999 (4.6)	21,729 (100.0)	

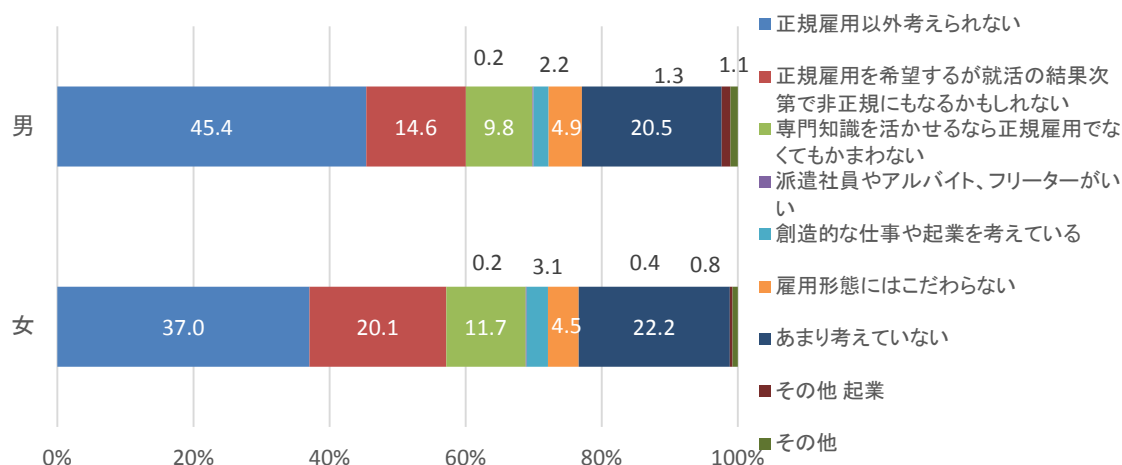


図表 9 希望する進学先の専攻



単位:度数(%)

	正規雇用以外 考えられない	正規雇用を希望するが就活の結果次第で非正規にもなるかもしれない	専門知識を活かせるなら正規雇用でなくてもかまわない	派遣社員やアルバイト、フリーターがいい	創造的な仕事や起業を考えている	雇用形態にはこだわらない	あまり考えていない	その他 起業	その他	計	CramerのV
男	8,530 (45.4)	2,748 (14.6)	1,838 (9.8)	33 (0.2)	416 (2.2)	918 (4.9)	3,860 (20.5)	241 (1.3)	206 (1.1)	18,790 (100.0)	0.16
女	7,517 (37.0)	4,080 (20.1)	2,365 (11.7)	31 (0.2)	633 (3.1)	920 (4.5)	4,505 (22.2)	80 (0.4)	159 (0.8)	20,290 (100.0)	



図表 12 将来の雇用形態

キャリア意識に関する項目は、比較的ジェンダー差が明確に現れた。もっとも顕著な差異は、図表 9 の希望する進学先での専攻分野についてであり、女子は文系、男子は理系という偏りが確認できる。また、女子の場合、医療系を希望する割合が男子の 2 倍近くになっている。「進学先についてどの程度考えているか」(図表 10)「進学先を卒業した後の職業への見通しをどの程度もっているか」(図表 11)では、女子のほうが肯定的に回答しており、男子よりも女子において、将来の進路について明確な希望や意思をもっていることが伺える。しかしながら、図表 12 を見れば分かるように、将来希望する雇用形態として、男子の 5 割近くは「正規雇用以外考えられない」と回答している。こうした結果は、進学先やその後の職業については女子のほうが明確な意識をもっているという回答結果とはある種矛盾するようであるが、稼ぎ手としての男性という価値観に男子高校生の意識が枠付けられていることを表しているようで興味深い。

小括

以上、高校生の生活に関して男女別にその差異をみてきた。まず言えることは、学習面のみならず行事や学級活動など、学校生活のあらゆる側面において積極的に活動をし、充実感をもっているのは、女子のほうだと言える。進路については、比較的ジェンダー差が明確に確認でき、男子＝理系、女子＝文系というかなり明確なトラックが存在している。また、進学先や職業についてより具体的な将来展望を抱く女子に対して、男子には、そうした明確な進路意識は女子ほどにはないものの、正規雇用へのこだわりは強く、自身の具体的なキャリアイメージを抱く以前に、男性として労働市場に出ていかなければいけないという規範に縛られている様子も垣間見える。

このようなキャリア意識のジェンダー差に関連し、勉強に対する意識やジェネリックス

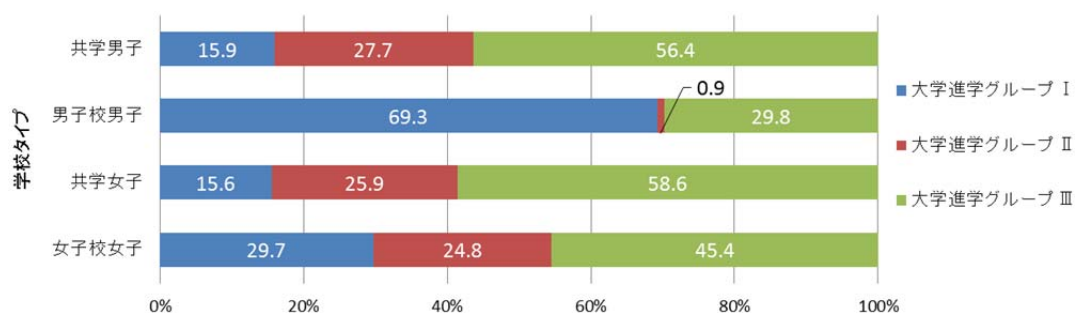
キルの面でも男女では異なる傾向が見出された。男子の場合、新聞を読んだりインターネットでニュースを読んだりするなど、社会的な事柄への関心は女子に比べて高い一方で、「将来に関係のない勉強はしない」が女子より高く、「教科以外の学習に精一杯取り組む」では、女子よりも低い。こうした傾向は、「将来仕事に就くための勉強」という手段的な側面が、男子高校生の勉強観として現れていると見ることもできるだろう。一方で女子の場合、「一緒に勉強できる友だちがいる」ことや、ジェネリックスキルのなかでも主に対人関係に関する項目で、男子よりも肯定的に評価していることなどから、友人関係を中心とした身近な他者とのネットワークのなかで、対話的、協調的な勉強観や能力観を養っているようにも見える。

第2節 共学と別学の差異

本節では、共学と別学の差異、すなわち、共学校の男子と男子校の男子、共学校の女子と女子校の女子を比較した場合に、どのような差異があるのかを確認する。はじめに、共学と別学という学校タイプと大学進学グループの関係をみてみよう。以下の**図表 13**はその関係を示したものである。この図表をみると、共学よりも別学に大学進学実績の高い高校に通っている生徒の割合が高いことが分かる。とくに男子校男子は、およそ 7 割の生徒が大学進学グループ I の学校に通っている。以下では共学と別学の同性間の差異について確認していくが、共学と別学に通う生徒の間で大学進学グループの割合がこれほど異なっていると、差異が見出された際に、学校タイプによるものなのか、大学進学グループによるものなのかの判別しがたい。そのため、本節では大学進学グループ別に共学と別学の違いを確認することにした。

ただし、予め断っておくと、共学と別学の生徒の間に統計的な差異が見出せた項目は非常に限られていた（カイ 2 乗検定で有意水準 0.1%以下、Cramer V 係数が 0.1 以上を基準とした）。とくに共学女子と女子校女子の間には、授業スタイル以外に顕著な差異が見出せなかった。そのため、共学と別学の間の相違点を確認していくとはいえ、共通点の方が多いということはふまえておかなければならないだろう。

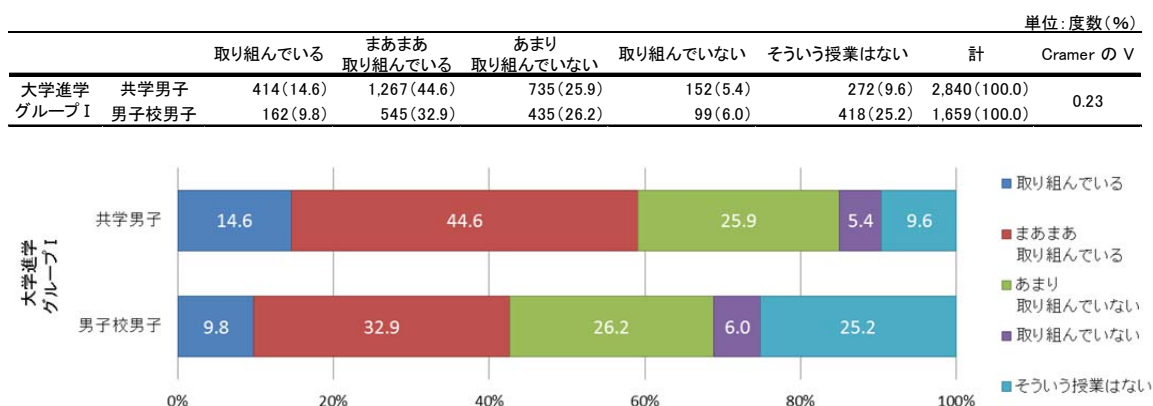
単位:度数(%)						
		大学進学グループ			計	Cramer の V
		I	II	III		
学校 タイプ	共学男子	2,845 (15.9)	4,968 (27.7)	10,103 (56.4)	17,916 (100.0)	0.23
	男子校男子	1,660 (69.3)	22 (0.9)	713 (29.8)	2,395 (100.0)	
	共学女子	3,030 (15.6)	5,037 (25.9)	11,401 (58.6)	19,468 (100.0)	
	女子校女子	525 (29.7)	438 (24.8)	802 (45.4)	1,765 (100.0)	



図表 13 学校タイプ×大学進学グループ

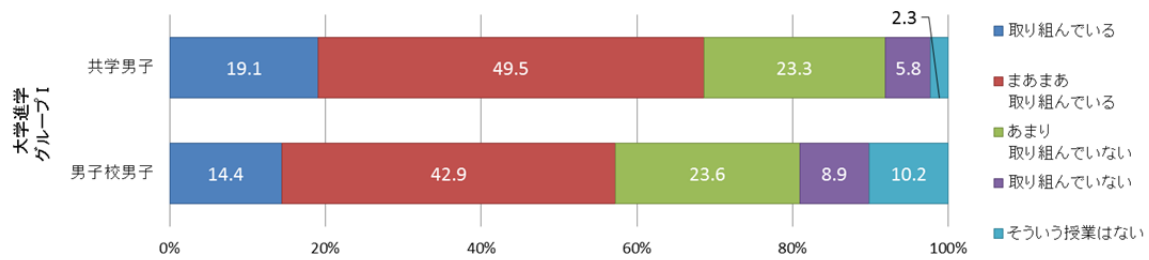
さて、共学と別学の差異がもっとも明確であったのは、大学進学グループ I においてであった。なかでも、とりわけ授業スタイルについては、共学と別学に違いがあるようだ。

図表 14 から図表 16 までを見ると分かるように、「話し合いや発表に積極的に取り組む」や「教科以外の学習に精一杯取り組む」では、共学に通う生徒に比べて別学に通う生徒は、「そういう授業はない」と答える割合が高かった。このことは、別学の高校よりも共学の高校の方が、多様なスタイルの授業を行っていることを示唆している。



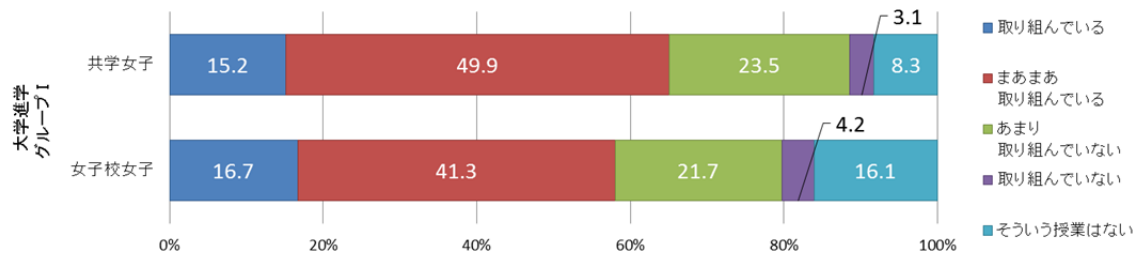
図表 14 話し合いや発表に積極的に取り組む（男子）

		単位: 度数 (%)					Cramer の V
		取り組んでいる	まあまあ取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	そういう授業はない	
大学進学グループ I	共学男子	542 (19.1)	1,404 (49.5)	659 (23.3)	165 (5.8)	64 (2.3)	0.19
	男子校男子	239 (14.4)	712 (42.9)	391 (23.6)	147 (8.9)	169 (10.2)	
		計					
		2,834 (100.0)					



図表 15 教科以外の学習に精一杯取り組む（男子）

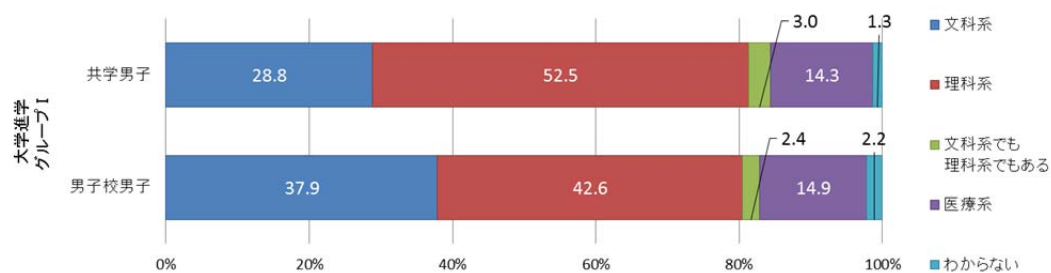
		単位:度数(%)					Cramer の V
		取り組んでいる	まあまあ取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	そういう授業はない	
大学進学グループ I	共学女子	460 (15.2)	1,511 (49.9)	712 (23.5)	94 (3.1)	251 (8.3)	0.10
	女子校女子	87 (16.7)	215 (41.3)	113 (21.7)	22 (4.2)	84 (16.1)	
		計					
		3,028 (100.0)					
		521 (100.0)					



図表 16 話し合いや発表に積極的に取り組む（女子）

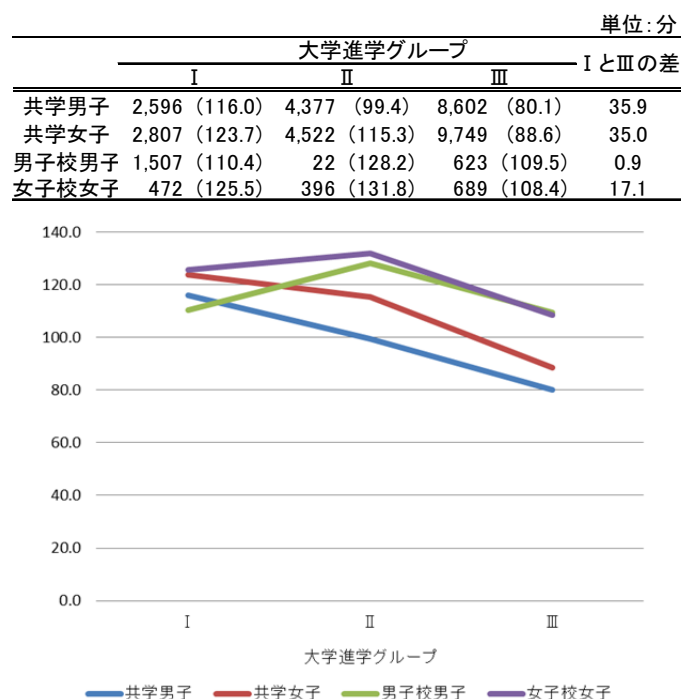
また、大学進学グループ I に通う男子の場合では、共学と別学で希望する進学先の専攻に違いがあった。図表 17 に示すように、共学男子では、文科系を希望する生徒が 28.8% であるのに対して、男子校男子では 37.9% となっている。一方、共学男子では、理科系を希望する生徒が 52.5% であるのに対して、男子校男子では 42.6% である。つまり、男子校には、文科系に進みたいと考える者が、共学男子に比べて多いということが分かる。

		単位:度数(%)					Cramer の V
		文科系	理科系	文科系でも理科系でもある	医療系	わからない	
大学進学グループ I	共学男子	806 (28.8)	1,467 (52.5)	85 (3.0)	399 (14.3)	37 (1.3)	0.11
	男子校男子	612 (37.9)	687 (42.6)	39 (2.4)	241 (14.9)	35 (2.2)	
		計					
		2,794 (100.0)					
		1,614 (100.0)					



図表 17 希望する進学先の専攻（男子）

本節の最後に確認したいのは、大学進学グループ別にみた勉強時間に関する共学と別学の差異である。図表 18 には、共学の男女と別学の男女の勉強時間（平日）を、それぞれ大学進学グループ別に示した。これをみると、共学の場合、男女ともに大学進学実績が高くなると勉強時間も長くなる関係になっている。それに対して、男子校・女子校に通う生徒たちは、大学進学実績に関わりなく、一定程度の勉強時間を確保している。とくに男子校の場合、大学進学グループ I とⅢの間には 0.9 分の違いしかなく、ほとんど差異がないと言っても過言ではない。このことから、別学の場合は大学進学グループにかかわらず、平日の勉強を一定している一方で、共学に通う生徒たちは、大学進学グループによって平日の勉強時間が異なる、つまり、大学進学実績の影響を受けやすいということができよう。



図表 18 学校タイプ×勉強時間

さて、ここまで共学と別学の差異について、大学進学グループを考慮しながら確認してきた。ここでの結果をふまえると、共学と別学には、自尊感情や勉強に対する意識などには明確な違いがみられない一方、男子では授業スタイルや進路意識、勉強時間などに差があった。しかし本節のはじめに述べたように、共学と別学にはここで確認したような多少の違いがありながらも、全体としてみれば相違点よりも共通点の方が多い。したがって、共学と別学の違いについて考える際には、ある程度の慎重さが求められるだろう。

第3節 ジェネリックスキルとジェンダー

最後に、本調査にとって重要なジェネリックスキルに関する項目とジェンダーの関係を、主成分分析という方法を使って要約的に示したい。ジェネリックスキルに関する項目は全部で18項目あり、それら全ての項目に対して「過去1、2年を振り返って、次の事柄はあなたのなかで伸びていると思いますか、それとも伸びていないと思いますか」とたずね、「①伸びていない ②あまり伸びていない ③どちらともいえない ④まあまあ伸びた ⑤伸びた」の5段階で答えてもらっている。これらの項目を一つずつ検討していくと煩雑になるので、これら18項目に対して主成分分析を行い、二つの軸を抽出した。その結果を示したものが

図表19 である。**図表19**には、第1軸の重みが大きい順に項目を並べ、第2軸の重みが負の数値になっている項目には黄色の網掛けをして示した。

第1軸は、全ての項目が正の重みを示しているため、これらの項目をまとめた総量の大小、すなわち、ジェネリックスキルが伸びたかと感じているか／いないかという伸長感の大小を示していると考えることができる。一方、第2軸は、半数の項目で重みが負になっているため、質的な違い、つまりジェネリックスキルの多元性を示していると解釈できる。

正の重みを示す項目と負の重みを示す項目を比べてみると、前者は「人前で発表したりすることができる」や「リーダーシップをとることができる」などの個人的で自己主張するための

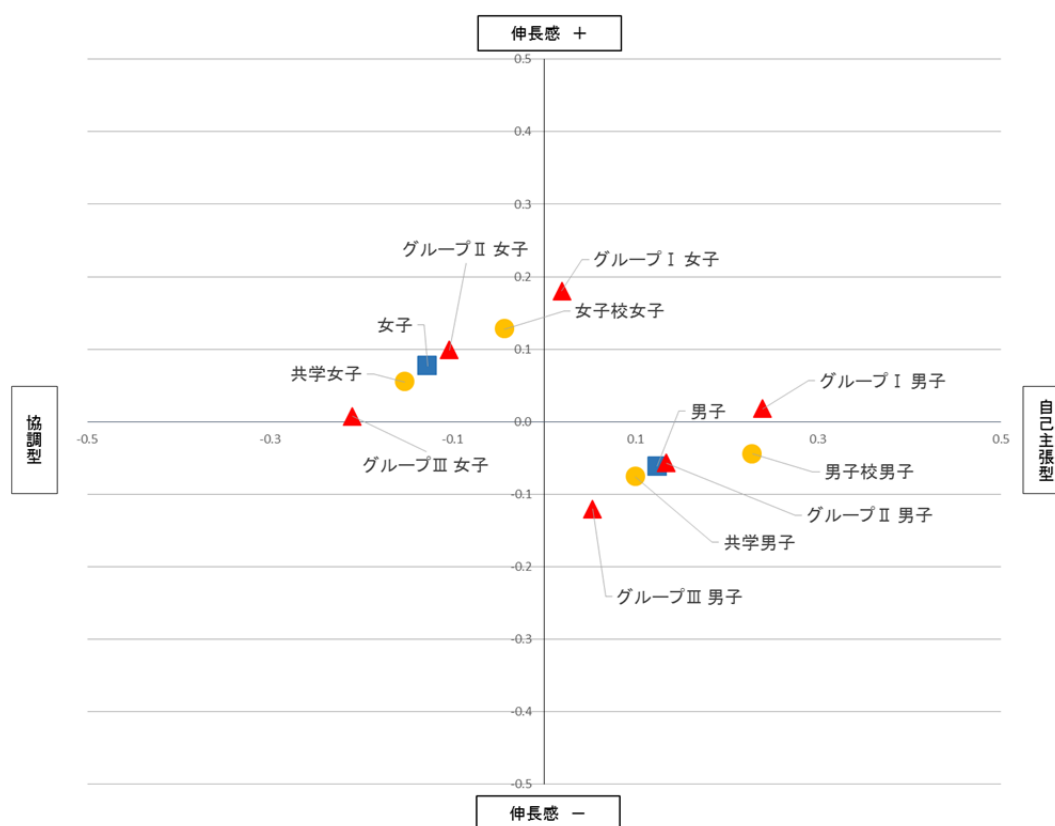
図表19 ジェネリックスキルの構造

	成分	
	第1軸	第2軸
困難なことでもチャレンジできる	.698	-.192
他の人と協力できる	.674	-.077
他の人と議論することができる	.671	.441
文章を書くことができる	.642	.281
人前で発表をすることができる	.642	.295
新しいアイデアを得たり発見できる	.640	.091
忍耐強く取り組むことができる	.616	-.419
思いやりをもてる	.610	-.431
自分とは異なる意見や価値を尊重できる	.606	-.305
リーダーシップをとることができる	.602	.257
人の話を聞くことができる	.588	-.425
社会問題に対して分析したり考えたりする	.574	.354
自分を客観的に理解できる	.552	-.066
計画や目標を立てて日々を過ごす	.544	-.133
時間を有効に使うことができる	.542	-.285
分からないと調べたりすることができる	.521	.386
異文化や世界に関心をもつことができる	.507	.087
コンピュータやインターネットを操作できる	.428	.181
抽出後の因子負荷量平方和	6.390	1.530
分散の%	35.5	8.5

スキルであるのに対して、後者は「思いやりをもてる」や「人の話を聞くことができる」などの項目が含まれており、他者と協調できるスキルである。

したがって、この結果をふまえると、ジェネリックスキルは、「自己主張型」と「協調型」という二つの要素から構成されていると考えられる。ところで、「他人と議論することができる」という項目は、一見他人と意見交換するスキルのように思えるが、正の重みをもっており、「自己主張型」のスキルであることは興味深い。「協調型」のスキルは、単に他人と関わるか否かという問題ではなく、他人との関わり方に依存するスキルのようなのである。

さて、カテゴリーごとに第1軸と第2軸の平均値を算出し、第1軸を縦軸、第2軸を横軸にした二つの軸から構成される空間上にそれを位置づけたものが**図表 20**である。この図表をみると、男女が対照的な位置づけになっていることが分かる。すなわち、女子は伸張感プラスで協調型の方に位置づけられる一方、男子は、伸長感マイナスで自己主張型の方に位置づけられる。さらに、大学進学グループを組み合わせると、大学進学実績が高くなればなるほど右上（伸長感＋、自己主張型）の方へ移動していくことが確認できる（共学よりも別学の方が右上にあるが、前節で述べたように、別学に大学進学実績が高い高校が偏っているために、このような位置づけになっているのだろう）。



図表 20 ジェネリックスキル×ジェンダー×大学進学グループ×学校タイプ

以上より、次の三点が明らかとなった。第一に、ジェネリックスキルは少なくとも、「自己主張型」と「協調型」という二つの要素によって構成されている。そして第二に、全体としては大学進学実績が高い方が、そして女子の方が、ジェネリックスキルが伸びたと感じているものの、要素の違いに着目すれば、どちらかといえば、男子は自己主張型、女子は協調型が伸びたと感じている。さらに第三に、大学進学実績が高い方が、自己主張型のジェネリックスキルが伸びたと感じていることも明らかとなった。

おわりに

本章では、ジェンダー差に着目して、高校生の生活を分析してきた。**第 1 節**では、特にキャリア意識や勉強観の面でジェンダー差が存在することが確認できた。次に**第 2 節**では、共学に通う男子／女子と、別学に通う男子／女子の間には、あまり統計的に有意な差異を見出せる項目が限られていたものの、授業スタイルや進路意識に関して違いがあった。最後に**第 3 節**では、本調査にとって重要であるジェネリックスキルの項目をとりあげ、主成分分析を用いて分析をした。その結果、ジェネリックスキルが自己主張型と協調型の二つの要素から構成されていること、そして、それらを伸びたと感じたかどうかはジェンダーや高校の大学進学実績に左右されることが示唆された。

本稿の分析は調査 1 年目の結果であり、今後、追跡調査を行っていく出発点のようなものである。おそらく追跡調査を行っていくなかで、今回は見出せなかったジェンダー差や共学と別学の違いが浮かび上がることも十分考えられる。とりわけジェンダー差については、年齢を重ねていくことでその差異が大きくなることが予測される。その意味で、ジェンダーは、高校生が高等教育を経て大人へと移行していく過程を分析するうえで、はずすことのできない重要な一つの視点となるに違いない。

第4章 事例研究－島根県立横田高校－

椋本 洋（立命館大学）

はじめに

本章においては、前2章において分析された「学校と社会をつなぐ調査」をもとに、島根県立横田高校を事例として取り上げ、その調査データに加えて学校関係者のヒヤリング及び関係資料を加えてより詳細な分析を行う。ここで取り上げた横田高校は、いわゆるトップ進学校ではなく、現在公立学校が直面している課題を多く抱えている進路多様校と呼ばれる高校である。取り上げた理由は2点ある。まず、現在矛盾が集積しつつある地方の高校が抱えている課題を明らかにすることを目的とする。そして、それらの矛盾はやがて大都市の課題として浮上すると考えられる。調査に応じていただいた各調査対象校が、それぞれの学校の教育の点検や改善の際に、参考となれば幸いである。

義務教育諸学校や高等教育に比較すると、日本の高校教育における研究及び教育政策は遅れており、中央教育審議会においても「矢継ぎ早に施策が繰り出されてきた義務教育と高等教育の狭間で、高校教育はここ10年以上政策的にエアポケットとして放置されてきた」（耳塚寛明 2011）と述べられている。そして現在、高校教育の質保証と高大の接続教育の在り方を審議する高大接続特別部会が2012年にスタートしてその方向性を示そうとしている。

さらに、少子高齢化の影響は高校教育の大きな課題であり、公立高校の設置者たる全国47都道府県中、30の都道府県が「高等学校教育に関して重点的に取り組んでいる課題」（2012年文科省調査）として「再編・統合」を重点課題としている。事実、全国高校生の在籍数は、平成元年の564万4千人をピークに減少し始め、平成25年度には3,319,640人となっている（文部科学省学校基本調査）。そのため、毎年約60数校の公立高校が統廃合され平成25年には3646の学校数に減少し、このまま統廃合が進めば、次の10年間には公立の7校に1校が統廃合になると予測されている。こうした傾向は、東京のような大都会や過疎化が進む地方など地域差なく進んでいるが、公共交通手段が十分でない地方がその影響を大きく受けている。そうした統廃合が進む中、それぞれの学校は通学する高校生たちの実態を理解し、一人一人の生徒の進路を含めたキャリア形成をはかっていくかが重要な課題である。

そのために、まずこの調査におけるデータを基本に事例に選んだ高校の分析結果を紹介する。次に生徒や学校関係者に行ったヒヤリング調査の結果を記述する。それらの結果をもとにそれぞれの学校の諸特徴に関する概観を行う。

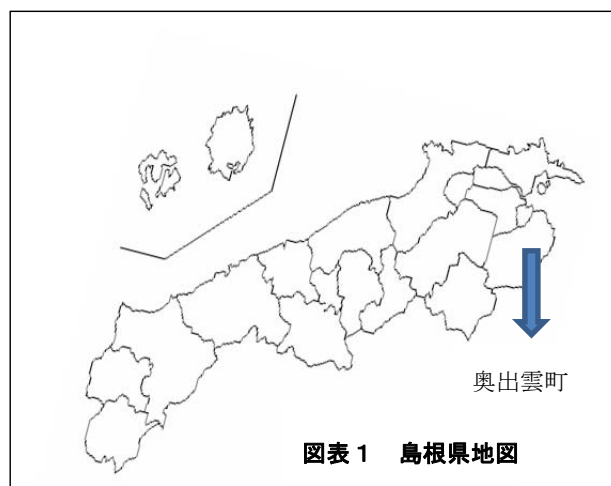
最後に、それらの知見をもとに、その未来予想図と将来構想を関係者との協働作業を通じて描く。

第1節 横田高校の諸特徴

1・1 地理的な特徴

島根県立横田高校は、平成17年3月に旧仁多町と旧横田町の合併により誕生した奥出雲町に存在する。奥出雲町は、島根県南東部に位置し、南部は広島県庄原市、東部は鳥取県日南町に接している。松江市からは約43kmの位置にある。地形的には、中国山地の連なる中山間地域にあり、奥出雲町は、島根県南東部に位置し、南部は広島県庄原市、東部は鳥取県日南町に接している。松江市からは約43kmの位置にある。地形的には、中国山地の連なる中山間地域にあり、中央を流れる一級河川斐伊川とその支流の流域に農地が開け、市街地や集落が散在している。町の全面積中84.3%が山林であり、耕地率はわずかに7.2%にすぎない。気候は年間の平均気温が13℃、冬は寒さが厳しい。11月の中ごろから雪が降り始め時には3月の中旬頃まで降雪がある。

1・2 歴史的な背景



奥出雲は、古事記、日本書紀の八岐大蛇退治や、素戔鳴尊（スサノオノミコト）が降臨したと伝えられる出雲神話発祥の地であり、古くから「たたら」製鉄で栄え、出雲地方における一大文化圏を構築してきた。明治以降産業構造の変化のなかでたたら製鉄は衰退したが、昭和52年に復元され、今でも世界で唯一、日本刀の原料となる「玉鋼（タマハガネ）」を

生産している。また、地域資源を活用した仁多米、仁多牛、奥出雲椎茸、奥出雲酒造、高糖度トマトなどの地域ブランド化による産業の振興をはじめ、町100%出資の第三セクター設立による雇用の創出、空き工場・空き家を活用した企業誘致や定住対策の促進を行い、進行する過疎を食い止めるべく努力している。

特に合併後は、高齢化地域社会の出現を視野に入れ、地域間格差の是正と均衡ある発展を目指す中で、全町で各家庭まで光ファイバーを接続した全国最先端のFTTH網が完成し、超高速インターネット、ケーブルテレビ、IP電話の利用はもとより、新たにテレビ電話による独居老人宅の見守りや在宅医療、生活支援サービスの構築を進めており、生活基盤・道路網の整備と併せ、健全な財政運営に努めながら合併後の一体感の醸成、地域経済の活性化に取り組んでいる。（奥出雲町役場HPより）

1・3 交通手段

横田高校に通学する生徒たちやその家族は、J Rと図表 2 に示す道路網を利用している。まず、JR 木次線が町の中央をほぼ東西に横断し、松江までほぼ 2 時間、隣県の広島まで約 4 時間で連絡している。次に、国道 432 号線が山陽と松江を結ぶ主要な道路であり、平成 13 年には県境から 2 車線に改良され、その結果松江市へ約 1 時間、出雲市へは約 50 分で行けるようになった。また、奥出雲町に設置されている義務教育諸学校は、以下の地図の通りである。



図表 2 奥出雲町図

2. 学校の概要

横田高校は大正 8 年、仁多郡立農学校として開校し、今年度で創立 96 年目を迎える奥出雲町唯一の県立学校である。同校の教育目標は、「耕心培学」～心の田を耕し、学徳を培う～であるが、その意味について、同校校長は「本校で学ぶ生徒全員が、高い志と自他を愛する心を持ち、ふるさとの未来を託すに足る、ふるさとの未来を担うことのできる生徒となるようしっかりと取り組むということです。」と語っている。ここで下線を引いた箇所注目したい。すなわち、町から都市に出ていく人材を育成することよりも、これからは、地域とともに生きる人々を育てたいという強い意志を読み取ることができる。

また、同校の魅力・特色について、島根県教育委員会の HP（県外からの入学生を積極的に受け入れている県立高校の紹介）で以下のように紹介されている。

「自然が美しく人情溢れる奥出雲町にある、普通科 4 クラスの中規模校です。一人ひとりの生徒が日々努力し、大学等への進学や公務員、企業への就職を果たしています。部活動入部率は約 90%で、全国レベルのホッケーの他、剣道、陸上競技、ソフトテニス、弓道、

バレーボール，吹奏楽など多くの部が活躍しています。昨年はロンドンオリンピックの女子ホッケーチームさくらジャパンに，卒業生２選手１コーチが選出され，在校生は大きな勇気をもらいました。」この記事は，同校の姿を簡略にそして明確に表現している。

次に，同校の教員構成は2013年7月現在，校長，教頭，教育職員37名，事務職員6名の45名で，都市部の学校に比較して，事務職員の多さが目に付く。

また，横田高校の学年・学級生徒数（平成25年5月1日）は以下の表のとおりである。

学年	1					2					3					総計
コース	共通				計	Ⅱ		Ⅰ		計	Ⅰ		Ⅱ		計	
組	1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4		
男子	16	16	12	11	55	8	7	19	19	53	18	23	9	7	57	165
女子	12	13	15	16	56	11	11	15	15	52	17	12	13	17	59	167
計	28	29	27	27	111	19	18	34	34	105	35	35	22	24	116	332

図表3 横田高校学級生徒数

調査対象になった2学年は，類型に分かれクラス編成をしている。

第2節 アンケート調査結果の内容

本調査に対してアンケートに回答した生徒数及びメールアドレスを登録した生徒数は以下のとおりである。

2年生在籍数	調査票回収数	回収率	メルアド登録数	登録率
102	86	84.3%	14	13.7%

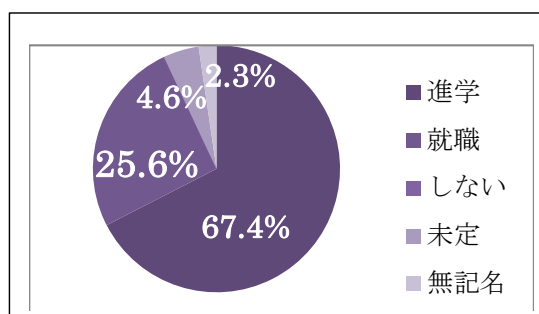
図表4 調査票回収数

2・1 対象生徒たちの進路希望

この調査の性格がトランジション調査であることから，アンケート調査に応じた生徒の調査時点（高校2年秋）における進路希望の結果を図表5及び図表6で示す。

進学	58
就職	22
しない	0
未定	4
無記名	2

図表5 進路希望者数

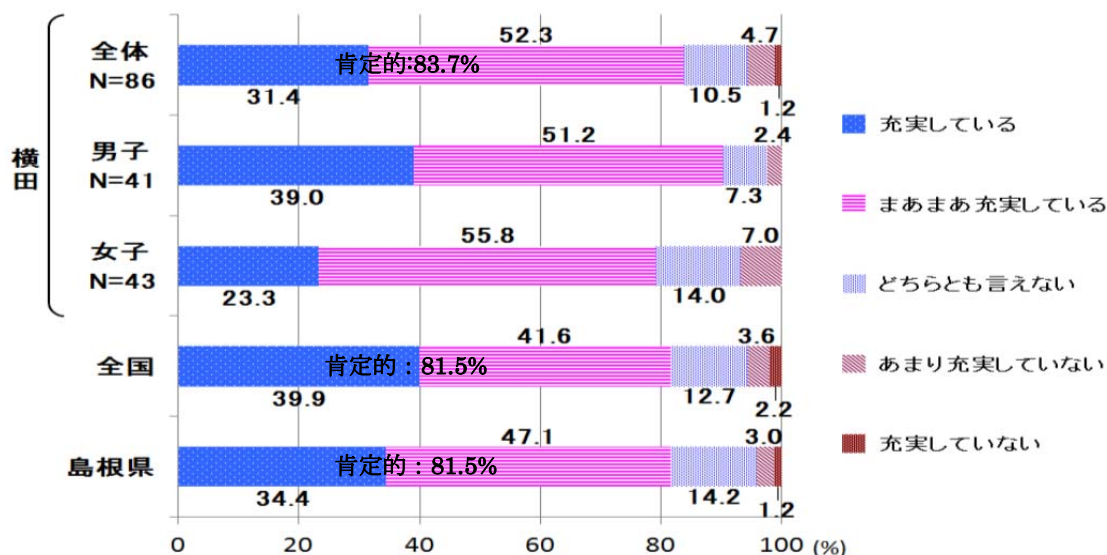


図表6 アンケート応募者進路希望率

アンケートの回収率が 84.3%と高いことからわかるように、横田高校校長及び総務部長の教員によれば、この数字は、実際の希望者の割合をよく表しているとのことである。

2・2 学校生活について

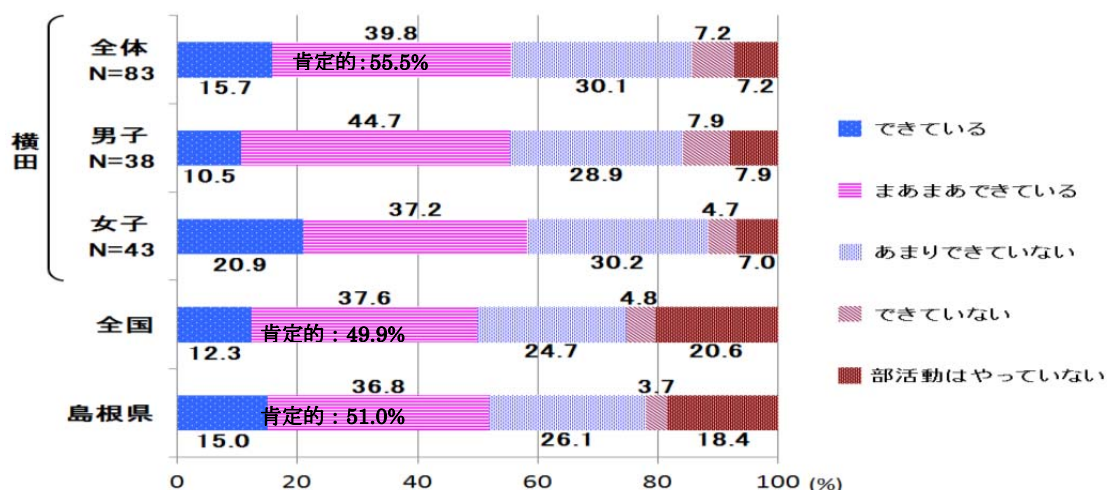
(1) 学校生活が充実しているか。



図表 7 学校生活充実度

横田高校の生徒たちは、学校生活を充実して過ごしていることがわかる。それは、全国、島根県と比較してみても高い。ただ、男子 90.2%に対して女子 79.1%と 10%余りの差がみられる。この点については、後に考察してみたい。

(2) 部活動との両立

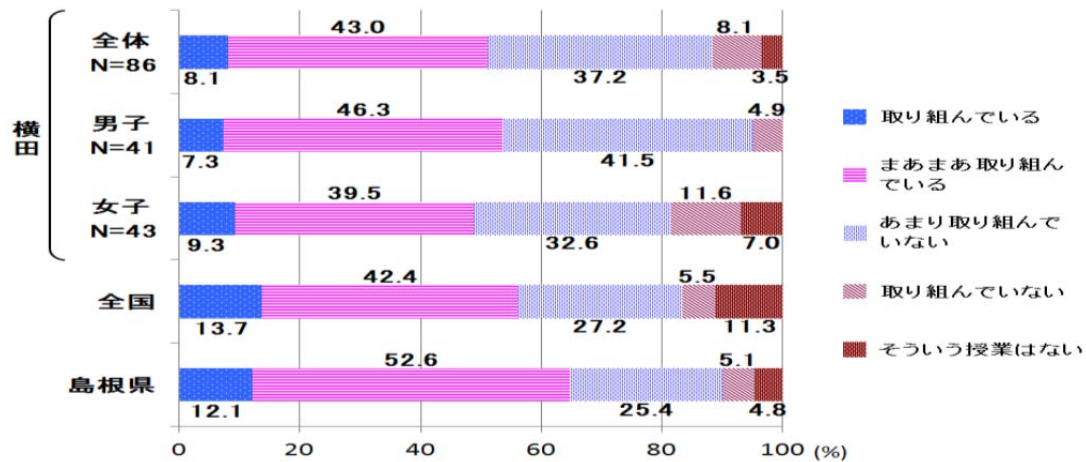


図表 8 部活両立率

部活動参加率は 9 割を超えている中で、全国および島根県と比較してみると自己評価であるが両立していると考えている生徒が多い。なお、学校の部活終了時間は 19 時と決めら

れている。

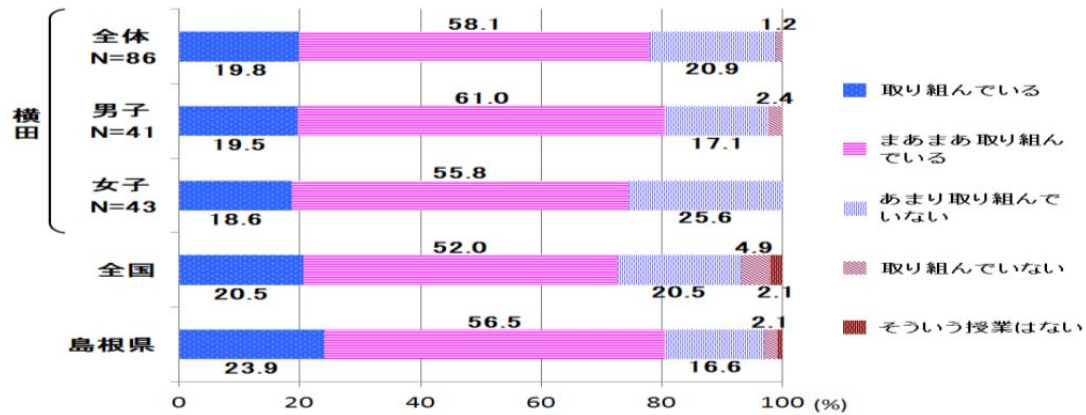
(3) アクティブ・ラーニング



図表9 アクティブ・ラーニングの取り組み状況

島根県全体と比較すると、13.6%下回っているが、これは同校が予備校や塾といった私的教育機関のない環境にあるため、同校が受験学習にも対応できる通常の授業をきちんと取り組んでいることを反映している。詳細は後述する。

(4) 教科以外の学習（総合的な学習の時間や HR 活動）への取り組み状況



図表10 教科以外の学習取り組み

同じく島根県全体と比較して若干下回っているが、Ⅰ類とⅡ類の取り組みの差があり、これについてもヒヤリング結果と合わせて後に分析する。

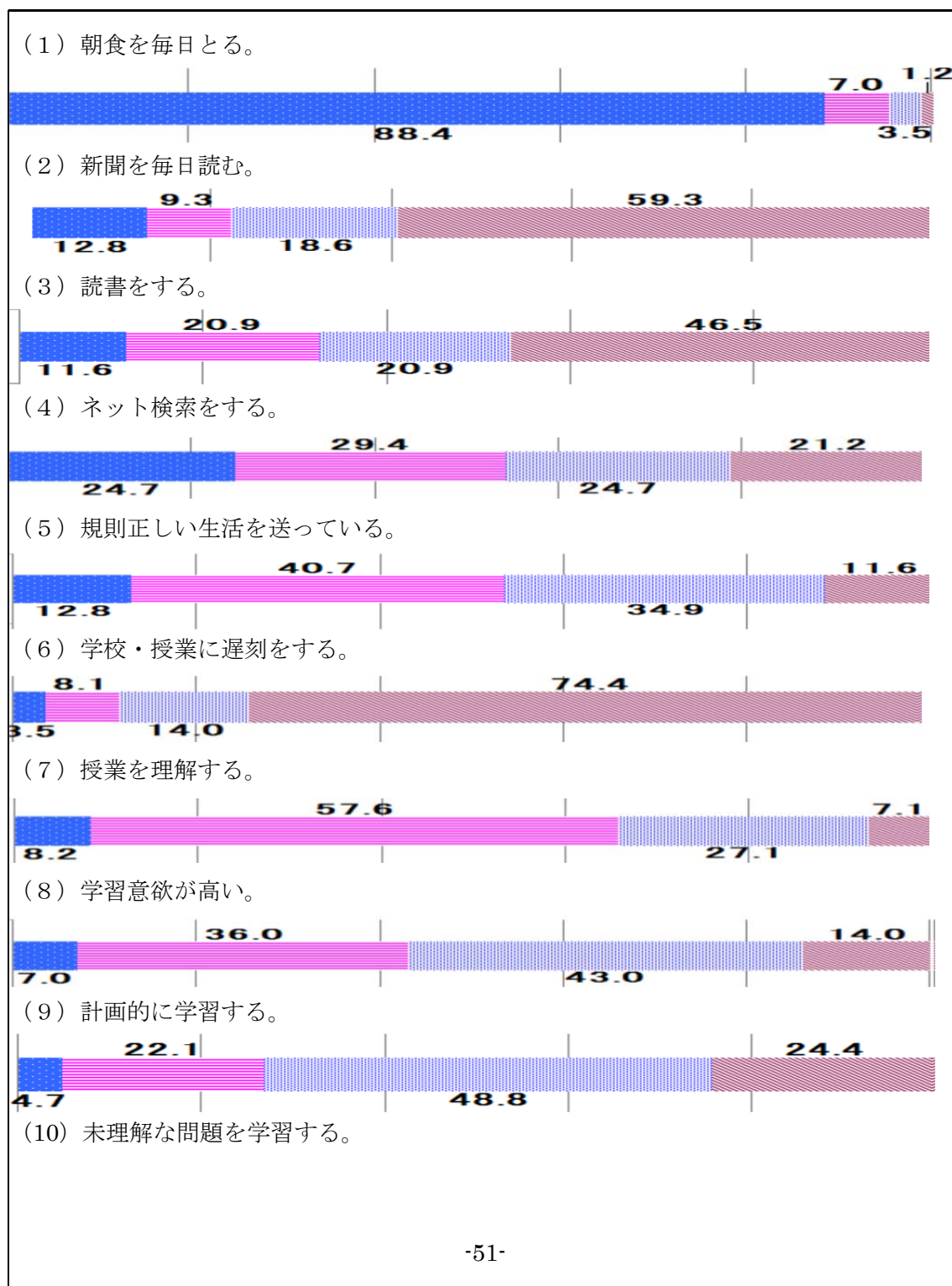
次に、上記のデータの相関分析を加えると次の表のような結果が得られる。

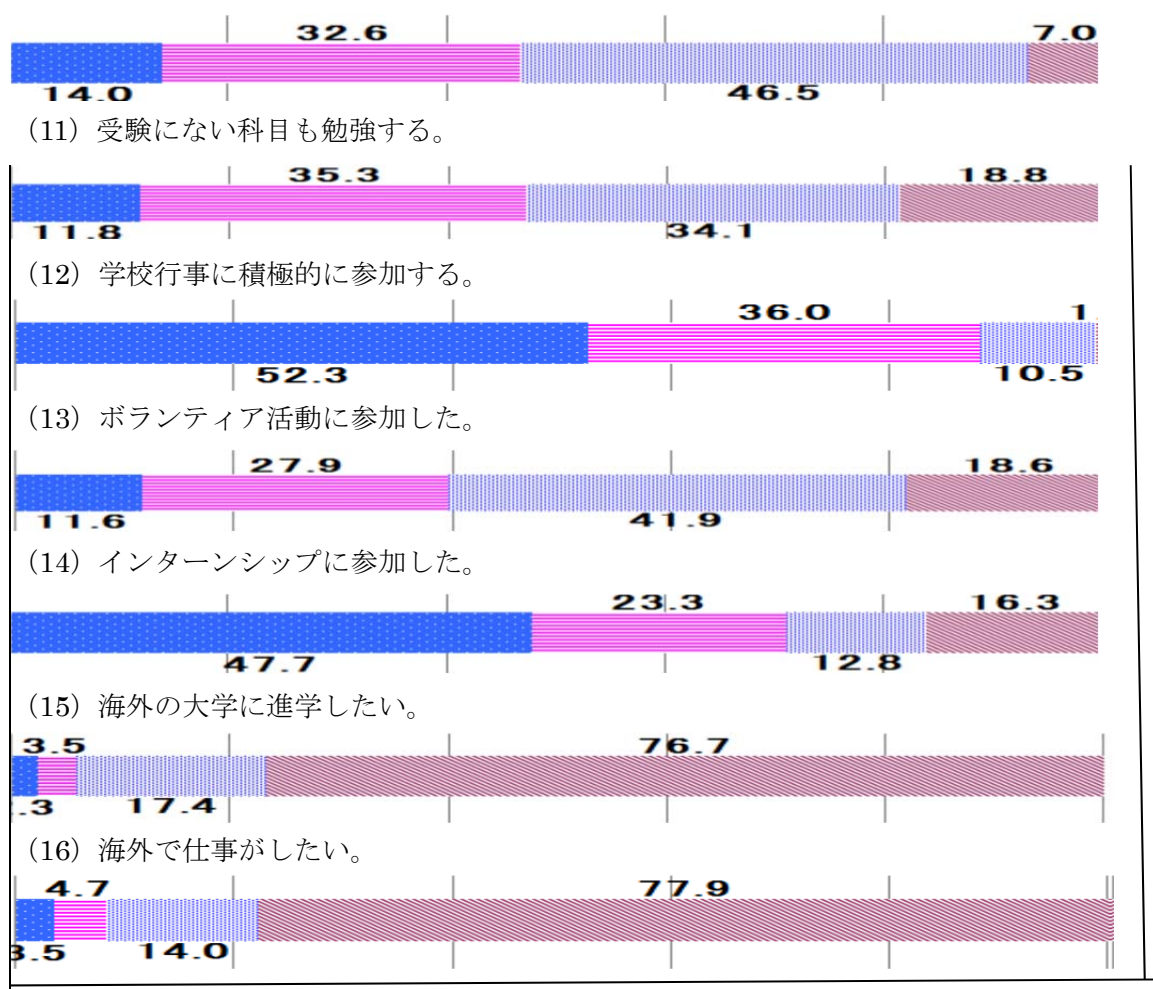
	部活両立	A・L	総合・HR	充実度
部活両立	1			
A・L	0.0972897	1		
総合・HR	0.183239	0.2019533	1	
充実度	0.2134603	0.3123658	0.0050367	1

図表11 相関

「学校生活充実度」に「アクティブ・ラーニング」，「部活両立」の順にやや相関がみられるが，「総合的な学習の時間や LHR」には相関がみられない。これは，大半の生徒が部活動を行っていること，また，Ⅰ類においては，後に紹介する「アクティブ・ラーニング」を取り入れていることを反映しているものと考えられる。

2・3 生徒たちの学校や日々の生活実態

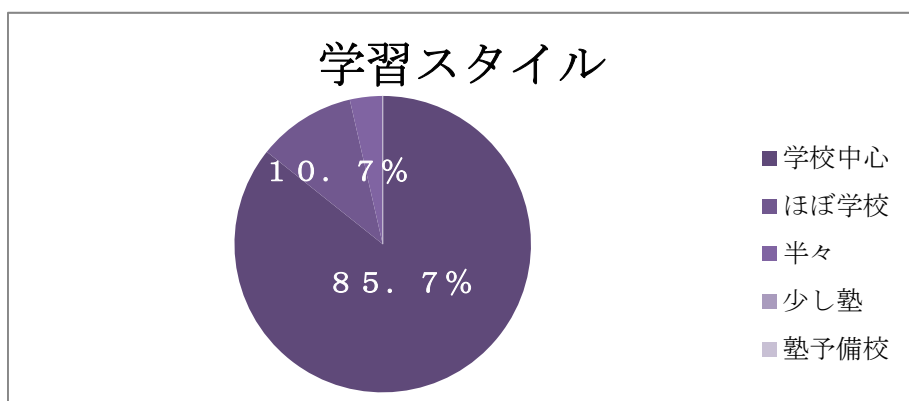




図表 12 学校や日々の生活

図表 12 において、左側が質問に対する肯定的な回答である。16 項目にわたる設問の回答を見渡すと{朝食, 学校行事}に高い肯定を示している生徒が多い。これは、地方においては、家庭生活が規則正しく行われていること、学校行事が、生徒たちにとって、楽しいイベントになっていることを示している。

次に授業内容の理解の高さは、教師集団が意欲的に授業に取り組んでいることを示している。このことは、以下に示す生徒たちの学習スタイルからも読み取ることができる。



図表 13 学習スタイル（学校中心かあるいは学校外での塾などか）

校長へのヒヤリングによると、復習課題も多く出題され、学校の課題や予習復習など学校中心の勉強をしているそうである。それらの課題に生徒たちの多くは真剣に向き合っていることがわかる。その一方で、同校の課題は、学習意欲や計画的学習がそれほど顕著ではなく、生徒たちの「やらされ感」を反映しているものと考えられることにある。

また、海外留学や海外での就職などグローバルな視点が浅いのは、都市部と際立った違いを示している。

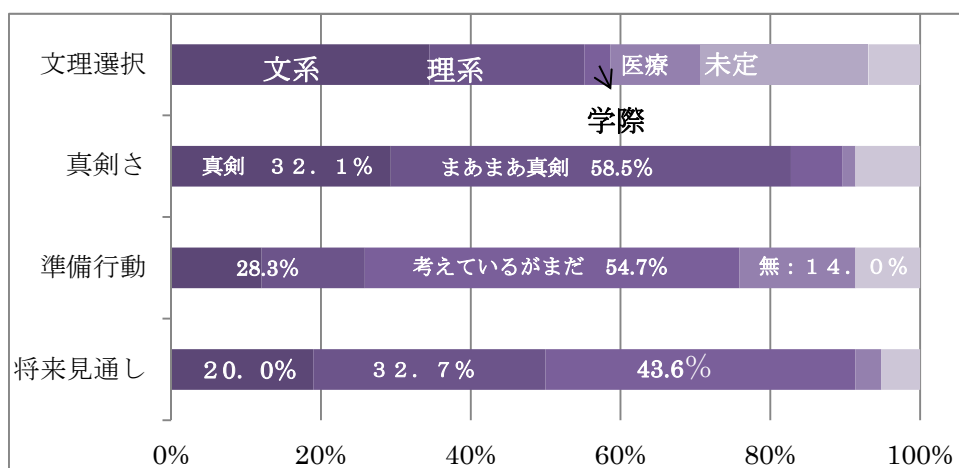
2・4 進学について

アンケートに回答した生徒中、進学・就職意識と準備行動などについて進学希望者 58 名の解答を以下の表にまとめる。

	文理選択	真剣さ	準備行動	将来見通し
1	20	17	7	11
2	12	31	8	18
3	2	4	29	24
4	7	1	9	2
5	13			
6	4	5	5	3

図表 14 進学

これを図で示すと以下のようなになる。

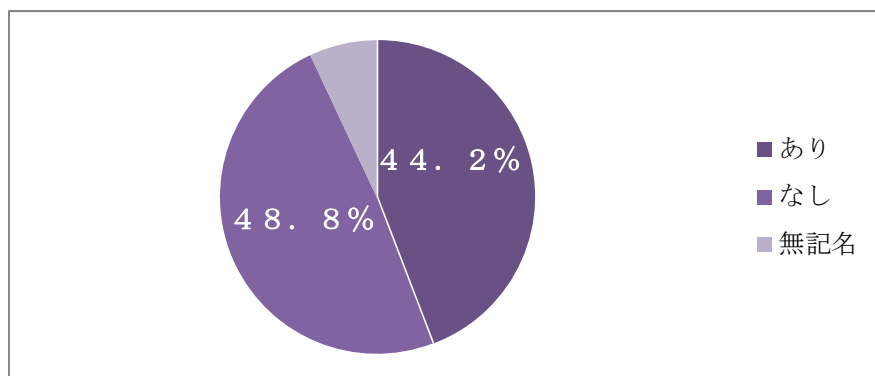


図表 15 進学

この結果をもとに校長にヒヤリングした結果、①文理選択は例年この傾向である、②部活が活発なため、進学の準備活動が遅い。高校3年のインターハイ予選などが終わってから本格的に受験勉強を始める。センター試験前後が一番時間もかけて集中的に学習している。その頃の成績の上昇は著しい。もう少し早くから取り組めばもっと進路実績があがると思われるというコメントが得られた。

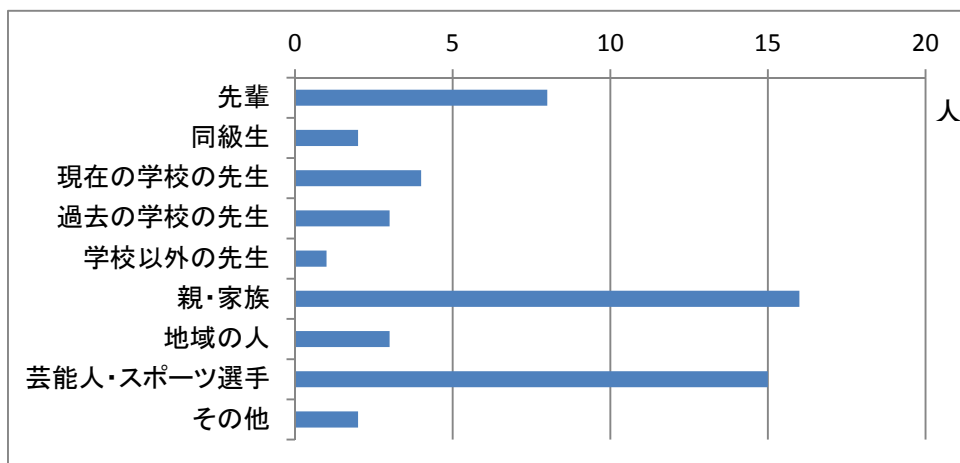
2・5 キャリア教育について

(1) 進学や将来の職業、生き方を考えるモデルの有無



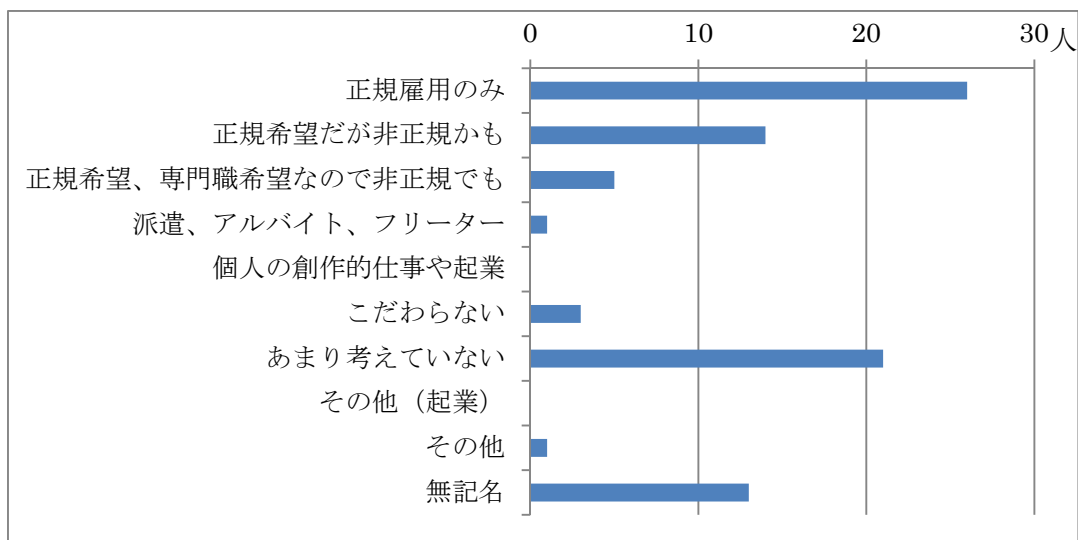
図表 16 モデルの有無

(2) モデルありと回答した生徒たち（38人）のモデルの像



図表 17 モデルの像

(3) 将来の雇用形態像に対するイメージ

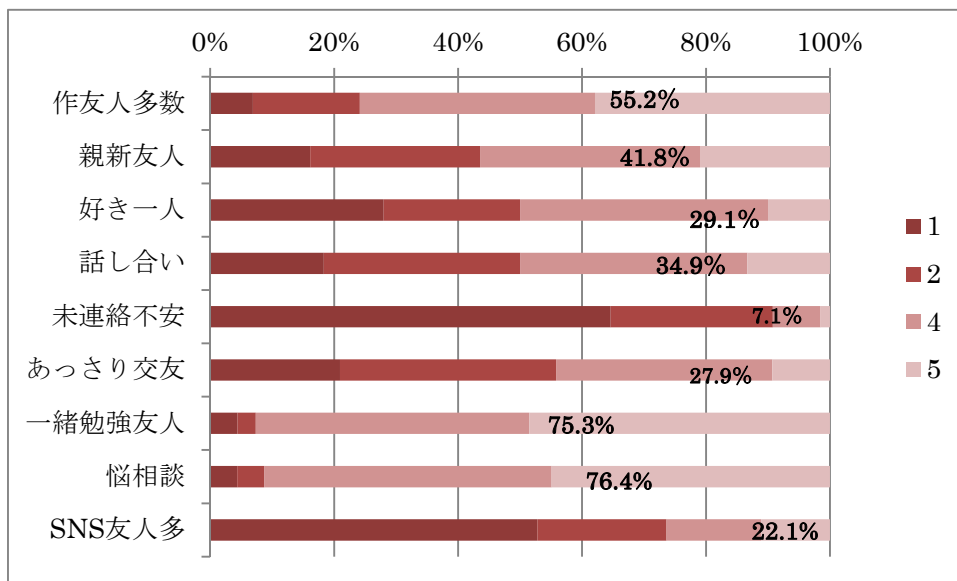


図表 18 将来の雇用形態に対するイメージ

このデータが示す生徒たちのキャリア形成観について大きな影響を持つと考えられる学校の進路指導は、後に詳細に考察する。

2・6 自己について

(1) 友人関係



図表 19 友人関係

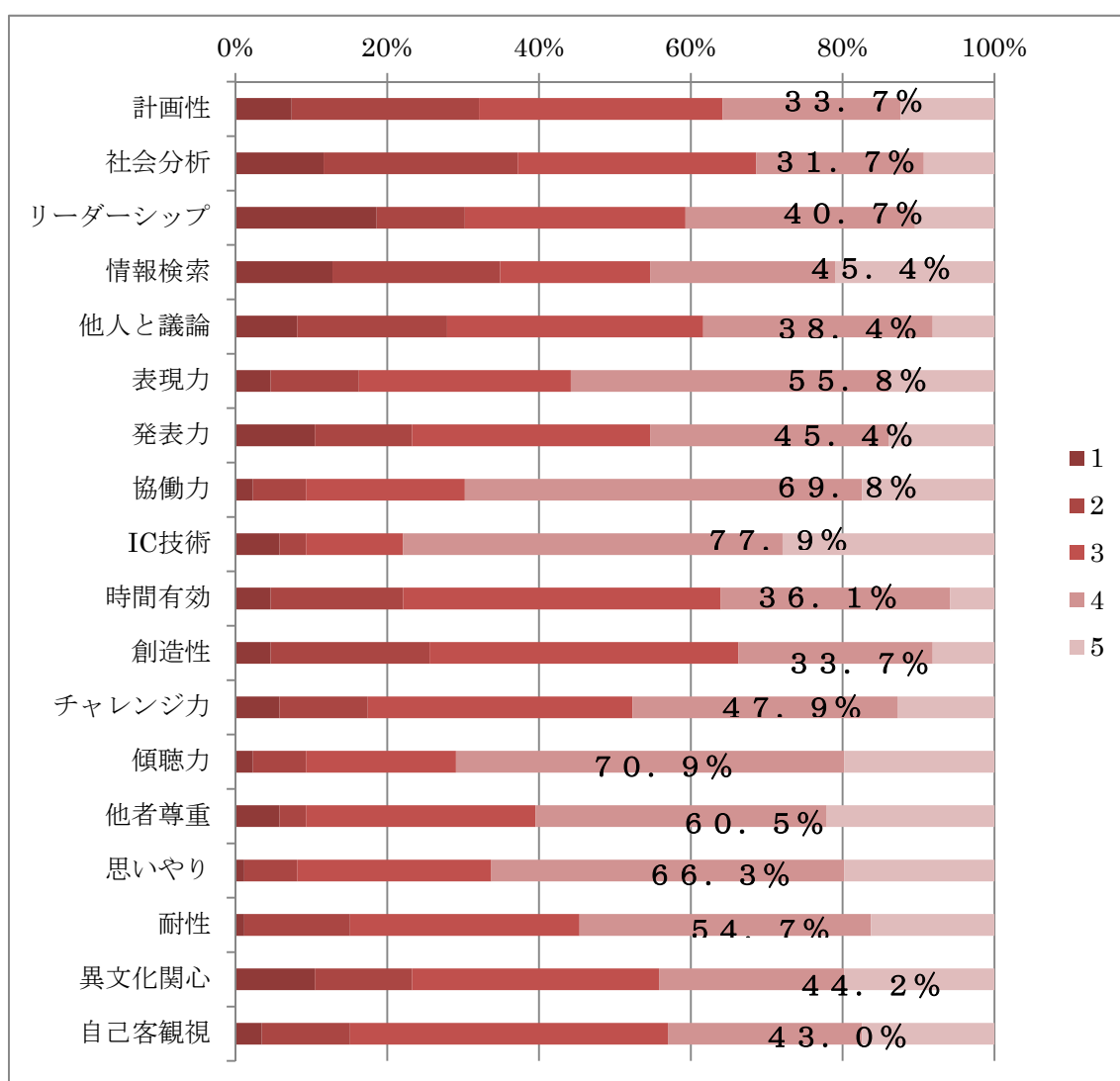
生徒のヒヤリングによれば、生徒のほとんどは保育園（幼稚園）、小学校、中学と同じ集団のままである。そのため、一緒に勉強する友だちや悩み事を相談できる友達を持っている生徒が多い。逆に、友だちとの関係はあっさりしていて、お互いに深入りしないようにしていると答えている生徒は少ない。そして、連絡がなくても不安に感じないということは友人関係に信頼を置いていることがわかる。

しかし、そのような関係の深さの一方で、それができなかつたり、関係が壊れたときの修復が難しい。そのため、友人との付き合いには神経を使っているし、うまくいかずに不登校になっていく生徒もいる。また、高校進学の際に、地元を離れ松江などの高校に進学していく生徒もいる。同高校の教員組織の中に「ハラスメント防止対策委員会」、「人権・同和教育推進委員会」、「いじめ対応委員会」は生徒指導委員会内に設定されている）を設置し、そうした環境に不適応な生徒への指導方針を作り対応している。（校長談、同校「学校要覧」参照）。

SNS やメールでのやり取りは、都市部生徒よりは少なく、SNS においても、ヒヤリング生徒の大半が関係のある部活の仲間、他校生徒、先輩が中心とした交流を行っている。ヒヤリング生徒のうち、一人だけが、就職希望で都会への憧れをいただいていたが、未知の同年代の高校生と SNS でつながっていた。

(2) 成長感

高校生活の中で、生徒たちが成長したと感じている項目を下の図で表す。



図表 20 成長感

図表 20 中、右側が肯定的評価である。「伸びた」と感じている生徒数と「まあまあ伸びた」と感じている生徒数の合計を%で示し、図中に表記している。

成長したと感じている項目順に、{IC 技術、傾聴力、協働力} 群がある。次に{他者尊重、表現力、耐性}群がある。逆に、低い方は{社会分析、創造性}などが目につく。

生徒たちおよび教員のヒヤリングによるとその原因は、まず部活動が盛んであること、学校行事に対する取り組みの熱心さから生まれていると考えられる。一方、「社会の問題に対して分析したり考えたりすることができる」の項目への反応の悪さは、山間部という閉鎖的な環境が大きく影響しているものと考えられる。遊びについても、同じ部活の仲間とたとえばソフトテニス（部活動以外の時間に）部の生徒の場合、部活動以外の時間にコートを借りてソフトテニスを行ったり、地域で集まって談笑することが多いようだ。

近郊の都市は県庁所在地である松江であるが、松江まで出るには、列車だと3時間はかかる。しかし、現在はほとんどの家庭には車が複数台あり、家族で利用している。松江ま

では車では1時間半と短縮される。そのため、家族と一緒に松江まで出かけ、一人または友達とショッピングを楽しんでいる生徒が少数ではあるがいる。

I 類の生徒たちの成長感を育てている行事に、総合的な学習の時間を利用した行事「だんだんカンパニー」がある。「だんだんカンパニー」とは専門学校や就職を目指すクラスの2年生が運営している仮想会社である。校長を社長として、会社の役員を自分たちで選出している。この会社を設立する前に1年次では、経済について学んだり、町内の企業訪問をするなどして奥出雲町民とコミュニケーションを深めるなどしている。今年度の2年生(66名)は、2013年10月15・16日、東京都内の「にほんばし島根館」(日本橋)と「こだわり市場 I S P 店」(池袋)の2カ所で、手作りジャムを販売している。このジャムは、町内産ブルーベリーを自ら収穫し、町営加工場を利用して製品化したものである。



図 21 だんだんカンパニー東京販売の様子

参加した生徒たちの中心の一人は次のように語ってくれた。

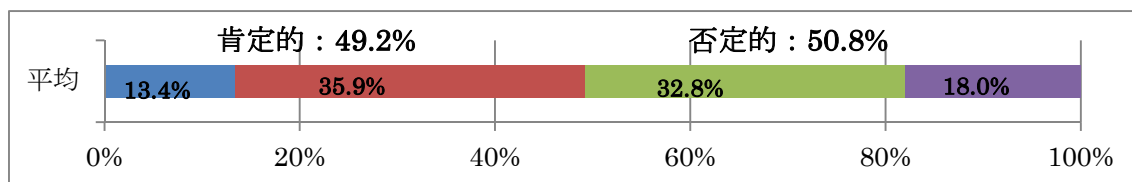
『1学期の後半から「だんだんカンパニー」という仮想企業を、校長を社長とし3組と4組の生徒全員で創設しました。2学期に行われた東京研修でジャムを売るというメインイベントのために計画を建てました。2学期はいよいよ本格的に始動し、価格設定や売れるためにはどうすればいいか?など考えました。夏休みに作ったジャムを東京で販売しました。やはり一番は販売です。東京と言う知らない土地、面識もない人たち相手に商品売るっていうのは簡単なことじゃありませんでした。それでも恥ずかしさを切り捨て、声を張って人にアピール出来たことに自分自身驚きました。当日は最悪の事に台風で人は少ないようでしたが、自分は当初組んだローテーションを無視してぶっ続けでやったことに少し反省をしています。しかし後悔はしていません。あの販売メンバーで一番声が大きいのは自分だと自負しています。終わったときにメンバーには感謝をされました。自分も役割を果たせたと思っています。仲間たちと完売できたことは、嬉しかったです。その後、反省会をしました。3学期は現在一年生に引き継ぎをするために、まとめをしています。』

こうした取り組みが、部活動と同じように、{IC 技術、傾聴力、協働力} 群の高さを支えている。さらに、{表現力}の成長感に対しても貢献していると考える。
また、II 類・進学コースの修学旅行について、生徒は次のように語っている。

『1学期は大学の資料などをみてどのような大学があるのかということを確認しました。そして、2学期は、大学の偏差値など調べ、自分がどのレベルにあるのかということを知り、今後すべきことをプリントでまとめることをしました。そして、修学旅行では東京に行ってきました。事前にインターネット、雑誌などをつかって行動計画や行くに当たっての目的などを立てました。東京では、浅草寺、国会議事堂、NHK スタジオパーク、オリエンテーリングなど、普段テレビで見ることしかなかった建物や観光名所に行けたのでとても心に残っています。国会議事堂では実際に傍聴席に座り、議会の雰囲気を感じることができました。NHK スタジオパークでは正直、僕はたのしくありませんでした。なぜかということ子供むけにつくられており、興味が湧きませんでした。そして、オリエンテーリングは渋谷、新宿などにいきました。時間内にチェックポイントに行ったり電車を乗りついで行動しました。社会人になったときに生きてくるのかなと思いました。修学旅行全体を通して思うことは、同じクラスではない人たちとも関わりをもつことがあるので人間関係は大切だなとおもいました。』

これらの取り組みは、Ⅰ類ほどダイナミックなキャリア教育ではないが、Ⅰ類と同じような効果のある程度はもたらしけているものと考えられる。しかし、島根県全体の公立高校と比較したとき、Ⅱ類の取り組みには改善の余地がある。

(3) 自尊感情



図表 22 自尊感情

この結果は、自分に自信がない生徒が半数近くいることがわかる。この結果は、横田高校の生徒に特徴的なことだろうか。そこで、自尊感情にかかわる6つの質問項目に対する肯定的評価を横田高校と島根県全体とで比較すると以下ようになった。

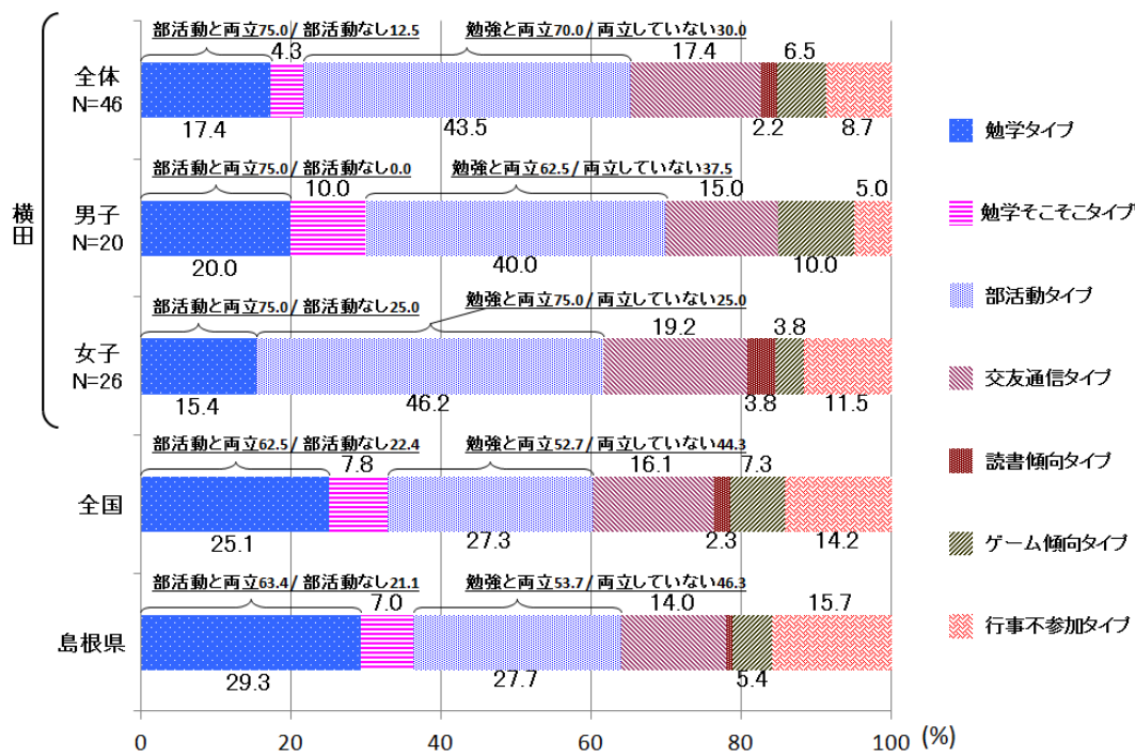
質問	横田高校	島根県
自分に満足している	34.9	39.2
自分には見どころがある	38.4	43.5
たいていの人がやれる程度には物事ができる	68.6	72.5
得意に思うことがない (R)	62.8	63.3
もう少し自分を尊重できたらと思う (R)	33.7	33.3
前向きな態度をとっている	43.1	43.5

図表 23 自尊感情の比較（横田高校/島根県）

図表 23 の平均値をみると、横田高校の生徒は島根県の他の調査協力校に比較して、自分

に対して自信が持てないでいることがわかる。

(4) 生徒タイプ



図表 24 横田高校生徒タイプ

全国及び島根県と比較すると部活動タイプが際立って多い。また、男子より女子にその傾向が強く表れている。これは、校長ヒヤリングの結果と一致している。

第3節 生徒インタビューの結果

本調査から得られた最大の成果は、高校生たちの「生徒タイプ」が明らかにできたことである。そこで、本項においては、それらの「生徒タイプ」像の妥当性を明らかにすること及びそれらのタイプの生徒たちのより明確な姿を明らかにするために、質的社会調査の技法である「半構造インタビュー」を用いてデータを収集した。

1. ヒヤリング調査の方法

2014年1月31日（金）横田高校進路指導室にて、昼休み（12：30～13：30）に4名、放課後（15：30～17：00）に6名の面接を行った。一人に対して約15分間をかけた。面接生徒は、あらかじめ同校総務部長佐藤誠教諭に上記の生徒タイプの分類を説明し、タイプにできるだけ該当すると思われる生徒を抽出していただいた。この面接に至るまで、以下のような「質問項目」に対して、家庭状況などの質問が加わることなどを校長はじめ教職員に同意を得て、さらに、トランジション調査全体の目的に「協力しよう」という動機を持っている生徒を選んでいただいた。校風として、制服をきちんと着ている生徒たちで

あること面接以前に聞いていたので、スーツにネクタイをしめて応接した。一人ひとりの生徒たちに、メールアドレスの入っている名刺を準備しあらためて自己紹介を行うとともに調査の趣旨と調査内容を説明した。質問に際しては応じられる範囲で答えられる範囲で答えたらよいこと（個人情報に抵触する質問に対しては「よかったら教えてください」と丁寧に聞いていった）、記録はメモを取ること、録音機は使用しないことを断って、開始した。質問項目は主として以下のような内容である。生徒の自由な会話の流れを尊重したので、この順番通りに行っていない（半構造化インタビューの手法）。また、生徒によって面接時間を守るため割愛した質問もある。

(1) 質問項目

- Q 1. 属性（特に類型）
- Q 2. 学校への通学方法
- Q 3. 進路希望
- Q 4. その進路を決めるにいたったいきさつ
- Q 5. Q 4 を発展させる形で、家族構成、家族の仕事など
- Q 6. 学習時間
- Q 7. 部活動について
- Q 8. 友人関係（SNS も含む）

※アンケート調査では得られない家族構成、家族の学歴、職業を聞き出すことに重点をおいた。

2. ヒヤリングした生徒のプロフィール

ヒヤリングした 10 名のプロフィールをまとめると以下ようになった。

仮名	タイプ	コース	部活	家族形態	親の職業		親の学歴		進路希望
					父	母	父	母	
M 1	3	Ⅱ文	運動部	父，母，姉	大工	保母	高卒	短大卒	大学
M2	3	Ⅱ文	運動部	父，母，姉，兄	運転手	パート	横田高校卒	横田高校卒	短大
F1	3	I	運動部	祖父母，父，母，兄，弟 2	公務員	パート	横田高校卒	横田高校卒	専門学校
M3	4	I	運動部	父，母，兄，弟	農林業	パート	横田高校卒	横田高校卒	公務員
M4	3	I	運動部	祖父母，父，母，兄	建設業	理容師	高卒	横田高校卒	就職
M5	3	Ⅱ文	運動部	父，母，妹	兼農家	パート	高卒	高卒	進学
F2	3	Ⅱ文	運動部	祖祖母，祖父母，父，母，兄，弟	公務員	公務員	横田高校卒	大卒	進学

F3	1	Ⅱ理	文化部	祖父母，伯父，父，母，妹	公務員	パート	横田後大卒	大卒	大学
F4	1	Ⅱ文	文化部	祖父母，父，母，姉2	公務員	事務員	横田後大卒	横田後大卒	大学
F5	4	I	運動部	祖母，父，母，兄2，姉1	聖職者	パート	大卒	高卒	就職

図表 25 ヒヤリング生徒プロフィール

一見してわかるように、祖父母などを含めた大家族の家族構成が目につく。次にわかることは父母の学歴で、横田高校卒が大半を占めていることである。横田高校の他に選択肢がなかったとはいえ地元に着した高校であることがわかる。過去において、横田高校は、山間地域にありながら、国公立大学などに多くの生徒たちを進学させてきた。それらの人々の多くは都市部にとどまり続け生きている。そのことは、横田高校の同窓会組織に東京支部があり活発に活動していることからわかる。

ここに登場する生徒の親たちの多くは横田高校を卒業し、仁多郡にとどまった方たちである。さらに、横田高校卒業後大学に進学し横田に帰ってきた親の子供たちはまた大学に進学することを望んでいる。かつて、一緒に学んだ同級生たちが、地域からの移動を図ることにより成功を収めたことを知っている。つまり、都市が就業機会と労働条件において有利であると考えている。そのため、自分の子供たちには奥出雲町から都市・大都市への移動を勧めている。

しかし、故郷から都市へ移動するということは単純ではない。現地でその温かい人間関係の一端に触れると、移動はそうした人間関係を捨てて、新しい土地での人間関係が作れるかというマイナス面を考えねばならないことがわかる。したがって、進学先がなるべく奥出雲町に近い都市を指向することになる。これについては、のちに詳しく述べる。

3. 横田高校における部活動タイプの特徴

ヒヤリングした10名中、部活タイプに組み込まれる生徒は6名であった。彼らの生活を垣間みしてみる。特に部活を終了して帰宅した後の過ごし方をスケッチする。

仮名	コース	通学方法	学習時間	自由時間	過ごし方
M1	Ⅱ文	徒歩で5分	2h	1.5h	部仲間とツイッター
F1	I	車で5分	たまに	3.5h	携帯メールしよっちゅう
M5	Ⅱ文	バスで15分	時々	3h	メールで連絡
M2	Ⅱ文	JRで1時間	1.5h	0.5h	携帯はしない
M4	I	JRで1時間	0.5h	2h	LINE
F2	Ⅱ文	JRで1時間	1h～2h	2h	メールしながら勉強

図表 26 部活動タイプの生徒たちの学習時間と自由時間の比較

この表は、図表 25 において部活動タイプに属する生徒6名を通学時間の短い順に並べて

作成した。これだけでは、平日における部活タイプの生徒たちの学習時間の傾向をつかみにくいので、調査データから部活タイプの生徒を抽出して、調べたのが、以下の表である。

部活	学習	自由時間
2	2	1.5
3	1.5	1
2	1	3
2	3	2
3	2	1.5
3	1.5	3
2	1	2
2	0.5	3
3	2	3
3	1	2
2	1.5	2.5
2	1	0.5
3	1	2
2	1	6
2	1.5	0
2	1	4
2	1	2.5
3	0.5	5
2	0	1
2.5	2	1
2	2	2

図表 27 部活タイプ生徒の時間配分

この表から、学習時間と自由時間の平均を求めると、学習時間は 1.3h、自由時間 2.3h になった。ちなみに、部活の平均活動時間は 2.4h である。

比較のために、近隣の都市である松江市にある公立進学校の部活動タイプの生徒 32 名の学習時間と自由時間の平均活動時間を求めると、学習時間は 2.3h、自由時間は 3.8h であることが分かった。同時に、部活の平均活動時間は、3h である。

高校 1 年生の調査であり、比較対象としては限界があるが、濱中（大学入試センター 研究開発部 准教授、『高校一年次の勉強時間：大学入試は、彼／彼女らの学習動機になり得るか』2013）によれば、「学習時間の捻出を自分なりにコントロールするには、帰宅してから就寝するまで 4 時間の余裕が必要」とされる。また、この調査では「部活動や無視できない通学時間の関係から、4 時間を確保できない生徒が三分の 1 いる」ことが知られている。

この先行研究を参考にすれば、横田高校と松江市内の進学高との間では無視できない格差がある。その意味から、横田高校では、部活動を行ないながら、学習時間を生み出していくためにはよほどの工夫が必要となろう。

4. 進路の希望について

次に、ヒヤリングした 10 名についての進路希望やキャリア観について、考察する。

(1) I 類の生徒たち

横田高校は、普通科のみの単一学科の学校であり、2 年生からは進路希望による類型別クラス編成をしている。その中で、I 類型は、卒業後一般企業や公務員への就職を希望する生徒、各種専門学校や比較的受験科目の少ない短大・四年制大学への進学を希望する生徒を対象としている。進学動機を維持させるために、I 類の生徒たちは、種々の検定試験を受けて資格を取るように指導されている。たとえば、F5 の生徒は、次のように語っている。

私は、運動部のマネージャーです。部活の生徒のように厳しい練習はないけど、

下校時間は同じで、午後 7 時ごろです。学校から徒歩で、横田駅まで行き JR 木次線に乗り、最寄駅まで帰ります。そこから自宅まで、遠いので、駅に預けておいた自転車にのって、帰宅は午後 8 時になります。就寝は大体午前 1 時ごろで、夕食後毎日 2～3 時間 LINE や TWITER をして、勉強は検定の試験勉強中心です。中学時代より勉強するようになりました。大阪で就職して、介護など人を助ける仕事がしたいと考えています。

M3 の生徒のコメントである。

中学時代から運動部で頑張ってきた。現在は、中学時代とは異なる運動部に入っている。将来は、自衛隊に入ろうと思っている。父も進めている。11 時ごろに床に就くが、宿題があれば、それをやる。ない時は、ほとんどテレビかゲーム。パソコンがある。総合学習の時間は、1 学期は奥出雲学と言うことで、講師に山内と言う先生をお呼びして地元について再確認、また、どんなところが良いか悪いかなどを話しあいました。1 学期の後半から、「だんだんカンパニー」と言う仮想企業を校長を社長とし、3 組と 4 組の生徒全員で創設しました。

また、F1 の生徒は次のように進路と総合学習とについて次のように話している。

夕食が終わり、11：30 ごろまで起きている。たまに勉強しています。ほとんど検定の勉強かな。うーん、成績は中の下。将来は、大阪の歯科衛生士になる学校か得意の英語を活かした進学をするか迷っています。なんで大阪に行きたいかという、今やっている部活が続けられるから。

総合学習では、横田高校の 1 類系のクラスの皆でだんだんカンパニーという小さな会社をつくり修学旅行で出かけた東京で自分たちが手作りした、ブルーベリージャムを売りました。東京の方は新鮮な食べ物や、身体に良い食材を求めておられたので自分たちが住んでいる、自然が豊かな土地で採れたブルーベリーだということを説明したら、とても喜んで買って下さいました。なので、自分たちではあたり前すぎた。とても身体に良い、素敵なお食べ物が私の地元には沢山あるんだな！と幸せを感じました！ちょうど、台風がくる日だったので、大変でした！

同様に、M4 の生徒は次のように語っている。

JR 木次線で列車通学です。家に帰り着くのは午後 8 時ごろ。平日は、大体 11 時半から 12 時の間に寝ています。寝るまでは、勉強を 30 分から 1 時間やっている。主に検定試験の勉強をしている。現在はビジネス検定の勉強。大体規則正しい生活がやれていると思う。

この生徒が、アンケートのまとめの成長感の項で紹介した「だんだんカンパニー」で活躍した生徒である。このように、「だんだんカンパニー」の体験は、Ⅰ類の生徒たちにとっては、大きな影響を与えている。

このように、総合的学習の時間と検定試験の学習が、進路を考える動機になっている。現在、高校におけるとりわけ普通科におけるキャリア教育が大きな課題となりつつある。その視点は、次の4点である。

①社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力や態度を育成する、②キャリアを積み上げていく上で必要な知識等を、教科・科目等を通じて理解させる、③体験的な学習の機会を設ける、④生徒が自らの価値観を形成し、とりわけ勤労観・職業観を確立できるようにする。（中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」、平成23年1月）

この4点から、Ⅰ類の生徒たちのコメントをみると、③、④については、成功していると考えられる。特に、③については、上記の答申では、「卒業生・地域の職業人等とのインタビューや対話、就業体験活動などを、計画的・系統的なキャリア教育の一環として十分に提供し、これらの啓発的な経験を通して、進路を研究し、自己の適性の理解、将来設計の具体化を図らせる。具体的に人や現場を通して、自己と社会の双方についての多様な気付きや発見を経験させ、自らの将来を考えさせることが効果的と考えられる。」と述べている。

現在、日本の中学の多くで「就業体験」が実施されているが、そうした体験が、筆者の関わっている大学生たちについていえば、仕事の厳しさ、楽しさという経験として残ってはいるものの、そうした仕事体験が、その後の「問うに値する課題」として引き出され持続しているかについては疑問が残る。

横田高校の生徒たちは、過疎化という地域の矛盾の中を生きている。かれらにとって就職は「生きたいところに行ける」ことにはならない。多くの生徒たちは、地域の中で生きている。進学を考えているⅡ類の生徒もまた同じである。たとえば、M5の生徒は「進学も考えているが、父の後をついで奥出雲で働くことも視野に入れている。また、F4の生徒は大学卒業後、学校事務の仕事をしたいと考えている。F2の生徒は4年制大学に行くか看護専門学校へ行くか迷っている。こうした志向は、引き続いて地域の中で生きようという志でもある。その意味では、横田高校における就業体験は、より具体的に地域との地域の課題を感じ、そこで働く人たちと課題を共有することになる。上のM3が語る「山内さん」は地域の町おこしに取り組んでいる人である。そうした大人たちに触れて、将来は、「地域づくり」の担い手になっていく「主体」であることを自覚させることが重要である。そのような意味から、横田高校の「奥出雲学」は設計され、さらには「だんだんカンパニー」によって、より具体的に地域での「仕事体験」が行われている。

(2) II 類の生徒たち

インタビューでII類の生徒たちは、以下のような展望を持っている。

M1：全国レベルの部活動の生徒

進学は、このまま大学でも部活を続けたいので、自分のやっている競技が先刻レベルの大学に進学したいと考えている。学習時間は 2 時間ぐらい。学校の課題や予習中心の学習をやっている。

M2：進学は、島根県立短大を考えている。将来は幼稚園の先生になりたいと考えている。理由は、幼稚園時代の先生に憧れを抱いているから。7：00 まで部活をし、帰宅するのが 8 時。9：30～11：00 まで学校の宿題や予習をしている。

M5：進路はまだ決めかねている。進学するなら工学系の大学か専門学校に行き、将来は修理業みたいなところで働きたい。一方で、父の仕事の後をついで横田で暮らすことも考えている。平日は、部活が 7：00 に終わり、バスで 15 分（約 7 km）かけて帰宅。夜は 11：00 就寝。それまでは、大体テレビを見ている。勉強は、課題が出ているが、時々やらないときがある。

F2：進路はまだ未定だが、一応 4 年生大学に行くか、看護専門学校に行くか迷っている。夕食をすまして就寝までの 11：00 か遅い時は午前 1：00 ごろまで、携帯しながら勉強していることが多い。

F3：進路は、私立大学の栄養学を学べる学部を希望している。将来は管理栄養士になりたい。それは、中 3 のときの仕事体験で施設の料理を 1w 間体験して、大切さがわかった。小さい時から食品アレルギーに悩まされていたため、特に関心がある。夕食後少しテレビを見たりマンガや読書をしたりして過ごしているが、その後は 1：00 ごろまではまた勉強。学習は、大体学校の課題と予習・復習に費やしている。休日は 4 時間ぐらい。模試や小テストの勉強、学校のプリントをやっている。

F4：進路は、将来学校事務につきたいと思っている。それは、横田高校や中学時代の学校事務の仕事を見ていてあこがれるようになった。親切だったし、感じがとてもよかった。その夢を実現するために、大学は一応島根大学の法文学部か鳥取大学を目指している。夕食後 8：30 ごろから 12：00 まで勉強している。学習内容は予習・復習中心だが、最近、進学準備のため英単語のドリルや古文を勉強するようになった。休日は、復習を中心に 5～6 時間勉強している。

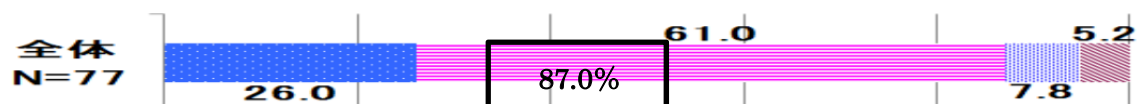
進路に対する漠然とした希望をもち、一部の生徒は進学準備を始めているが、多くないという傾向が見えている。これを、アンケートの結果で検証する。

先にみたように、進学については 90.6%の生徒が真剣に考えている。しかし、進学準備については、28.2%しかはじめていないし、大学進学後の見通しについても 52.7%の生徒しか考えられていない。こうした傾向は、島根県の他の進学校でも、広く全国的に見ても同

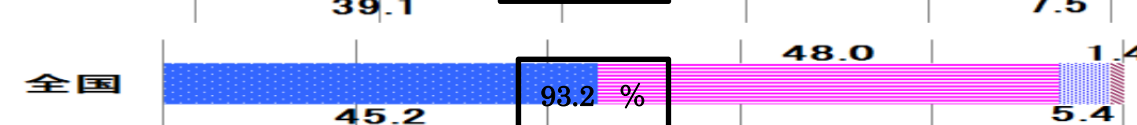
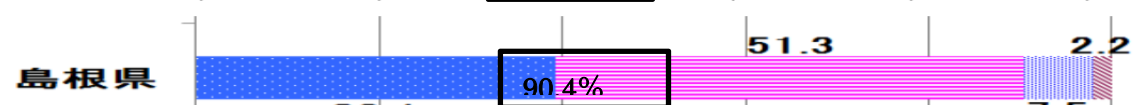
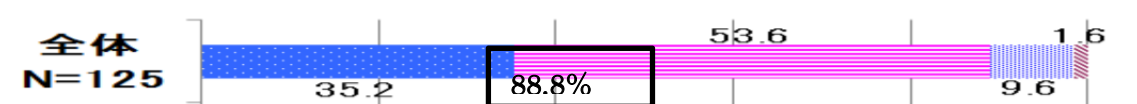
様の傾向である。そうした傾向が生まれる要因を学校の進路指導やキャリア教育にあると考えて、先にあげた島根県立高校、島根県、および全国データを並べて考察する。

Q 1. 進学についてどの程度考える機会を与えられていますか。

横田高校

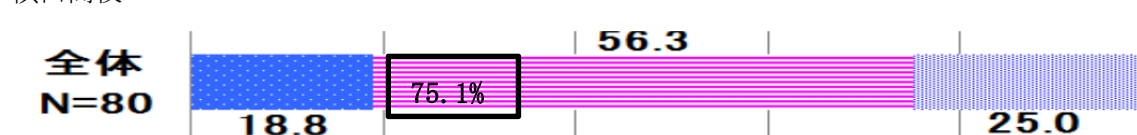


松江市高校

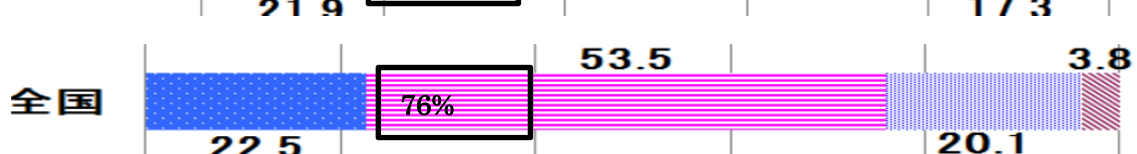
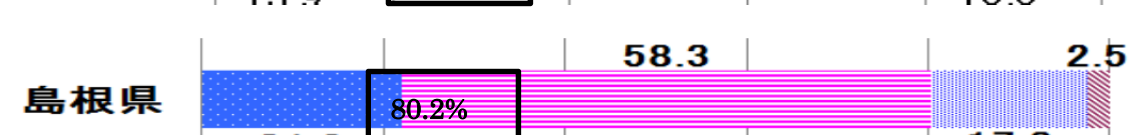
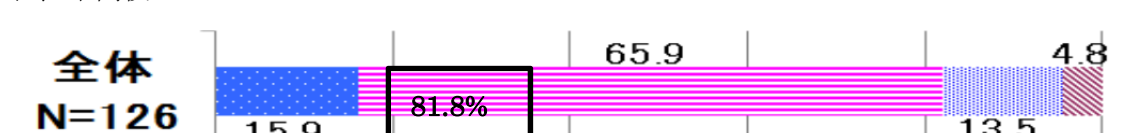


Q 2. 就職や将来の職業について、どの程度考える機会を与えられていますか。

横田高校

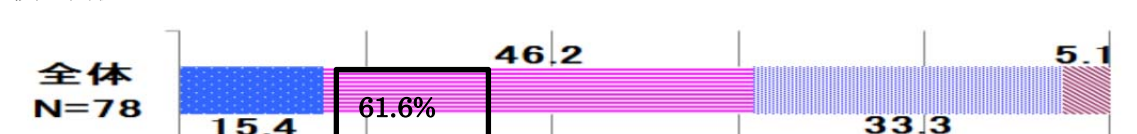


松江市高校

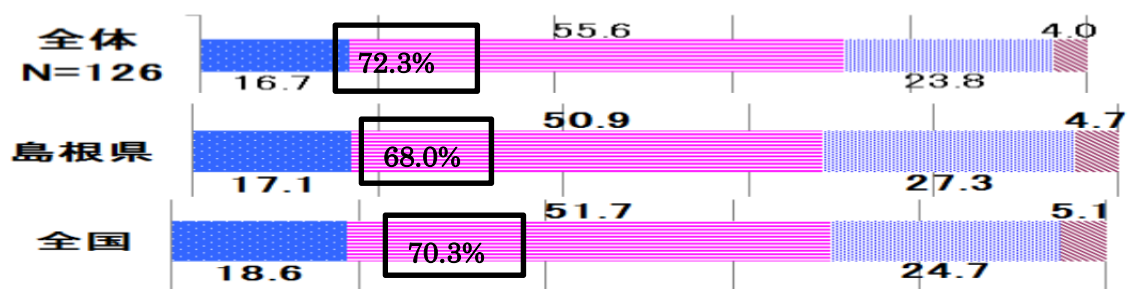


Q 3. 将来の生き方について、どの程度考える機会を与えられていますか。

横田高校



松江市高校



図表 28 学校の進路指導

以上のように、学校の進路指導に対する肯定的な評価を与えている比率を各帯グラフのカッコ内に示すと横田高校のそれは、いずれも差がついていることがわかる。その理由は、山間部地域の特徴とともに、横田高校の教員が、島根県の人事の方針で、3～4年で移動していくことを挙げておられる。また、多くの教員は、ここで例に挙げたような松江市などの進学校を経験し、進路指導にたけている。1990年代に比べて、現在の横田高校は、多様な生徒たちが存在し、様々な課題を抱えている。したがって、教員がこれまでの教員生活で身につけてきた進路指導などの方法だけで解決できない課題も多い。

さらに、それらの進路指導自体も、以前の進学指導を中心とする進路指導だけでは済まない時代になっている。それを分析することがこの章の目的ではないので省略するが、中央教育審議会答申「今後の学校教育におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（平成23年1月）でも示されているように、高校教育（特に普通科）は大きな変革の時を迎えている。今回の第1次調査のデータは、島根県が（全国的にも）、現時点では、答申が示すような時代に適応したキャリア教育がまだ十分に浸透していないことを指摘しておこう。

第4節 横田高校の今と未来予想図

この章の冒頭に述べたように、横田高校のような中山間地域の小規模高校は、存続の危機に直面している。本項では、その実態を明らかにするために過疎化（少子化）の進行している現状を人口動態調査により明らかにする。次に、普通科高校の教育的存続の限度とされる1学年3学級を維持することの根拠を明らかにし、3学級規模が維持されうるのか未来予想図を描いてみる。そして、後述するが、中山間地域において驚異的な進学実績を生み出してきた1990年代以降の取り組みを分析しその継続の可能性と生徒減少期における新たな課題とその実現のための構想を関係者から聞き取りながら明らかにする。

1. 人口の変化

まず、横田高校の基盤となっている奥出雲町の人口及び世帯数の変化は、奥出雲町役場のHPによれば図表29に示すとおりで、奥出雲町の過疎化が進行していることがわかる。このことは、直接、横田高校に進学してくる生徒数に関係してくる。

	人口	人口密度	世帯数
昭和 6 0 年国勢調査	18,706 人	50.82/km ²	4,751 戸
平成 2 年国勢調査	18,100 人	49.18/km ²	4,724 戸
平成 7 年国勢調査	17,426 人	47.35/km ²	4,722 戸
平成 12 年国勢調査	16,689 人	45.34/km ²	4,880 戸
平成 17 年国勢調査	15,812 人	42.96/km ²	4,874 戸
平成 23 年 4 月現在	14,674 人	39.87/km ²	4,891 戸

図表 29 奥出雲町 人口・世帯数の推移

次の項では、この人口動態の変化をもとに、義務教育諸学校の生徒数および横田高校への進学率を算出し、今後訪れてくる横田高校の在籍生徒数を予想してみる。

2. 未来予想図

そこで、横田高校に進学してくる可能性のある生徒たちの実数を読むために、奥出雲町の義務教育諸学校に在籍する生徒数を横田高校佐藤誠教諭（現隠岐島特別支援学校教頭）に算出してもらった。

各年度別中学校卒業生(26年度以降は25.4.1現在の住民基本台帳人口による推計、社会・自然動態、区域外通学は考慮していない)															
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度
仁多中	64	64	69	59	51	46	51	54	40	45	56	43	47	45	45
横田中	61	49	67	64	43	46	40	45	52	44	41	35	29	31	28
計	125	113	136	123	94	92	91	99	92	89	97	78	76	76	73
H25. 4. 1現在住基データ															
生年月日	24.4.2～	23.4.2～	22.4.2～	21.4.2～	20.4.2～	19.4.2～	18.4.2～	17.4.2～	16.4.2～	15.4.2～	14.4.2～	13.4.2～	12.4.2～	11.4.2～	10.4.2～
校区	25.4.1生	24.4.1生	23.4.1生	22.4.1生	21.4.1生	20.4.1生	19.4.1生	18.4.1生	17.4.1生	16.4.1生	15.4.1生	14.4.1生	13.4.1生	12.4.1生	11.4.1生
布勢小	8	12	6	12	9	7	11	6	13	6	9	7	10	13	9
三成小	19	7	19	14	20	15	16	15	15	12	16	27	25	19	19
高尾小	2	2	1	2	1	3	1	1	1	3	2	3	2	2	3
亀嵩小	7	4	5	4	8	4	4	7	8	7	6	3	10	9	7
高田小	3	0	0	1	1	2	1	3	3	3	3	3	3	3	2
阿井小	5	15	12	8	13	14	3	18	6	11	8	11	15	12	16
三沢小	1	5	4	2	4	0	4	4	5	4	7	5	4	6	8
鳥上小	1	5	2	3	7	3	10	10	4	8	7	7	4	3	4
横田小	13	11	9	16	12	23	24	19	18	18	17	33	30	20	30
八川小	8	9	8	8	14	7	7	9	9	8	8	11	17	13	13
馬木小	6	6	10	8	8	11	11	7	9	12	11	13	16	13	14
小学計	73	76	76	78	97	89	92	99	91	92	94	123	136	113	125
			H26幼小	H25幼小	H25幼中	H25幼長	H25小1	H25小2	H25小3	H25小4	H25小5	H25小6	H25中1	H25中2	H25中3
		H27幼小	H27幼中	H27幼長	H27小1	H27小2	H27小3	H27小4	H27小5	H27小6	H27中1	H27中2	H27中3		
H28幼小	H28幼中	H28幼長	H28小1	H28小2	H28小3	H28小4	H28小5	H28小6	H28中1	H28中2	H28中3				
H29幼小	H29幼中	H29幼長	H29小1	H29小2	H29小3	H29小4	H29小5	H29小6	H29中1	H29中2	H29中3				
H30幼小	H30小1	H30小2	H30小3	H30小4	H30小5	H30小6	H30中1	H30中2	H30中3						
H31小1	H31小2	H31小3	H31小4	H31小5	H31小6	H31中1	H31中2	H31中3							
H32小1	H32小2	H32小3	H32小4	H32小5	H32小6	H32中1	H32中2	H32中3							
H33小1	H33小2	H33小3	H33小4	H33小5	H33小6	H33中1	H33中2	H33中3							
H34小1	H34小2	H34小3	H34小4	H34小5	H34小6	H34中1	H34中2	H34中3							
H35小1	H35小2	H35小3	H35小4	H35小5	H35小6	H35中1	H35中2	H35中3							
H36小1	H36小2	H36小3	H36小4	H36小5	H36小6	H36中1	H36中2	H36中3							
H37中1	H37中2	H37中3													
H38中1	H38中2	H38中3													

図表 30 奥出雲町義務教育諸学校在籍予想数

図表 30 からわかるように、平成 10 年度生まれで平成 25 年度に中学 3 年生になる生徒数

は 125 名であるが、15 年後の平成 24 年度生まれの子どもは 73 名に減少し、その結果 52 名の差となり、半数近くが減少する。

平成 26 年度において、横田高校は、調査当時の 4 学級募集から 1 学級減になった。今後さらにクラス減になっていくことが予想されるが、島根県が山間地域の例外的措置として認めている 1 学年 3 クラスを維持していくためには、120 名～81 名の生徒を確保しないと、統廃合の対象になりうる。そうならないためには、各入学年度における生徒数をこの数字の範囲内に収めておく必要がある。そこで、3 クラス維持のための生徒数を佐藤誠教諭に、推測していただいた。

入学定員 1 2 0 名（3 クラス）の維持のための未来理想図																		
横田高校入学年度				H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35		
学年				高 3	高 2	高 1	中 3	中 2	中 1	小 6	小 5	小 4	小 3	小 2	小 1			
中学校	卒業生数	町内	仁多中	89	69	86	64	64	69	59	51	46	51	54	40	45		
			横田中	78	72	64	61	49	67	64	43	46	40	45	52	44		
			計	167	141	150	125	113	136	123	94	92	91	99	92	89		
横田高校	定員クラス数			4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		
	定員			160	160	160	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120		
	入学者数			122	107	110	109	99	117	107	85	84	82	88	85	81		
	町内	仁多中	41	40	51	42	42	45	38	33	30	33	35	26	29			
			46.1%	58.0%	59.3%	65.0%	65.0%	65.0%	65.0%	65.0%	65.0%	65.0%	65.0%	65.0%	65.0%			
			横田中	74	56	49	52	42	57	54	37	39	34	38	44	37		
				94.9%	77.8%	76.6%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%		
			計	115	96	100	94	84	102	92	70	69	67	73	70	66		
				68.9%	68.1%	66.7%	75.2%	74.3%	75.0%	74.8%	74.5%	75.0%	73.6%	73.7%	76.1%	74.2%		
		町外	県内町外		1	6	9	15	15	15	15	15	15	15	15	15		
			県外		6	5	1											
			内訳	●ホッケー男子	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
					●ホッケー女子	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	
						●陸上競技	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
					●剣道		1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
						バレーボール男子	1		3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
					バスケットボール女子			1		1	1	1	1	1	1	1	1	1
						●吹奏楽			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
					その他		2	4	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3
			計			7	11	10	15	15	15	15	15	15	15	15	15	
			※中学校卒業生数の 2 6 年度以降は25. 4. 1現在の住民基本台帳人口による推計															
※現時点の寮の定員は 2 4 名（各学年 8 名平均）																		

図表 31 生徒数維持のための生徒予測数

3. 進路状況からみた今後の課題

これらの数字を最低限維持するためには、奥出雲町住民の同校に対する信頼がカギとなる。それには、高校卒業後の進路が確保されていることが、重要である。確かにこれまで、住民の支持を得ていた。つまり、国公立大学への進学をはじめとする進路を保証できていた。以下その根拠を明らかにする。

まず、1990年代から現在に至る進路状況を調査する。

3・1 進路状況調査の結果

吉川（『学歴社会のローカル・トラックー地方からの大学進学』，世界思想社）2001年）に、横田高校の1990年代の進路状況は以下の表として示されている。

1990年代				2000年代			
進学先大学	人数	有効%	累積%	進学先大学	人数	有効%	累積%
島根大学	73	20.39	20.39	島根大学	87	10.62	10.62
島根県立大学	16	4.47	24.86	島根県立大学	38	4.64	15.26
鳥取大学	15	4.19	29.05	岡山理科大学	26	3.17	18.43
山口大学	14	3.91	32.96	広島経済大学	26	3.17	21.6
岡山大学	13	3.63	35.69	鳥取大学	19	2.32	23.92
大阪大学	7	1.96	38.52	福山大学	18	2.2	26.12
京都大学	6	1.68	40.22	広島工業大学	17	2.01	28.13
呉大学	6	1.68	41.9	近畿大学	17	2.01	30.01
愛媛大学	5	1.4	43.3	広島修道大学	15	1.83	31.97
広島文教女子大学	5	1.4	44.69	立命館大学	15	1.83	33.8
神戸大学	5	1.4	46.09	山梨学院大学	13	1.59	35.39
徳島文理大学	5	1.4	47.49	九州産業大学	13	1.59	36.98
高知大学	4	1.12	48.6	鳥取環境大学	12	1.46	38.44
山形大学	4	1.12	49.72	朝日大学	10	1.22	39.66
創価大学	4	1.12	50.84	広島文教女子大学	9	1.1	40.76
長崎県立大学	4	1.12	51.96	広島国際大学	9	1.1	41.86
島根県立女子大学	4	1.12	53.07	天理大学	9	1.1	42.96
徳島大学	4	1.12	54.19	愛媛大学	9	1.1	44.06
名古屋大学	4	1.12	55.31	明治大学	9	1.1	45.16
立命館大学	4	1.12	56.42	岡山大学	8	1	46.16
茨城大学	3	0.84	57.26	安田女子大学	8	1	47.16
下関市立大学	3	0.84	58.1	龍谷大学	8	1	48.16

関西大学	3	0.84	58.94	山口大学	7	0.85	48.86
群馬大学	3	0.84	59.78	下関市立大学	7	0.85	49.01
広島修道大学	3	0.84	60.61	広島大学	7	0.85	50.71
埼玉大学	3	0.84	61.45	神戸女子大学	7	0.85	51.56
滋賀大学	3	0.84	62.29	6名の大学	36	4.4	55.96
神戸市立外語大学	3	0.84	63.13	5名の大学	70	8.54	64.5
図書館情報大学	3	0.84	63.97	4名の大学	32	3.9	68.4
大阪教育大学	3	0.84	64.8	3名の大学	78	9.52	77.92
東京大学	3	0.84	65.64	2名の大学	92	11.23	89.15
福岡県立大学	3	0.84	66.48	1名の大学	88	10.74	99.89
明治大学	3	0.84	67.32	計	819		
その他の大学	117	32.68	100				

吉川徹『学歴社会のローカルトラック』p.53 表 3-1 横田高校学校要覧の進学状況より筆者が集計

図表 32 1990 年代～2000 年代の進路先

上記の表で下線を引いた大学は国公立大学を、また網掛けをした大学は近隣の中国地方に存在する大学を示している。

同書によれば、1990 年代の進路動向は、次の 4 点に整理される。①進学先が地元の島根大学が一番多く、全体の 20%を占めている。また、図表 32 中、国公立大学進学者が半数を超え (57.8%)、近隣の中国 5 県の国公立大学への進学がその上位を、かつ全体の 37.7%を占めている。③いわゆる国立難関大学に計 22 名が進学している。④いずれの学年においても 4 年制大学への進学は一定して 30%前後である。ちなみに一般企業への就職者はほぼ 50%であり、専修学校・短大への進学がほぼ 20%である。

こうした進学実績は、横田高校の生徒たちの地元志向と国公立大学への進学を希望する生徒たちが多かったことを示している。ところが 2000 年代以降になると、図表 32 の右図のように大きな変化がみられる。まず、地元島根大学と島根県立大学 (2000 年開学) への進学比率がそれぞれ 8.6%、6.7%計 15.3%へと下がっている。次に国公立大学への進学は筆者のカウントによると 405 名 (49.5%) で、90 年代より下がっている。そのうち難関国立大学への進学は、上位ランキングにはなく九州大学 5 名、大阪大学 3 名、名古屋大学 2 名、京都大学 1 名の合計 8 名でこれも下降している。

比較のために、2000 年代における就職率、大学以外の高等教育機関への進学をまとめると図表 33 のようになる。

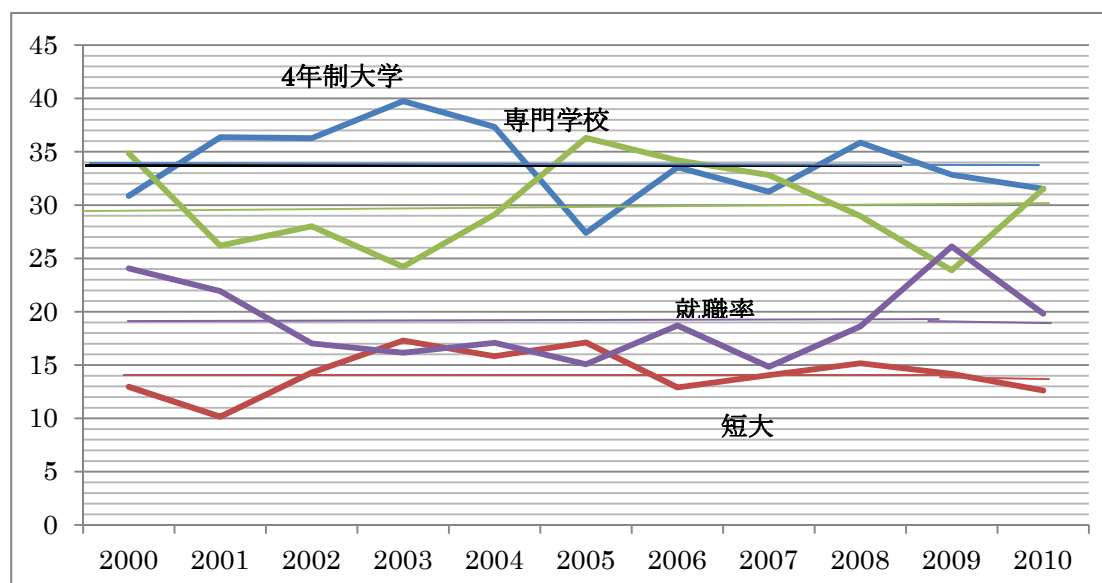
	就職者計	国公立大	私立大	国公立短大	私立短大	医療専門	専門	大学校等	進学計	卒業者数
2000	39	31	19	8	13	6	33	7	117	162
2001	41	25	43	9	10	8	33	8	136	187

2002	31	37	29	10	16	12	36	3	143	182
2003	26	30	34	13	15	8	22	9	131	161
2004	27	32	27	18	7	7	27	12	130	158
2005	22	27	13	13	12	9	28	16	118	146
2006	29	27	25	9	11	19	25	9	125	155
2007	19	18	22	8	10	6	28	8	100	128
2008	27	15	37	10	12	12	24	6	116	145
2009	35	18	26	8	11	12	17	3	95	134
2010	22	8	27	3	11	11	22	2	84	111

表は、創立 90 周年記念横田高等学校 10 年史にまとめられている 2001 年～2011 年の進路調査に基づく

図表 33 横田高校 2000 年代の進路動向

また、以下の図は、上記の表で卒業生数をもとに作成した相対度数の図である。各年度の合計が 100%にみえないのは、いわゆる浪人した生徒および定職につかなかった生徒がいるためと考えられる。(進路別の横線は平均である)



図表 34 横田高校 2000 年代進学率及び就職率

図表 34 のデータは 2001 年から 2011 年までをとっており、図表 33 の集計の間に集計年数にずれがあるが、しかし、いずれの学年においても 4 年制大学への進学は一定していて 30%前後である。ちなみに一般企業への就職者は 2000 年代初めから減少し始め、平均では 19.8%であり、専修学校・短大への進学が平均 44%である。これらの進路選択率は、リーマンショックの影響、長引くデフレによる求人の減少により専門学校へと先延ばしをする傾向を除いては、吉川のまとめた 1990 年代と大きな変化はない。一番大きな変化は先に述べた大学の進学先である。

このような傾向は、以下の表に示すように 2010 年以降にも続いている。

2000 年代				2010 年以降			
進学先大学	人数	有効%	累積%	進学先大学	人数	有効%	累積%
島根大学	87	10.62	10.62	島根大学	18	8.61	8.61
島根県立大学	38	4.64	15.26	島根県立大学	14	6.69	15.3
岡山理科大学	26	3.17	18.43	天理大学	9	4.31	19.61
広島経済大学	26	3.17	21.6	山梨学院大学	7	3.35	22.96
鳥取大学	19	2.32	23.92	明治大学	6	2.87	25.83
福山大学	18	2.2	26.12	東海学院大学	5	2.39	28.22
広島工業大学	17	2.01	28.13	岡山大学	4	1.91	30.13
近畿大学	17	2.01	30.01	広島大学	4	1.91	32.04
広島修道大学	15	1.83	31.97	鳥取大学	4	1.91	33.95
立命館大学	15	1.83	33.8	広島修道大学	4	1.91	35.86
山梨学院大学	13	1.59	35.39	岡山理科大学	4	1.91	37.77
九州産業大学	13	1.59	36.98	福山平成大学	4	1.91	39.68
鳥取環境大学	12	1.46	38.44	九州工業大学	3	1.44	41.12
朝日大学	10	1.22	39.66	高知県立大学	3	1.44	42.56
広島文教女子大学	9	1.1	40.76	美作大学	3	1.44	44
広島国際大学	9	1.1	41.86	広島文教女子大学	3	1.44	45.44
天理大学	9	1.1	42.96	広島工業大学	3	1.44	46.88
愛媛大学	9	1.1	44.06	就実大学	3	1.44	48.32
明治大学	9	1.1	45.16	広島経済大学	3	1.44	49.76
岡山大学	8	1	46.16	安田女子大学	3	1.44	51.2
安田女子大学	8	1	47.16	立命館大学	3	1.44	52.64
龍谷大学	8	1	48.16	神戸学院大学	3	1.44	54.08
山口大学	7	0.85	48.86	松山大学	3	1.44	55.52
下関市立大学	7	0.85	49.01	法政大学	3	1.44	56.96
広島大学	7	0.85	50.71	日本文理大学	3	1.44	58.4
神戸女子大学	7	0.85	51.56	川崎医療福祉大学	3	1.44	59.84
6名の大学	36	4.4	55.96	2名の大学	22	10.52	70.36
5名の大学	70	8.54	64.5	1名の大学	62	29.67	100.03
4名の大学	32	3.9	68.4	計	209	100	
3名の大学	78	9.52	77.92				

2名の大学	92	11.23	89.15
1名の大学	88	10.74	99.89
計	819		

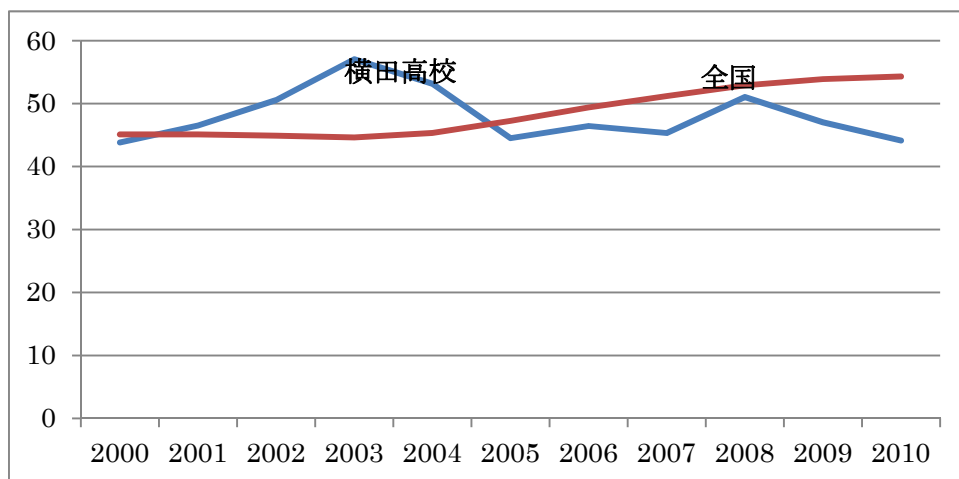
図表 35 2000 年代以降の進学動向

3・2 分析

次に、こうした傾向は、どのような原因によってもたらされたものかを考察する。

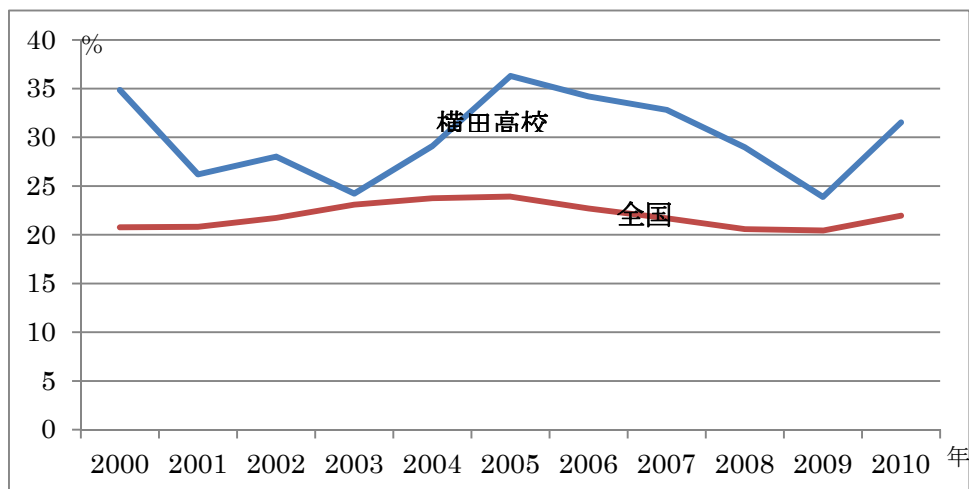
まず、2000 年代の全国的進学環境（4 年生大学・短期大学）と合わせて考える。

2000 年代は、全国的進行する少子化と新設大学の増加（10 年間で国公立・私立合わせて 1.4 倍）により、全国的には易化傾向になり、2007 年には大学志願者の数が全大学の募集定員を上回り、いわゆる「大学全入の時代」となった。



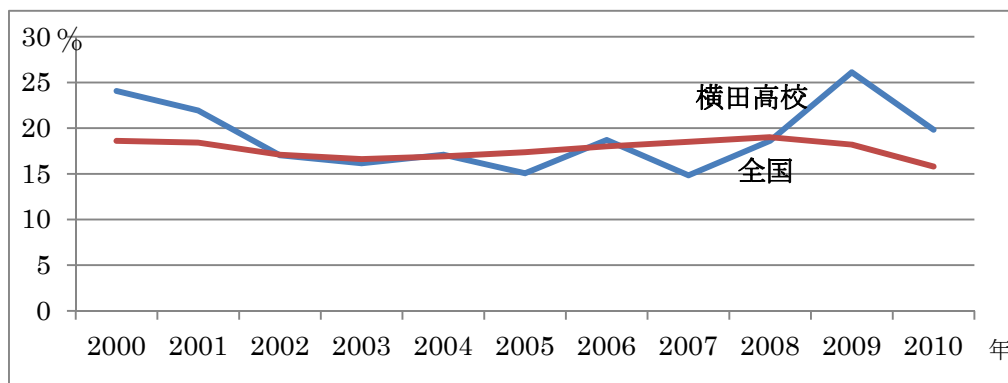
図表 36 2000 年代の大学進学率（横田高校/全国）

ちなみに、専修学校への進学率は以下の通りである。



図表 37 2000 年代の専修学校進学率（横田高校/全国）

一方、就職率は以下の図のようになる。

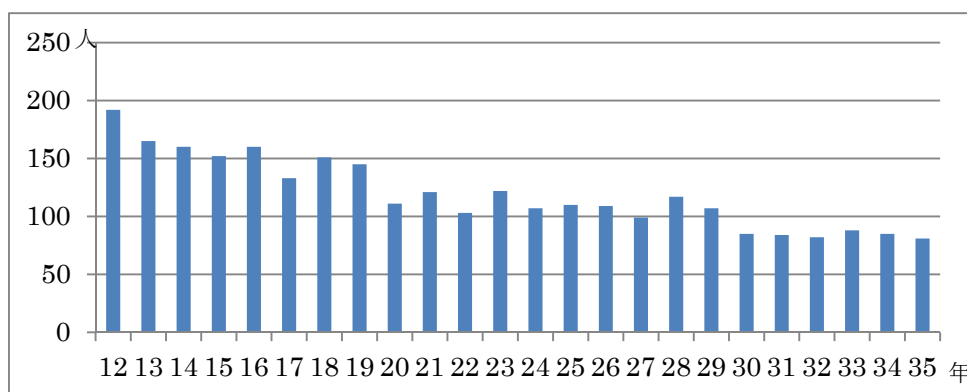


図表 38 2000 年代就職率 (横田高校/全国)

こうした傾向は横田高校に進学してくる生徒数の減少が関わっていると考えられる。全国の大学数が増加するにつれて、既設の大学の難関化が始まる。たとえば、横田高校において多くの進路希望者が進学した島根大学における近年の県内学生の入学者率は、(調査年数は上記の表の年代より現在に近くなるが) 平成 23 年度入試では 29.4%であったものが、27.9% (H24) , 26.2% (H 25), 25.8 % (H 26) と年々島根県内の公立高校生の進学率が低下している。その傾向は、医学部、総合理工学部、生物資源科学部などの理系において著しい。(島根大学・大学要項 2011-2014)。また、同じく地元の島根県立大学も同じ傾向を示している。その波をもろにかぶっているのが横田高校のような学校である。

長いデフレによる不況の時代は、地方の財政、産業、教育を疲弊させてきた。島根県教育委員会のヒヤリングによれば、島根県におけるセンター試験の得点はかつては全国平均 10 番代にあったが、今や 40 番代に落ちているという。したがって、教育委員会は、教育政策の 3 本柱のひとつに学力向上を掲げ少人数学級の充実と拡大、学区の再編などを施策として推進している (『島根県教育ビジョン 21』, 島根県教育委員会)

こうした島根県における学力の低下傾向は横田高校のような中山間地域の高校を直撃している。その原因は、少子化により横田高校に入学する生徒数が下の図のように減少していることにある。生徒数の量的な減少が一定の学力層の流失を招いていると考えられる。



図表 39 横田高校年度別入学者数

図表中、平成 27 年度以降の入学者数は、平成 27 年度以降は推定である。推定の根拠は、町内の二つの中学からの進学率を、仁多中 65%、横田中 85%の中学 3 年生が進学すると仮定して算出していることにおく。すなわち、二つの中学からの進学率の減少が生徒数の変化の要因のひとつである。それを可能にした原因は、高速交通網の整備により、1990 年代には組織されていた「高進度クラス」（吉川）の基盤となっていた成績上位層の生徒たちが中山間部から県都である松江市内への通学を可能にしたことがある。

その層がぬけると多様な生徒たちが地元校である横田高校に増加し、様々な教育課題が山積する。また、現行教員定数法によれば、生徒数の減少によるクラス減は教員数の減少に直結し、課題を抱えた生徒たちに学力などを保証するための教員不足を招くこととなり、学校現場は多忙を極めることとなってきたことなどが挙げられる。かつて進路実績を上げること貢献してきた進学クラスの習熟度別編成（吉川）の存続を危うくし、同時に進学クラスにおいても多様な生徒たちが存在せざるを得なくなっている。

3・3 横田高校魅力化構想

こうした現状を裏書きするように横田高校は平成 26 年度から 1 学級減となり、2 年後には 1 学年 3 クラス編成の全校 9 クラス規模の学校になることが予測されている。すると、「学級減によって教員が 6 名減ります」と現校長は語っている（横田高校 PTA 広報誌『まほろばみをつくし』，p6, 2014）。それどころか、佐藤教諭の推測にも示されるように、奥出雲町の人口の動態と児童・生徒の進学動向を推移した場合、1 学年 3 クラス維持も難しく、県の高等学校の統廃合基準（中山間地域についてはかなりの配慮があるが）も見据えざるをえない事態ともなりうる。そのためには、正確に未来を予測し、横田高校をより魅力的な学校として再生するための筋道を考えねばならない。以下、同校が考えている未来予測図と構想を紹介する。

島根県教育委員会は、平成 22 年より「産学官連携による地域活性化研究事業」を起こし、横田高校においては、その指定を受け「県外からの入学生受け入れ」「中高連絡会（相互授業の乗り入れ）」「だんだんカンパニー」などを展開してきた。3 年間の事業が終りになり、今年度から自前のプロジェクト事業を推進しなければならない。以下は、その事業を引き継ぎさらに発展せせるべく現校長が語ってくれた事業の概要である。

次の 4 つの委員会において新しい構想を作成し実践し学校の魅力づくりを生み出そうとしている。以下にそれを紹介する。

（1）【特別委員会】一学校と地域をつなぎ、地域の教育力を生かした魅力ある学校づくりー

学校存続、3 学級維持のために生徒確保に向けた学習、生活環境の整備と支援の在り方を検討する委員会である。具体的な方策として、以下の 4 点が挙げられている。

①寄宿舎の寮費補助 ・寄宿舎の充実（増築、個室化），②下宿，里親の斡旋，③JR 利用通学生への定期券補助，④県外生徒募集対策（広報，旅費等）などである。

これらのことを実現していくために、奥出雲町と高校の連携により、ブランディングと人材育成を図るための方策を検討する。その為に、コーディネーターの配置（学校単独事業、費用は後援会が捻出）が必要で、主たる活動として、①横田高校の魅力化活性化に関わる事業の運営と補助、②奥出雲町をフィールドとするキャリア教育の運営と補助、③町内外へ向けた情報発信事業の企画運営と補助を現時点では考えている。

また、コーディネーターは、若者定住向け公社賃貸住宅に入居することを原則とし、体験後は継続して、横田高校コーディネーターとして活動して頂けるよう支援し、定住支援を行うことを原則にして、現在公募を始めている。（同校 HP より）

（２）【学力向上委員会】－教育ネットワークプロジェクト－は、次のような構想を実現しようとしている。その目的は、生徒一人ひとりにとっての必要な学力とは何かを検討しつつ、多様な志望を持つ生徒それぞれの学力の向上と進路実現を図ることにある。そのための具体的な政策として、①平成２６年度入学生以降、２年次より４コース展開とし、少人数指導により学力向上を図る、②特進コース（地域の未来を担う生徒の育成：医学部、農学部、教育学部等）の設置、③資格取得の拡充、④支援を要する生徒への対応、⑤放課後休日の学習支援、学習環境の充実を図るために、町内２か所で公営塾を開設すること、⑥これらの事業を可能にする非常勤講師、スクールカウンセリングの確保及び時数増を図ること、⑦ジグゾー法などの活用などを研究し、デジタルメディアによる小中高連携協同学習などが構想されている。

（３）【地域創造委員会】－高校と町を元気にする「ひとつなぎ・ひとつくり」プロジェクト－は、以下のような任務を担う。①地域交流等の生徒の積極的な活動を図りつつ、キャリア教育を推進する。②だんだんカンパニー・キミチャレ等の充実、発展。そのために、従来のジャム販売に加えて仁多米の生産・販売、仁多米に対する東京のニーズを奥出雲生産者につなぐ。③町、中学校と連携した文化、芸術、科学、体育分野の交流活動、④中高合同事業（合同講演会、奥出雲バンドフェスティバル等）、⑤地域と連携した各種活動、⑥公民館を拠点とした地域貢献（生徒による地域のイベント、行事の企画、運営）、これはすでに「しまねの子育て協働プロジェクト」が県教委の事業としてある、⑦年齢者支援ボランティアなどが考えられている。

（４）【競技力向上委員会】－競技力向上プロジェクト－は次のような事業を行おうとしている。従来から、全国レベルの競技歴を残してきた、町民の誇りでもあるホッケー、剣道、陸上、吹奏楽を重点競技とし競技力向上を図るとともに、県外、町外生徒の積極的な勧誘活動を行うことを活動の重点とする。そのためには、①施設の整備、用具の補助、②遠征費、合宿費補助、③地域交流費補助、④町内２中学（仁多中、横田中）との連携強化、中高合同練習、合同発表会補助、⑤県外、町外生徒の積極的な勧誘活動、⑥募集パンフレットの作成などが企画されている。

こうした将来構想が校長を中心とした教職員はもとより奥出雲町民を巻き込んだスケールの大きな町おこしともいえるべき「地域再生」の取り組みとしてはじめられようとしている。

おわりに

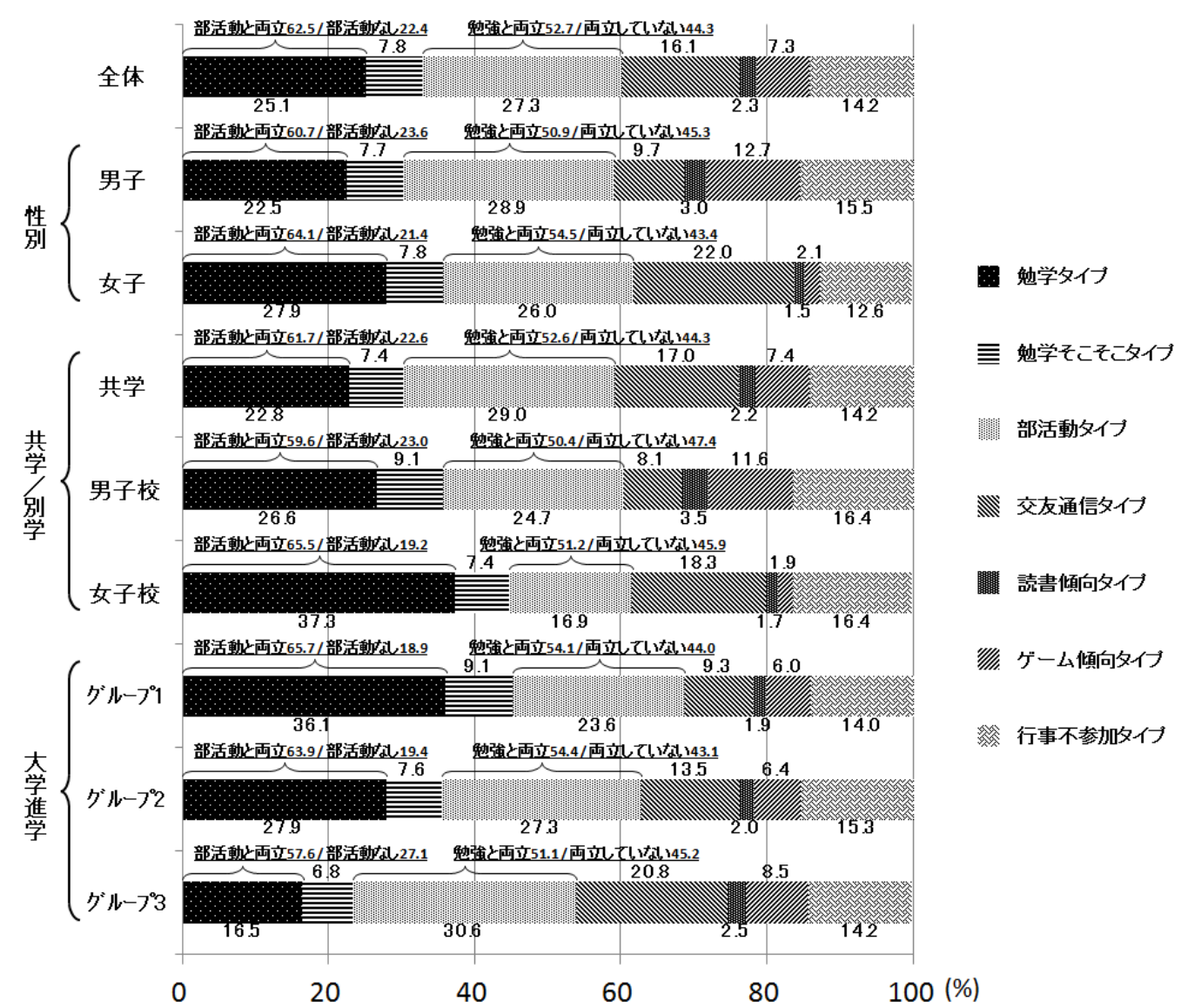
筆者は、人生の 3/4 を後期中等教育および高等教育の初年次教育の場に身を置き、実践者として生きてきた。今回、溝上氏を中心とする「全国トランジション調査」にかかわる機会を得ることができ、その膨大なデータに触れるとともにここで報告したような高校や高校生の内側に入り込んだサンプルデータを収集することができた。しかし、浅学菲才の身である筆者にとって今回はまだそのデータを整理することにとどまっていて、集められたデータの意味を読み解く作業にはまだまだ至っていない。これからの作業は、溝上氏の上梓されたばかりの『高校・大学から仕事へのトランジション』（ナカニシヤ出版）で得られる様々な知見に学びつつ、今回の調査を通じて出会った人たちの提供してくれたデータの意味を考え続けていくことにある。それは、筆者だけの手におえることではない。今回の調査報告会を機に、様々な意見を聴取し構想していきたい。

さらに、おそらくは日本で最初の大きなデータを扱う全体調査の中のミクロなデータにこだわりつつ「移動」が彼らに何をもたらすのか、今回親しくなった横田高校 10 人の生徒たちの行く末を見守りながら、彼らの生き方から学んでいきたい。そして、その作業を通じて、私自身に残された日々をかけて、この国の教育に、ひいては社会の有り様に何らかの提言を発することができたらと考えている。

卷末資料A

單純集計結果

高校生(生徒)のタイプ



分類項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
勉学タイプ	8864	3742	5048	6827	534	537	2512	2417	2928
	25.1	22.5	27.9	22.8	26.6	37.3	36.1	27.9	16.5
勉学そこそこタイプ	2738	1277	1413	2212	183	107	629	661	1205
	7.8	7.7	7.8	7.4	9.1	7.4	9.1	7.6	6.8
部活動タイプ	9643	4802	4712	8691	494	244	1642	2369	5418
	27.3	28.9	26.0	29.0	24.7	16.9	23.6	27.3	30.6
交友通信タイプ	5674	1611	3980	5082	162	264	648	1173	3681
	16.1	9.7	22.0	17.0	8.1	18.3	9.3	13.5	20.8
読書傾向タイプ	796	490	280	662	70	25	133	176	447
	2.3	3.0	1.5	2.2	3.5	1.7	1.9	2.0	2.5
ゲーム傾向タイプ	2571	2107	387	2225	232	27	416	557	1508
	7.3	12.7	2.1	7.4	11.6	1.9	6.0	6.4	8.5
行事不参加タイプ	4996	2580	2291	4245	329	237	970	1324	2507
	14.2	15.5	12.6	14.2	16.4	16.4	14.0	15.3	14.2
合計	35282	16609	18111	29944	2004	1441	6950	8677	17694
有効回答率	77.9	78.2	80.2	77.0	81.0	80.2	83.9	80.2	73.8

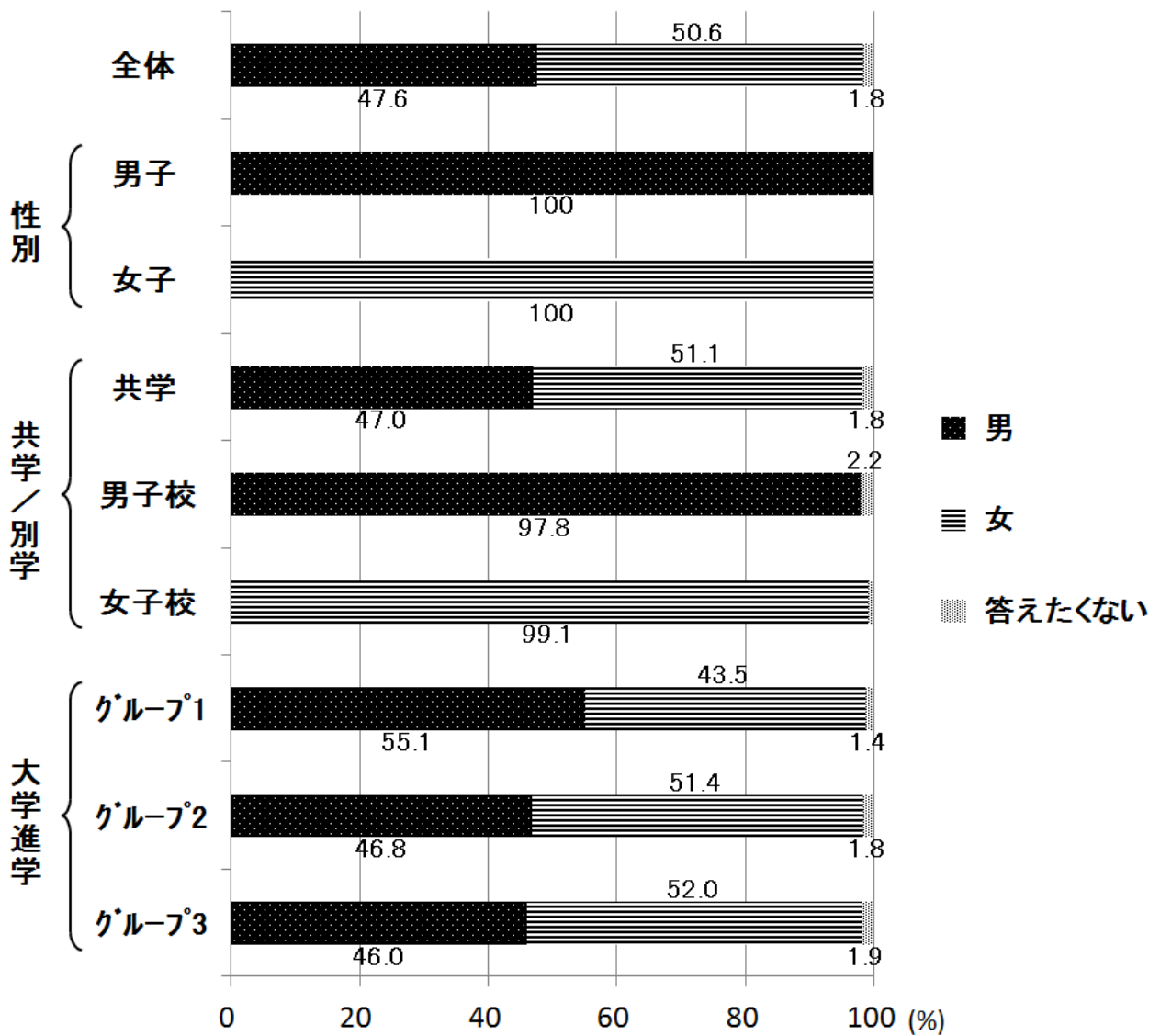
※点線の上段は各タイプの生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべてのタイプの生徒の合計数でタイプ分類できた生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中でタイプ分類ができた生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 1. 全般的な項目について

(1) あなたの性別は



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
男	21241	21241	0	17978	2399	0	4508	4990	10839
	47.6	100	0.0	47.0	97.8	0.0	55.1	46.8	46.0
女	22585	0	22585	19539	0	1767	3557	5474	12243
	50.6	0.0	100	51.1	0.0	99.1	43.5	51.4	52.0
答えたくない	782	0	0	696	55	16	112	195	457
	1.8	0.0	0.0	1.8	2.2	0.9	1.4	1.8	1.9
合計	44608	21241	22585	38213	2454	1783	8177	10659	23539
有効回答率	98.4	100	100	98.3	99.2	99.2	98.7	98.6	98.2

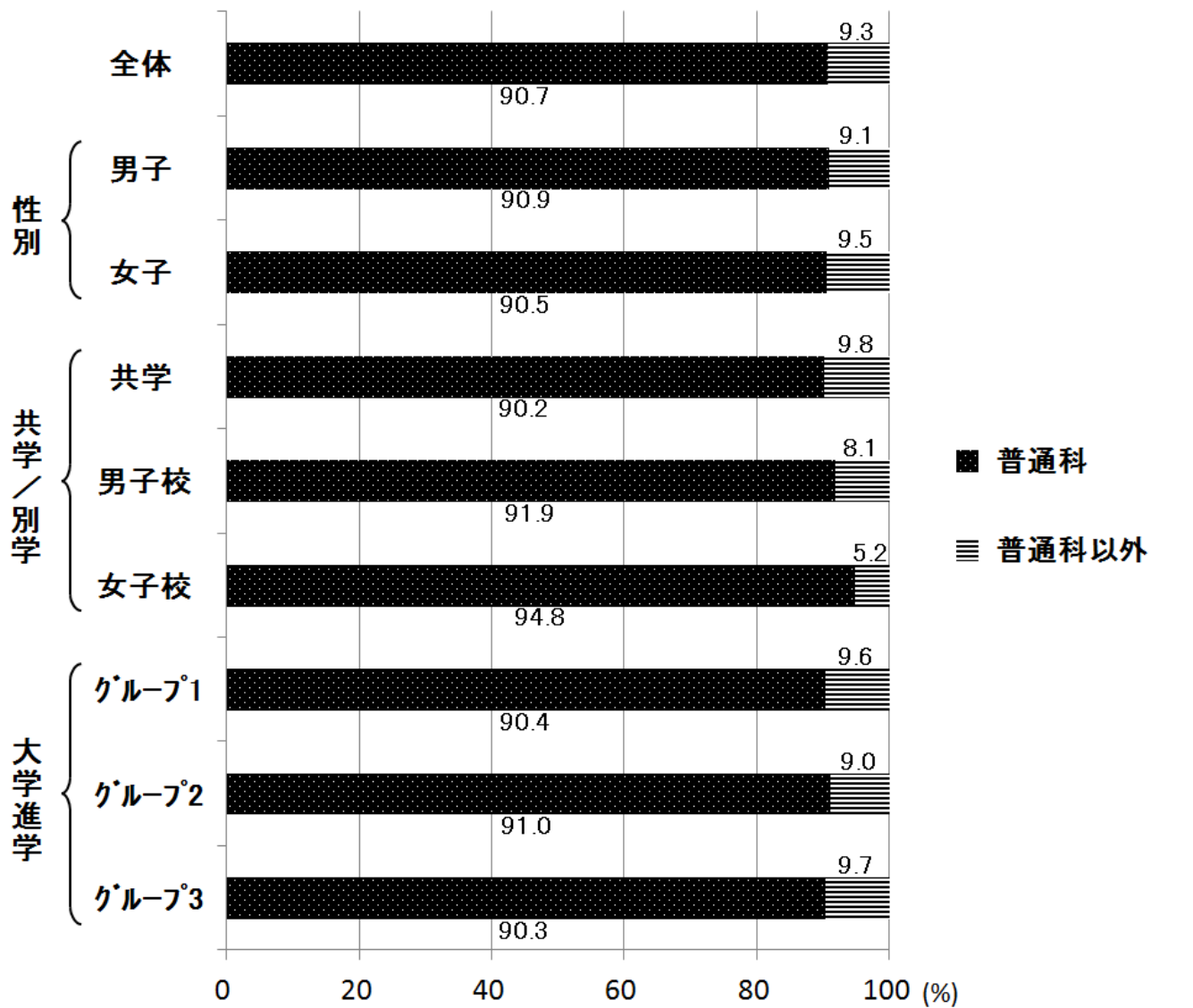
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 1. 全般的な項目について ― 続き ―

(2) あなたの学科は



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
普通科	40238	19136	20314	34284	2236	1670	7338	9637	21145
	90.7	90.9	90.5	90.2	91.9	94.8	90.4	91.0	90.3
普通科以外	4116	1910	2124	3720	197	91	781	955	2267
	9.3	9.1	9.5	9.8	8.1	5.2	9.6	9.0	9.7
合計	44354	21046	22438	38004	2433	1761	8119	10592	23412
有効回答率	97.9	99.1	99.3	97.8	98.3	98.0	98.0	97.9	97.7

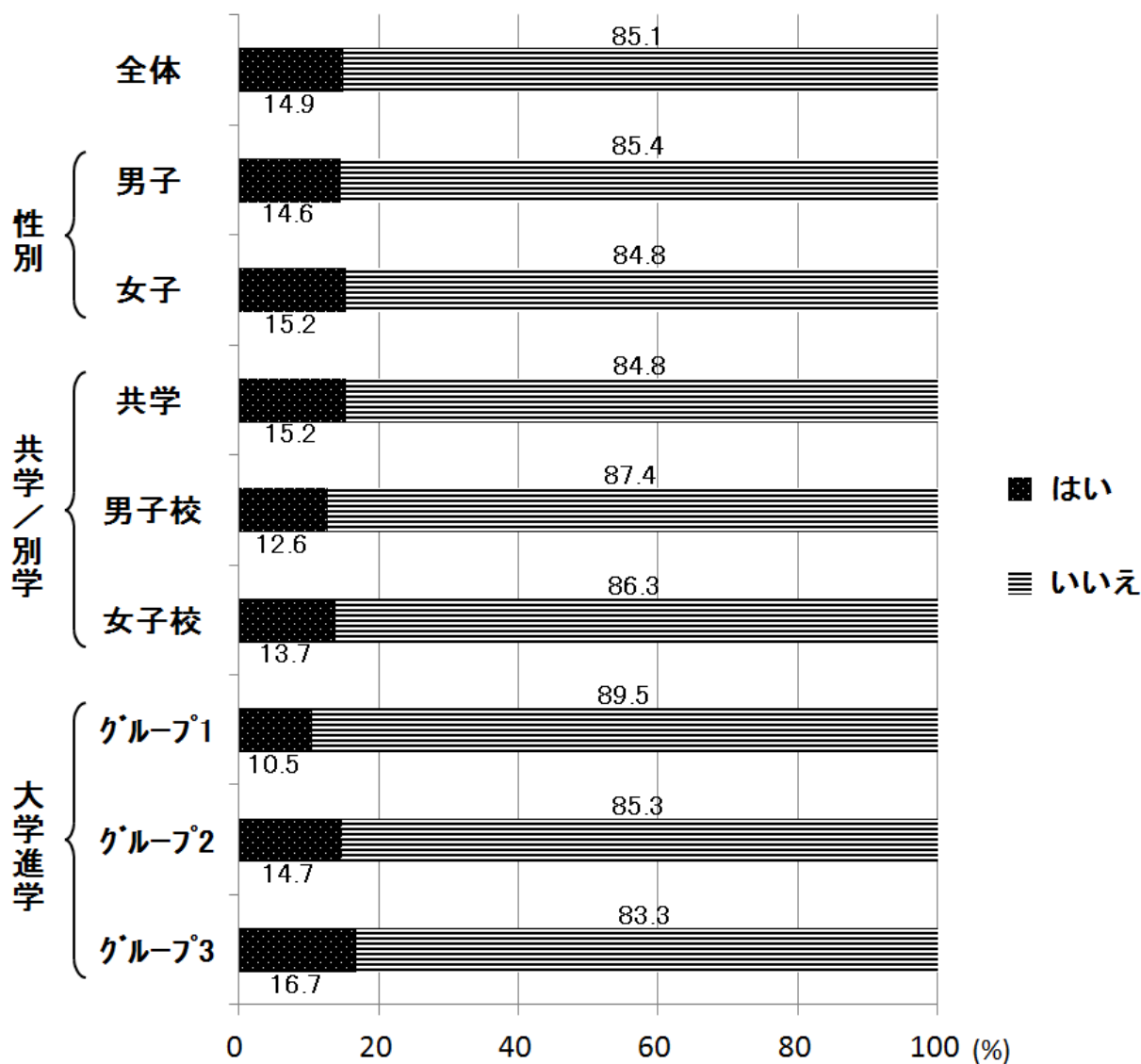
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ 1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ 2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ 3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 1. 全般的な項目について ― 続き ―

(3) あなたは学校(高校)に推薦入学で入学しましたか



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
はい	6634	3081	3419	5787	308	243	854	1561	3911
	14.9	14.6	15.2	15.2	12.6	13.7	10.5	14.7	16.7
いいえ	37841	18057	19039	32324	2141	1526	7303	9059	19567
	85.1	85.4	84.8	84.8	87.4	86.3	89.5	85.3	83.3
合計	44475	21138	22458	38111	2449	1769	8157	10620	23478
有効回答率	98.2	99.5	99.4	98.0	98.9	98.4	98.4	98.2	97.9

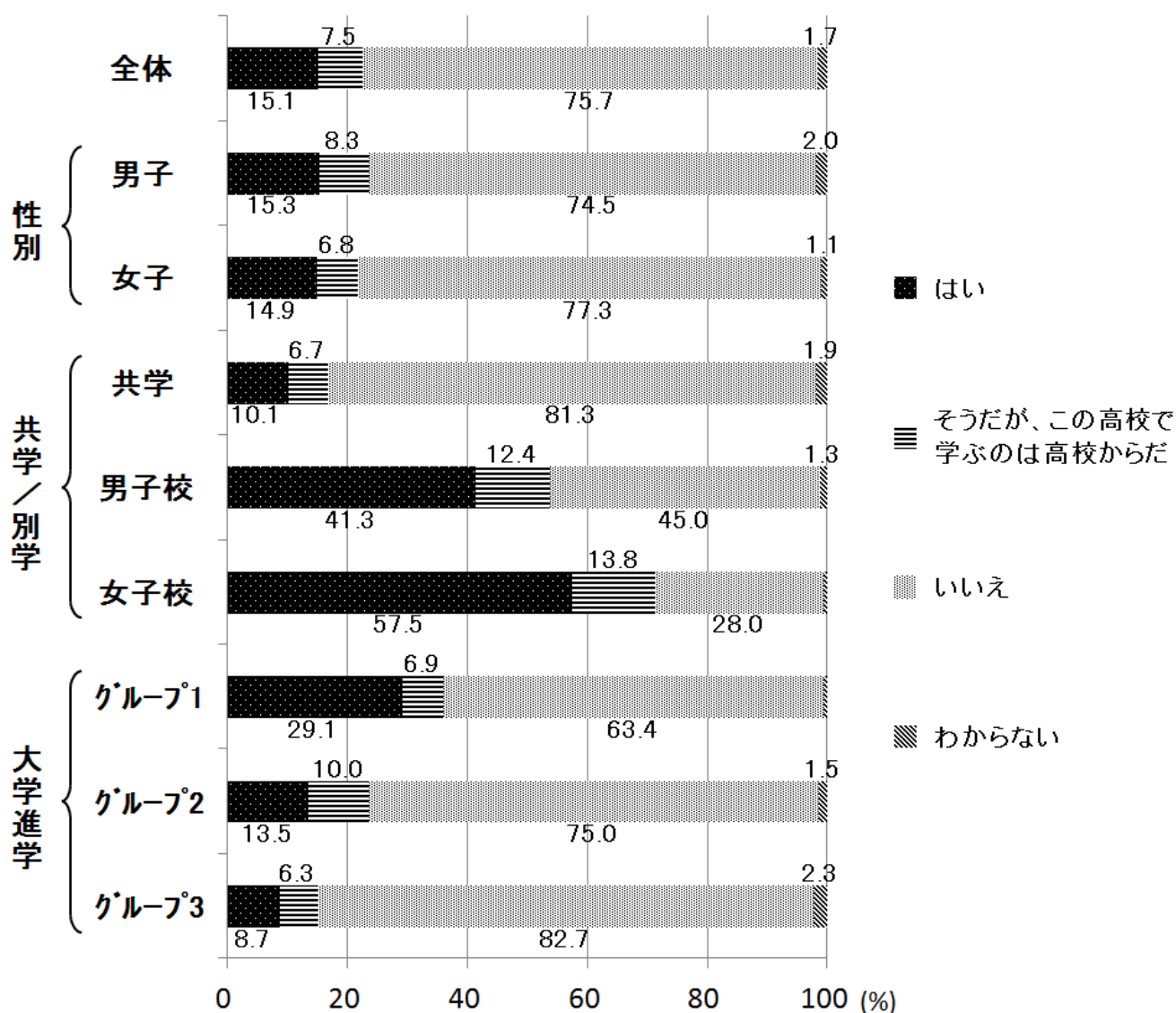
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 1. 全般的な項目について ― 続き ―

(4) あなたは中高一貫教育(あるいは小中高一貫教育)で学ぶ生徒ですか



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
はい	6711	3230	3360	3868	1016	1019	2379	1436	2053
そうだが、この高校で 学ぶのは高校からだ	15.1	15.3	14.9	10.1	41.3	57.5	29.1	13.5	8.7
	3340	1754	1521	2558	304	244	565	1066	1474
いいえ	7.5	8.3	6.8	6.7	12.4	13.8	6.9	10.0	6.3
	33741	15758	17397	31028	1105	497	5183	7974	19435
わからない	75.7	74.5	77.3	81.3	45.0	28.0	63.4	75.0	82.7
	760	416	237	712	33	12	46	162	549
合計	44552	21158	22515	38166	2458	1772	8173	10638	23511
有効回答率	98.3	99.6	99.7	98.2	99.3	98.6	98.6	98.4	98.1

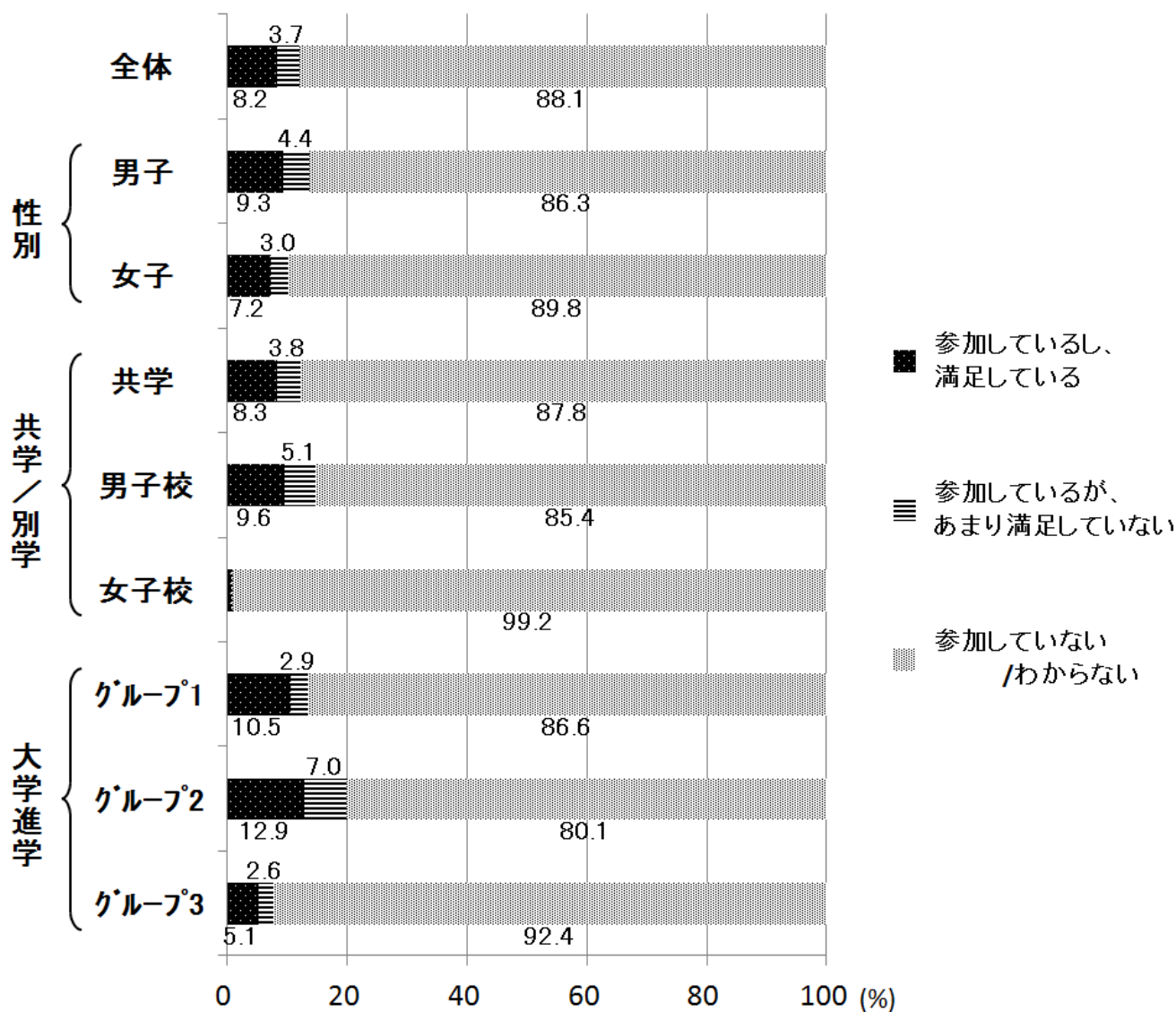
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 1. 全般的な項目について ― 続き ―

(5) あなたは SSH(スーパーサイエンスハイスクール)のプログラム(あるいはそれに類似する学校独自のサイエンスプログラム)に参加していますか



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
参加しているし、満足している	3629 8.2	1960 9.3	1603 7.2	3162 8.3	233 9.6	12 0.7	851 10.5	1367 12.9	1187 5.1
参加しているが、あまり満足していない	1641 3.7	924 4.4	677 3.0	1450 3.8	123 5.1	2 0.1	238 2.9	736 7.0	600 2.6
参加していない/わからない	39030 88.1	18146 86.3	20116 89.8	33334 87.8	2077 85.4	1750 99.2	7045 86.6	8467 80.1	21577 92.4
合計	44300	21030	22396	37946	2433	1764	8134	10570	23364
有効回答率	97.8	99.0	99.2	97.6	98.3	98.2	98.2	97.7	97.5

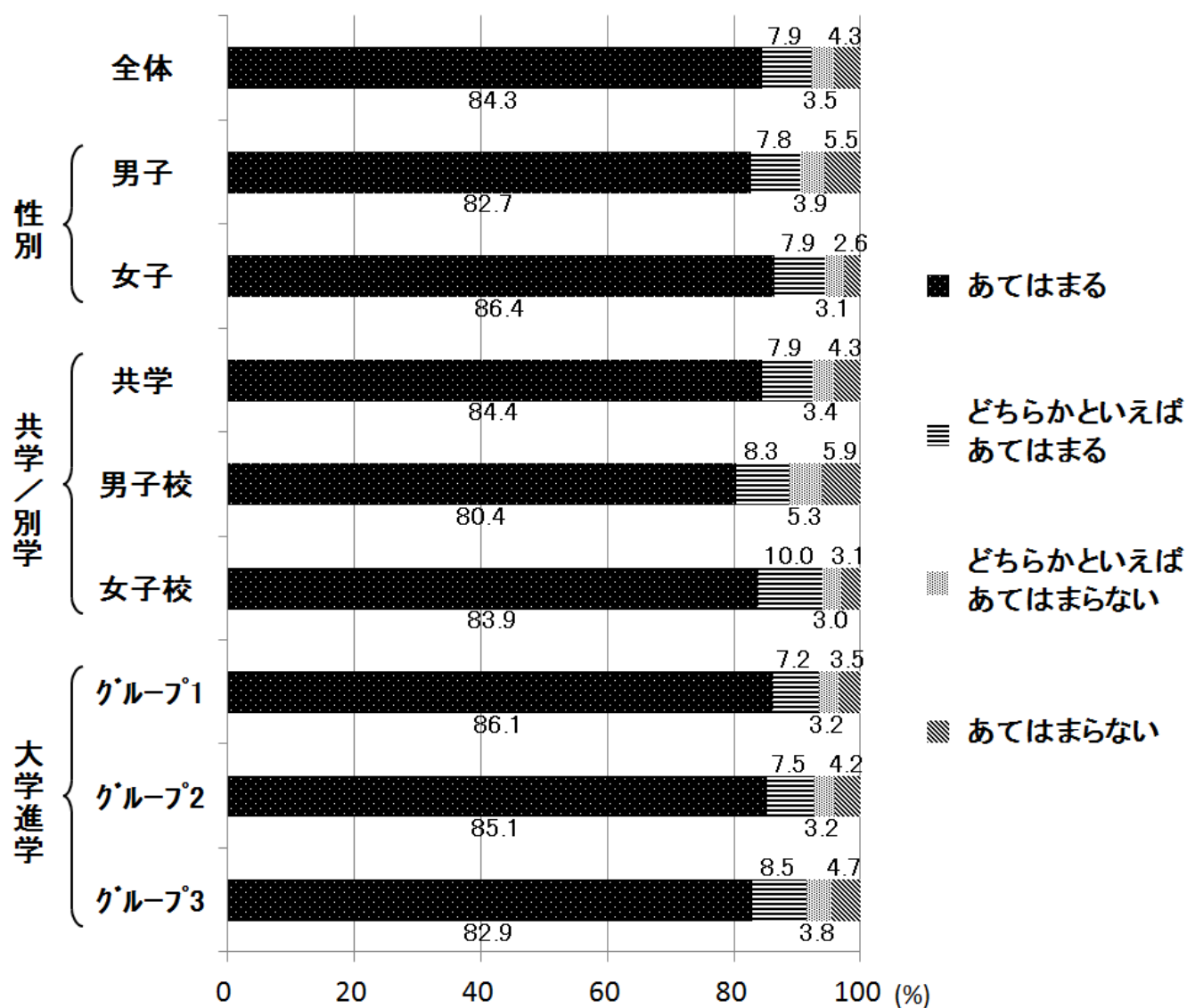
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について

(1) 私は、朝食を毎日取る



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	37564	17495	19423	32186	1978	1491	7029	9055	19507
	84.3	82.7	86.4	84.4	80.4	83.9	86.1	85.1	82.9
どちらかといえばあてはまる	3530	1650	1787	3012	205	178	588	793	2009
	7.9	7.8	7.9	7.9	8.3	10.0	7.2	7.5	8.5
どちらかといえばあてはまらない	1552	827	689	1312	131	53	260	338	894
	3.5	3.9	3.1	3.4	5.3	3.0	3.2	3.2	3.8
あてはまらない	1906	1173	594	1647	145	55	289	449	1107
	4.3	5.5	2.6	4.3	5.9	3.1	3.5	4.2	4.7
合計	44552	21145	22493	38157	2459	1777	8166	10635	23517
有効回答率	98.3	99.5	99.6	98.1	99.4	98.9	98.6	98.3	98.1

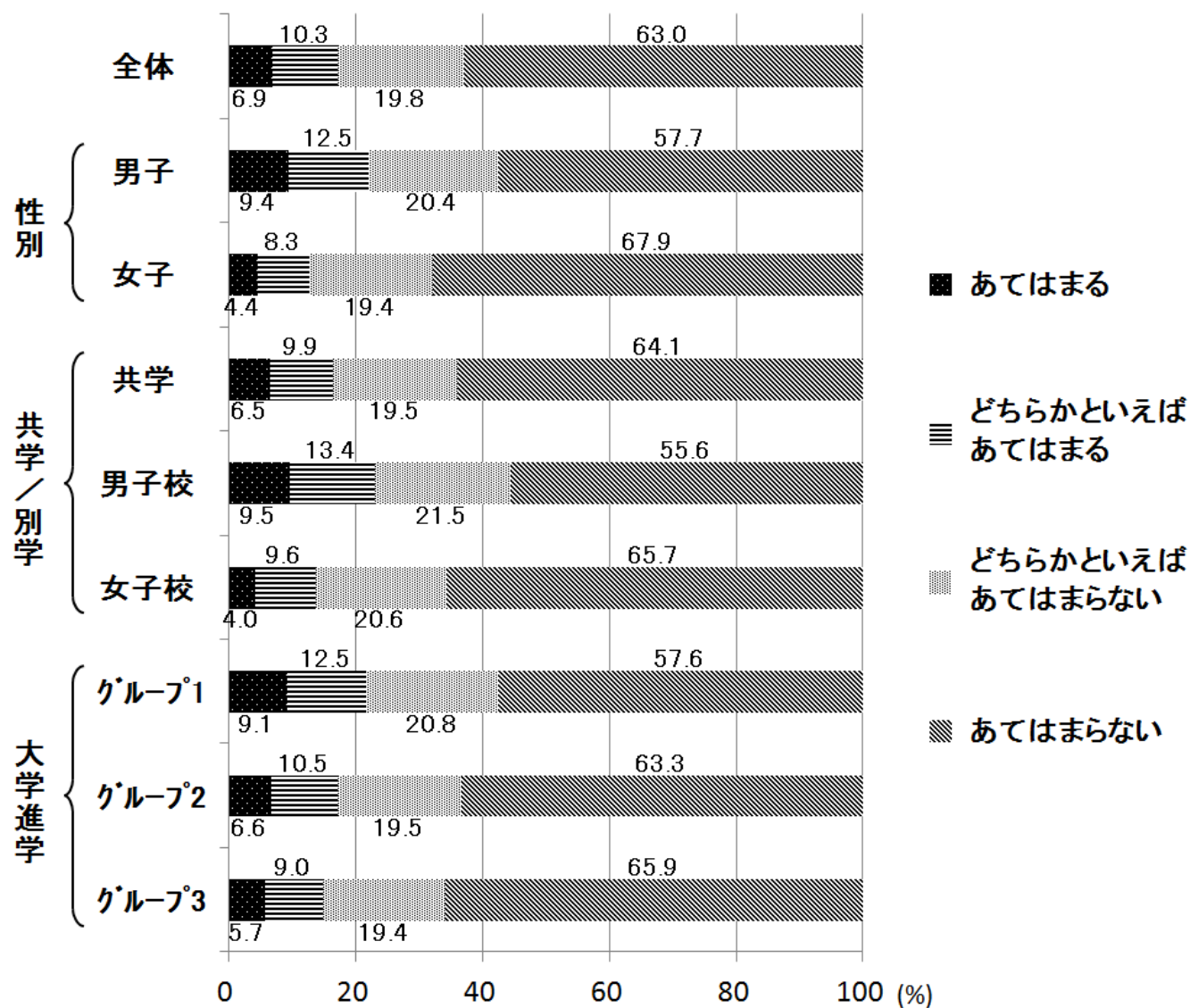
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について ― 続き―

(2) 私は、新聞を毎日読む



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	3073	1982	989	2487	234	72	745	707	1332
	6.9	9.4	4.4	6.5	9.5	4.0	9.1	6.6	5.7
どちらかといえばあてはまる	4612	2647	1874	3771	331	171	1019	1121	2121
	10.3	12.5	8.3	9.9	13.4	9.6	12.5	10.5	9.0
どちらかといえばあてはまらない	8836	4324	4376	7468	529	367	1704	2073	4566
	19.8	20.4	19.4	19.5	21.5	20.6	20.8	19.5	19.4
あてはまらない	28081	12215	15283	24481	1370	1168	4715	6741	15529
	63.0	57.7	67.9	64.1	55.6	65.7	57.6	63.3	65.9
合計	44602	21168	22522	38207	2464	1778	8183	10642	23548
有効回答率	98.4	99.7	99.7	98.3	99.6	98.9	98.8	98.4	98.2

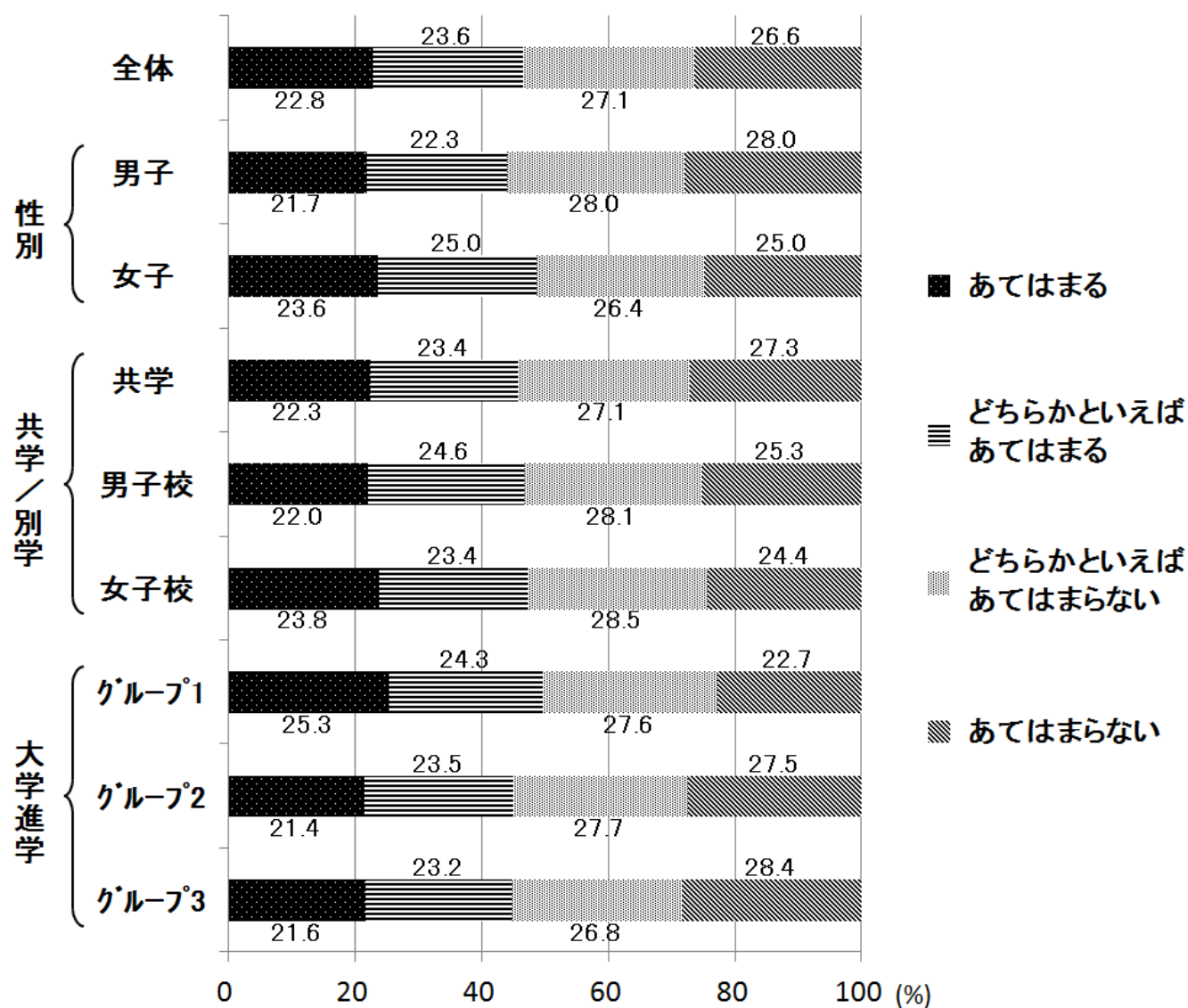
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について ― 続き ―

(3) 私は、読書をする(電子書籍を含むが、マンガや雑誌は除く)



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	10169	4603	5315	8508	542	424	2075	2280	5094
	22.8	21.7	23.6	22.3	22.0	23.8	25.3	21.4	21.6
どちらかといえばあてはまる	10530	4725	5625	8941	606	417	1987	2502	5454
	23.6	22.3	25.0	23.4	24.6	23.4	24.3	23.5	23.2
どちらかといえばあてはまらない	12074	5923	5959	10349	691	507	2263	2948	6321
	27.1	28.0	26.4	27.1	28.1	28.5	27.6	27.7	26.8
あてはまらない	11859	5924	5641	10431	622	434	1862	2929	6681
	26.6	28.0	25.0	27.3	25.3	24.4	22.7	27.5	28.4
合計	44632	21175	22540	38229	2461	1782	8187	10659	23550
有効回答率	98.5	99.7	99.8	98.3	99.4	99.2	98.8	98.6	98.2

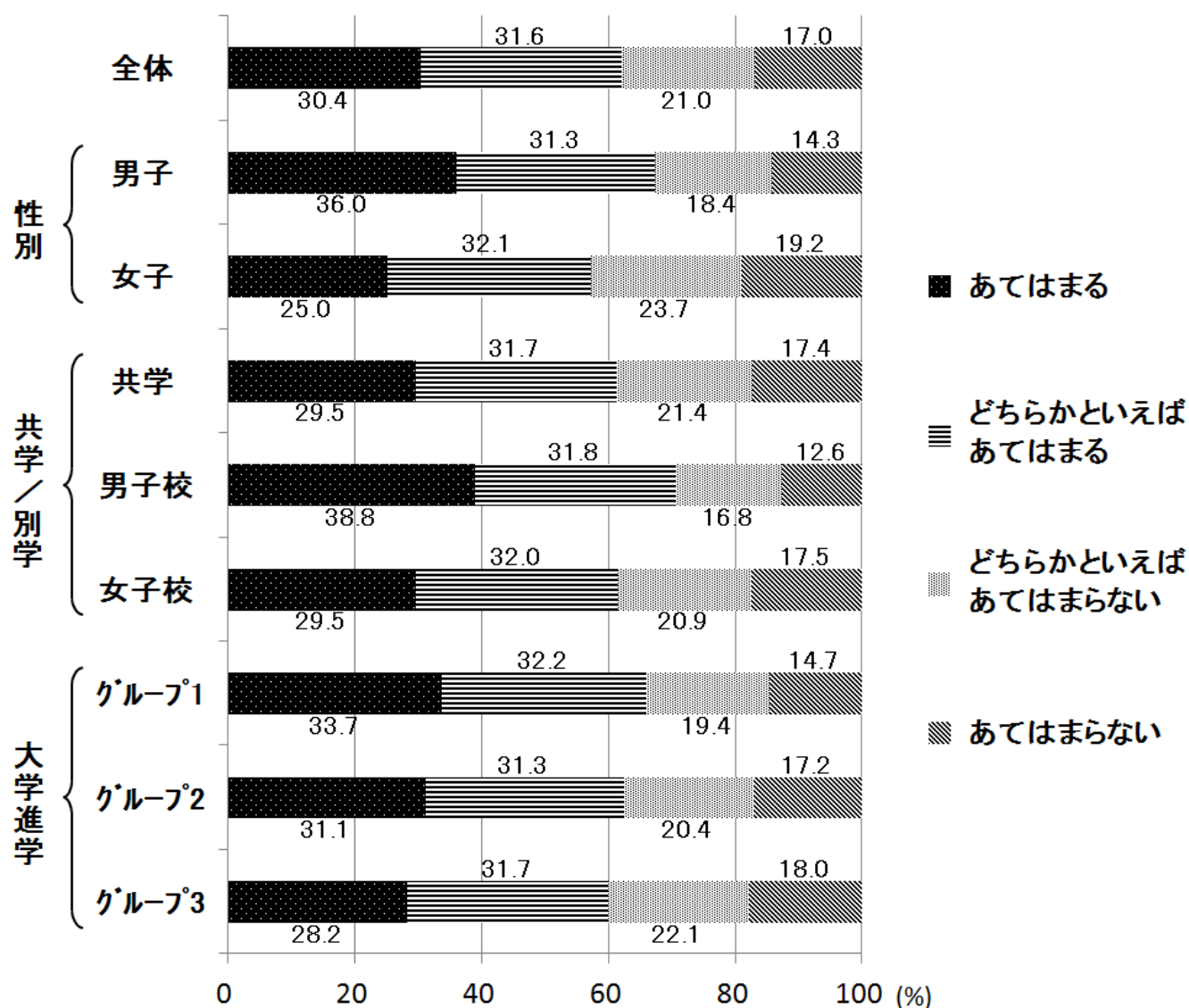
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について ― 続き ―

(4) 私は、インターネット上でニュースや出来事を読む



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	13584	7615	5643	11264	953	527	2759	3317	6636
	30.4	36.0	25.0	29.5	38.8	29.5	33.7	31.1	28.2
どちらかといえばあてはまる	14101	6636	7236	12123	781	572	2633	3335	7481
	31.6	31.3	32.1	31.7	31.8	32.0	32.2	31.3	31.7
どちらかといえばあてはまらない	9376	3888	5339	8196	414	373	1589	2169	5215
	21.0	18.4	23.7	21.4	16.8	20.9	19.4	20.4	22.1
あてはまらない	7568	3038	4316	6648	310	313	1199	1832	4233
	17.0	14.3	19.2	17.4	12.6	17.5	14.7	17.2	18.0
合計	44629	21177	22534	38231	2458	1785	8180	10653	23565
有効回答率	98.5	99.7	99.8	98.3	99.3	99.3	98.7	98.5	98.3

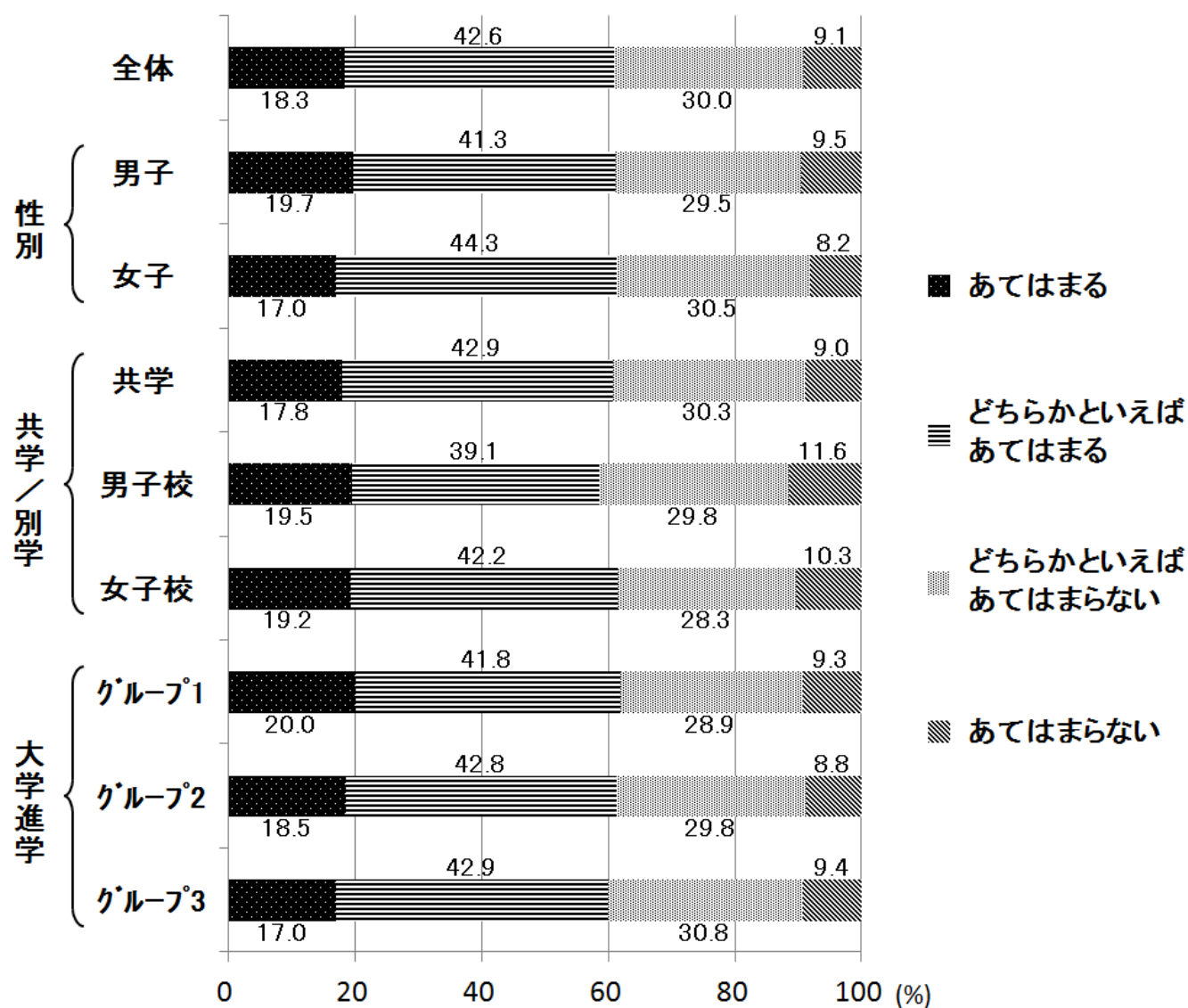
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について ― 続き―

(5) 私は、規則正しい生活を送っている



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	8175	4158	3829	6807	478	343	1636	1974	3999
	18.3	19.7	17.0	17.8	19.5	19.2	20.0	18.5	17.0
どちらかといえばあてはまる	18996	8739	9983	16396	961	752	3419	4557	10104
	42.6	41.3	44.3	42.9	39.1	42.2	41.8	42.8	42.9
どちらかといえばあてはまらない	13375	6240	6869	11574	733	505	2360	3176	7254
	30.0	29.5	30.5	30.3	29.8	28.3	28.9	29.8	30.8
あてはまらない	4064	2020	1856	3438	285	184	756	941	2204
	9.1	9.5	8.2	9.0	11.6	10.3	9.3	8.8	9.4
合計	44610	21157	22537	38215	2457	1784	8171	10648	23561
有効回答率	98.5	99.6	99.8	98.3	99.3	99.3	98.6	98.5	98.3

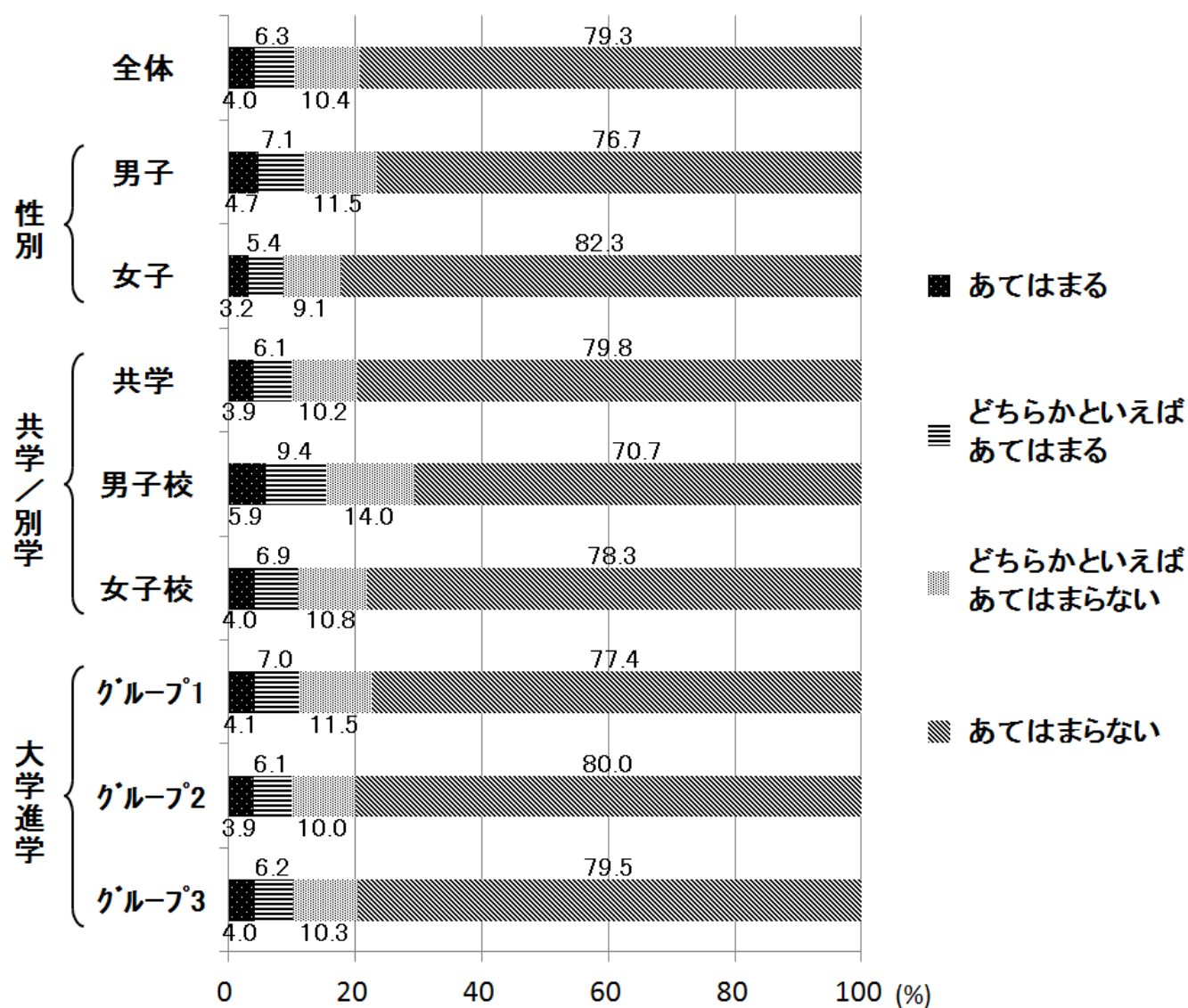
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について ― 続き ―

(6) 私は、学校や授業に遅刻する



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	1798	986	718	1474	144	71	337	415	934
どちらかといえばあてはまる	4.0	4.7	3.2	3.9	5.9	4.0	4.1	3.9	4.0
どちらかといえばあてはまらない	2819	1509	1217	2332	230	122	572	654	1457
あてはまらない	6.3	7.1	5.4	6.1	9.4	6.9	7.0	6.1	6.2
合計	4628	2444	2045	3908	345	193	942	1064	2434
有効回答率	10.4	11.5	9.1	10.2	14.0	10.8	11.5	10.0	10.3
あてはまる	35379	16229	18559	30514	1739	1394	6328	8524	18729
あてはまらない	79.3	76.7	82.3	79.8	70.7	78.3	77.4	80.0	79.5
合計	44624	21168	22539	38228	2458	1780	8179	10657	23554
有効回答率	98.5	99.7	99.8	98.3	99.3	99.1	98.7	98.5	98.3

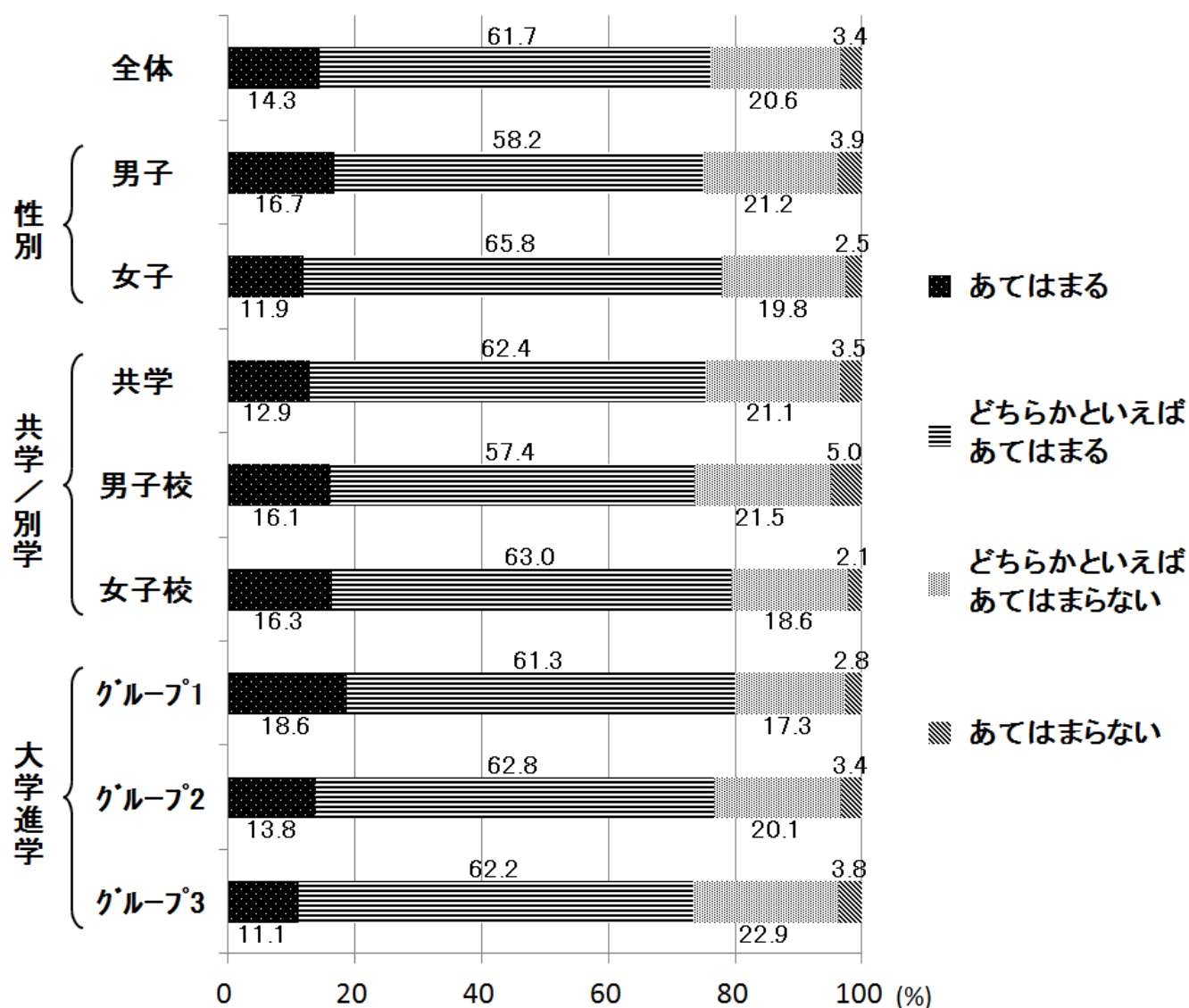
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について ― 続き―

(7) 私は、授業の内容を理解している



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	6359	3537	2677	4942	396	291	1520	1466	2615
どちらかといえばあてはまる	27536	12305	14825	23854	1409	1122	5017	6685	14641
どちらかといえばあてはまらない	9178	4489	4467	8082	527	331	1413	2136	5385
あてはまらない	1530	824	568	1335	124	37	231	366	899
合計	44603	21155	22537	38213	2456	1781	8181	10653	23540
有効回答率	98.4	99.6	99.8	98.3	99.2	99.1	98.7	98.5	98.2

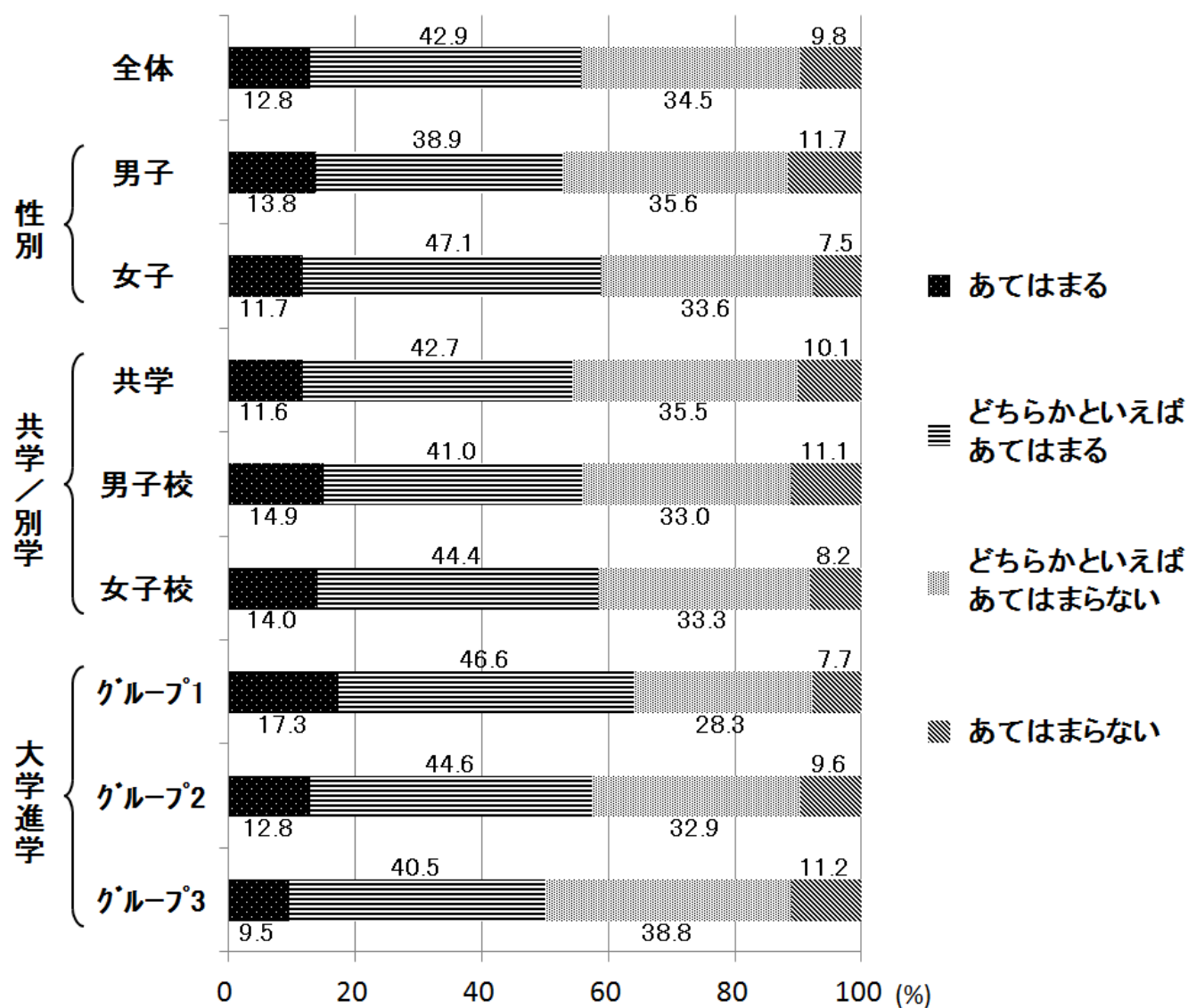
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について ― 続き―

(8) 私は、学習意欲は高い



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	5705	2924	2639	4440	366	250	1419	1367	2245
	12.8	13.8	11.7	11.6	14.9	14.0	17.3	12.8	9.5
どちらかといえばあてはまる	19135	8240	10629	16346	1010	792	3814	4754	9551
	42.9	38.9	47.1	42.7	41.0	44.4	46.6	44.6	40.5
どちらかといえばあてはまらない	15412	7541	7584	13577	811	594	2320	3510	9132
	34.5	35.6	33.6	35.5	33.0	33.3	28.3	32.9	38.8
あてはまらない	4388	2475	1693	3875	274	146	632	1024	2637
	9.8	11.7	7.5	10.1	11.1	8.2	7.7	9.6	11.2
合計	44640	21180	22545	38238	2461	1782	8185	10655	23565
有効回答率	98.5	99.7	99.8	98.4	99.4	99.2	98.8	98.5	98.3

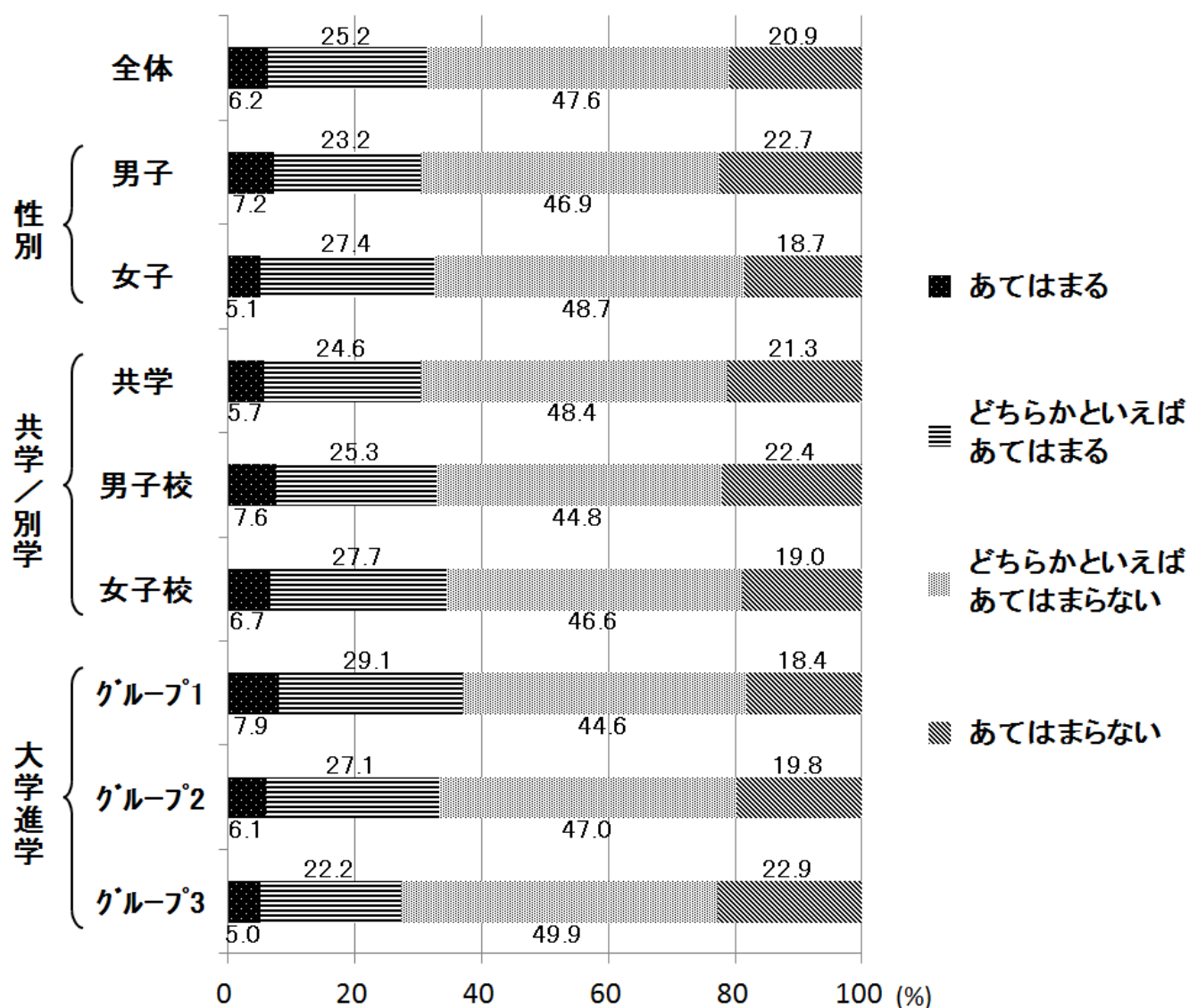
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について ― 続き―

(9) 私は、計画的に学習している



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	2783	1532	1151	2184	186	120	644	650	1184
	6.2	7.2	5.1	5.7	7.6	6.7	7.9	6.1	5.0
どちらかといえばあてはまる	11249	4904	6175	9395	619	492	2376	2884	5224
	25.2	23.2	27.4	24.6	25.3	27.7	29.1	27.1	22.2
どちらかといえばあてはまらない	21232	9903	10977	18484	1098	829	3643	4998	11737
	47.6	46.9	48.7	48.4	44.8	46.6	44.6	47.0	49.9
あてはまらない	9304	4796	4215	8117	548	338	1504	2113	5377
	20.9	22.7	18.7	21.3	22.4	19.0	18.4	19.8	22.9
合計	44568	21135	22518	38180	2451	1779	8167	10645	23522
有効回答率	98.4	99.5	99.7	98.2	99.0	99.0	98.6	98.4	98.1

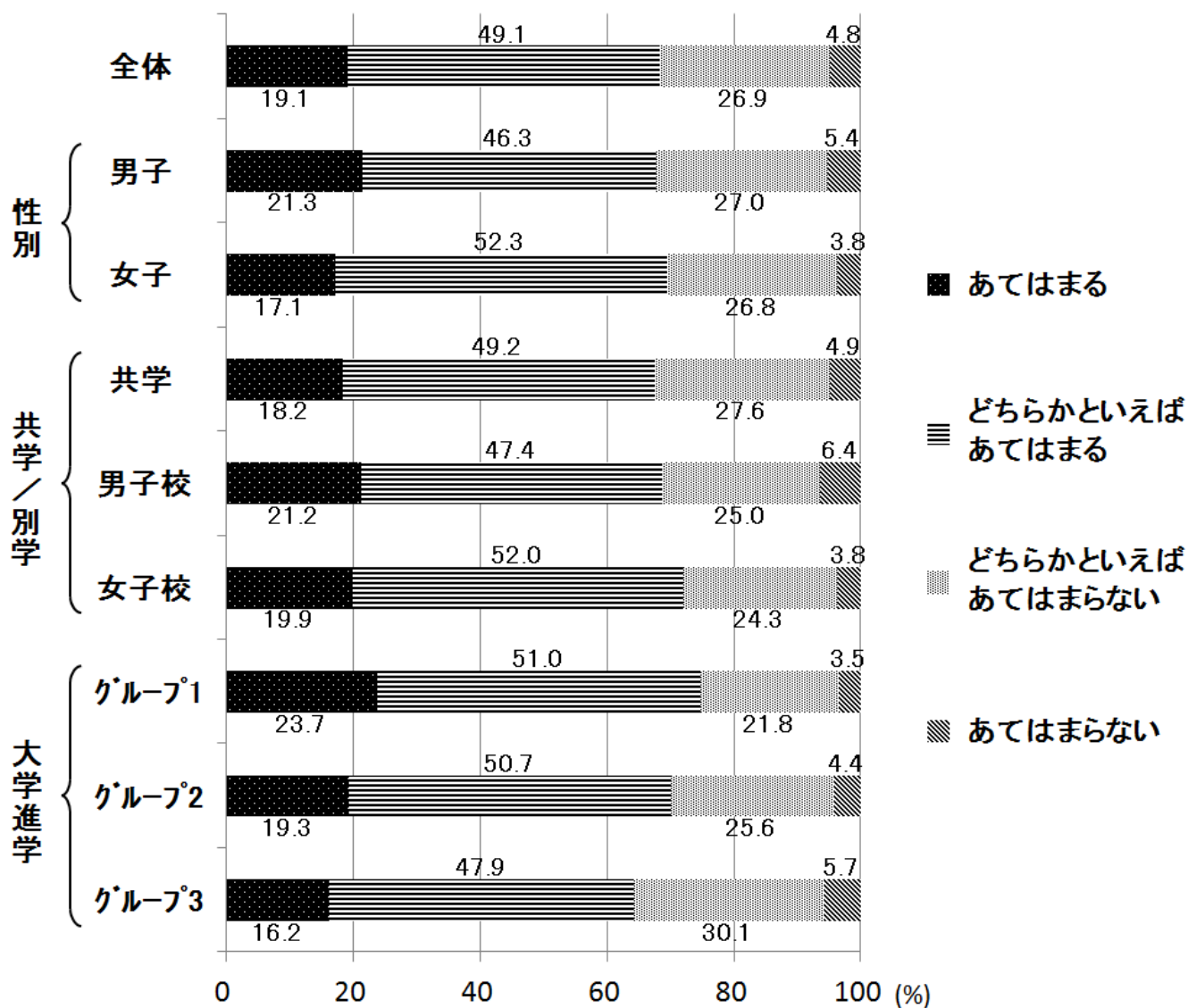
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について ― 続き ―

(10) 私は、勉強していて分からないことが出てくると、それを解決する



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	8543	4503	3856	6979	522	354	1940	2058	3829
	19.1	21.3	17.1	18.2	21.2	19.9	23.7	19.3	16.2
どちらかといえばあてはまる	21933	9802	11801	18806	1168	924	4171	5405	11283
	49.1	46.3	52.3	49.2	47.4	52.0	51.0	50.7	47.9
どちらかといえばあてはまらない	12002	5719	6036	10574	615	432	1782	2725	7105
	26.9	27.0	26.8	27.6	25.0	24.3	21.8	25.6	30.1
あてはまらない	2164	1154	855	1890	157	68	290	472	1353
	4.8	5.4	3.8	4.9	6.4	3.8	3.5	4.4	5.7
合計	44642	21178	22548	38249	2462	1778	8183	10660	23570
有効回答率	98.5	99.7	99.8	98.4	99.5	98.9	98.8	98.6	98.3

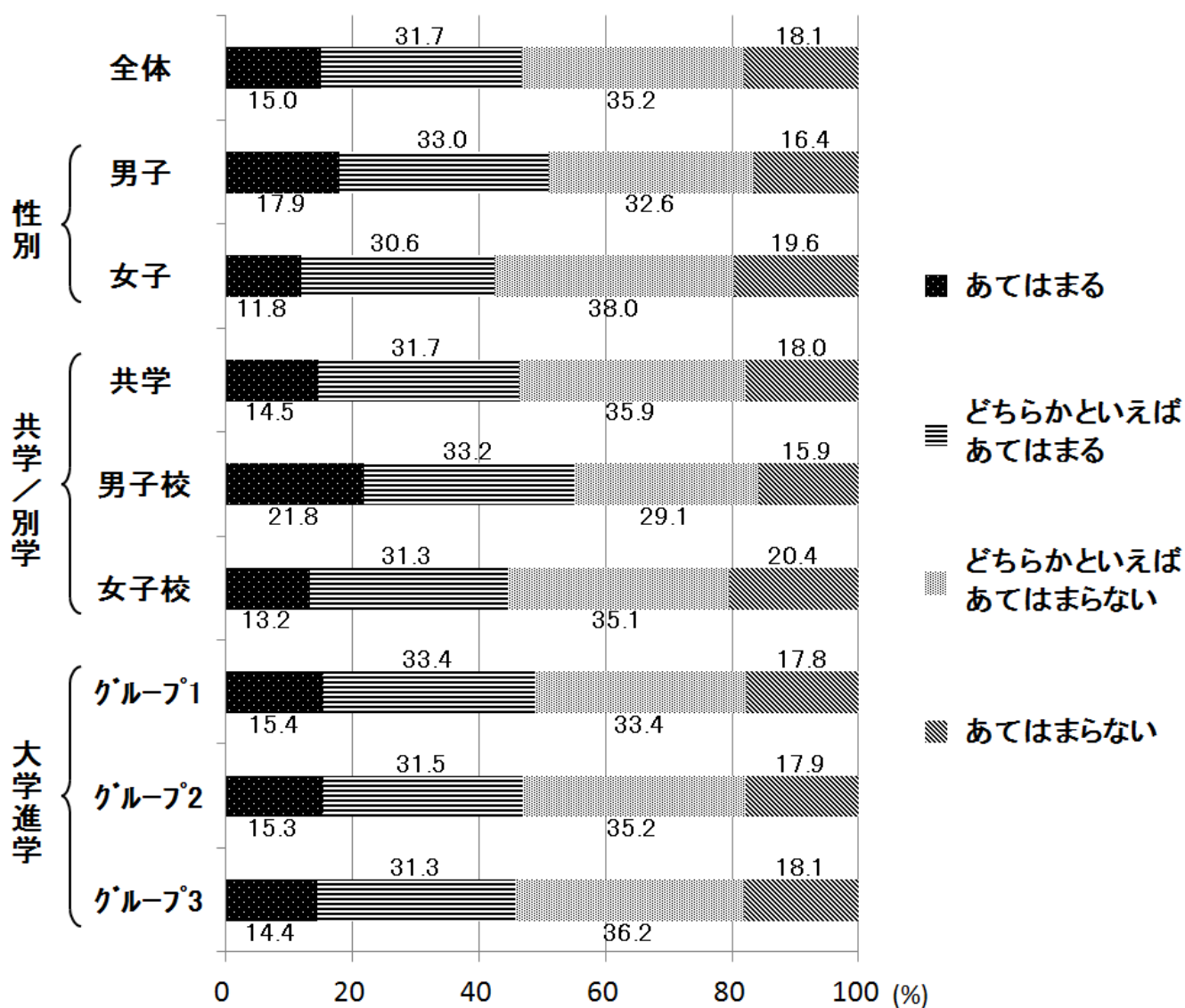
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について ― 続き ―

(11) 私には、大学の入試科目にない勉強、将来に関係のない勉強をしないことがある



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	6687	3797	2651	5522	536	235	1260	1634	3382
	15.0	17.9	11.8	14.5	21.8	13.2	15.4	15.3	14.4
どちらかといえばあてはまる	14140	6986	6896	12103	816	556	2729	3361	7365
	31.7	33.0	30.6	31.7	33.2	31.3	33.4	31.5	31.3
どちらかといえばあてはまらない	15687	6902	8558	13703	716	624	2729	3754	8533
	35.2	32.6	38.0	35.9	29.1	35.1	33.4	35.2	36.2
あてはまらない	8093	3481	4420	6883	391	363	1454	1909	4262
	18.1	16.4	19.6	18.0	15.9	20.4	17.8	17.9	18.1
合計	44607	21166	22525	38211	2459	1778	8172	10658	23542
有効回答率	98.4	99.6	99.7	98.3	99.4	98.9	98.6	98.6	98.2

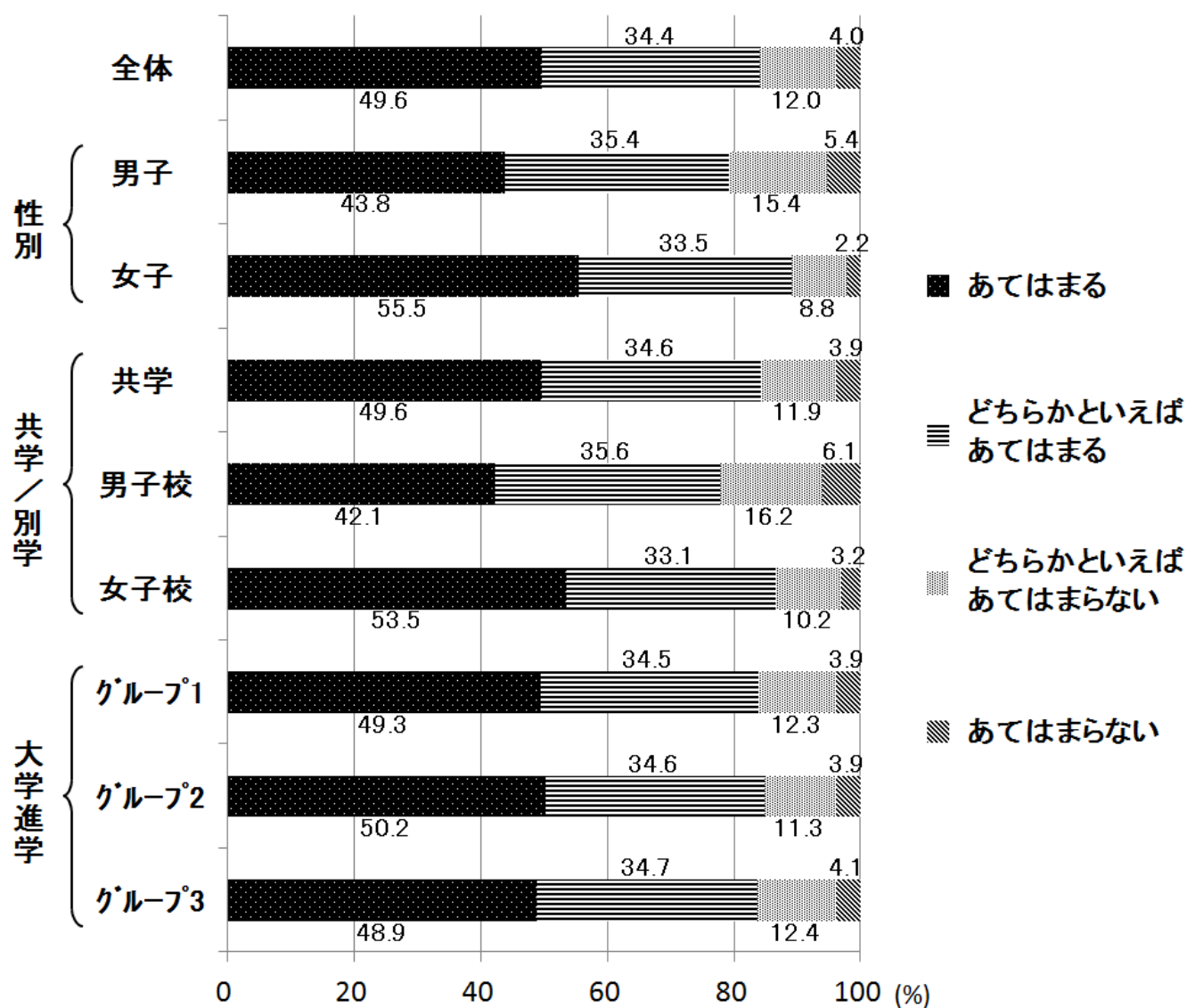
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について ― 続き ―

(12) 私は、学校行事(体育祭や文化祭など)には積極的に参加する



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	22103	9253	12485	18926	1034	950	4027	5341	11494
	49.6	43.8	55.5	49.6	42.1	53.5	49.3	50.2	48.9
どちらかといえばあてはまる	15318	7488	7548	13214	876	587	2817	3687	8152
	34.4	35.4	33.5	34.6	35.6	33.1	34.5	34.6	34.7
どちらかといえばあてはまらない	5361	3255	1970	4540	397	182	1008	1198	2907
	12.0	15.4	8.8	11.9	16.2	10.2	12.3	11.3	12.4
あてはまらない	1775	1141	504	1490	151	57	315	416	966
	4.0	5.4	2.2	3.9	6.1	3.2	3.9	3.9	4.1
合計	44557	21137	22507	38170	2458	1776	8167	10642	23519
有効回答率	98.3	99.5	99.7	98.2	99.3	98.8	98.6	98.4	98.1

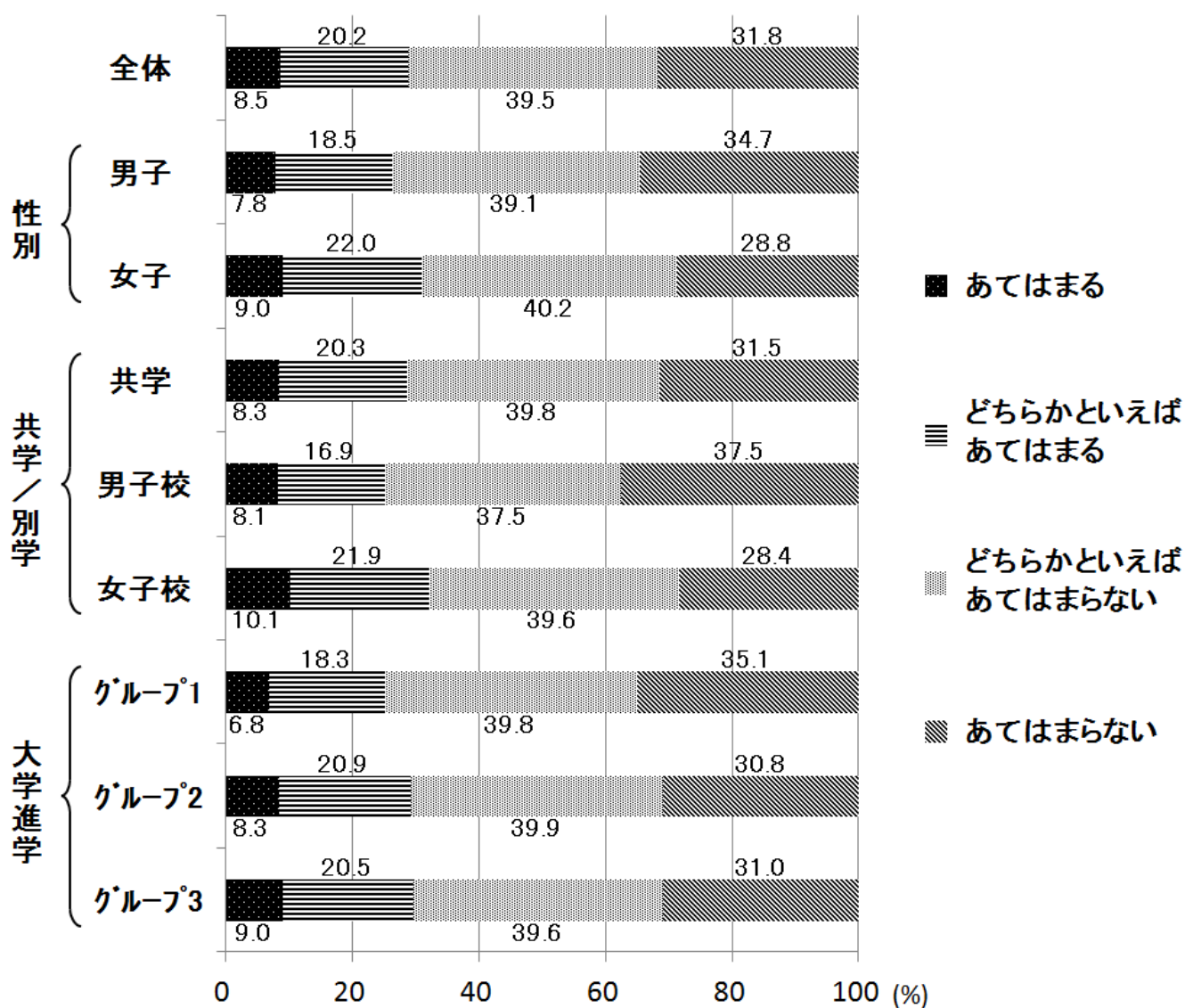
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について ― 続き―

(13) 私は、今までにボランティア活動によく参加してきた



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	3793	1649	2020	3179	200	178	555	883	2106
	8.5	7.8	9.0	8.3	8.1	10.1	6.8	8.3	9.0
どちらかといえばあてはまる	8995	3898	4940	7754	416	388	1490	2228	4822
	20.2	18.5	22.0	20.3	16.9	21.9	18.3	20.9	20.5
どちらかといえばあてはまらない	17581	8251	9040	15187	920	702	3250	4248	9294
	39.5	39.1	40.2	39.8	37.5	39.6	39.8	39.9	39.6
あてはまらない	14150	7324	6485	12019	920	503	2862	3278	7274
	31.8	34.7	28.8	31.5	37.5	28.4	35.1	30.8	31.0
合計	44519	21122	22485	38139	2456	1771	8157	10637	23496
有効回答率	98.3	99.4	99.6	98.1	99.2	98.6	98.4	98.4	98.0

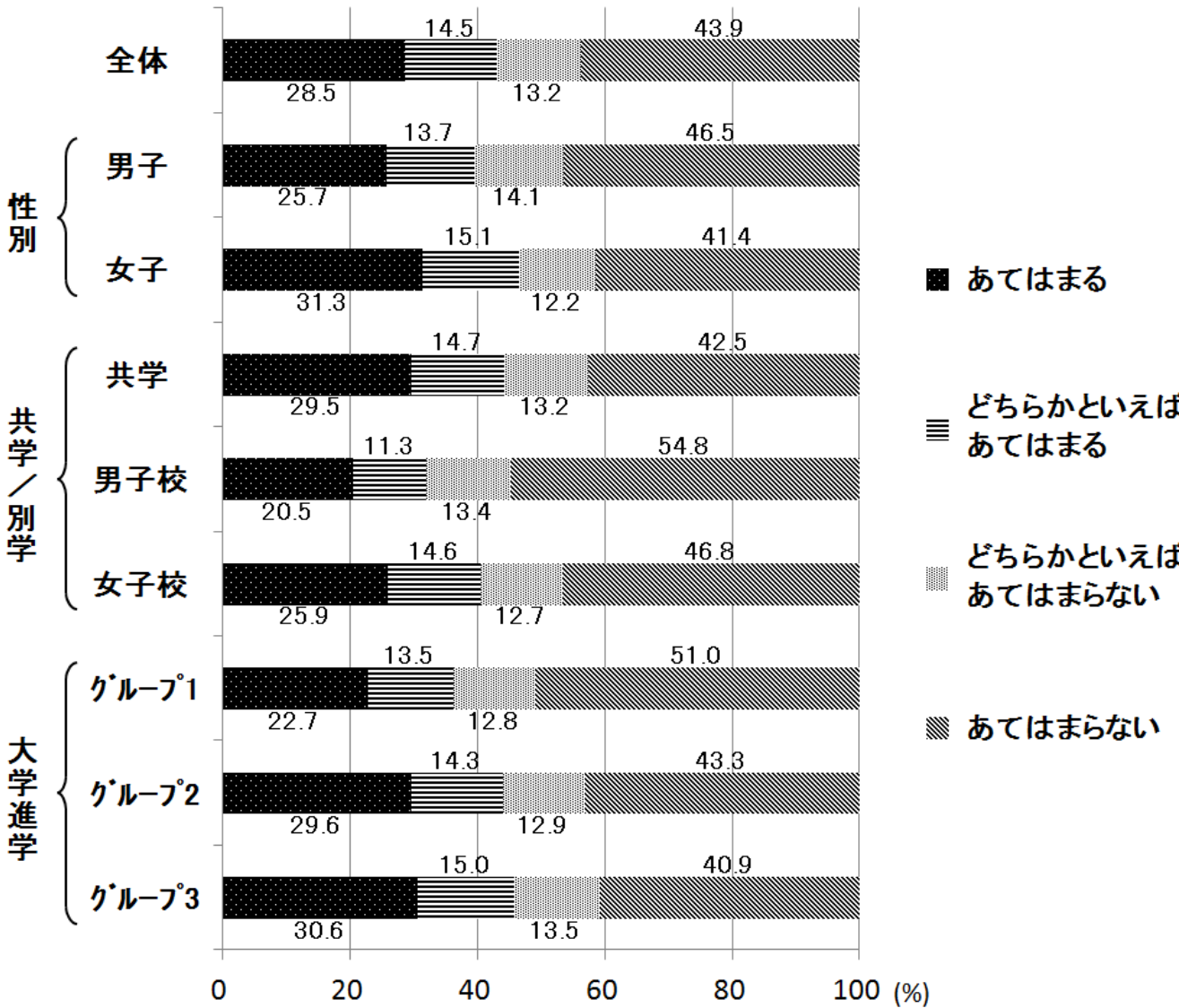
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について ― 続き ―

(14) 私は、今までにインターンシップ(企業や官公庁などでの職場体験、就労実習)に参加したことがある



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	12705	5428	7050	11275	504	461	1853	3155	7211
	28.5	25.7	31.3	29.5	20.5	25.9	22.7	29.6	30.6
どちらかといえばあてはまる	6444	2905	3403	5620	278	259	1108	1521	3519
	14.5	13.7	15.1	14.7	11.3	14.6	13.5	14.3	15.0
どちらかといえばあてはまらない	5871	2986	2738	5053	328	226	1050	1369	3182
	13.2	14.1	12.2	13.2	13.4	12.7	12.8	12.9	13.5
あてはまらない	19566	9829	9333	16253	1346	831	4167	4608	9615
	43.9	46.5	41.4	42.5	54.8	46.8	51.0	43.3	40.9
合計	44586	21148	22524	38201	2456	1777	8178	10653	23527
有効回答率	98.4	99.6	99.7	98.3	99.2	98.9	98.7	98.5	98.1

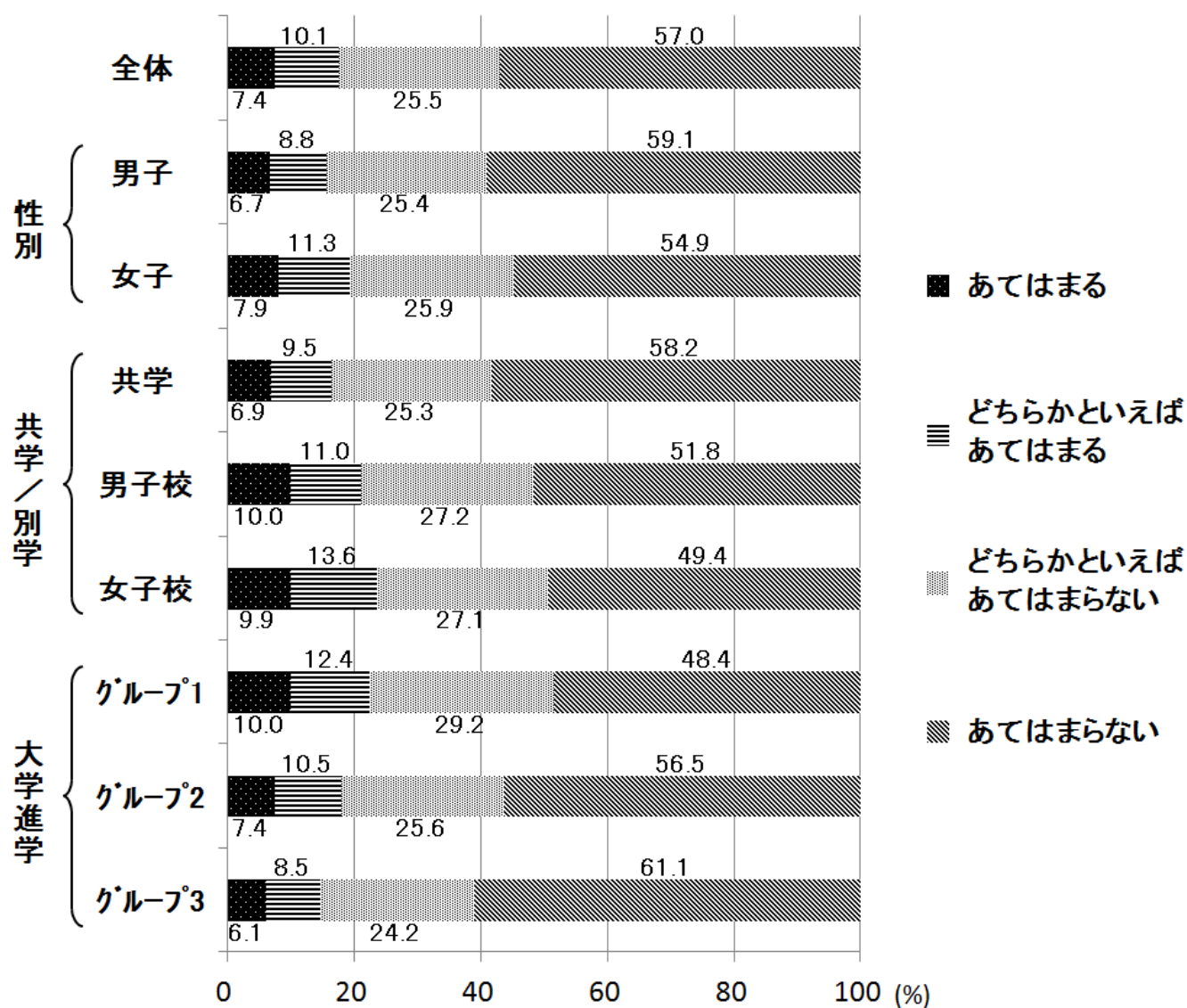
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について ― 続き―

(15) 私は、将来できれば海外の大学や学校に行きたい



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	3318	1417	1776	2641	246	176	816	786	1449
どちらかといえばあてはまる	7.4	6.7	7.9	6.9	10.0	9.9	10.0	7.4	6.1
どちらかといえばあてはまらない	4497	1863	2547	3642	270	243	1013	1122	2011
あてはまらない	10.1	8.8	11.3	9.5	11.0	13.6	12.4	10.5	8.5
合計	11397	5372	5844	9686	669	483	2388	2725	5712
有効回答率	25.5	25.4	25.9	25.3	27.2	27.1	29.2	25.6	24.2
あてはまる	25416	12519	12376	22264	1273	881	3962	6025	14389
あてはまらない	57.0	59.1	54.9	58.2	51.8	49.4	48.4	56.5	61.1
合計	44628	21171	22543	38233	2458	1783	8179	10658	23561
有効回答率	98.5	99.7	99.8	98.3	99.3	99.2	98.7	98.6	98.3

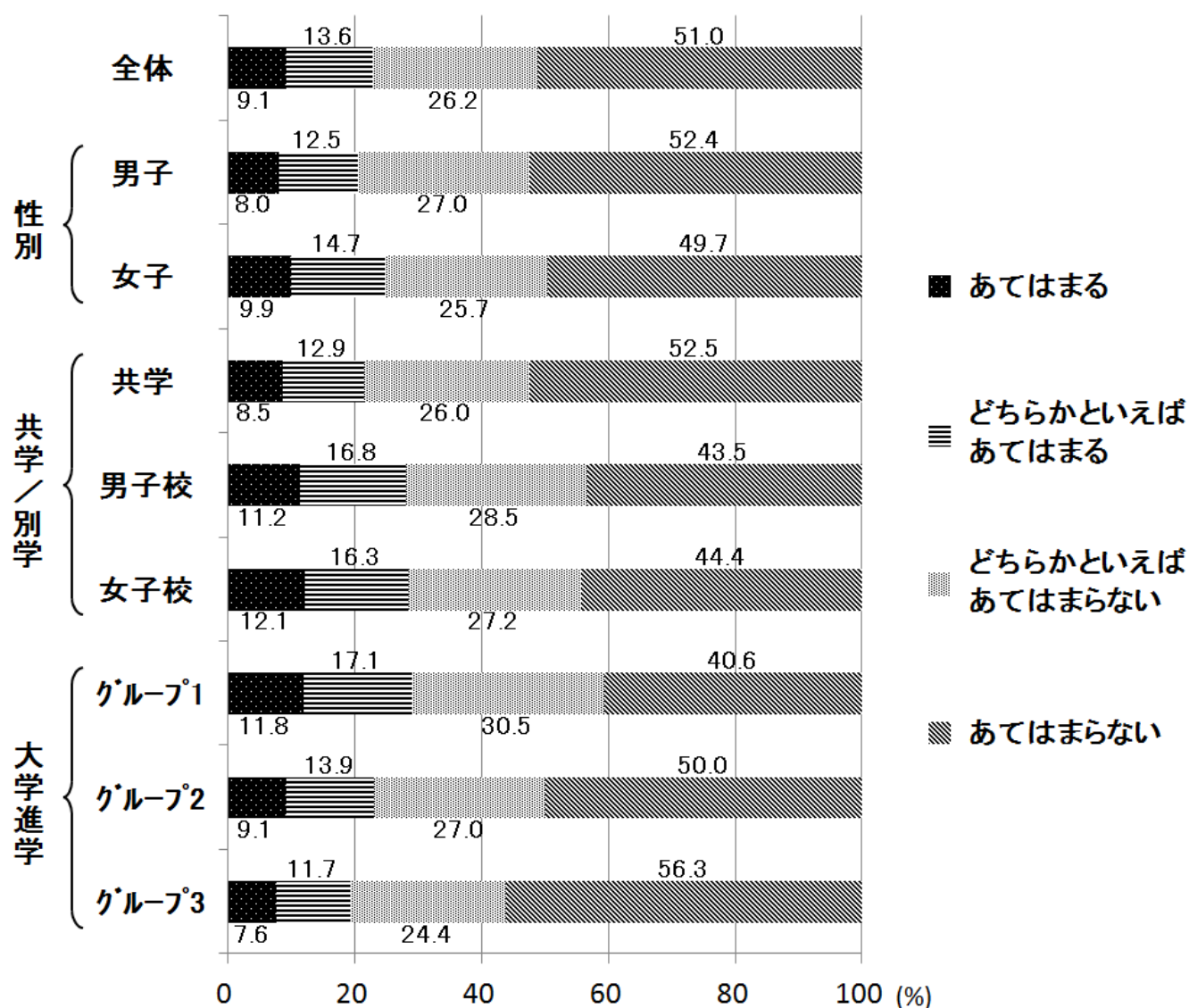
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 2. 学校や日々の生活について ― 続き―

(16) 私は、将来できれば海外で仕事をしたい



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	4041	1687	2225	3229	274	215	964	968	1774
	9.1	8.0	9.9	8.5	11.2	12.1	11.8	9.1	7.6
どちらかといえばあてはまる	6064	2644	3307	4932	412	289	1394	1476	2745
	13.6	12.5	14.7	12.9	16.8	16.3	17.1	13.9	11.7
どちらかといえばあてはまらない	11670	5704	5777	9921	698	483	2485	2866	5736
	26.2	27.0	25.7	26.0	28.5	27.2	30.5	27.0	24.4
あてはまらない	22696	11062	11152	20009	1067	788	3315	5306	13212
	51.0	52.4	49.7	52.5	43.5	44.4	40.6	50.0	56.3
合計	44471	21097	22461	38091	2451	1775	8158	10616	23467
有効回答率	98.1	99.3	99.5	98.0	99.0	98.8	98.5	98.2	97.9

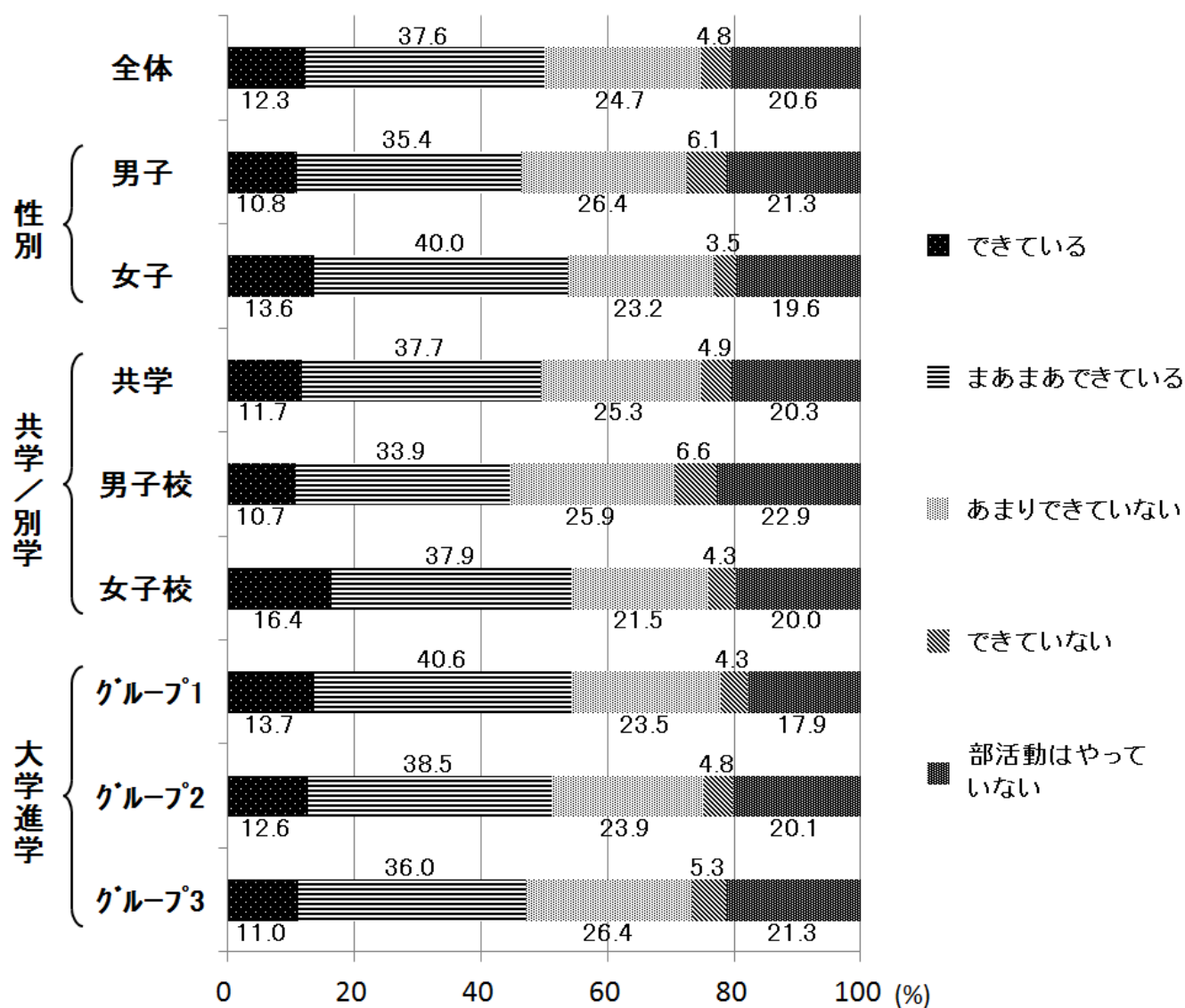
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 3. 学校生活について

(1) 部活動と学習とを両立させることができますか



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
できている	5339	2204	3008	4359	259	284	1104	1311	2486
	12.3	10.8	13.6	11.7	10.7	16.4	13.7	12.6	11.0
まあまあできている	16326	7257	8840	13997	820	657	3277	4018	8176
	37.6	35.4	40.0	37.7	33.9	37.9	40.6	38.5	36.0
あまりできていない	10734	5413	5132	9389	627	372	1899	2493	5992
	24.7	26.4	23.2	25.3	25.9	21.5	23.5	23.9	26.4
できていない	2096	1239	780	1819	159	74	347	505	1200
	4.8	6.1	3.5	4.9	6.6	4.3	4.3	4.8	5.3
部活動はやっていない	8927	4359	4324	7550	553	346	1440	2096	4846
	20.6	21.3	19.6	20.3	22.9	20.0	17.9	20.1	21.3
合計	43422	20472	22084	37114	2418	1733	8067	10423	22700
有効回答率	95.8	96.4	97.8	95.5	97.7	96.4	97.4	96.4	94.7

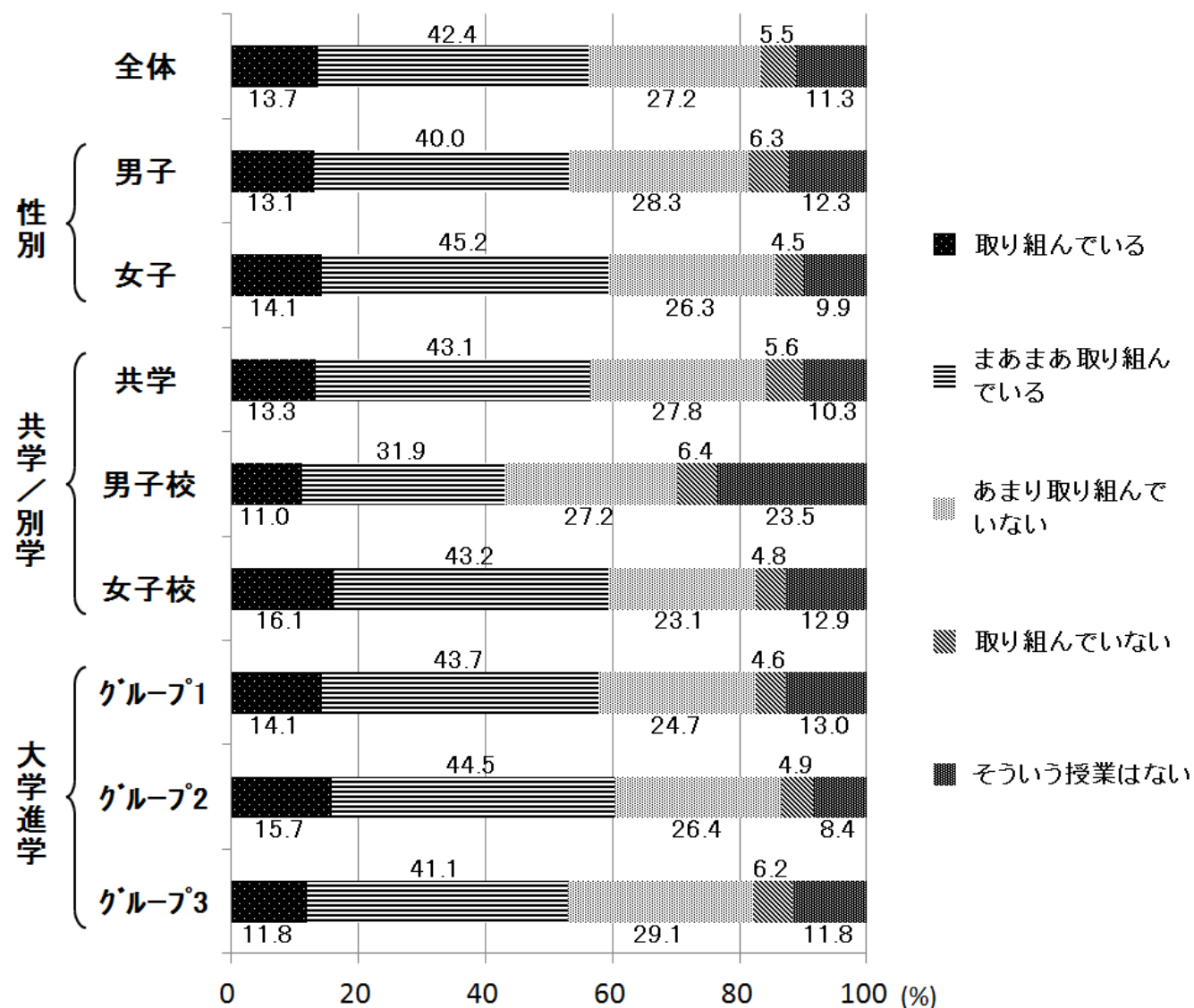
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 3. 学校生活について ― 続き―

(2) 授業におけるディスカッション・プレゼンテーションなどに精いっぱい取り組んでいますか



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
取り組んでいる	6093	2764	3174	5075	272	287	1154	1678	2781
	13.7	13.1	14.1	13.3	11.0	16.1	14.1	15.7	11.8
まあまあ取り組んでいる	18913	8461	10198	16466	786	770	3574	4747	9673
	42.4	40.0	45.2	43.1	31.9	43.2	43.7	44.5	41.1
あまり取り組んでいない	12140	6001	5926	10621	669	412	2021	2818	6848
	27.2	28.3	26.3	27.8	27.2	23.1	24.7	26.4	29.1
取り組んでいない	2436	1336	1011	2126	157	85	377	524	1466
	5.5	6.3	4.5	5.6	6.4	4.8	4.6	4.9	6.2
そういう授業はない	5046	2608	2238	3937	579	230	1061	897	2777
	11.3	12.3	9.9	10.3	23.5	12.9	13.0	8.4	11.8
合計	44628	21170	22547	38225	2463	1784	8187	10664	23545
有効回答率	98.5	99.7	99.8	98.3	99.5	99.3	98.8	98.6	98.2

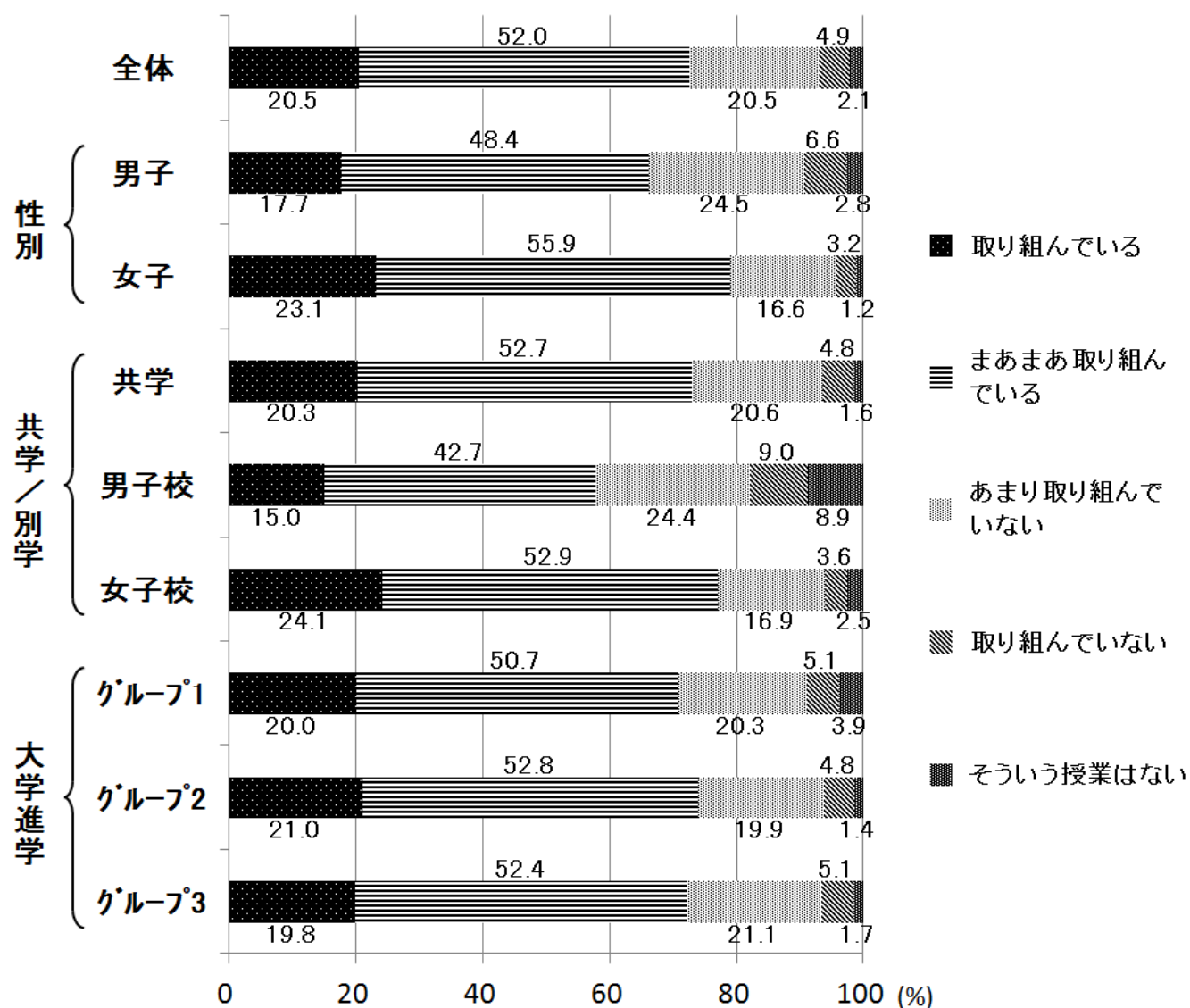
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 3. 学校生活について ― 続き―

(3) 教科以外の学習(総合的な学習の時間やHR活動)に精いっぱい取り組んでいますか



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
取り組んでいる	9145	3752	5206	7760	370	429	1634	2243	4655
	20.5	17.7	23.1	20.3	15.0	24.1	20.0	21.0	19.8
まあまあ取り組んでいる	23192	10247	12612	20152	1051	944	4151	5632	12329
	52.0	48.4	55.9	52.7	42.7	52.9	50.7	52.8	52.4
あまり取り組んでいない	9135	5186	3735	7862	601	301	1662	2122	4968
	20.5	24.5	16.6	20.6	24.4	16.9	20.3	19.9	21.1
取り組んでいない	2208	1397	712	1847	222	64	417	515	1200
	4.9	6.6	3.2	4.8	9.0	3.6	5.1	4.8	5.1
そういう授業はない	942	583	280	595	219	45	316	145	397
	2.1	2.8	1.2	1.6	8.9	2.5	3.9	1.4	1.7
合計	44622	21165	22545	38216	2463	1783	8180	10657	23549
有効回答率	98.5	99.6	99.8	98.3	99.5	99.2	98.7	98.5	98.2

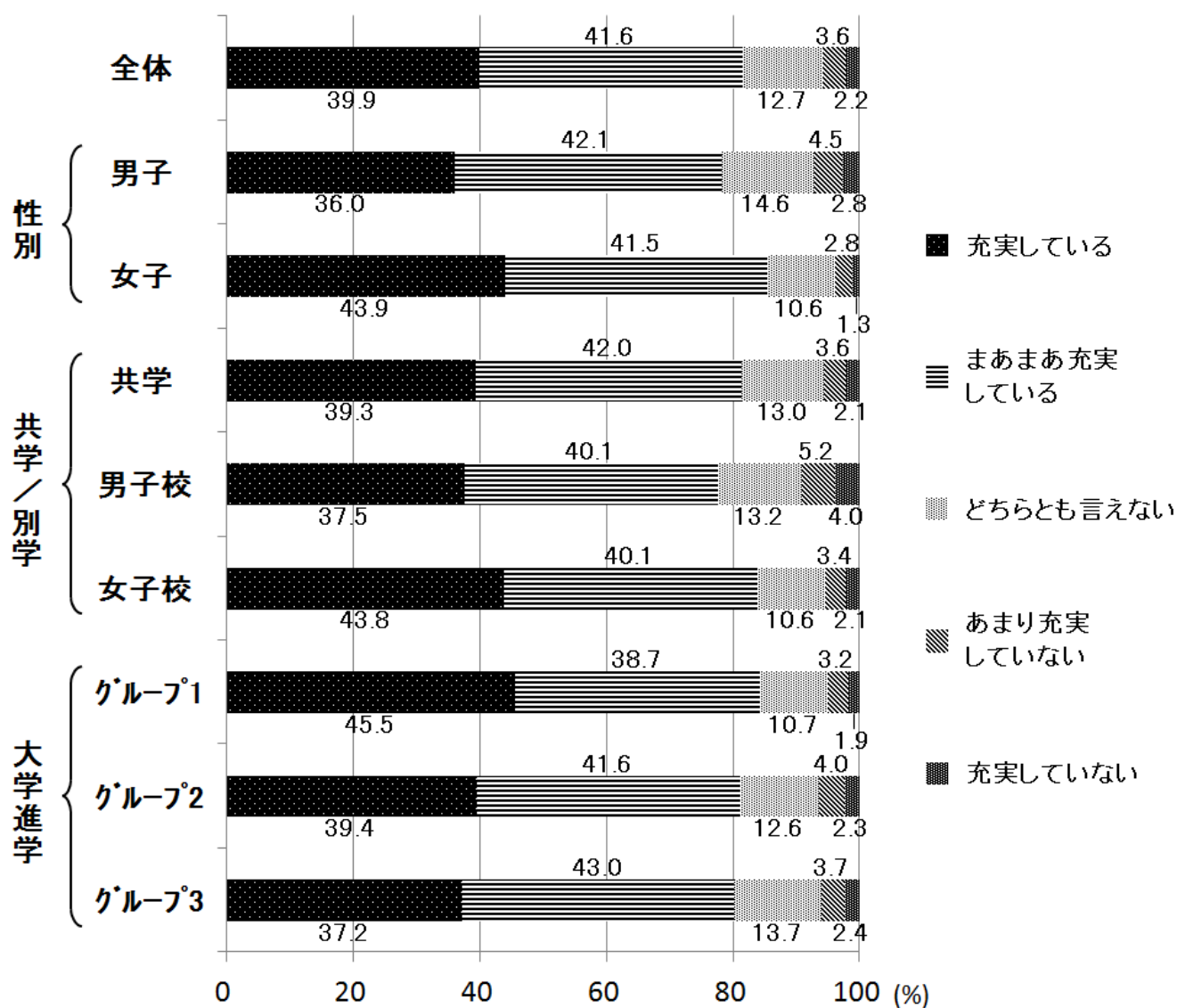
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 3. 学校生活について ― 続き―

(4) 学校(高校)生活は充実していますか



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
充実している	17792	7614	9884	14999	924	780	3719	4198	8750
	39.9	36.0	43.9	39.3	37.5	43.8	45.5	39.4	37.2
まあまあ充実している	18544	8904	9342	16044	988	715	3168	4431	10122
	41.6	42.1	41.5	42.0	40.1	40.1	38.7	41.6	43.0
どちらとも言えない	5642	3083	2395	4946	325	188	875	1345	3226
	12.7	14.6	10.6	13.0	13.2	10.6	10.7	12.6	13.7
あまり充実していない	1627	958	624	1379	128	60	265	428	874
	3.6	4.5	2.8	3.6	5.2	3.4	3.2	4.0	3.7
充実していない	985	591	287	819	99	38	153	242	560
	2.2	2.8	1.3	2.1	4.0	2.1	1.9	2.3	2.4
合計	44590	21150	22532	38187	2464	1781	8180	10644	23532
有効回答率	98.4	99.6	99.8	98.2	99.6	99.1	98.7	98.4	98.2

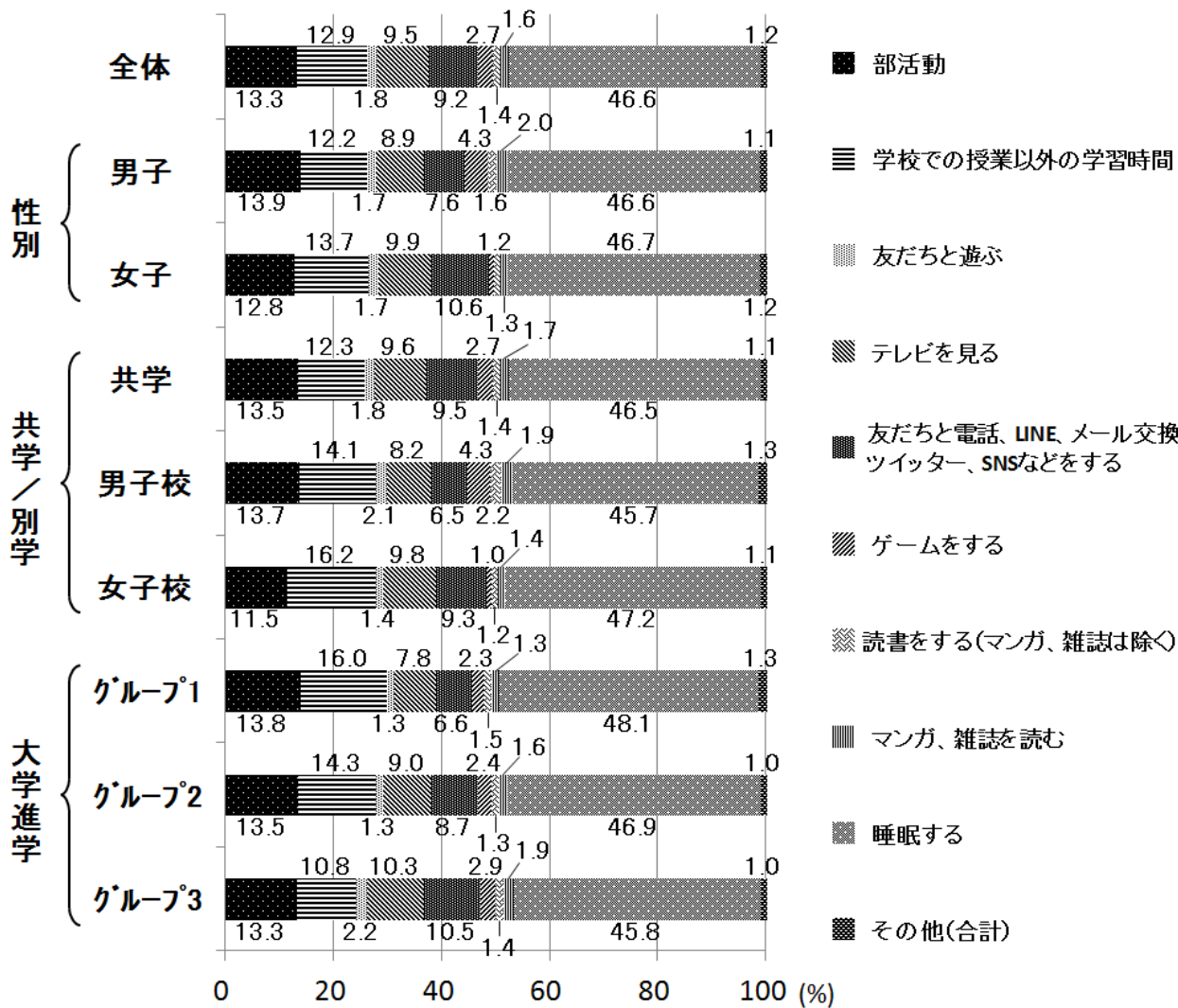
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 4. 最近の典型的な過ごし方について

(1) 平日（月～金曜日）の過ごし方



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ 1	グループ 2	グループ 3
部活動	74878	37451	36041	65066	4338	2486	13779	17847	40259
	13.3	13.9	12.8	13.5	13.7	11.5	13.8	13.5	13.3
学校での授業以外の学習時間	72426	32836	38431	59535	4466	3498	15957	18807	32573
	12.9	12.2	13.7	12.3	14.1	16.2	16.0	14.3	10.8
友だちと遊ぶ	9990	4708	4905	8600	655	297	1286	1701	6563
	1.8	1.7	1.7	1.8	2.1	1.4	1.3	1.3	2.2
テレビを見る	53154	24106	27963	46266	2590	2128	7807	11912	31188
	9.5	8.9	9.9	9.6	8.2	9.8	7.8	9.0	10.3
友だちと電話、LINE、メール交換 ツイッター、SNSなどをする	51507	20493	29766	45864	2042	2006	6642	11415	31791
	9.2	7.6	10.6	9.5	6.5	9.3	6.6	8.7	10.5
ゲームをする	14906	11683	2563	12799	1371	217	2338	3223	8801
	2.7	4.3	0.9	2.7	4.3	1.0	2.3	2.4	2.9
読書をする(マンガ、雑誌は除く)	7989	4362	3301	6608	682	263	1473	1679	4386
	1.4	1.6	1.2	1.4	2.2	1.2	1.5	1.3	1.4
マンガ、雑誌を読む	9210	5270	3582	8057	607	297	1297	2043	5610
	1.6	2.0	1.3	1.7	1.9	1.4	1.3	1.6	1.9
睡眠する	261853	125495	131295	224247	14471	10191	48067	61772	138609
	46.6	46.6	46.7	46.5	45.7	47.2	48.1	46.9	45.8
その他(合計)	6479	2959	3347	5212	410	230	1329	1332	3168
	1.2	1.1	1.2	1.1	1.3	1.1	1.3	1.0	1.0
合計	44461	21085	22492	38071	2453	1778	8168	10602	23456
有効回答率	98.1	99.3	99.6	97.9	99.1	98.9	98.6	98.0	97.8

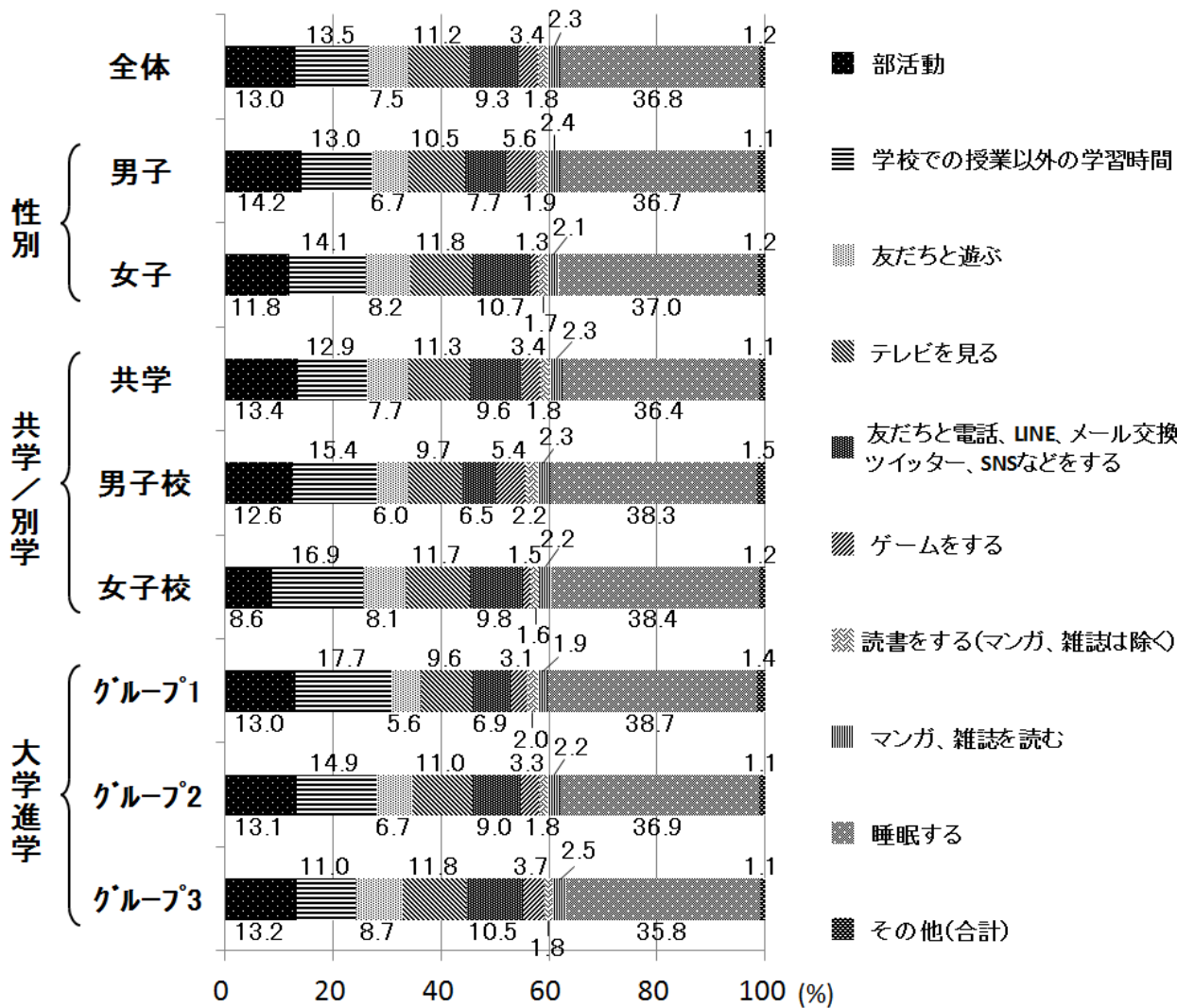
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ 1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ 2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ 3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 4. 最近の典型的な過ごし方について

(2) 休日（土・日曜日）の過ごし方



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
部活動	106911	55246	49801	95164	5400	2773	18647	25566	59107
	13.0	14.2	11.8	13.4	12.6	8.6	13.0	13.1	13.2
学校での授業以外の学習時間	111498	50409	59411	91718	6632	5448	25315	29178	49003
	13.5	13.0	14.1	12.9	15.4	16.9	17.7	14.9	11.0
友だちと遊ぶ	62023	26064	34565	54744	2581	2630	8034	13041	38800
	7.5	6.7	8.2	7.7	6.0	8.1	5.6	6.7	8.7
テレビを見る	92178	40888	49619	80462	4189	3774	13795	21586	52923
	11.2	10.5	11.8	11.3	9.7	11.7	9.6	11.0	11.8
友だちと電話、LINE、メール交換 ツイッター、SNSなどをする	76840	30035	45070	68494	2800	3161	9887	17583	46890
	9.3	7.7	10.7	9.6	6.5	9.8	6.9	9.0	10.5
ゲームをする	28318	21760	5556	24552	2331	488	4502	6398	16428
	3.4	5.6	1.3	3.4	5.4	1.5	3.1	3.3	3.7
読書をする(マンガ、雑誌は除く)	15176	7500	7221	12886	957	531	2832	3545	7966
	1.8	1.9	1.7	1.8	2.2	1.6	2.0	1.8	1.8
マンガ、雑誌を読む	18815	9467	8783	16553	1000	705	2715	4385	11127
	2.3	2.4	2.1	2.3	2.3	2.2	1.9	2.2	2.5
睡眠する	303582	142287	155506	259261	16486	12389	55405	72017	160181
	36.8	36.7	37.0	36.4	38.3	38.4	38.7	36.9	35.8
その他(合計)	9801	4385	5128	7860	628	380	1958	2073	4814
	1.2	1.1	1.2	1.1	1.5	1.2	1.4	1.1	1.1
合計	43984	20786	22318	37660	2408	1764	8039	10479	23239
有効回答率	97.1	97.9	98.8	96.9	97.3	98.2	97.0	96.9	96.9

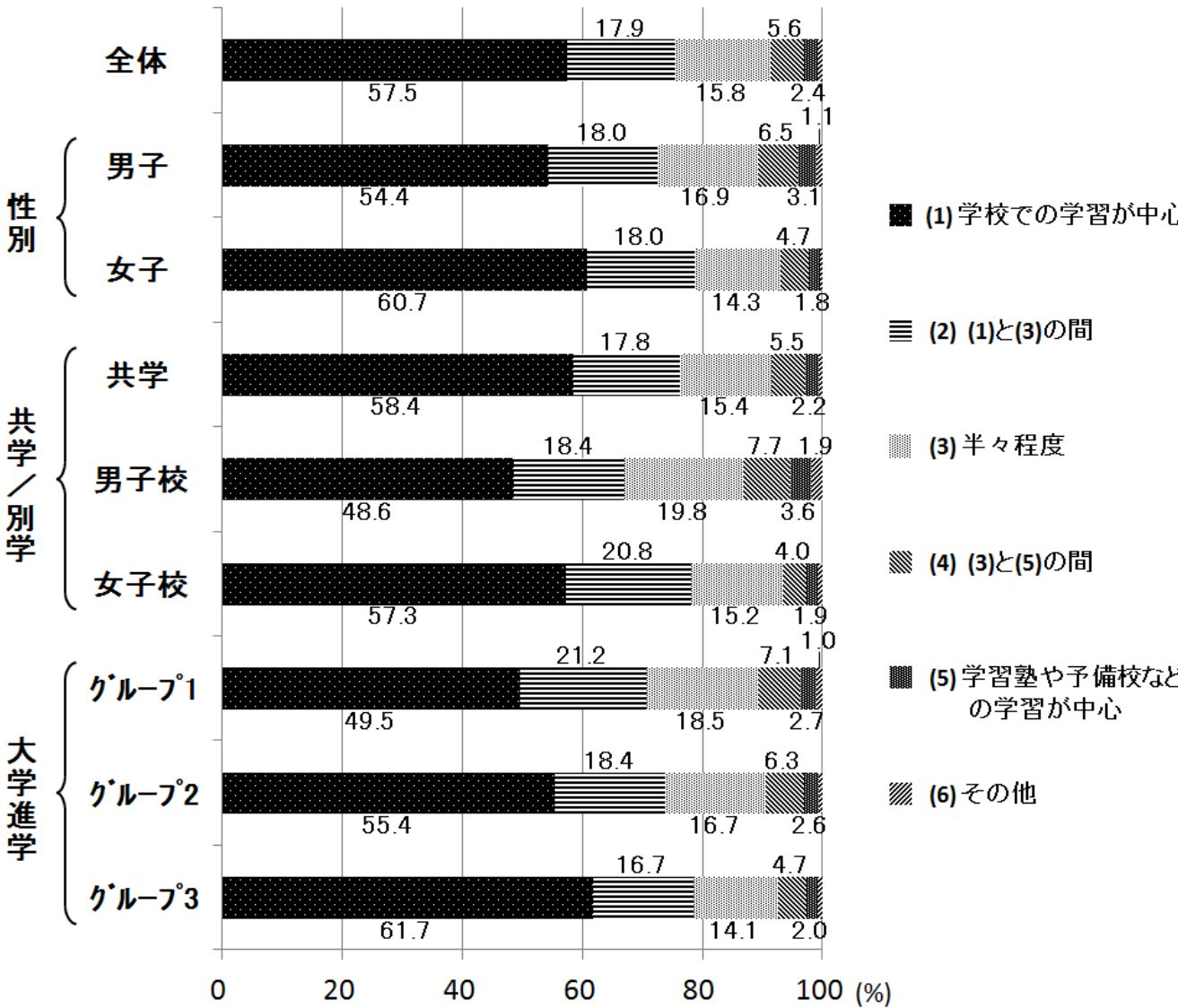
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 4. 最近の典型的な過ごし方について -- 続き --

(3) あなたのふだんの学習は、学校の学習が中心ですか、それとも学習塾や予備校、家庭教師などの学習が中心ですか



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
(1) 学校での学習が中心	25457	11419	13599	22149	1191	1011	4028	5855	14421
	57.5	54.4	60.7	58.4	48.6	57.3	49.5	55.4	61.7
(2) (1)と(3)の間	7936	3785	4023	6763	451	368	1729	1946	3896
	17.9	18.0	18.0	17.8	18.4	20.8	21.2	18.4	16.7
(3) 半々程度	6979	3553	3192	5823	486	269	1508	1762	3301
	15.8	16.9	14.3	15.4	19.8	15.2	18.5	16.7	14.1
(4) (3)と(5)の間	2469	1367	1054	2083	188	70	575	664	1098
	5.6	6.5	4.7	5.5	7.7	4.0	7.1	6.3	4.7
(5) 学習塾や予備校などの学習が中心	1085	658	394	840	89	34	218	274	466
	2.4	3.1	1.8	2.2	3.6	1.9	2.7	2.6	2.0
(6) その他	363	221	126	269	46	13	79	71	177
	0.8	1.1	0.6	0.7	1.9	0.7	1.0	0.7	0.8
合計	44289	21003	22388	37927	2451	1765	8137	10572	23359
有効回答率	97.7	98.9	99.1	97.6	99.0	98.2	98.2	97.8	97.4

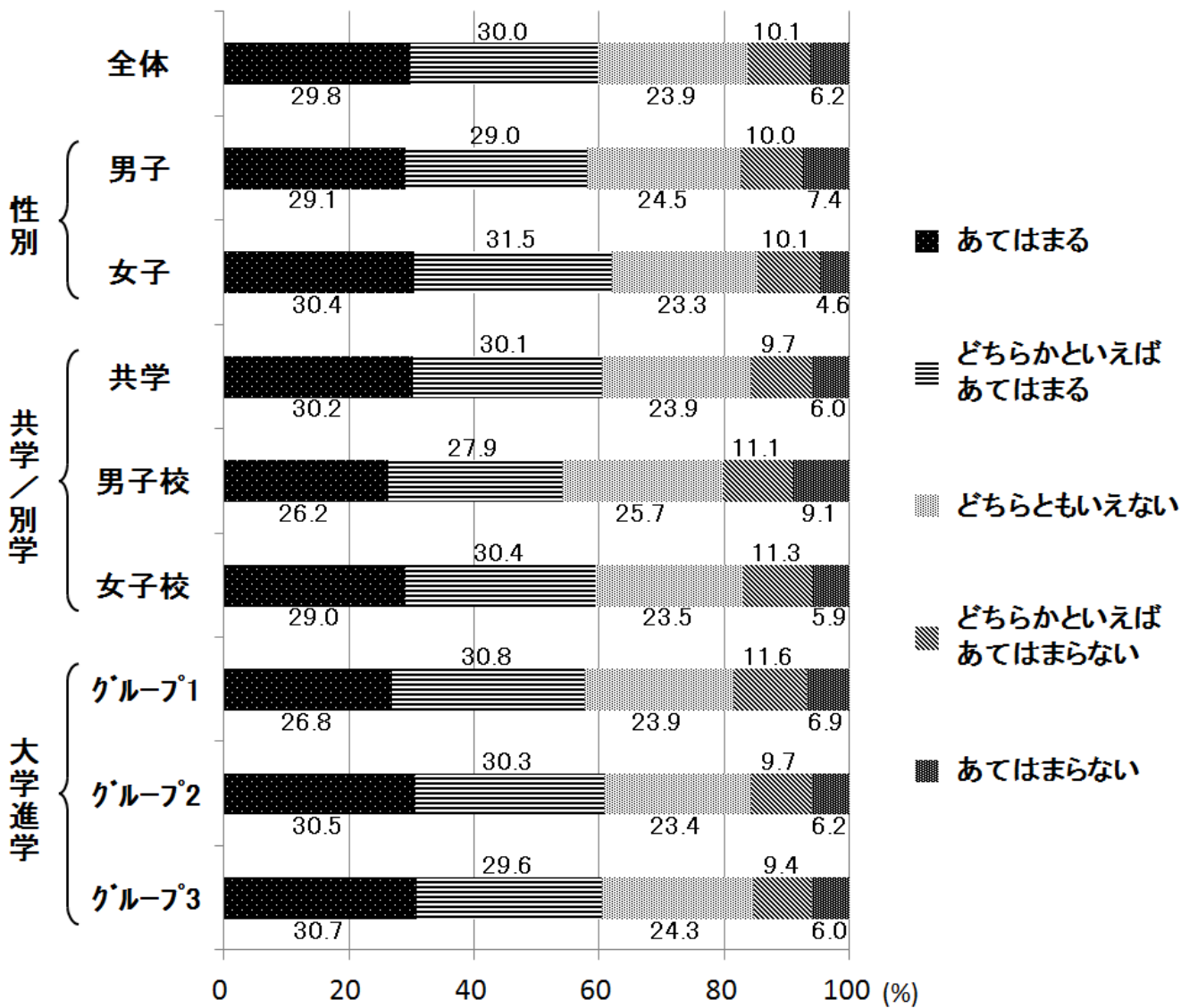
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 5. 友だち関係について

(1) 友だちをたくさん作るように心がけている



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	13229	6127	6829	11498	643	513	2184	3231	7211
	29.8	29.1	30.4	30.2	26.2	29.0	26.8	30.5	30.7
どちらかといえばあてはまる	13348	6117	7085	11466	684	538	2506	3209	6948
	30.0	29.0	31.5	30.1	27.9	30.4	30.8	30.3	29.6
どちらともいえない	10624	5155	5229	9081	631	417	1945	2481	5690
	23.9	24.5	23.3	23.9	25.7	23.5	23.9	23.4	24.3
どちらかといえばあてはまらない	4476	2112	2278	3706	273	200	943	1028	2205
	10.1	10.0	10.1	9.7	11.1	11.3	11.6	9.7	9.4
あてはまらない	2752	1552	1036	2297	222	104	565	654	1397
	6.2	7.4	4.6	6.0	9.1	5.9	6.9	6.2	6.0
合計	44429	21063	22457	38048	2453	1772	8143	10603	23451
有効回答率	98.1	99.2	99.4	97.9	99.1	98.6	98.3	98.0	97.8

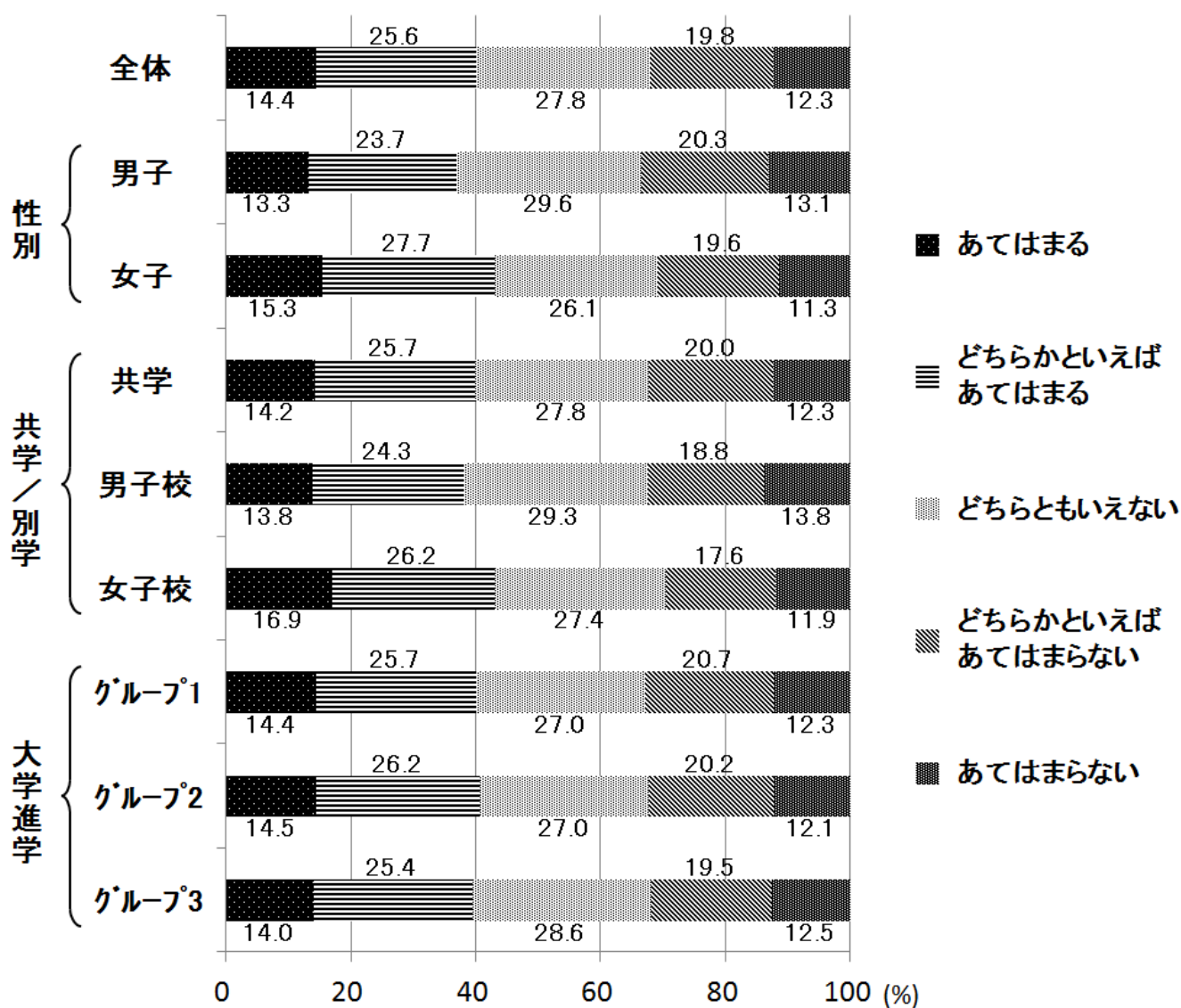
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 5. 友だち関係について ― 続き ―

(2) 初対面の人とでもすぐに友だちになる



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	6431	2808	3454	5405	339	301	1174	1546	3302
	14.4	13.3	15.3	14.2	13.8	16.9	14.4	14.5	14.0
どちらかといえばあてはまる	11415	5002	6233	9806	598	465	2101	2782	5965
	25.6	23.7	27.7	25.7	24.3	26.2	25.7	26.2	25.4
どちらともいえない	12375	6264	5879	10616	721	487	2205	2876	6728
	27.8	29.6	26.1	27.8	29.3	27.4	27.0	27.0	28.6
どちらかといえばあてはまらない	8842	4293	4408	7650	463	313	1689	2146	4580
	19.8	20.3	19.6	20.0	18.8	17.6	20.7	20.2	19.5
あてはまらない	5489	2761	2540	4684	340	211	1003	1286	2940
	12.3	13.1	11.3	12.3	13.8	11.9	12.3	12.1	12.5
合計	44552	21128	22514	38161	2461	1777	8172	10636	23515
有効回答率	98.3	99.5	99.7	98.2	99.4	98.9	98.6	98.4	98.1

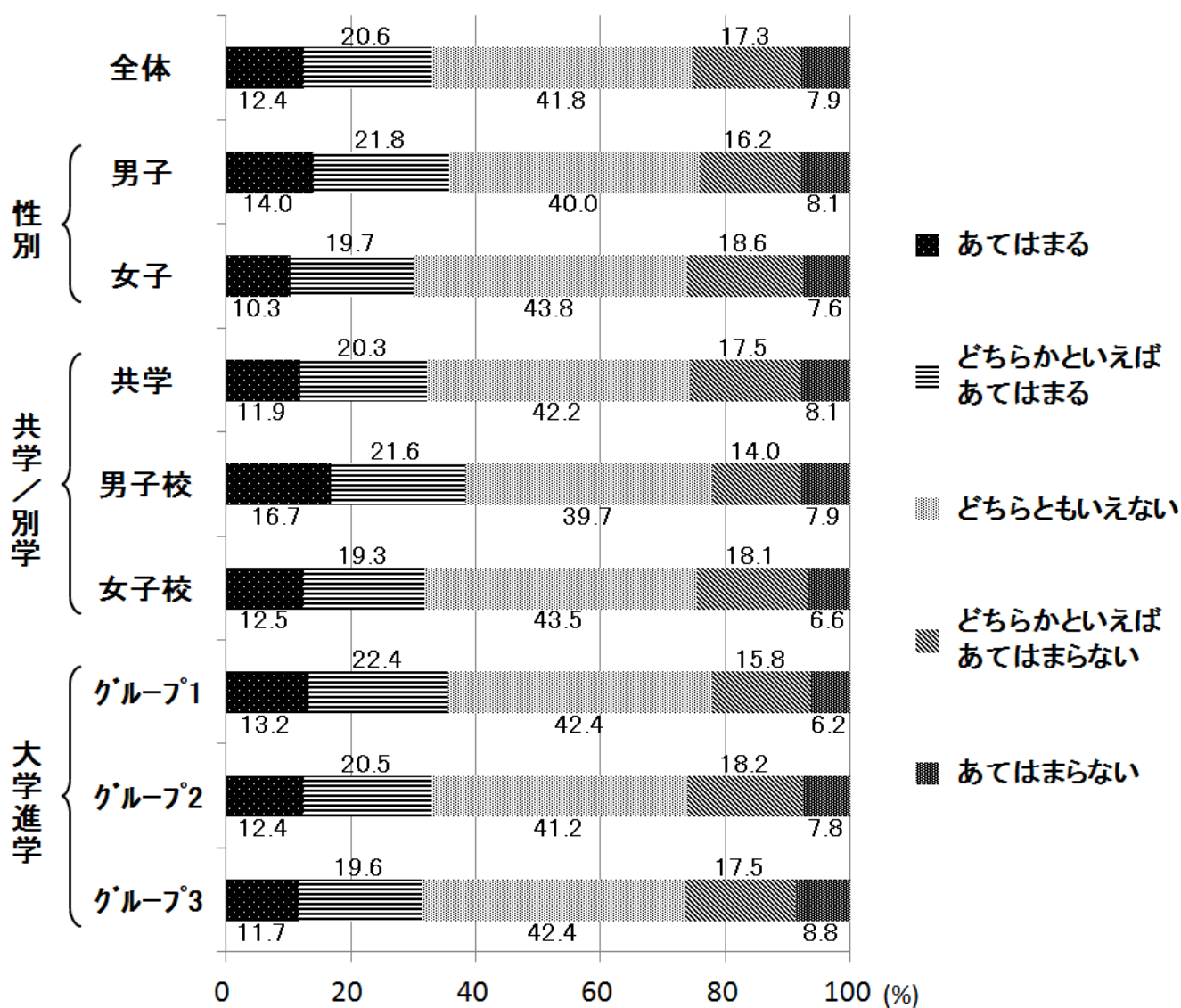
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 5. 友だち関係について ― 続き ―

(3) 友だちというより、ひとりであるほうが気持ちが落ち着く



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	5512	2965	2330	4537	411	223	1080	1320	2758
	12.4	14.0	10.3	11.9	16.7	12.5	13.2	12.4	11.7
どちらかといえばあてはまる	9164	4595	4437	7758	530	344	1833	2176	4608
	20.6	21.8	19.7	20.3	21.6	19.3	22.4	20.5	19.6
どちらともいえない	18634	8441	9860	16088	976	773	3466	4379	9963
	41.8	40.0	43.8	42.2	39.7	43.5	42.4	41.2	42.4
どちらかといえばあてはまらない	7705	3417	4181	6688	344	321	1287	1931	4123
	17.3	16.2	18.6	17.5	14.0	18.1	15.8	18.2	17.5
あてはまらない	3537	1703	1713	3093	195	117	503	829	2066
	7.9	8.1	7.6	8.1	7.9	6.6	6.2	7.8	8.8
合計	44552	21121	22521	38164	2456	1778	8169	10635	23518
有効回答率	98.3	99.4	99.7	98.2	99.2	98.9	98.6	98.3	98.1

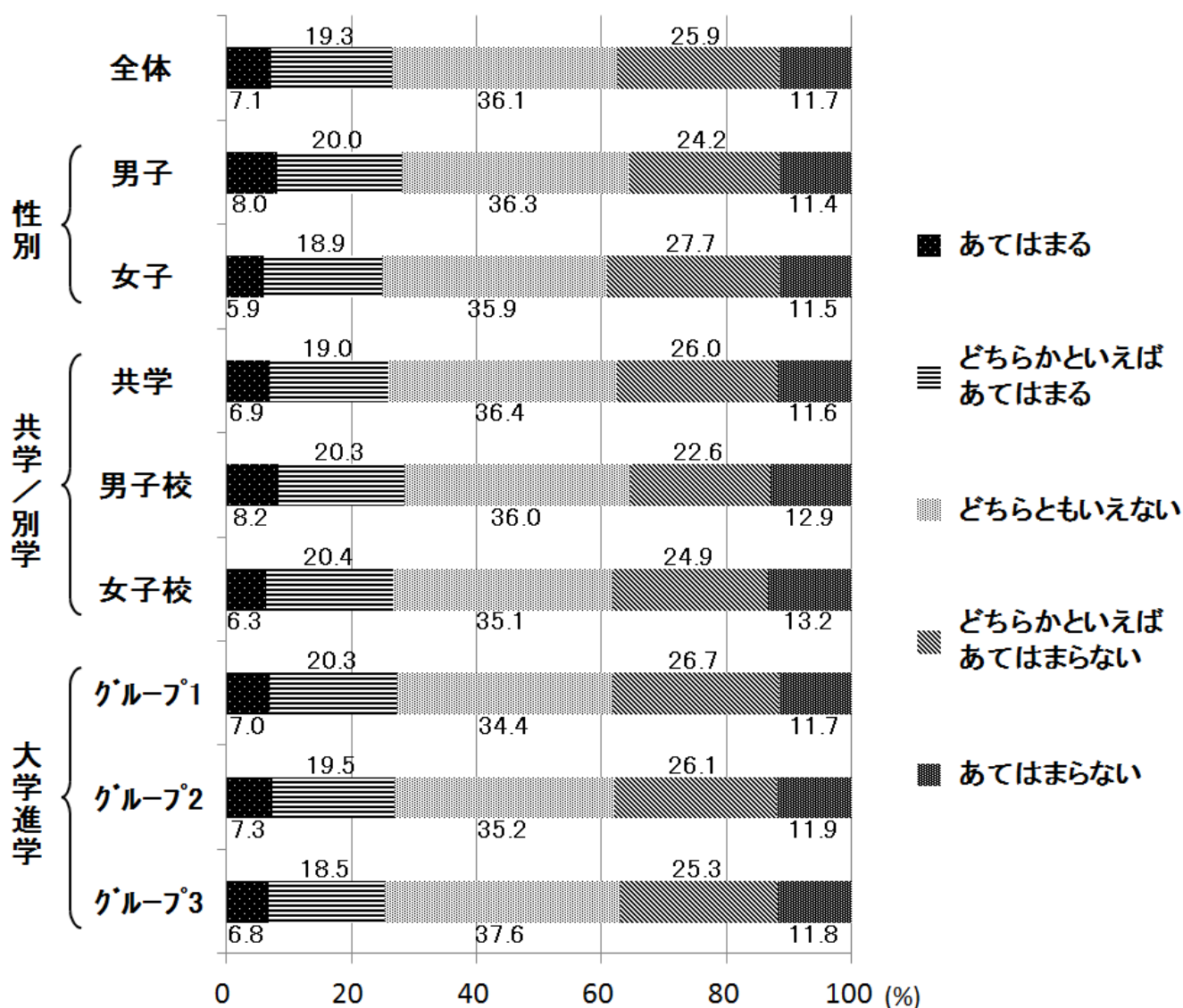
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 5. 友だち関係について ― 続き ―

(4) 友だちと意見が合わないときには、納得がいくまで話し合いをする



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	3148	1695	1323	2652	201	112	572	778	1604
	7.1	8.0	5.9	6.9	8.2	6.3	7.0	7.3	6.8
どちらかといえばあてはまる	8619	4229	4266	7236	500	363	1655	2073	4348
	19.3	20.0	18.9	19.0	20.3	20.4	20.3	19.5	18.5
どちらともいえない	16067	7677	8093	13903	885	624	2808	3747	8833
	36.1	36.3	35.9	36.4	36.0	35.1	34.4	35.2	37.6
どちらかといえばあてはまらない	11522	5112	6235	9931	557	443	2182	2777	5961
	25.9	24.2	27.7	26.0	22.6	24.9	26.7	26.1	25.3
あてはまらない	5194	2413	2598	4440	317	235	952	1261	2772
	11.7	11.4	11.5	11.6	12.9	13.2	11.7	11.9	11.8
合計	44550	21126	22515	38162	2460	1777	8169	10636	23518
有効回答率	98.3	99.5	99.7	98.2	99.4	98.9	98.6	98.4	98.1

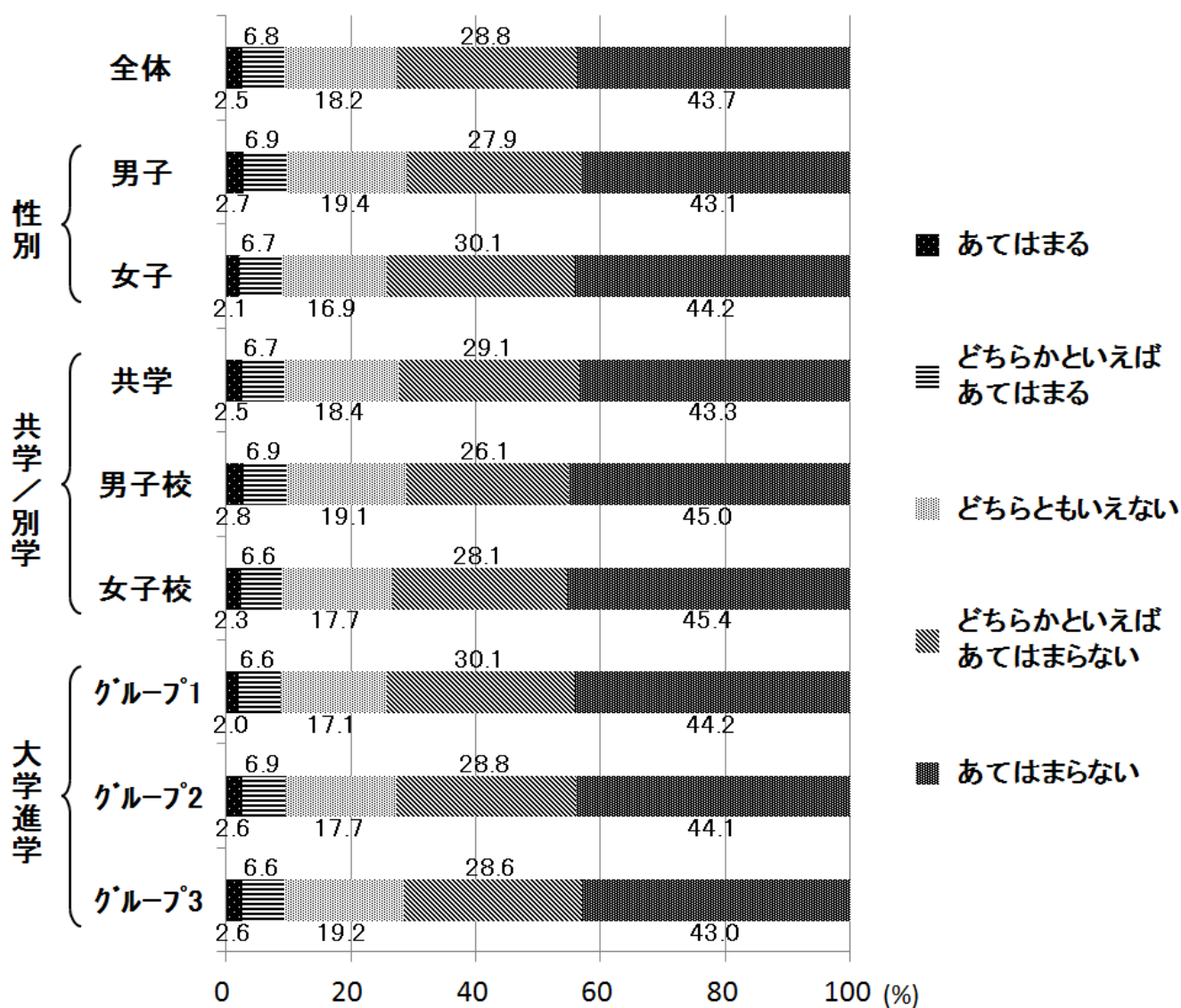
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 5. 友だち関係について ― 続き ―

(5) 友だちといつも連絡をとっていないと不安だ



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	1113	567	464	951	70	41	165	272	616
	2.5	2.7	2.1	2.5	2.8	2.3	2.0	2.6	2.6
どちらかといえばあてはまる	3010	1450	1507	2551	171	117	541	732	1559
	6.8	6.9	6.7	6.7	6.9	6.6	6.6	6.9	6.6
どちらともいえない	8102	4103	3809	7008	471	314	1397	1879	4505
	18.2	19.4	16.9	18.4	19.1	17.7	17.1	17.7	19.2
どちらかといえばあてはまらない	12845	5906	6771	11117	642	499	2458	3064	6719
	28.8	27.9	30.1	29.1	26.1	28.1	30.1	28.8	28.6
あてはまらない	19482	9105	9962	16538	1107	806	3612	4691	10117
	43.7	43.1	44.2	43.3	45.0	45.4	44.2	44.1	43.0
合計	44552	21131	22513	38165	2461	1777	8173	10638	23516
有効回答率	98.3	99.5	99.7	98.2	99.4	98.9	98.6	98.4	98.1

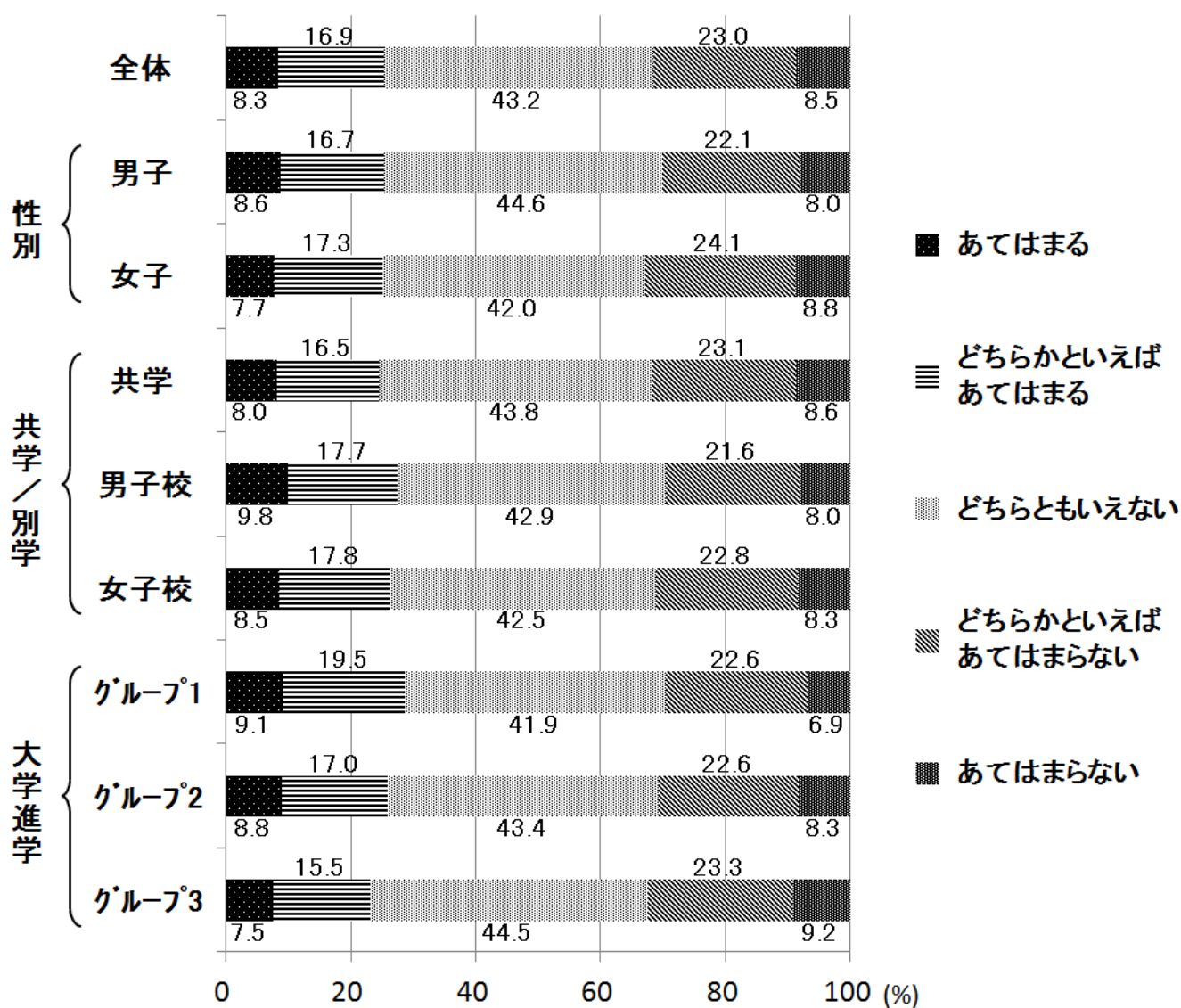
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 5. 友だち関係について ― 続き ―

(6) 友だちとの関係はあっさりしていて、お互い深入りしないようにしている



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	3712	1824	1735	3053	242	152	742	931	1766
	8.3	8.6	7.7	8.0	9.8	8.5	9.1	8.8	7.5
どちらかといえばあてはまる	7538	3522	3906	6305	435	317	1597	1809	3640
	16.9	16.7	17.3	16.5	17.7	17.8	19.5	17.0	15.5
どちらともいえない	19267	9413	9470	16723	1054	756	3425	4615	10469
	43.2	44.6	42.0	43.8	42.9	42.5	41.9	43.4	44.5
どちらかといえばあてはまらない	10247	4666	5438	8800	532	405	1843	2399	5477
	23.0	22.1	24.1	23.1	21.6	22.8	22.6	22.6	23.3
あてはまらない	3791	1700	1973	3283	196	148	562	882	2168
	8.5	8.0	8.8	8.6	8.0	8.3	6.9	8.3	9.2
合計	44555	21125	22522	38164	2459	1778	8169	10636	23520
有効回答率	98.3	99.5	99.7	98.2	99.4	98.9	98.6	98.4	98.1

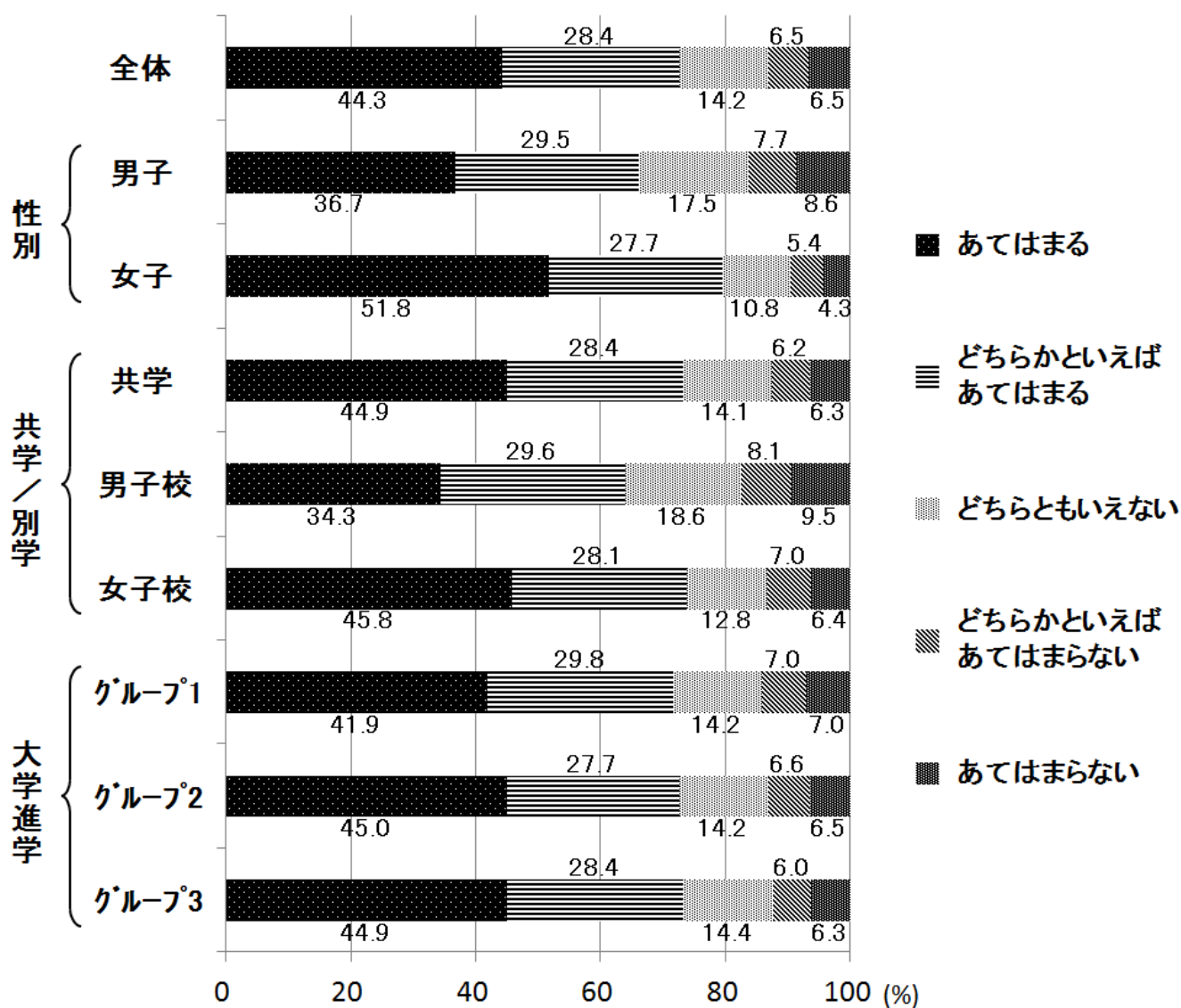
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 5. 友だち関係について ― 続き ―

(7) 一緒に勉強できる友だちがいる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	19744	7761	11677	17152	843	813	3426	4790	10560
	44.3	36.7	51.8	44.9	34.3	45.8	41.9	45.0	44.9
どちらかといえばあてはまる	12672	6233	6230	10857	727	499	2434	2944	6683
	28.4	29.5	27.7	28.4	29.6	28.1	29.8	27.7	28.4
どちらともいえない	6332	3706	2432	5388	458	227	1163	1513	3387
	14.2	17.5	10.8	14.1	18.6	12.8	14.2	14.2	14.4
どちらかといえばあてはまらない	2897	1622	1211	2372	199	125	574	699	1419
	6.5	7.7	5.4	6.2	8.1	7.0	7.0	6.6	6.0
あてはまらない	2916	1810	971	2398	233	113	573	690	1473
	6.5	8.6	4.3	6.3	9.5	6.4	7.0	6.5	6.3
合計	44561	21132	22521	38167	2460	1777	8170	10636	23522
有効回答率	98.3	99.5	99.7	98.2	99.4	98.9	98.6	98.4	98.1

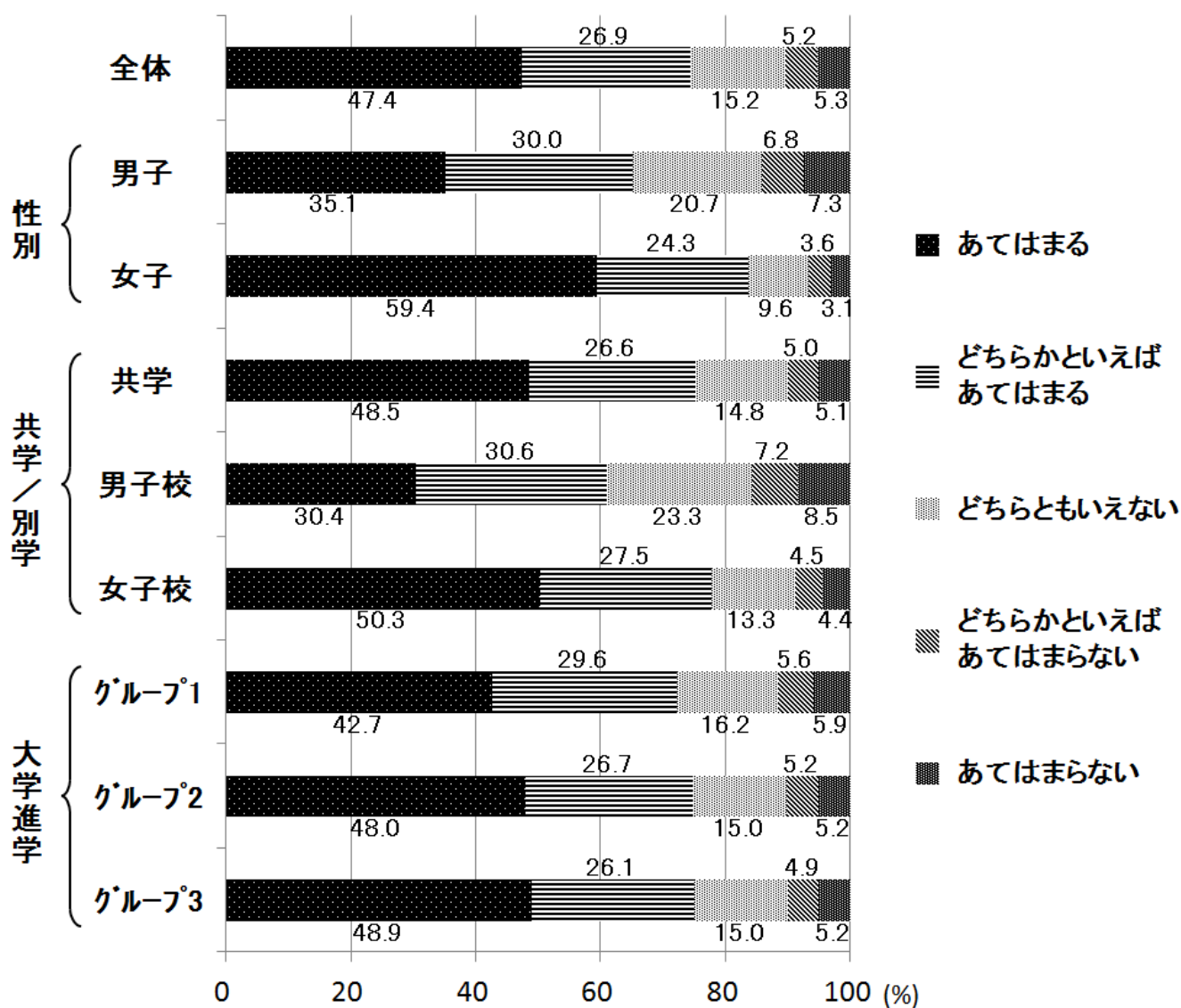
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 5. 友だち関係について ― 続き ―

(8) 悩みごとなど相談できる友だちがいる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	21106	7417	13366	18484	748	894	3485	5101	11499
	47.4	35.1	59.4	48.5	30.4	50.3	42.7	48.0	48.9
どちらかといえばあてはまる	11987	6341	5465	10165	752	488	2416	2833	6139
	26.9	30.0	24.3	26.6	30.6	27.5	29.6	26.7	26.1
どちらともいえない	6753	4376	2162	5632	574	236	1323	1589	3520
	15.2	20.7	9.6	14.8	23.3	13.3	16.2	15.0	15.0
どちらかといえばあてはまらない	2303	1435	816	1905	176	80	460	552	1145
	5.2	6.8	3.6	5.0	7.2	4.5	5.6	5.2	4.9
あてはまらない	2381	1549	695	1962	210	79	483	552	1212
	5.3	7.3	3.1	5.1	8.5	4.4	5.9	5.2	5.2
合計	44530	21118	22504	38148	2460	1777	8167	10627	23515
有効回答率	98.3	99.4	99.6	98.1	99.4	98.9	98.6	98.3	98.1

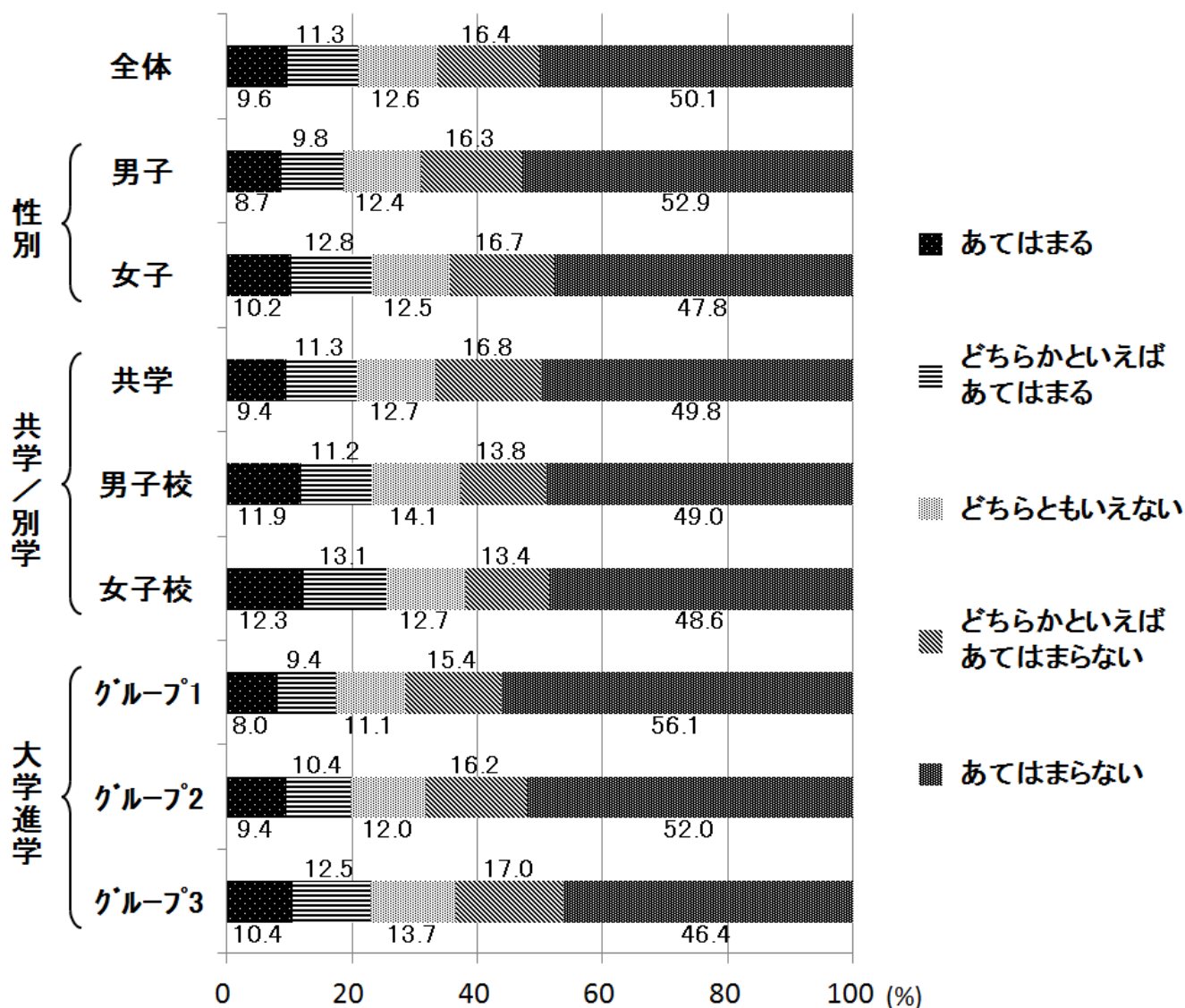
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 5. 友だち関係について ― 続き ―

(9) SNS(mixi や GREE, Mobage, Facebook など)上で会ったことのない友だちがたくさんいる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
あてはまる	4266	1828	2287	3590	293	218	654	1003	2435
どちらかといえばあてはまる	5029	2060	2886	4300	276	233	768	1103	2934
どちらともいえない	5605	2609	2812	4835	346	225	904	1269	3229
どちらかといえばあてはまらない	7316	3435	3762	6397	339	237	1261	1720	3981
あてはまらない	22280	11164	10748	18985	1206	862	4577	5524	10905
合計	44496	21096	22495	38107	2460	1775	8164	10619	23484
有効回答率	98.2	99.3	99.6	98.0	99.4	98.8	98.5	98.2	98.0

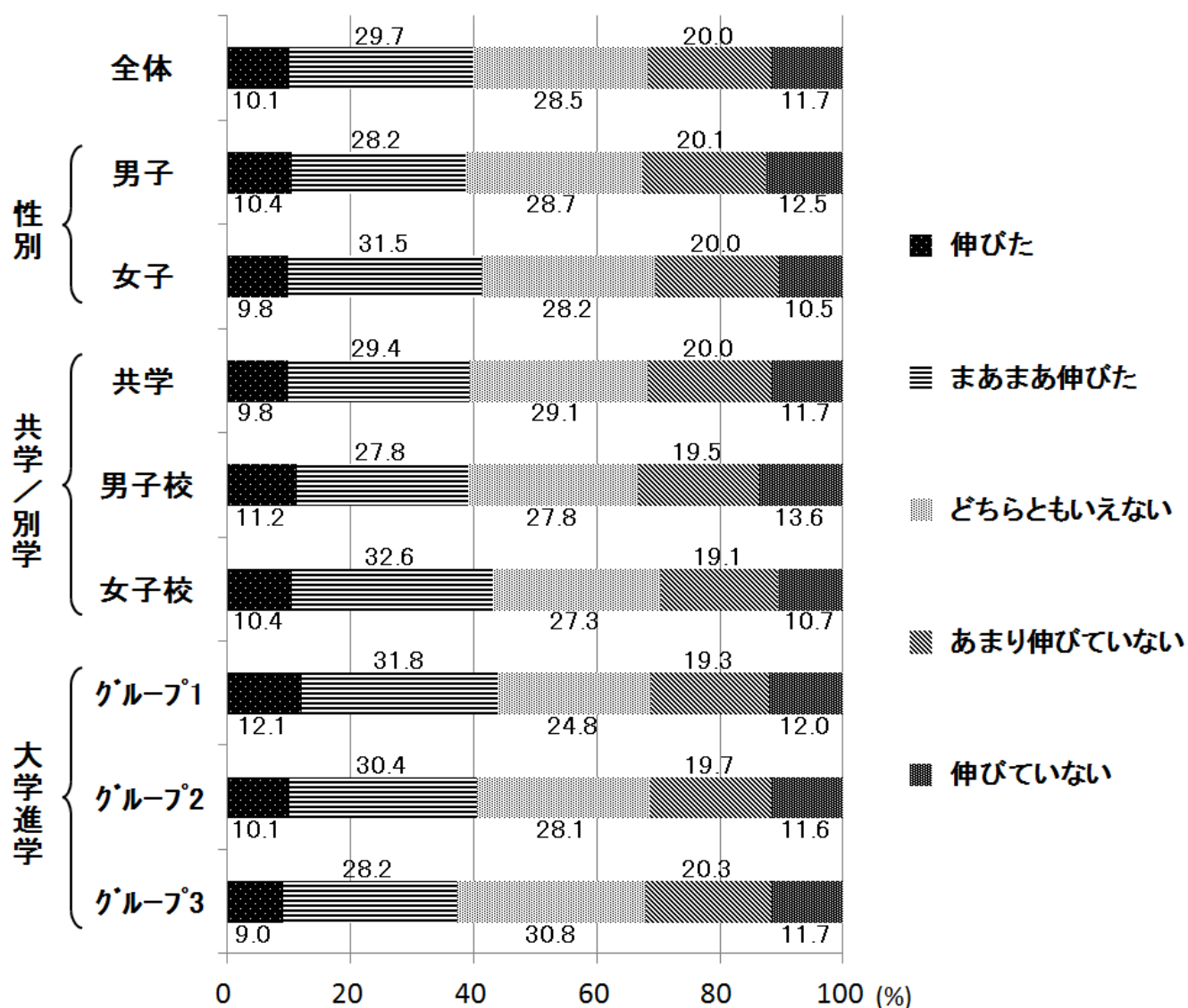
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って)

(1) 計画や目標を立てて日々を過ごすことができる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	4476	2177	2194	3711	273	181	981	1066	2106
	10.1	10.4	9.8	9.8	11.2	10.4	12.1	10.1	9.0
まあまあ伸びた	13098	5917	7021	11131	677	569	2581	3201	6568
	29.7	28.2	31.5	29.4	27.8	32.6	31.8	30.4	28.2
どちらともいえない	12596	6012	6289	11006	676	476	2010	2957	7175
	28.5	28.7	28.2	29.1	27.8	27.3	24.8	28.1	30.8
あまり伸びていない	8834	4214	4461	7572	475	333	1561	2075	4726
	20.0	20.1	20.0	20.0	19.5	19.1	19.3	19.7	20.3
伸びていない	5164	2626	2354	4415	330	187	974	1221	2734
	11.7	12.5	10.5	11.7	13.6	10.7	12.0	11.6	11.7
合計	44168	20946	22319	37835	2431	1746	8107	10520	23309
有効回答率	97.5	98.6	98.8	97.3	98.2	97.2	97.8	97.3	97.2

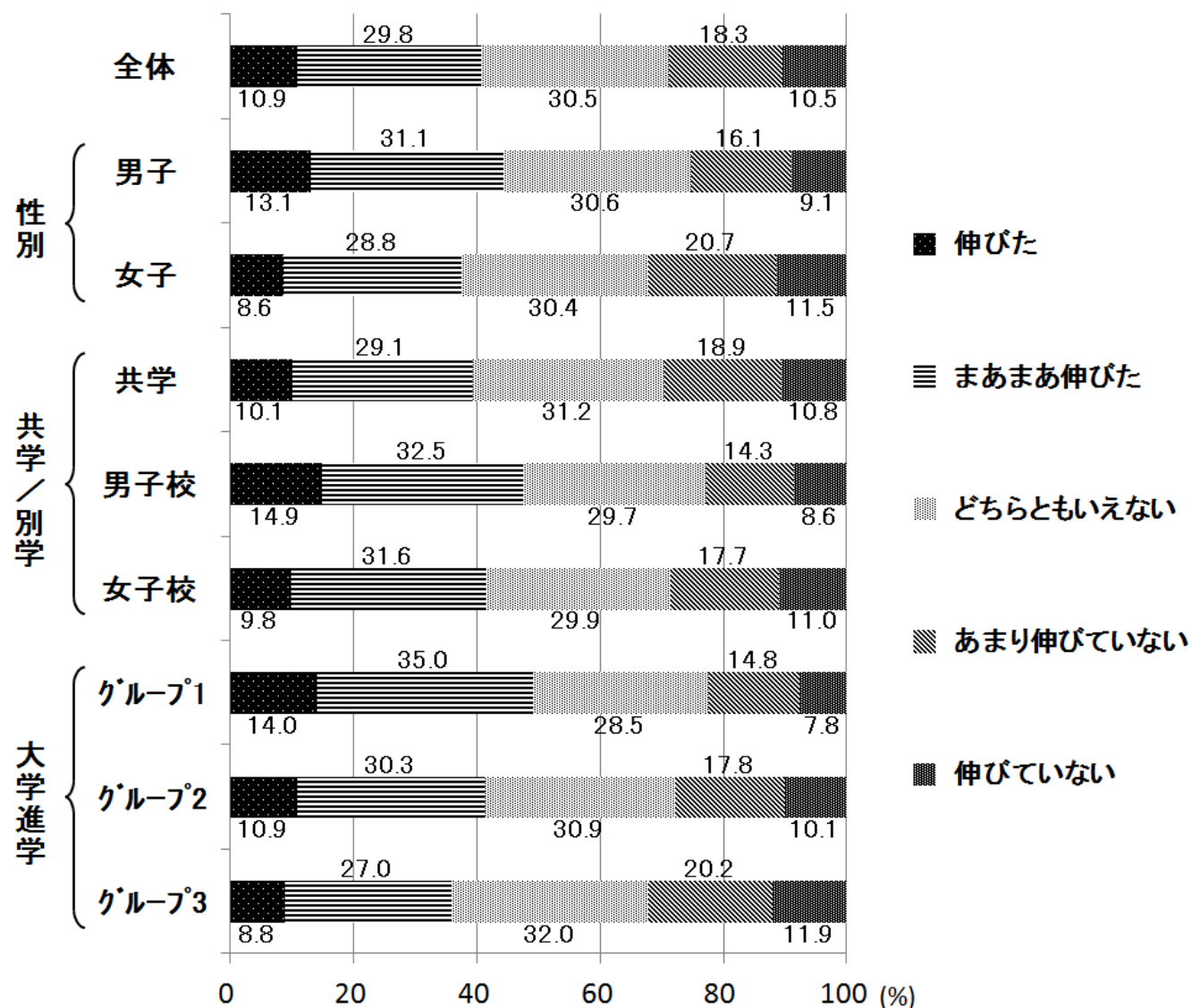
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) ― 続き ―

(2) 社会の問題に対して分析したり考えたりすることができる



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	4835	2770	1933	3846	367	174	1143	1152	2072
	10.9	13.1	8.6	10.1	14.9	9.8	14.0	10.9	8.8
まあまあ伸びた	13237	6560	6485	11080	798	559	2853	3212	6344
	29.8	31.1	28.8	29.1	32.5	31.6	35.0	30.3	27.0
どちらともいえない	13588	6458	6828	11886	729	529	2323	3284	7521
	30.5	30.6	30.4	31.2	29.7	29.9	28.5	30.9	32.0
あまり伸びていない	8154	3386	4650	7185	352	314	1208	1891	4744
	18.3	16.1	20.7	18.9	14.3	17.7	14.8	17.8	20.2
伸びていない	4673	1919	2587	4110	210	195	636	1075	2800
	10.5	9.1	11.5	10.8	8.6	11.0	7.8	10.1	11.9
合計	44487	21093	22483	38107	2456	1771	8163	10614	23481
有効回答率	98.2	99.3	99.5	98.0	99.2	98.6	98.5	98.2	97.9

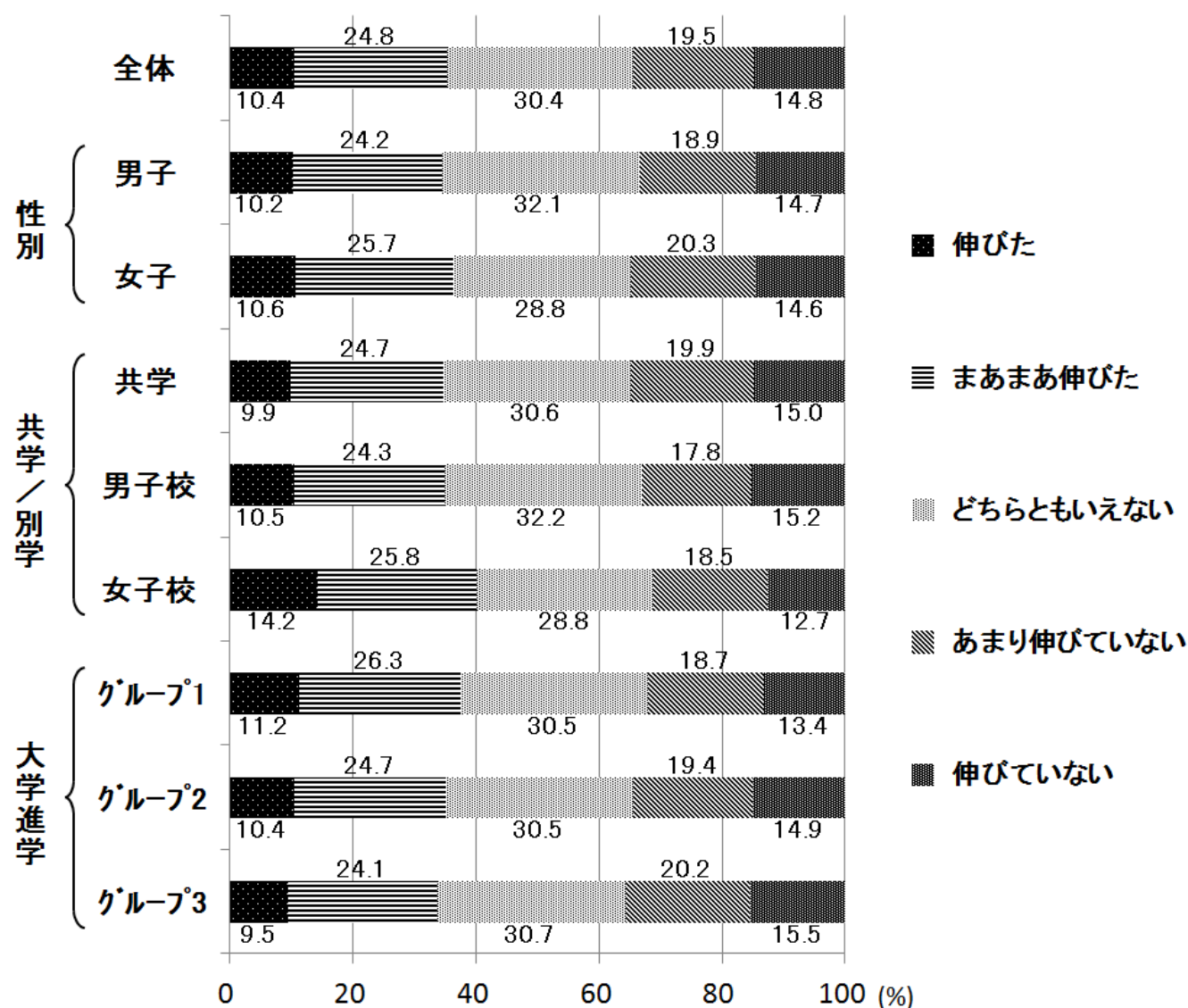
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) ― 続き ―

(3) リーダーシップをとることができる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	4640	2144	2393	3754	259	251	913	1105	2230
	10.4	10.2	10.6	9.9	10.5	14.2	11.2	10.4	9.5
まあまあ伸びた	11039	5095	5771	9391	596	457	2143	2624	5654
	24.8	24.2	25.7	24.7	24.3	25.8	26.3	24.7	24.1
どちらともいえない	13525	6770	6463	11660	790	511	2488	3240	7213
	30.4	32.1	28.8	30.6	32.2	28.8	30.5	30.5	30.7
あまり伸びていない	8675	3977	4565	7570	438	328	1527	2064	4735
	19.5	18.9	20.3	19.9	17.8	18.5	18.7	19.4	20.2
伸びていない	6592	3098	3284	5716	372	226	1091	1579	3637
	14.8	14.7	14.6	15.0	15.2	12.7	13.4	14.9	15.5
合計	44471	21084	22476	38091	2455	1773	8162	10612	23469
有効回答率	98.1	99.3	99.5	98.0	99.2	98.7	98.5	98.1	97.9

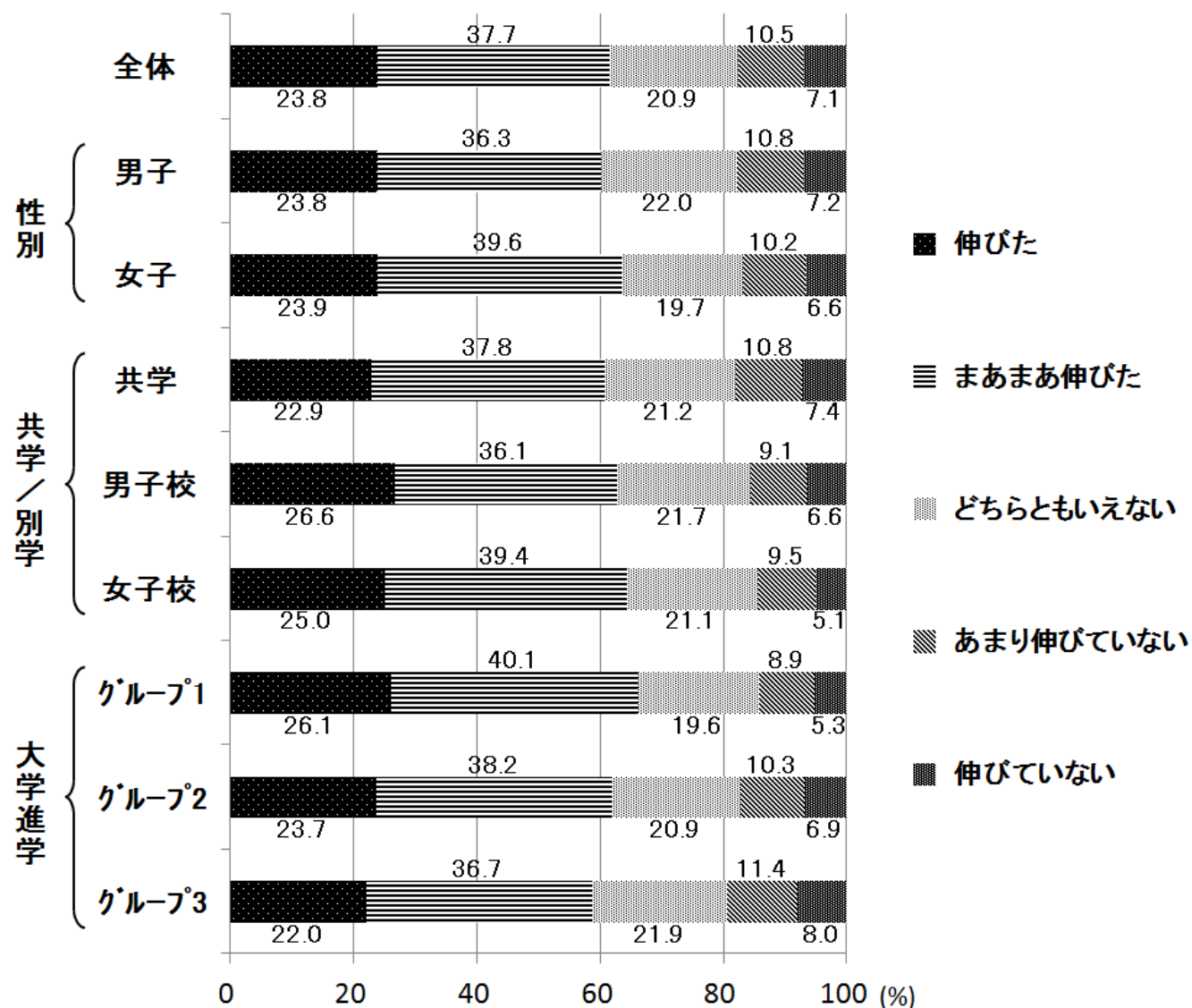
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) — 続き —

(4) 図書館やインターネットを利用して必要な情報を得たり、わからないことを調べたりすることができる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	10606	5020	5385	8738	653	443	2132	2513	5163
	23.8	23.8	23.9	22.9	26.6	25.0	26.1	23.7	22.0
まあまあ伸びた	16808	7657	8925	14405	887	699	3278	4059	8626
	37.7	36.3	39.6	37.8	36.1	39.4	40.1	38.2	36.7
どちらともいえない	9317	4637	4430	8082	533	374	1600	2224	5154
	20.9	22.0	19.7	21.2	21.7	21.1	19.6	20.9	21.9
あまり伸びていない	4659	2280	2291	4111	224	168	726	1090	2682
	10.5	10.8	10.2	10.8	9.1	9.5	8.9	10.3	11.4
伸びていない	3144	1519	1480	2809	161	91	435	732	1888
	7.1	7.2	6.6	7.4	6.6	5.1	5.3	6.9	8.0
合計	44534	21113	22511	38145	2458	1775	8171	10618	23513
有効回答率	98.3	99.4	99.7	98.1	99.3	98.8	98.6	98.2	98.1

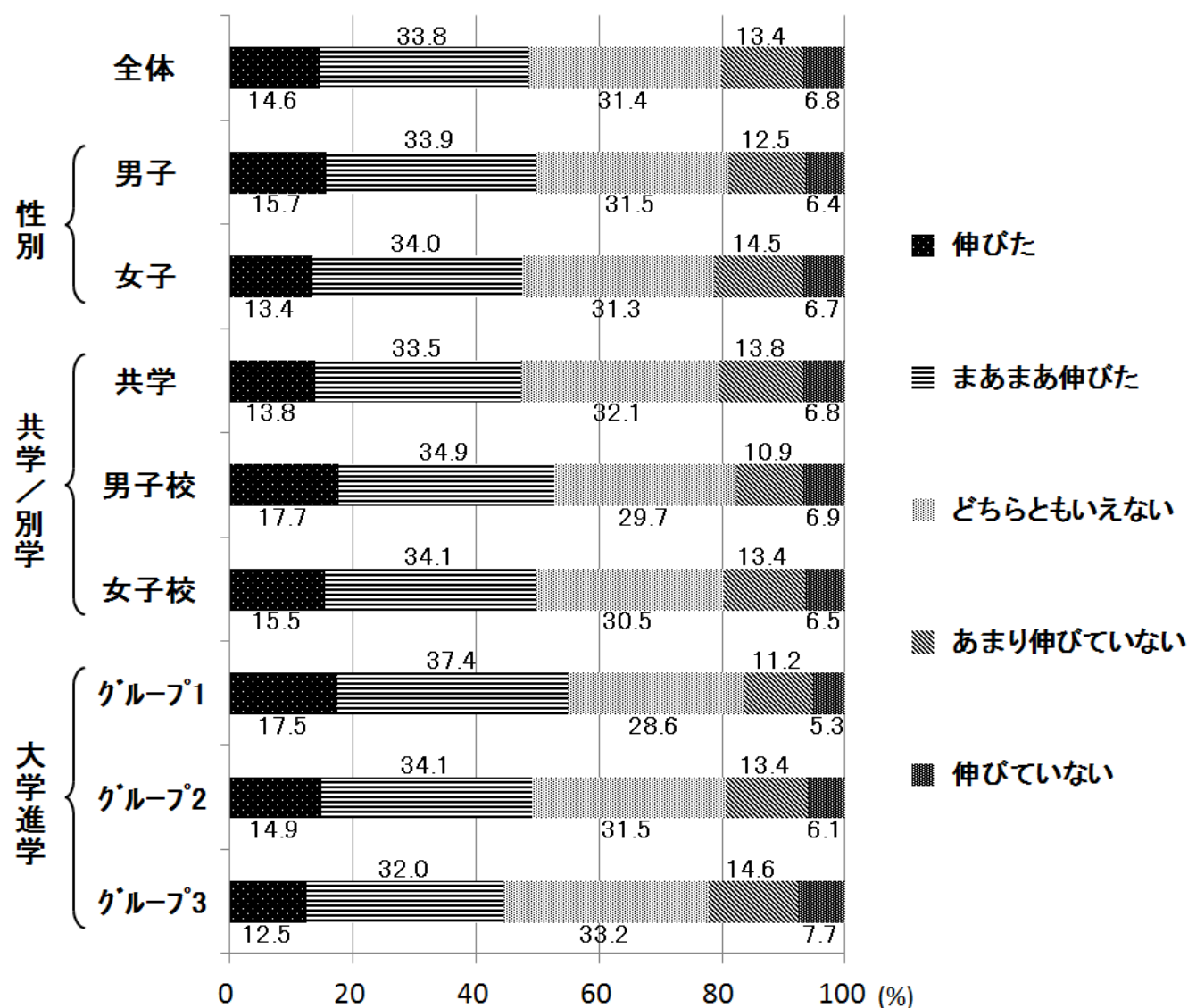
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) — 続き —

(5) 他の人と議論することができる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	6484	3316	3019	5271	435	275	1426	1578	2946
	14.6	15.7	13.4	13.8	17.7	15.5	17.5	14.9	12.5
まあまあ伸びた	15043	7159	7661	12768	858	604	3058	3625	7525
	33.8	33.9	34.0	33.5	34.9	34.1	37.4	34.1	32.0
どちらともいえない	13999	6655	7052	12228	729	541	2339	3341	7801
	31.4	31.5	31.3	32.1	29.7	30.5	28.6	31.5	33.2
あまり伸びていない	5981	2631	3255	5255	267	238	913	1422	3420
	13.4	12.5	14.5	13.8	10.9	13.4	11.2	13.4	14.6
伸びていない	3012	1344	1519	2608	169	115	435	651	1805
	6.8	6.4	6.7	6.8	6.9	6.5	5.3	6.1	7.7
合計	44519	21105	22506	38130	2458	1773	8171	10617	23497
有効回答率	98.3	99.4	99.7	98.1	99.3	98.7	98.6	98.2	98.0

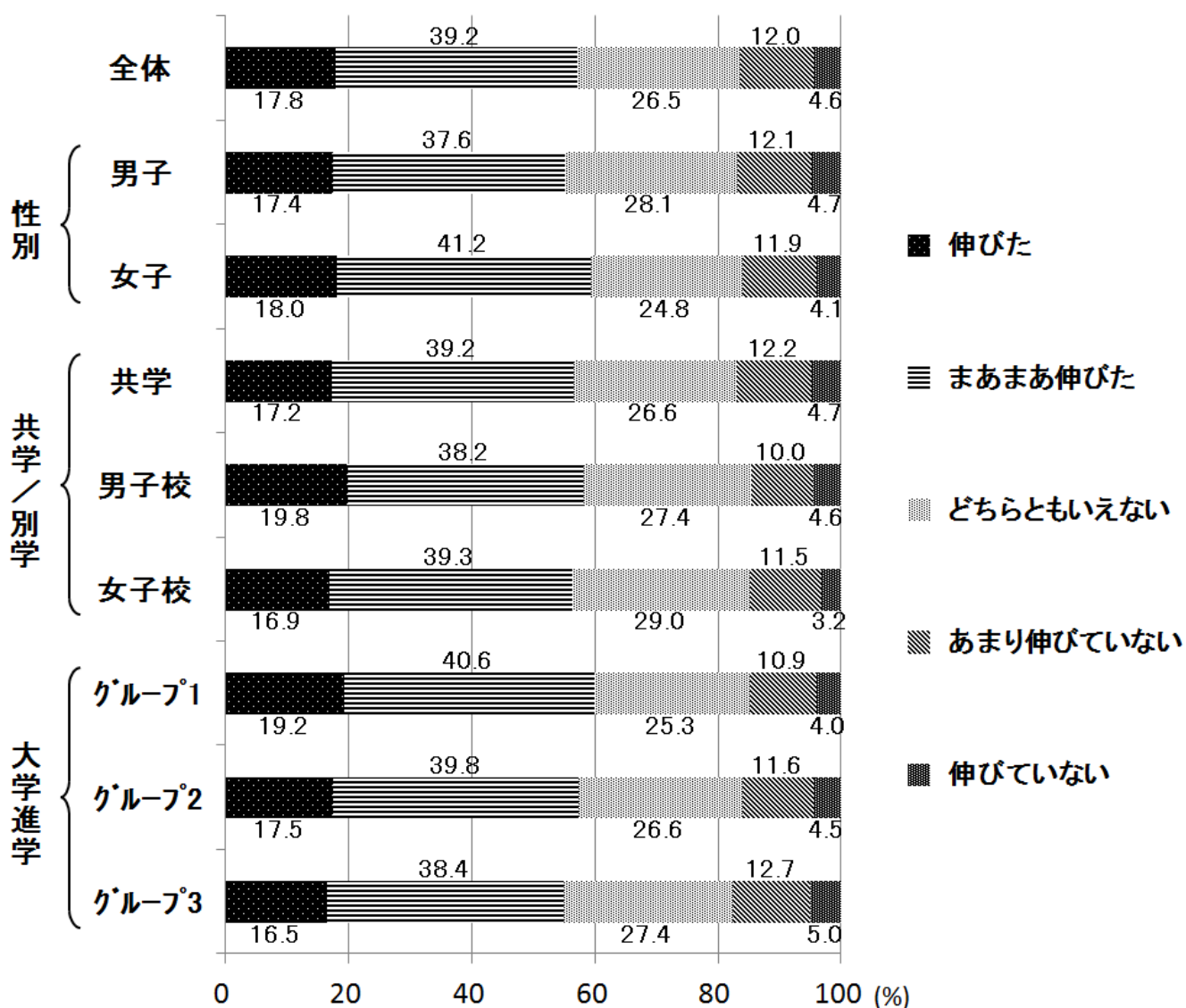
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) — 続き —

(6) 自分の言葉で文章を書くことができる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	7908	3682	4045	6559	487	300	1571	1861	3884
	17.8	17.4	18.0	17.2	19.8	16.9	19.2	17.5	16.5
まあまあ伸びた	17440	7942	9275	14968	938	697	3320	4230	9031
	39.2	37.6	41.2	39.2	38.2	39.3	40.6	39.8	38.4
どちらともいえない	11782	5937	5568	10146	672	515	2066	2820	6430
	26.5	28.1	24.8	26.6	27.4	29.0	25.3	26.6	27.4
あまり伸びていない	5345	2562	2688	4669	245	204	890	1233	2992
	12.0	12.1	11.9	12.2	10.0	11.5	10.9	11.6	12.7
伸びていない	2046	992	919	1796	114	57	323	474	1166
	4.6	4.7	4.1	4.7	4.6	3.2	4.0	4.5	5.0
合計	44521	21115	22495	38138	2456	1773	8170	10618	23503
有効回答率	98.3	99.4	99.6	98.1	99.2	98.7	98.6	98.2	98.0

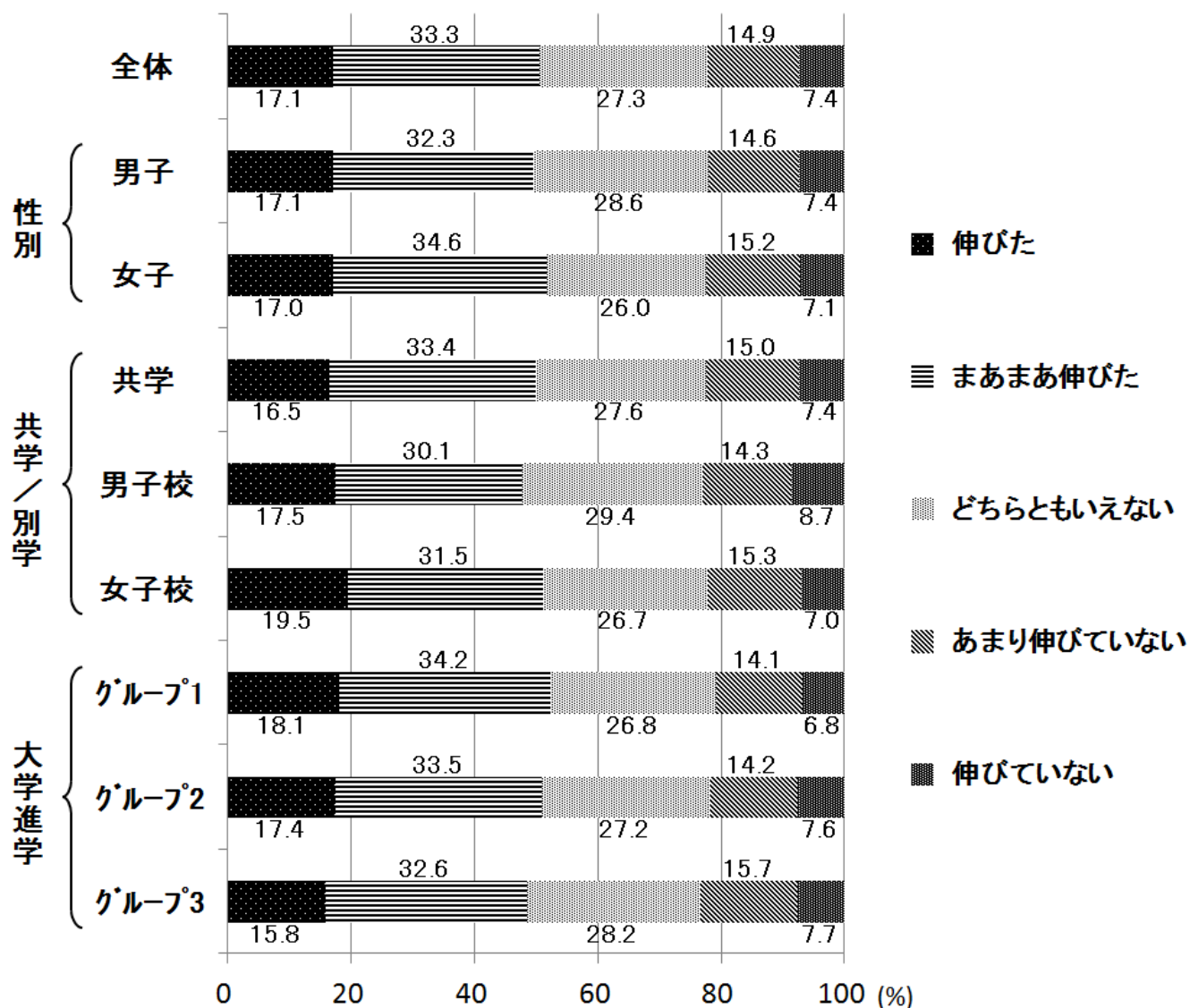
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) — 続き —

(7) 人前で発表をすることができる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	7602	3611	3830	6287	429	346	1480	1846	3705
	17.1	17.1	17.0	16.5	17.5	19.5	18.1	17.4	15.8
まあまあ伸びた	14811	6819	7792	12743	740	559	2795	3560	7665
	33.3	32.3	34.6	33.4	30.1	31.5	34.2	33.5	32.6
どちらともいえない	12156	6038	5847	10518	723	473	2189	2886	6626
	27.3	28.6	26.0	27.6	29.4	26.7	26.8	27.2	28.2
あまり伸びていない	6626	3078	3425	5735	350	271	1152	1511	3685
	14.9	14.6	15.2	15.0	14.3	15.3	14.1	14.2	15.7
伸びていない	3311	1556	1602	2839	214	125	552	809	1815
	7.4	7.4	7.1	7.4	8.7	7.0	6.8	7.6	7.7
合計	44506	21102	22496	38122	2456	1774	8168	10612	23496
有効回答率	98.2	99.3	99.6	98.1	99.2	98.7	98.6	98.1	98.0

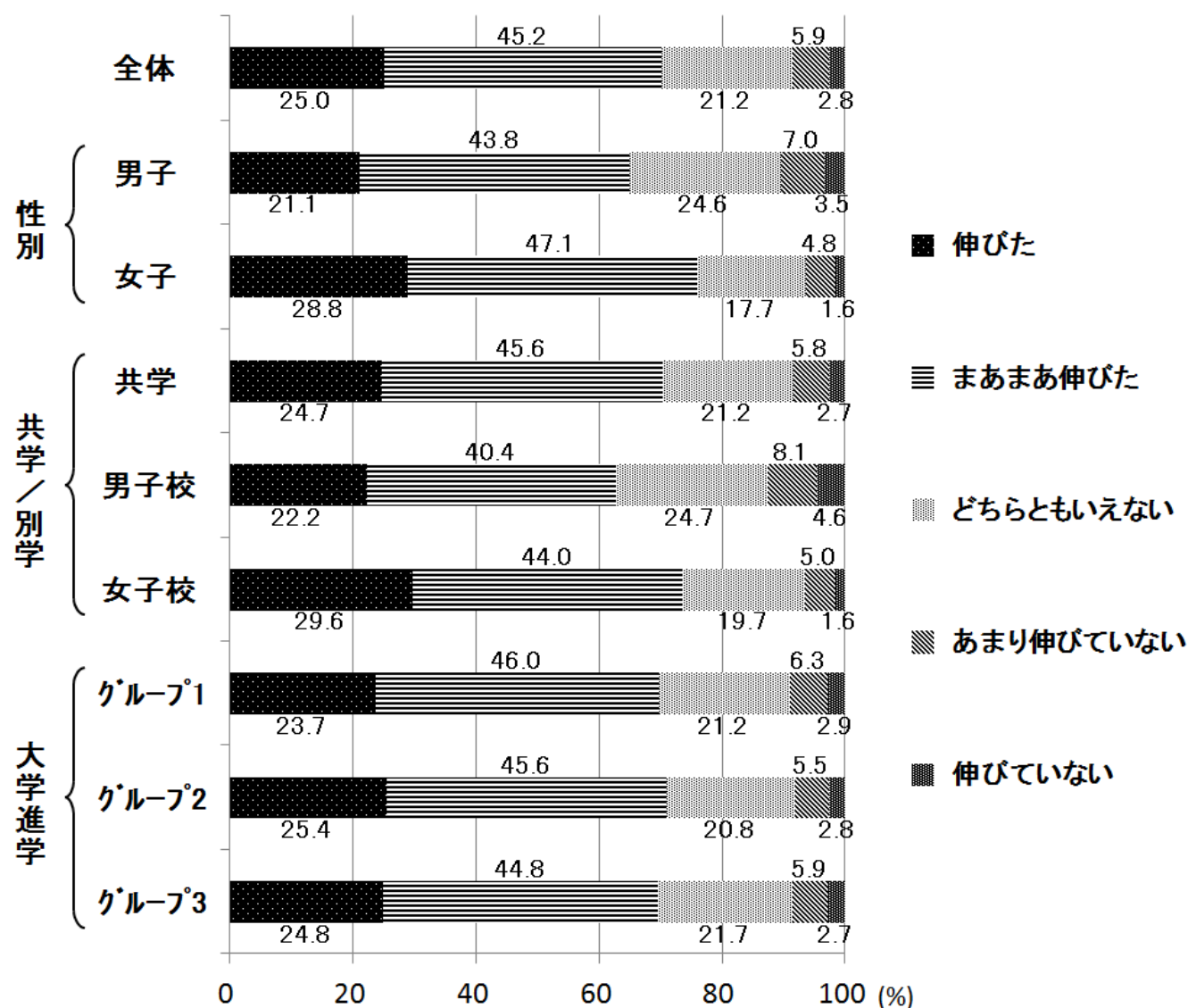
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) — 続き —

(8) 他の人と協力してもの事に取り組める



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	11105	4461	6480	9412	546	525	1937	2692	5822
	25.0	21.1	28.8	24.7	22.2	29.6	23.7	25.4	24.8
まあまあ伸びた	20105	9241	10593	17377	991	780	3752	4839	10535
	45.2	43.8	47.1	45.6	40.4	44.0	46.0	45.6	44.8
どちらともいえない	9426	5185	3974	8090	605	349	1728	2208	5093
	21.2	24.6	17.7	21.2	24.7	19.7	21.2	20.8	21.7
あまり伸びていない	2630	1473	1075	2206	198	88	511	580	1396
	5.9	7.0	4.8	5.8	8.1	5.0	6.3	5.5	5.9
伸びていない	1226	736	365	1034	114	29	236	293	646
	2.8	3.5	1.6	2.7	4.6	1.6	2.9	2.8	2.7
合計	44492	21096	22487	38119	2454	1771	8164	10612	23492
有効回答率	98.2	99.3	99.6	98.1	99.2	98.6	98.5	98.1	98.0

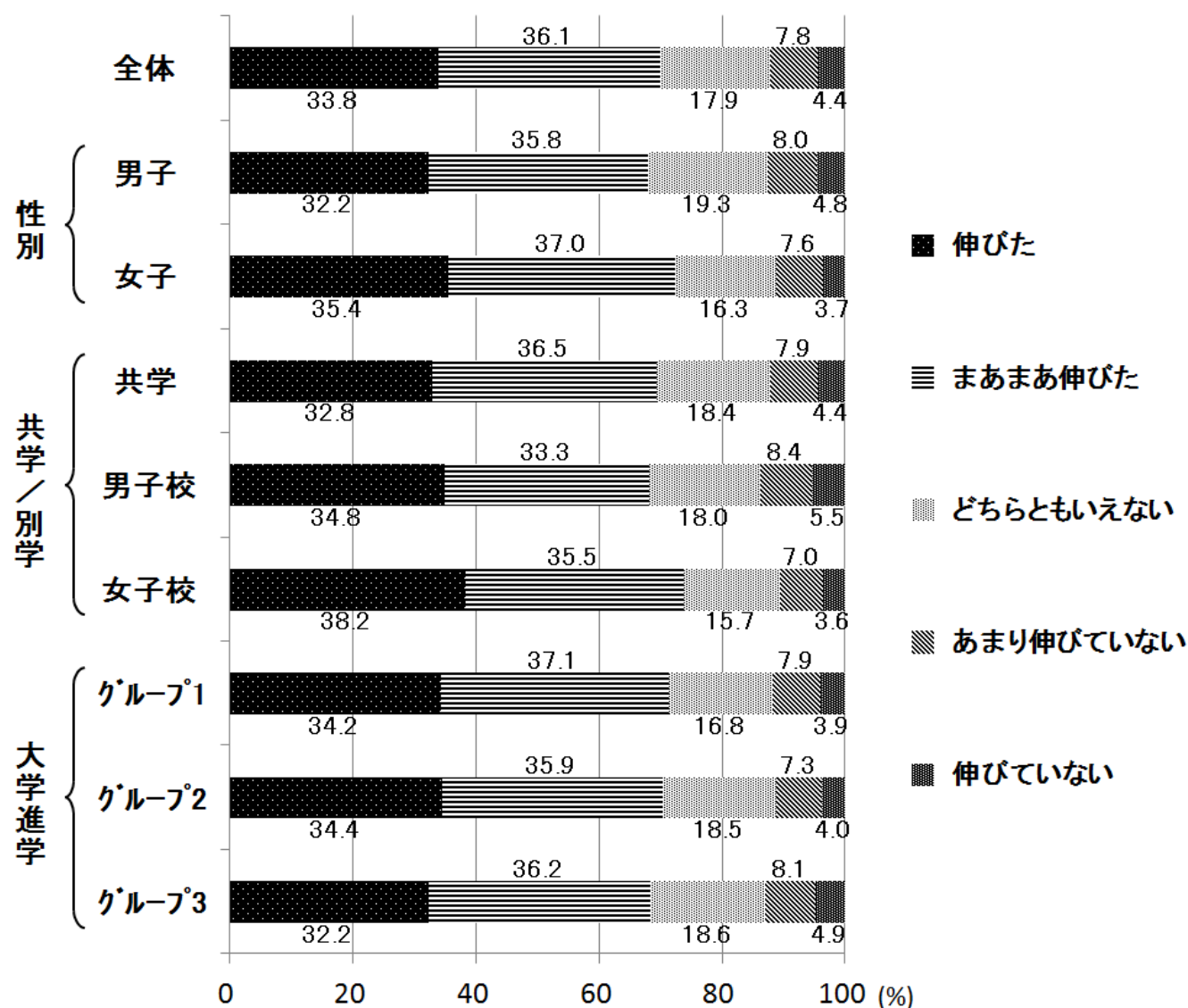
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) ― 続き ―

(9) コンピュータやインターネットを操作することができる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	15031	6795	7958	12501	855	677	2794	3650	7559
	33.8	32.2	35.4	32.8	34.8	38.2	34.2	34.4	32.2
まあまあ伸びた	16093	7548	8322	13939	819	628	3030	3815	8517
	36.1	35.8	37.0	36.5	33.3	35.5	37.1	35.9	36.2
どちらともいえない	7983	4069	3676	7003	442	278	1376	1964	4374
	17.9	19.3	16.3	18.4	18.0	15.7	16.8	18.5	18.6
あまり伸びていない	3469	1692	1710	3006	206	124	647	771	1910
	7.8	8.0	7.6	7.9	8.4	7.0	7.9	7.3	8.1
伸びていない	1948	1005	835	1695	134	64	322	422	1144
	4.4	4.8	3.7	4.4	5.5	3.6	3.9	4.0	4.9
合計	44524	21109	22501	38144	2456	1771	8169	10622	23504
有効回答率	98.3	99.4	99.6	98.1	99.2	98.6	98.6	98.2	98.0

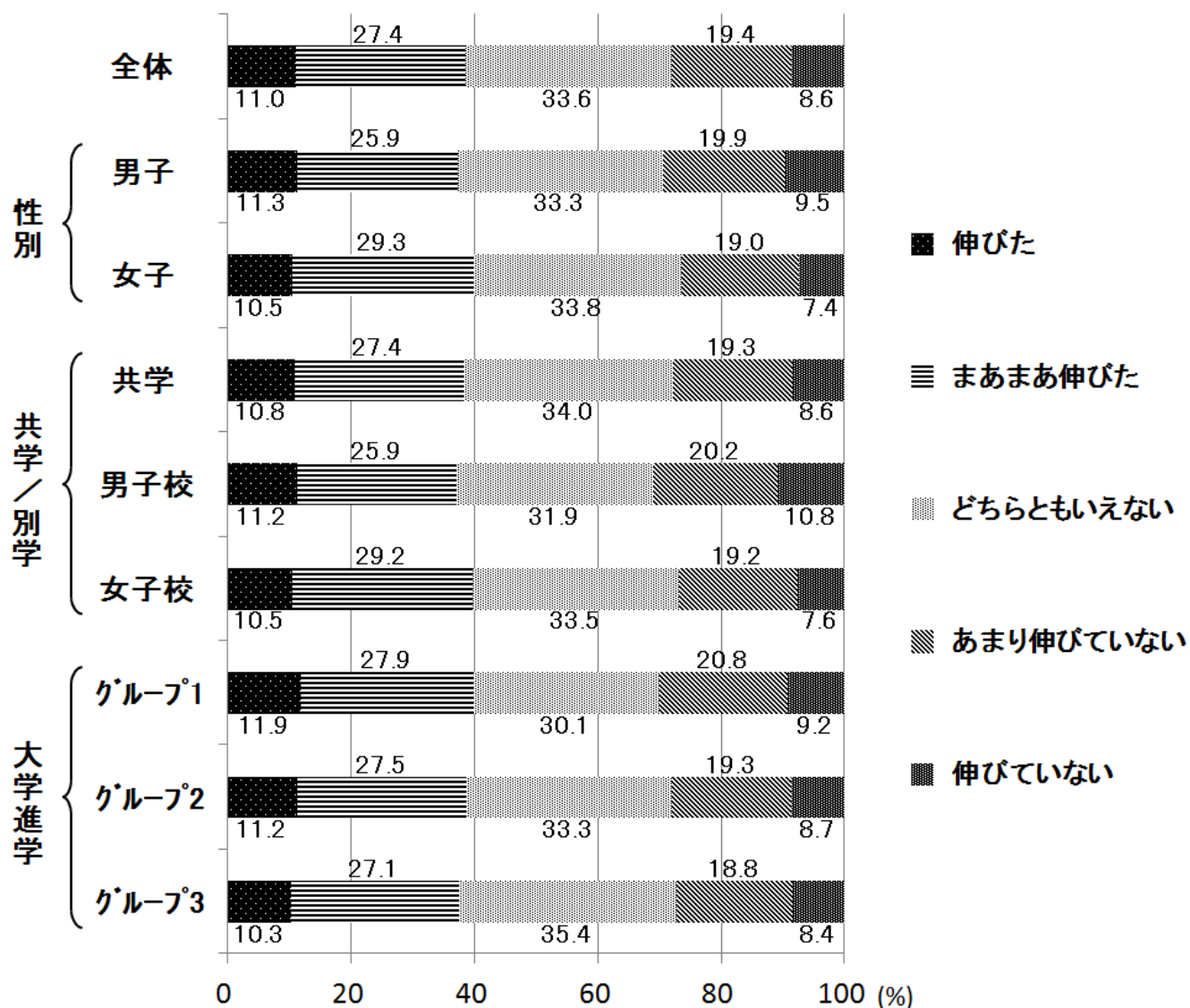
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) — 続き —

(10) 時間を有効に使うことができる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	4874	2388	2363	4129	276	186	971	1193	2412
	11.0	11.3	10.5	10.8	11.2	10.5	11.9	11.2	10.3
まあまあ伸びた	12217	5471	6590	10435	635	518	2282	2920	6364
	27.4	25.9	29.3	27.4	25.9	29.2	27.9	27.5	27.1
どちらともいえない	14957	7025	7607	12955	784	593	2461	3535	8312
	33.6	33.3	33.8	34.0	31.9	33.5	30.1	33.3	35.4
あまり伸びていない	8625	4204	4273	7351	495	340	1700	2051	4428
	19.4	19.9	19.0	19.3	20.2	19.2	20.8	19.3	18.8
伸びていない	3837	2010	1666	3264	266	134	754	920	1982
	8.6	9.5	7.4	8.6	10.8	7.6	9.2	8.7	8.4
合計	44510	21098	22499	38134	2456	1771	8168	10619	23498
有効回答率	98.2	99.3	99.6	98.1	99.2	98.6	98.6	98.2	98.0

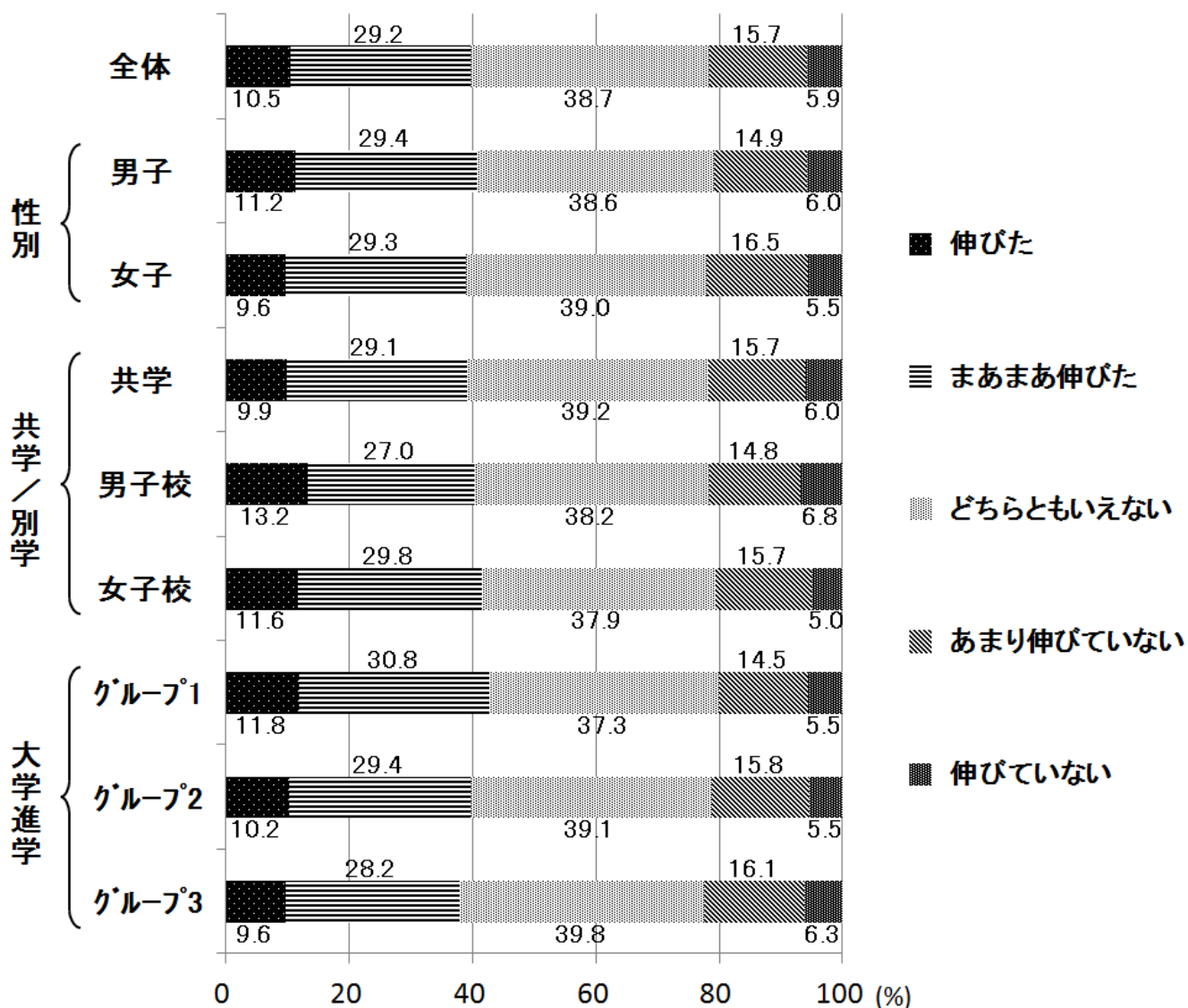
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) — 続き —

(11) 新しいアイデアを得たり発見したりすることができる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	4663	2355	2165	3791	325	205	965	1083	2256
	10.5	11.2	9.6	9.9	13.2	11.6	11.8	10.2	9.6
まあまあ伸びた	12978	6194	6600	11113	663	527	2518	3125	6630
	29.2	29.4	29.3	29.1	27.0	29.8	30.8	29.4	28.2
どちらともいえない	17239	8137	8773	14949	938	670	3048	4148	9342
	38.7	38.6	39.0	39.2	38.2	37.9	37.3	39.1	39.8
あまり伸びていない	6980	3141	3720	6005	362	278	1182	1676	3781
	15.7	14.9	16.5	15.7	14.8	15.7	14.5	15.8	16.1
伸びていない	2643	1275	1233	2271	166	88	450	589	1482
	5.9	6.0	5.5	6.0	6.8	5.0	5.5	5.5	6.3
合計	44503	21102	22491	38129	2454	1768	8163	10621	23491
有効回答率	98.2	99.3	99.6	98.1	99.2	98.4	98.5	98.2	98.0

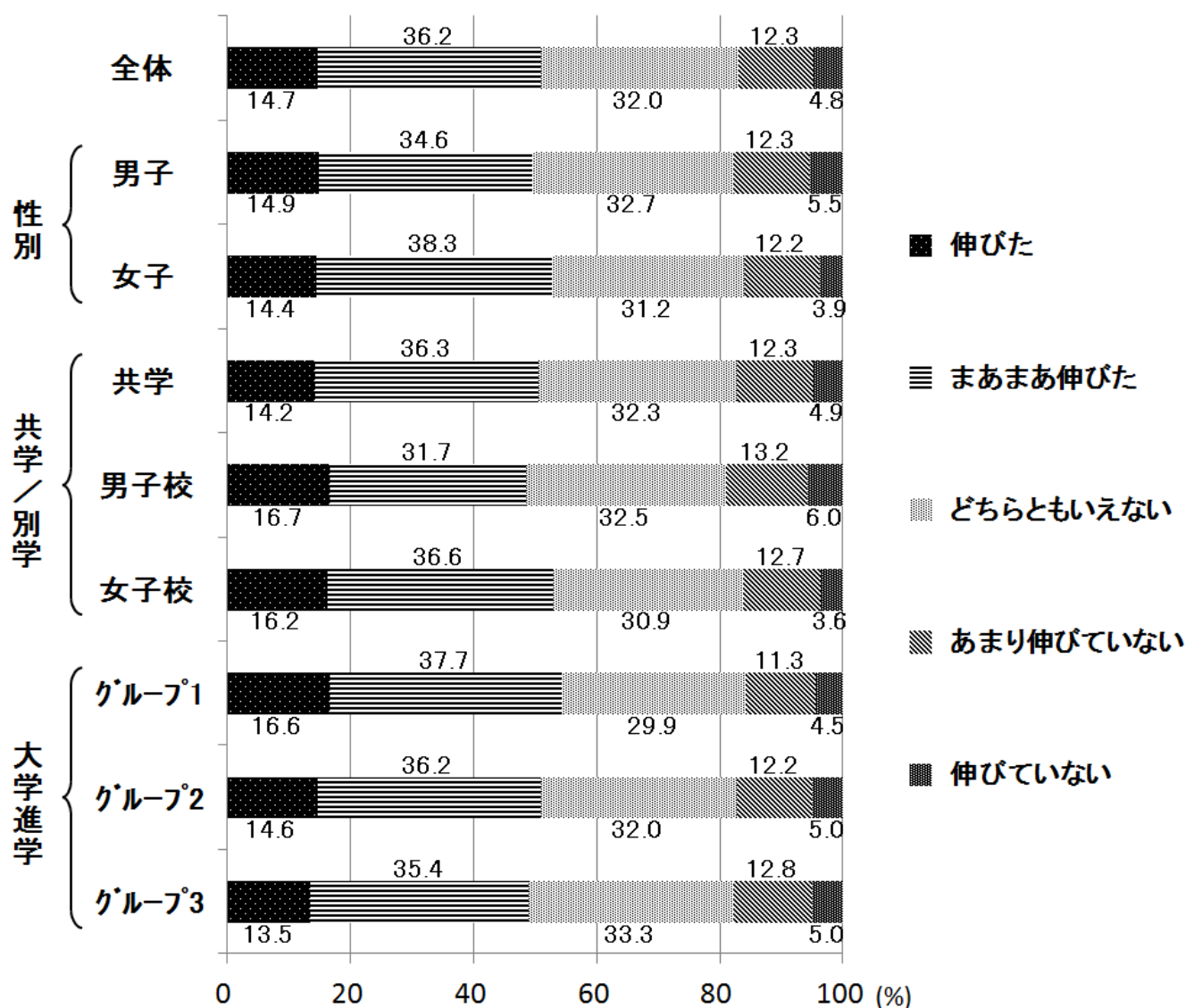
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) — 続き —

(12) 困難なことでもチャレンジすることができる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	6537	3154	3241	5409	409	286	1360	1552	3166
	14.7	14.9	14.4	14.2	16.7	16.2	16.6	14.6	13.5
まあまあ伸びた	16108	7294	8620	13848	778	648	3078	3846	8326
	36.2	34.6	38.3	36.3	31.7	36.6	37.7	36.2	35.4
どちらともいえない	14244	6904	7018	12334	797	547	2441	3397	7820
	32.0	32.7	31.2	32.3	32.5	30.9	29.9	32.0	33.3
あまり伸びていない	5465	2595	2746	4675	324	225	923	1295	3002
	12.3	12.3	12.2	12.3	13.2	12.7	11.3	12.2	12.8
伸びていない	2158	1158	871	1865	147	64	367	528	1179
	4.8	5.5	3.9	4.9	6.0	3.6	4.5	5.0	5.0
合計	44512	21105	22496	38131	2455	1770	8169	10618	23493
有効回答率	98.2	99.4	99.6	98.1	99.2	98.5	98.6	98.2	98.0

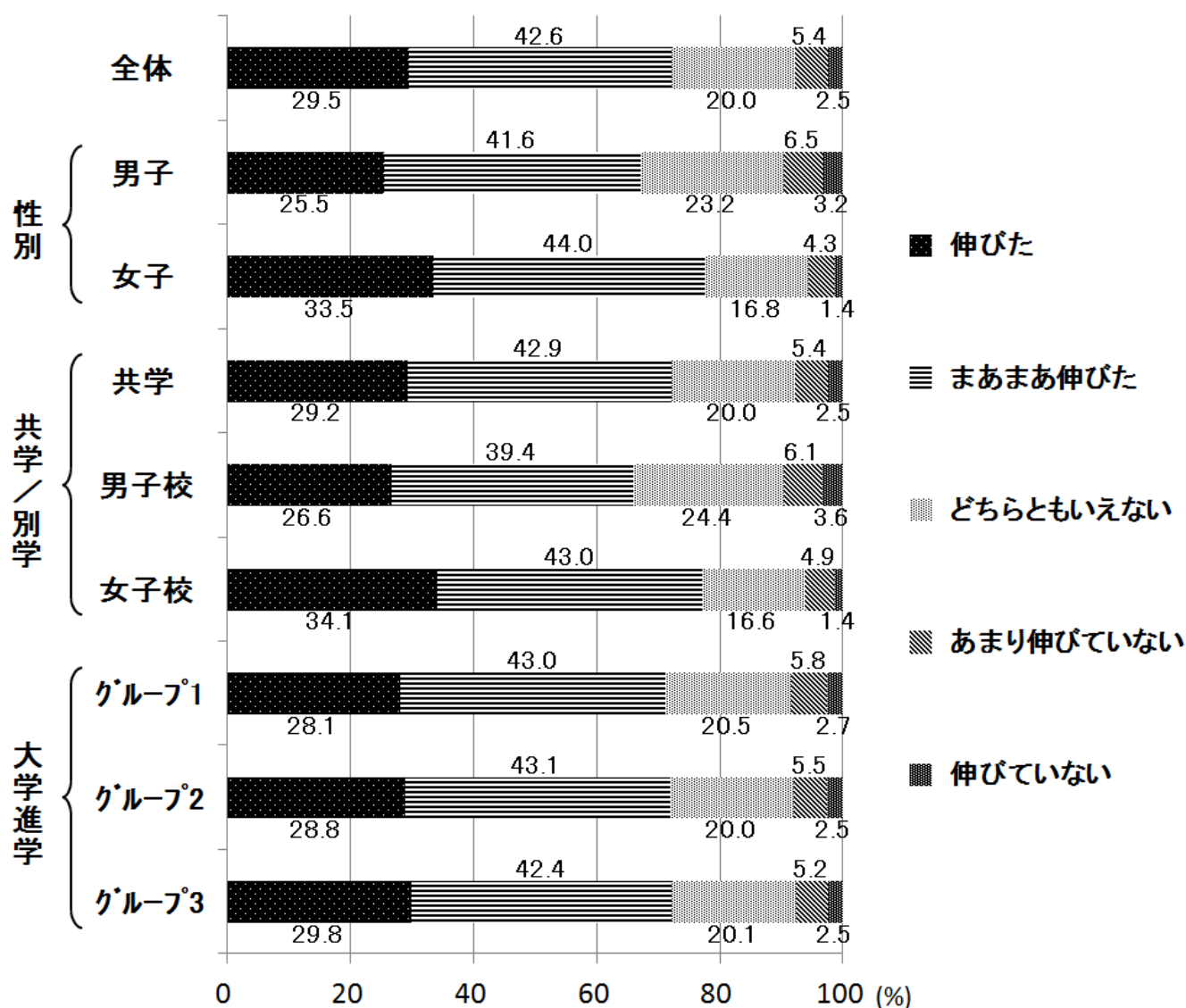
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) ― 続き ―

(13) 人の話を聞くことができる



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	13120 29.5	5386 25.5	7530 33.5	11120 29.2	652 26.6	604 34.1	2291 28.1	3059 28.8	6998 29.8
まあまあ伸びた	18940 42.6	8786 41.6	9899 44.0	16348 42.9	967 39.4	763 43.0	3507 43.0	4578 43.1	9970 42.4
どちらともいえない	8922 20.0	4887 23.2	3775 16.8	7641 20.0	598 24.4	294 16.6	1674 20.5	2129 20.0	4711 20.1
あまり伸びていない	2408 5.4	1366 6.5	970 4.3	2051 5.4	149 6.1	87 4.9	470 5.8	585 5.5	1226 5.2
伸びていない	1117 2.5	678 3.2	318 1.4	965 2.5	89 3.6	25 1.4	223 2.7	268 2.5	588 2.5
合計	44507	21103	22492	38125	2455	1773	8165	10619	23493
有効回答率	98.2	99.4	99.6	98.1	99.2	98.7	98.5	98.2	98.0

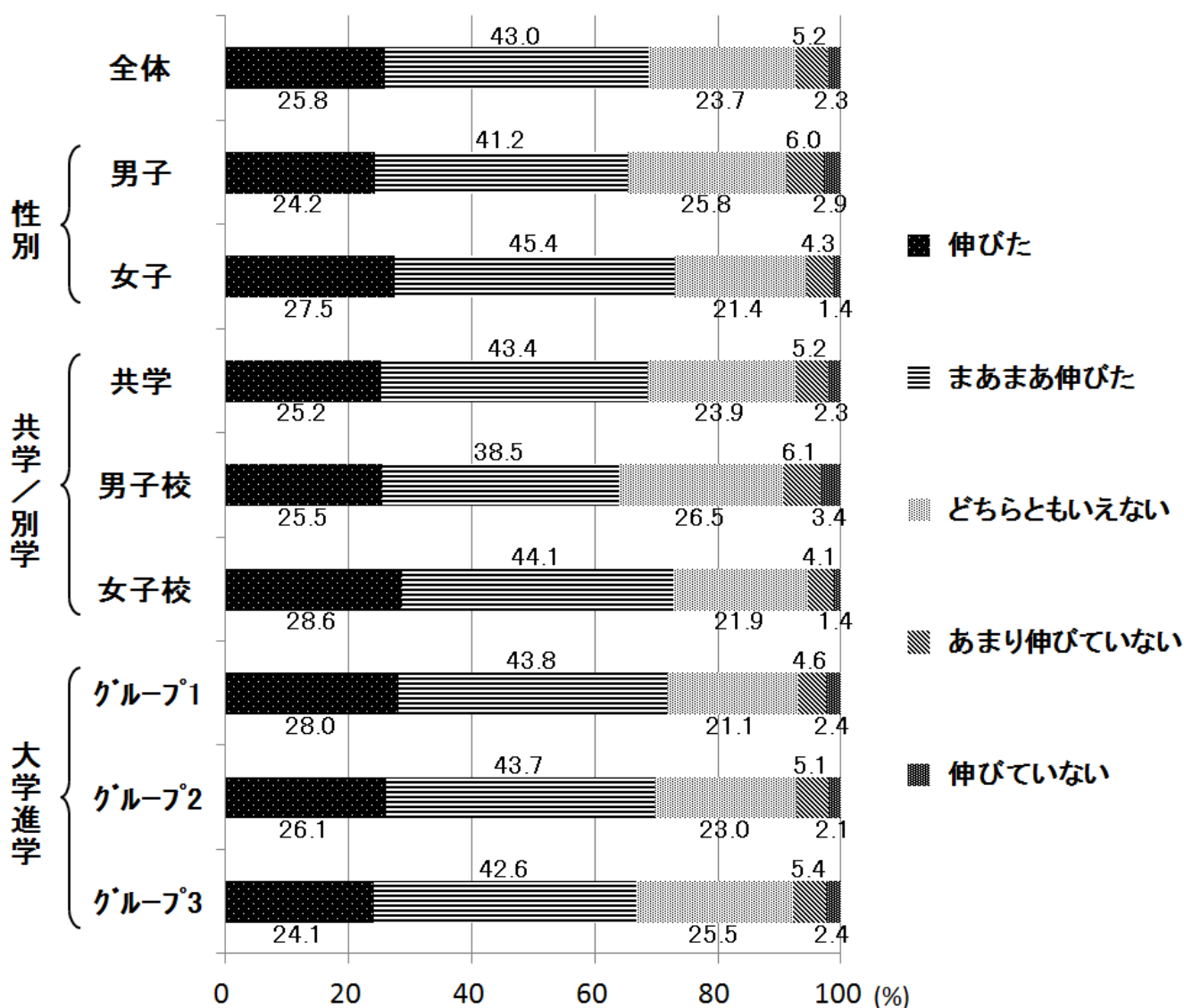
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) ― 続き ―

(14) 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	11479	5100	6185	9618	625	506	2291	2771	5663
	25.8	24.2	27.5	25.2	25.5	28.6	28.0	26.1	24.1
まあまあ伸びた	19153	8685	10205	16530	946	781	3581	4635	10009
	43.0	41.2	45.4	43.4	38.5	44.1	43.8	43.7	42.6
どちらともいえない	10539	5437	4820	9125	651	388	1726	2446	5979
	23.7	25.8	21.4	23.9	26.5	21.9	21.1	23.0	25.5
あまり伸びていない	2310	1270	975	1974	149	73	374	541	1276
	5.2	6.0	4.3	5.2	6.1	4.1	4.6	5.1	5.4
伸びていない	1027	603	315	880	84	24	198	224	564
	2.3	2.9	1.4	2.3	3.4	1.4	2.4	2.1	2.4
合計	44508	21095	22500	38127	2455	1772	8170	10617	23491
有効回答率	98.2	99.3	99.6	98.1	99.2	98.6	98.6	98.2	98.0

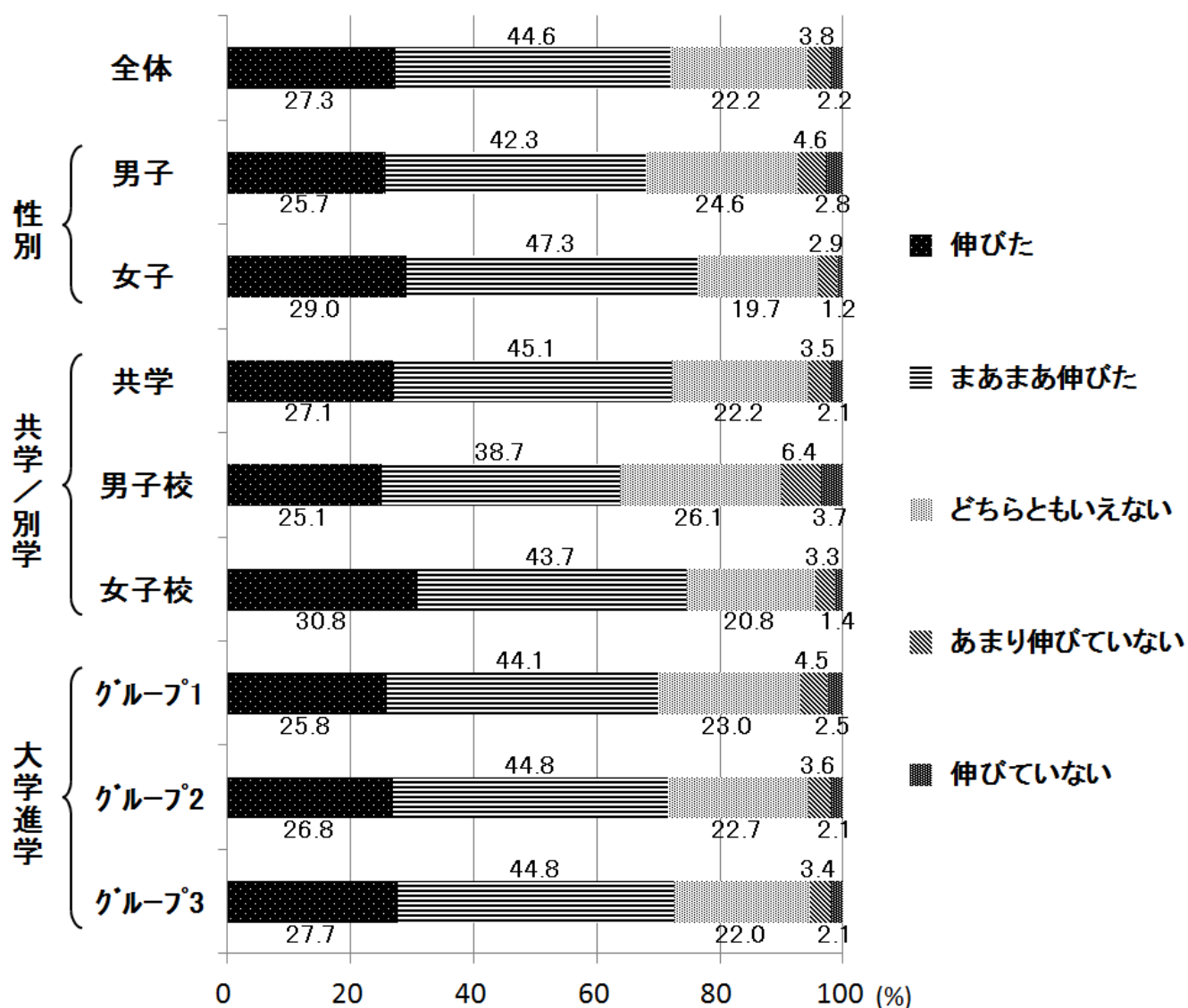
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) — 続き —

(15) 人に対して思いやりを持つことができる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	12150	5422	6517	10316	616	546	2110	2840	6500
	27.3	25.7	29.0	27.1	25.1	30.8	25.8	26.8	27.7
まあまあ伸びた	19837	8934	10632	17201	951	775	3603	4756	10540
	44.6	42.3	47.3	45.1	38.7	43.7	44.1	44.8	44.8
どちらともいえない	9886	5192	4422	8472	640	368	1880	2410	5172
	22.2	24.6	19.7	22.2	26.1	20.8	23.0	22.7	22.0
あまり伸びていない	1672	967	656	1337	157	59	370	383	798
	3.8	4.6	2.9	3.5	6.4	3.3	4.5	3.6	3.4
伸びていない	968	588	270	806	92	24	203	226	493
	2.2	2.8	1.2	2.1	3.7	1.4	2.5	2.1	2.1
合計	44513	21103	22497	38132	2456	1772	8166	10615	23503
有効回答率	98.2	99.4	99.6	98.1	99.2	98.6	98.6	98.2	98.0

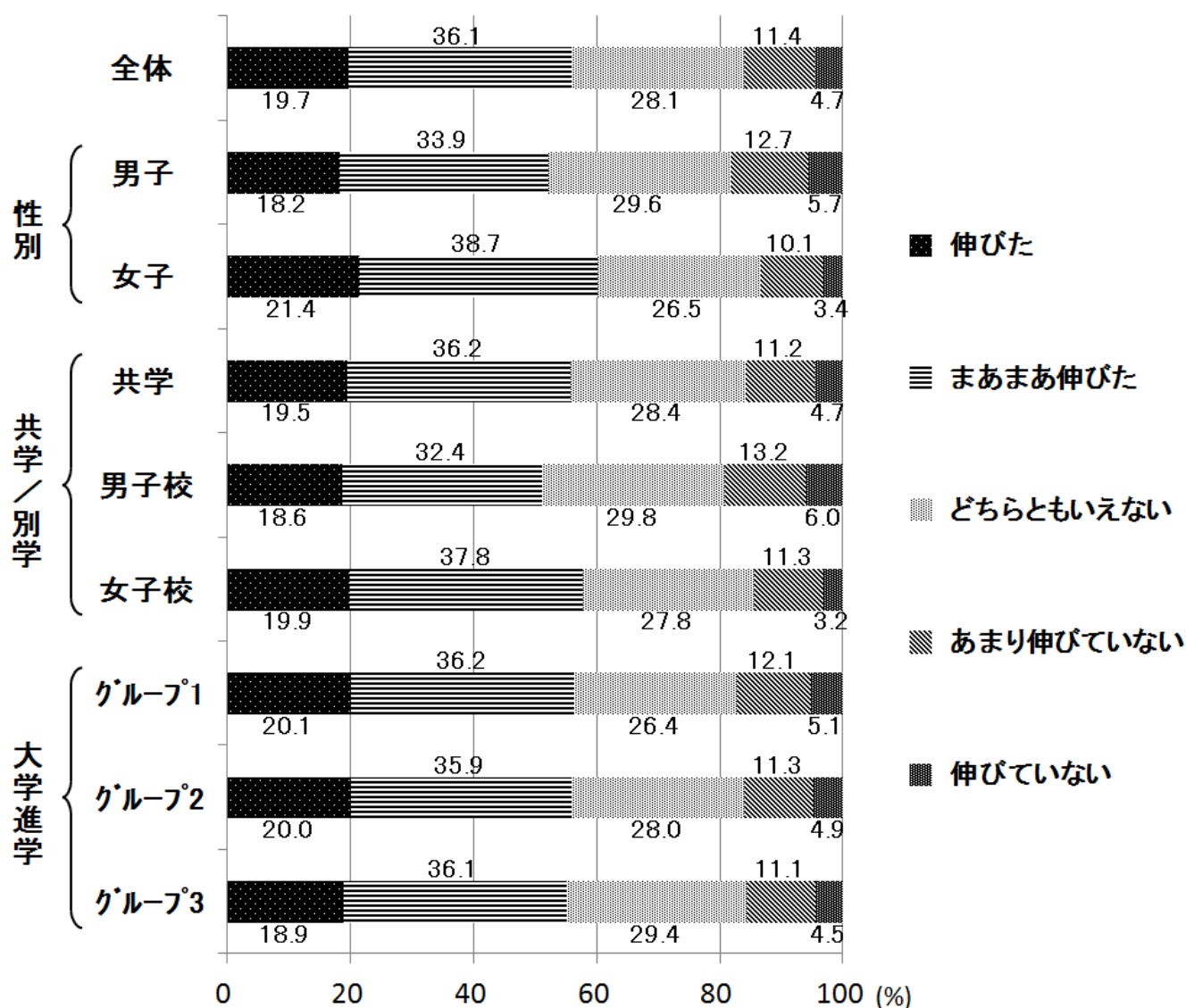
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) — 続き —

(16) 忍耐強くもの事に取り組むことができる



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	8780	3832	4804	7425	456	352	1643	2120	4445
	19.7	18.2	21.4	19.5	18.6	19.9	20.1	20.0	18.9
まあまあ伸びた	16055	7145	8697	13815	794	669	2959	3806	8487
	36.1	33.9	38.7	36.2	32.4	37.8	36.2	35.9	36.1
どちらともいえない	12510	6243	5956	10811	730	491	2154	2969	6894
	28.1	29.6	26.5	28.4	29.8	27.8	26.4	28.0	29.4
あまり伸びていない	5061	2685	2265	4278	325	200	991	1195	2610
	11.4	12.7	10.1	11.2	13.2	11.3	12.1	11.3	11.1
伸びていない	2087	1193	760	1789	148	56	416	524	1050
	4.7	5.7	3.4	4.7	6.0	3.2	5.1	4.9	4.5
合計	44493	21098	22482	38118	2453	1768	8163	10614	23486
有効回答率	98.2	99.3	99.5	98.0	99.1	98.4	98.5	98.2	98.0

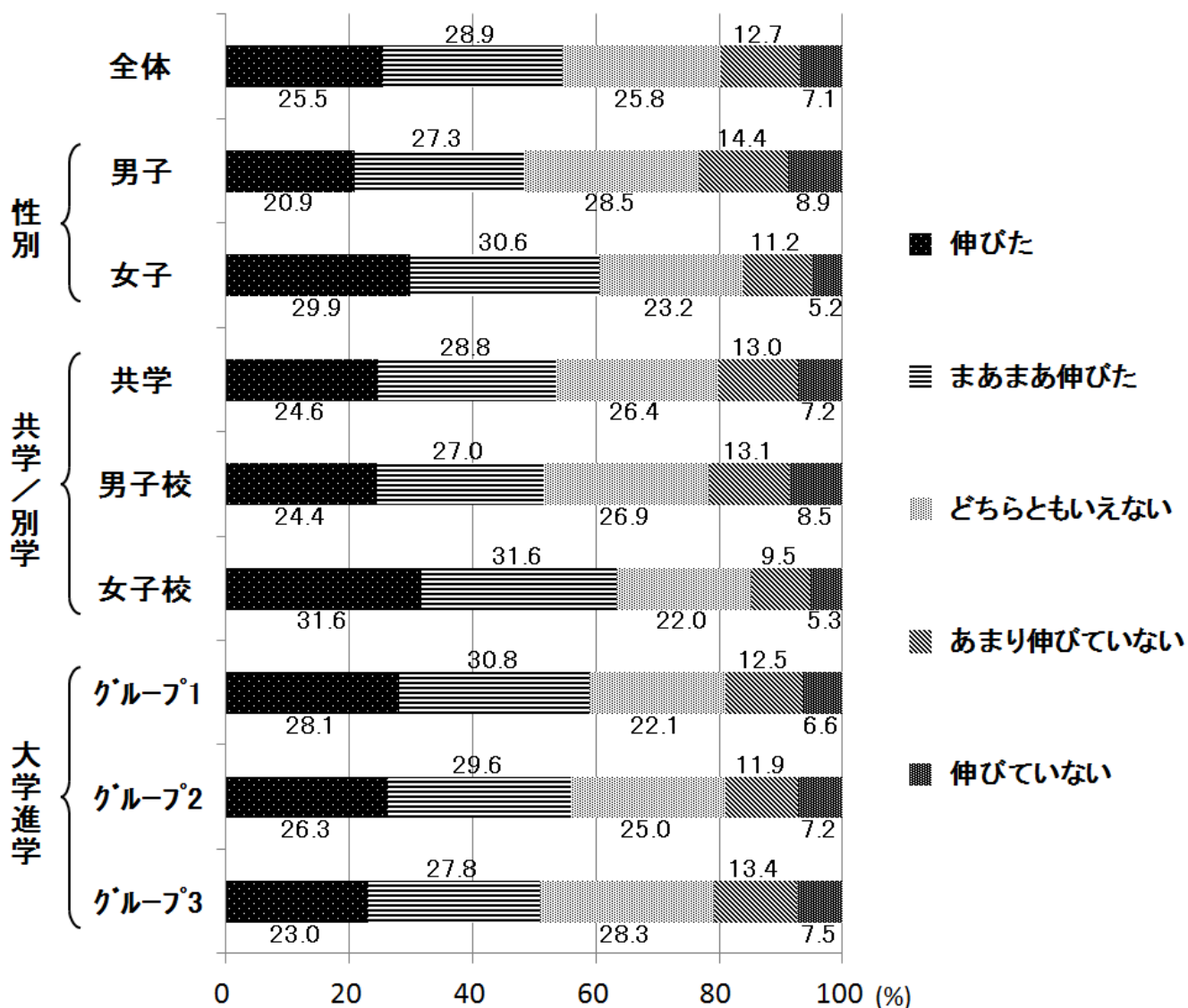
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) ― 続き ―

(17) 異文化や世界に関心を持つことができる



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	11345	4415	6724	9372	599	559	2293	2790	5406
	25.5	20.9	29.9	24.6	24.4	31.6	28.1	26.3	23.0
まあまあ伸びた	12859	5769	6877	10990	662	559	2514	3140	6540
	28.9	27.3	30.6	28.8	27.0	31.6	30.8	29.6	27.8
どちらともいえない	11480	6008	5216	10062	661	390	1803	2656	6642
	25.8	28.5	23.2	26.4	26.9	22.0	22.1	25.0	28.3
あまり伸びていない	5648	3032	2510	4946	322	168	1021	1269	3142
	12.7	14.4	11.2	13.0	13.1	9.5	12.5	11.9	13.4
伸びていない	3164	1871	1161	2757	209	94	535	765	1758
	7.1	8.9	5.2	7.2	8.5	5.3	6.6	7.2	7.5
合計	44496	21095	22488	38127	2453	1770	8166	10620	23488
有効回答率	98.2	99.3	99.6	98.1	99.1	98.5	98.6	98.2	98.0

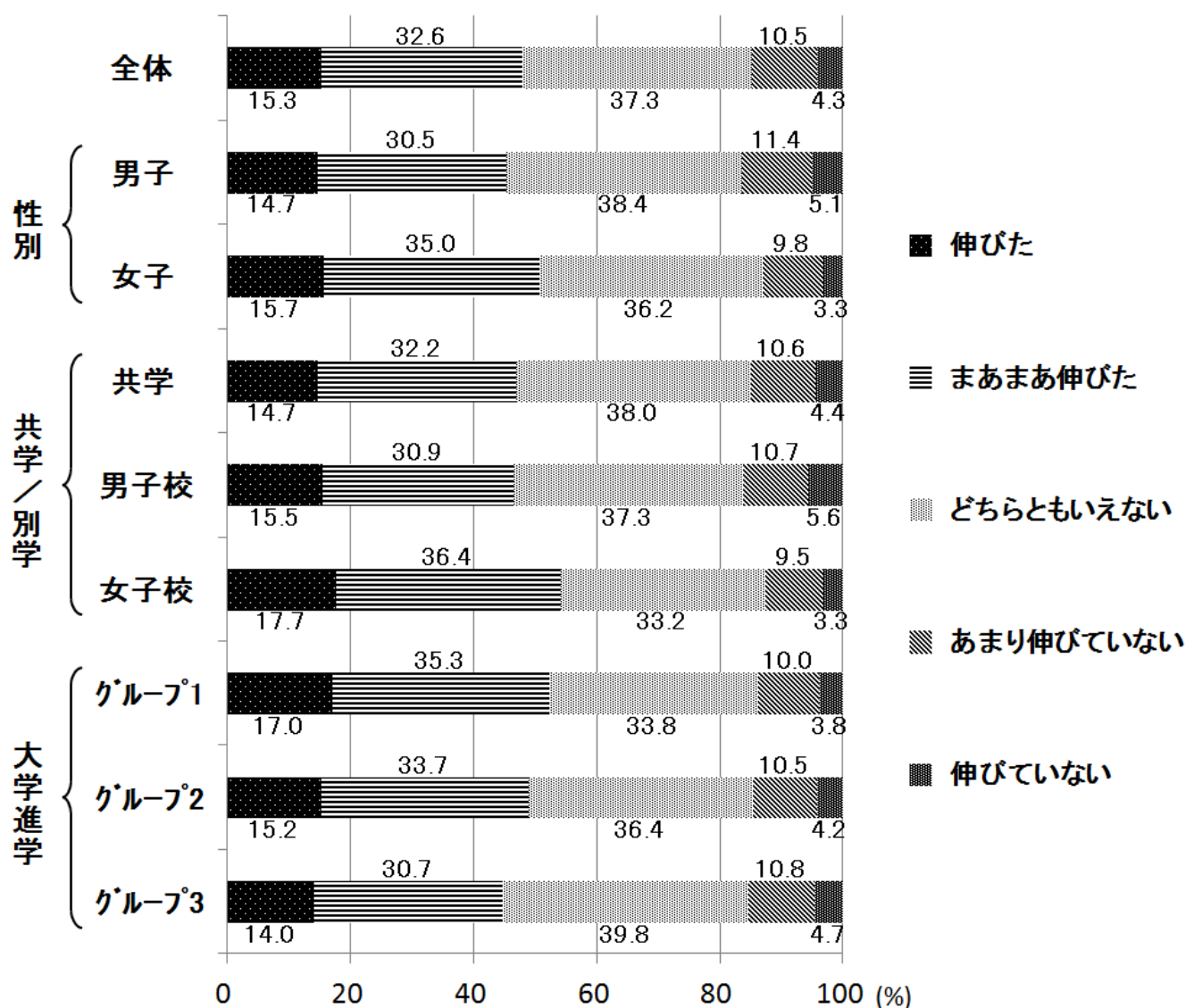
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 6. スキルについて(過去1、2年を振り返って) — 続き —

(18) 自分を客観的に理解することができる



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
伸びた	6768	3086	3525	5601	378	312	1384	1609	3273
	15.3	14.7	15.7	14.7	15.5	17.7	17.0	15.2	14.0
まあまあ伸びた	14442	6403	7838	12249	755	641	2871	3564	7186
	32.6	30.5	35.0	32.2	30.9	36.4	35.3	33.7	30.7
どちらともいえない	16545	8064	8120	14439	910	585	2751	3854	9310
	37.3	38.4	36.2	38.0	37.3	33.2	33.8	36.4	39.8
あまり伸びていない	4663	2389	2199	4045	261	167	816	1115	2536
	10.5	11.4	9.8	10.6	10.7	9.5	10.0	10.5	10.8
伸びていない	1928	1081	730	1665	136	58	311	440	1106
	4.3	5.1	3.3	4.4	5.6	3.3	3.8	4.2	4.7
合計	44346	21023	22412	37999	2440	1763	8133	10582	23411
有効回答率	97.9	99.0	99.2	97.7	98.6	98.1	98.2	97.9	97.7

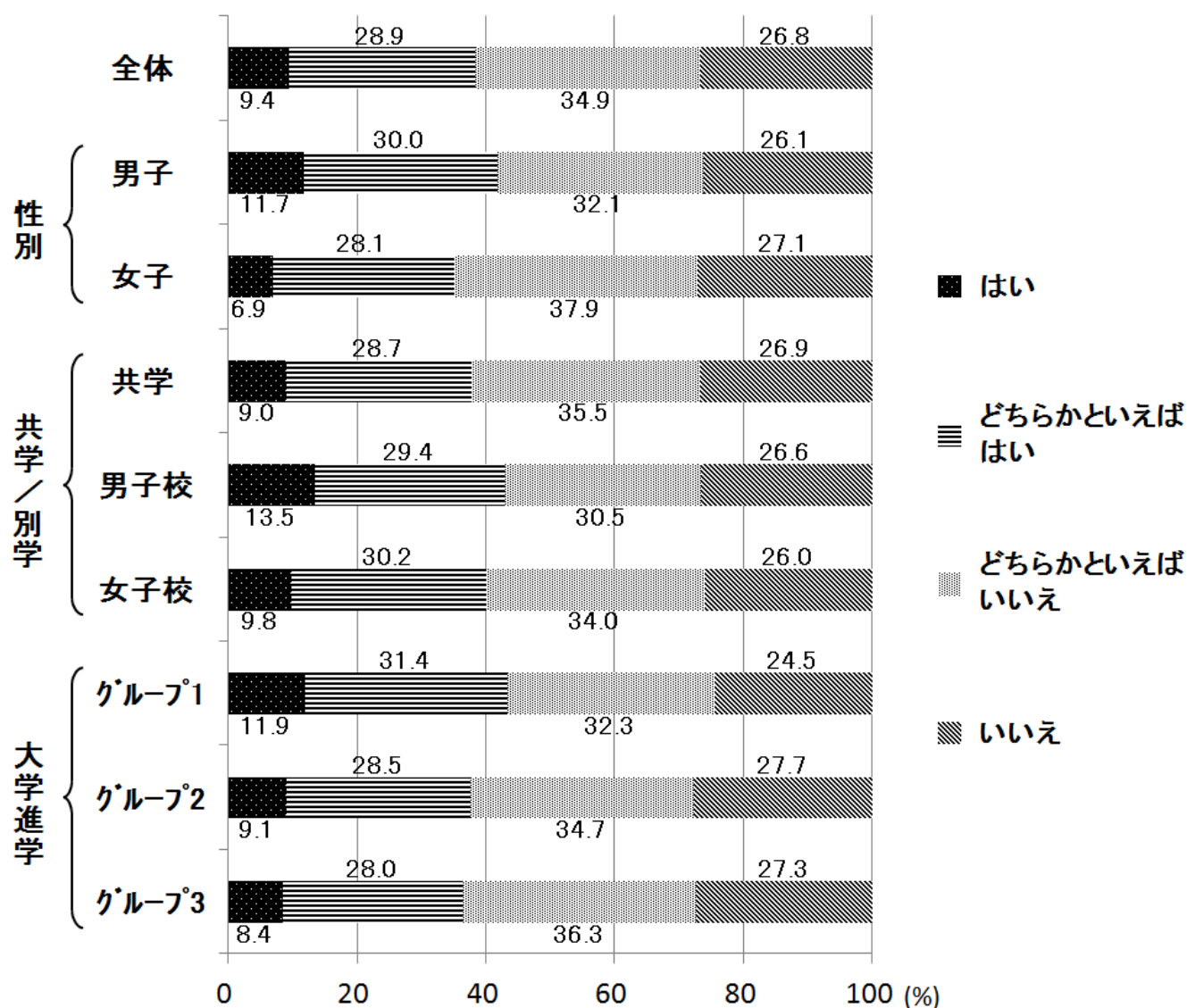
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 7. 自分の気持ちについて

(1) 私は、自分に満足している



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
はい	4153	2458	1544	3393	328	173	962	956	1967
	9.4	11.7	6.9	9.0	13.5	9.8	11.9	9.1	8.4
どちらかといえばはい	12788	6292	6282	10851	716	532	2545	3011	6526
	28.9	30.0	28.1	28.7	29.4	30.2	31.4	28.5	28.0
どちらかといえばいいえ	15439	6734	8480	13435	741	599	2620	3662	8467
	34.9	32.1	37.9	35.5	30.5	34.0	32.3	34.7	36.3
いいえ	11843	5470	6057	10195	647	457	1986	2920	6369
	26.8	26.1	27.1	26.9	26.6	26.0	24.5	27.7	27.3
合計	44223	20954	22363	37874	2432	1761	8113	10549	23329
有効回答率	97.6	98.6	99.0	97.4	98.3	98.0	97.9	97.5	97.3

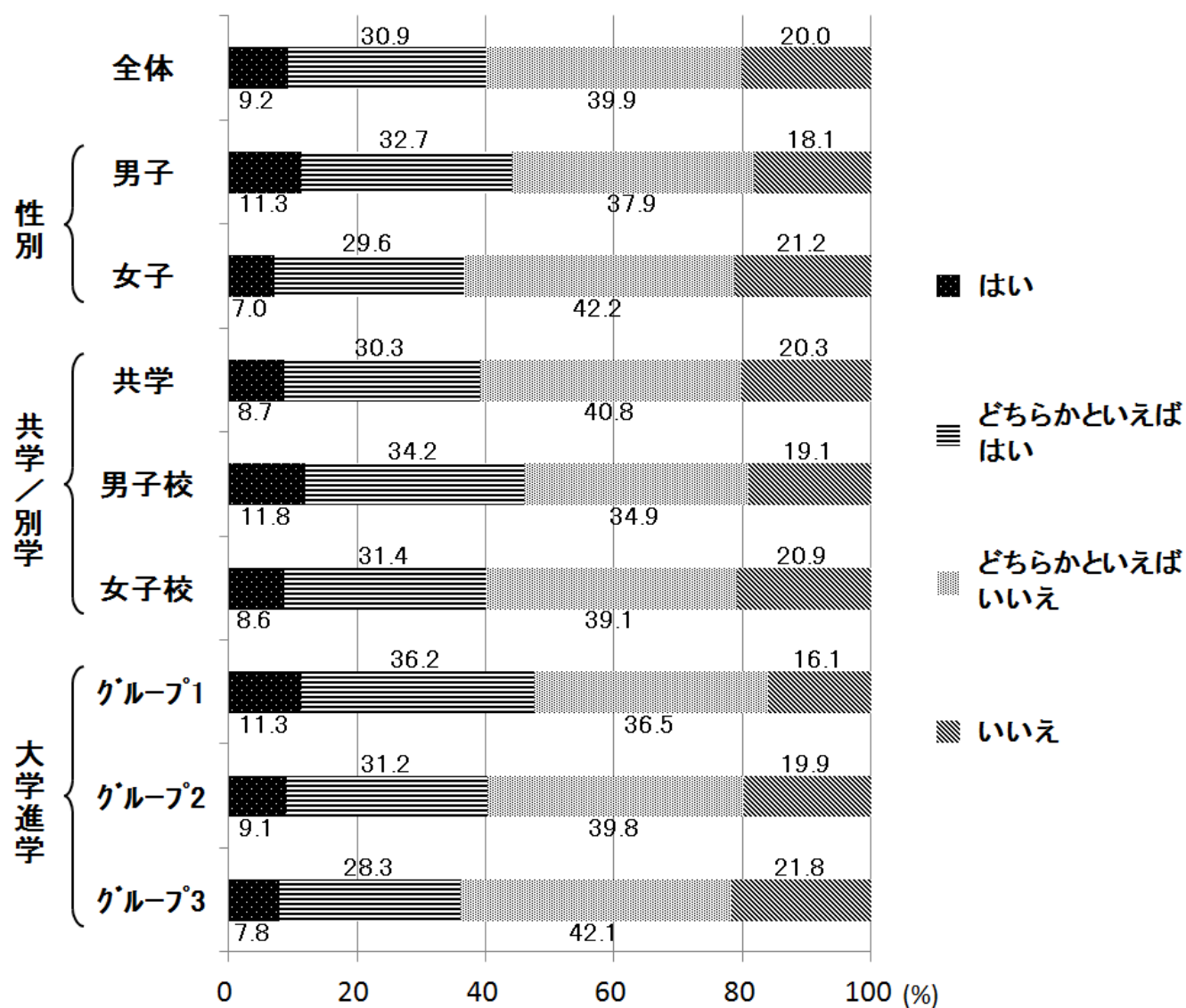
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 7. 自分の気持ちについて ― 続き ―

(2) 私は、自分には見どころがあると思う



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
はい	4092	2379	1583	3299	289	153	918	969	1834
	9.2	11.3	7.0	8.7	11.8	8.6	11.3	9.1	7.8
どちらかといえばはい	13742	6882	6642	11519	834	557	2948	3308	6629
	30.9	32.7	29.6	30.3	34.2	31.4	36.2	31.2	28.3
どちらかといえばいいえ	17712	7975	9470	15523	852	694	2968	4216	9867
	39.9	37.9	42.2	40.8	34.9	39.1	36.5	39.8	42.1
いいえ	8873	3814	4765	7710	466	370	1308	2109	5116
	20.0	18.1	21.2	20.3	19.1	20.9	16.1	19.9	21.8
合計	44419	21050	22460	38051	2441	1774	8142	10602	23446
有効回答率	98.0	99.1	99.4	97.9	98.6	98.7	98.3	98.0	97.8

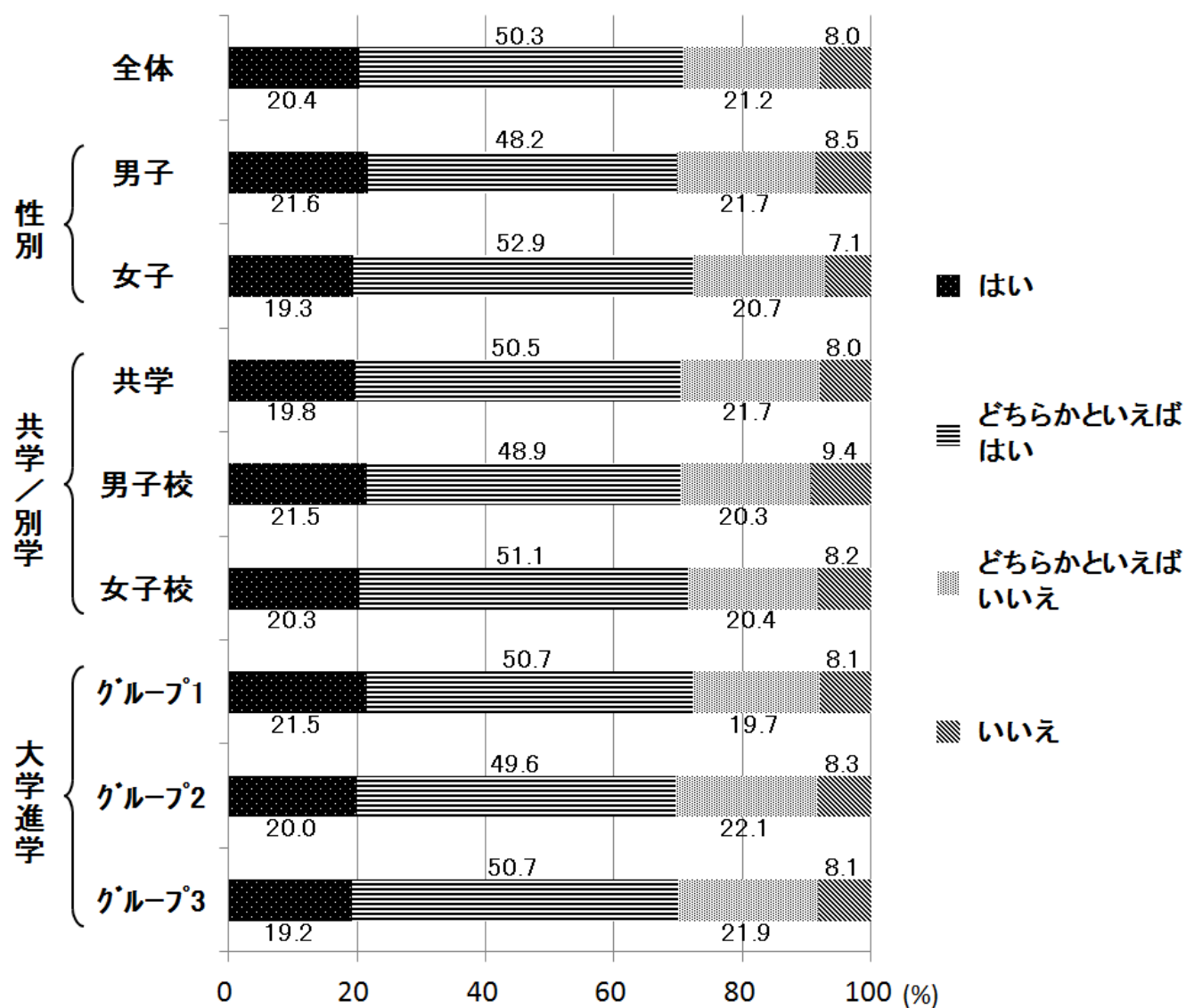
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 7. 自分の気持ちについて ― 続き ―

(3) 私はたいていの人がやれる程度には物事ができる



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
はい	9063	4538	4337	7533	524	360	1753	2118	4514
	20.4	21.6	19.3	19.8	21.5	20.3	21.5	20.0	19.2
どちらかといえばはい	22369	10144	11880	19230	1193	906	4134	5260	11904
	50.3	48.2	52.9	50.5	48.9	51.1	50.7	49.6	50.7
どちらかといえばいいえ	9426	4570	4660	8242	495	362	1603	2340	5147
	21.2	21.7	20.7	21.7	20.3	20.4	19.7	22.1	21.9
いいえ	3575	1794	1601	3061	229	145	657	882	1892
	8.0	8.5	7.1	8.0	9.4	8.2	8.1	8.3	8.1
合計	44433	21046	22478	38066	2441	1773	8147	10600	23457
有効回答率	98.1	99.1	99.5	97.9	98.6	98.7	98.3	98.0	97.8

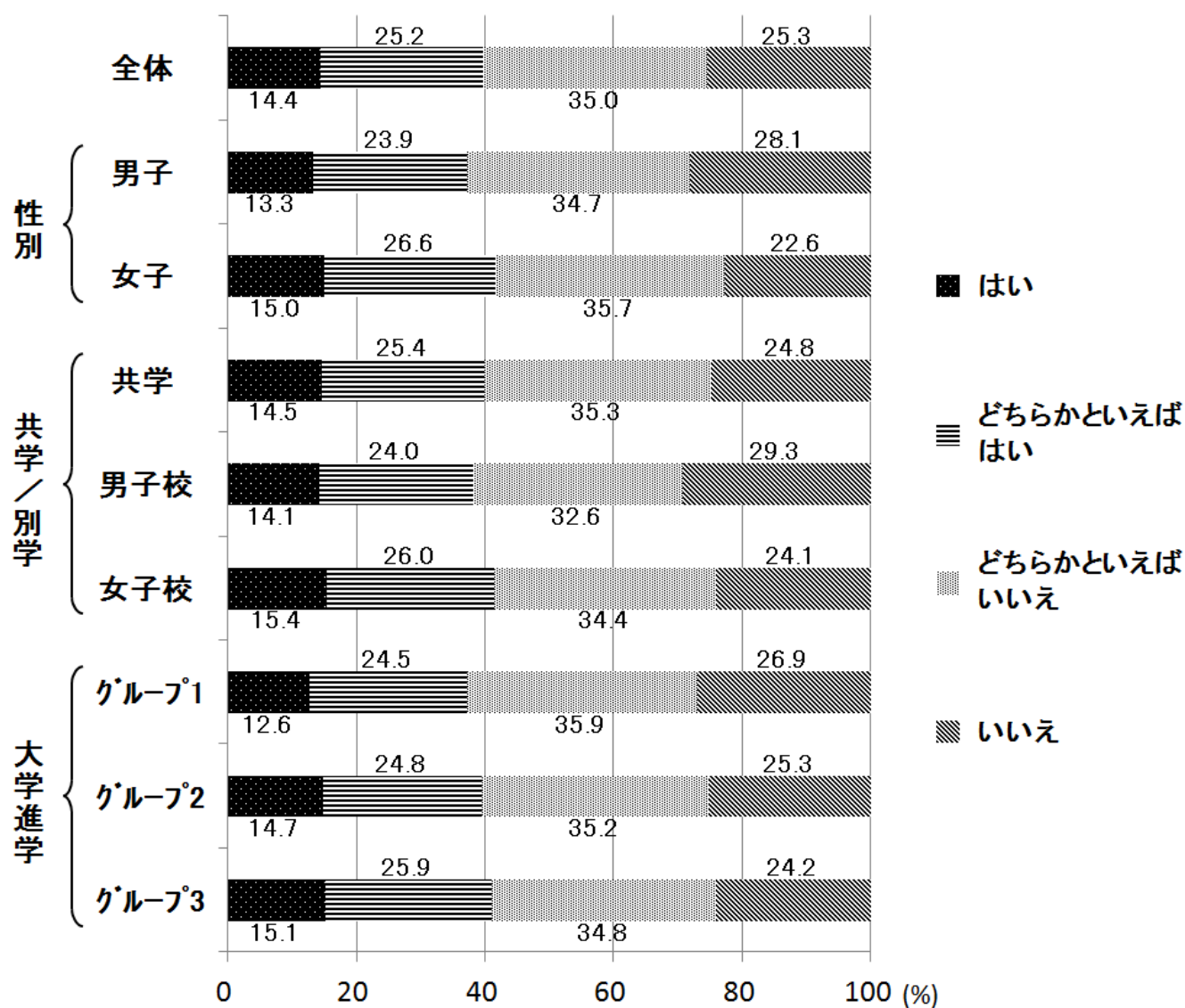
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 7. 自分の気持ちについて ― 続き ―

(4) 私には得意に思うことがない



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
はい	6407	2810	3375	5505	345	274	1026	1555	3536
	14.4	13.3	15.0	14.5	14.1	15.4	12.6	14.7	15.1
どちらかといえばはい	11210	5024	5983	9669	586	462	2000	2634	6075
	25.2	23.9	26.6	25.4	24.0	26.0	24.5	24.8	25.9
どちらかといえばいいえ	15557	7299	8020	13440	796	611	2928	3733	8163
	35.0	34.7	35.7	35.3	32.6	34.4	35.9	35.2	34.8
いいえ	11246	5918	5082	9433	717	427	2193	2679	5667
	25.3	28.1	22.6	24.8	29.3	24.1	26.9	25.3	24.2
合計	44420	21051	22460	38047	2444	1774	8147	10601	23441
有効回答率	98.0	99.1	99.4	97.9	98.7	98.7	98.3	98.0	97.8

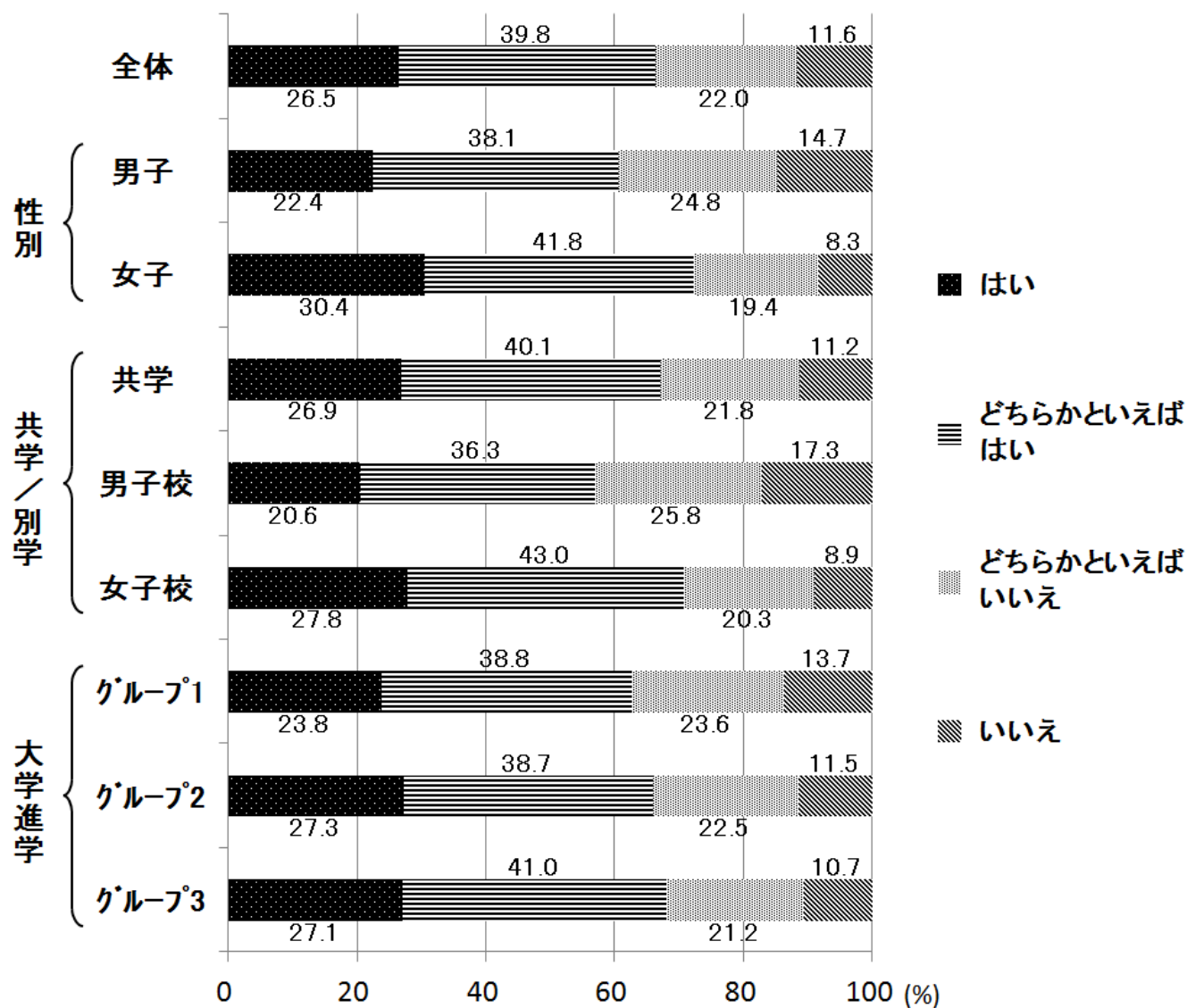
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 7. 自分の気持ちについて ― 続き ―

(5) もう少し自分を尊重できたらと思う



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
はい	11772	4709	6832	10217	502	494	1941	2888	6361
	26.5	22.4	30.4	26.9	20.6	27.8	23.8	27.3	27.1
どちらかといえばはい	17688	8025	9396	15249	885	762	3161	4099	9609
	39.8	38.1	41.8	40.1	36.3	43.0	38.8	38.7	41.0
どちらかといえいいえ	9790	5228	4362	8311	629	360	1927	2384	4975
	22.0	24.8	19.4	21.8	25.8	20.3	23.6	22.5	21.2
いいえ	5163	3085	1869	4275	423	158	1119	1223	2502
	11.6	14.7	8.3	11.2	17.3	8.9	13.7	11.5	10.7
合計	44413	21047	22459	38052	2439	1774	8148	10594	23447
有効回答率	98.0	99.1	99.4	97.9	98.5	98.7	98.3	98.0	97.8

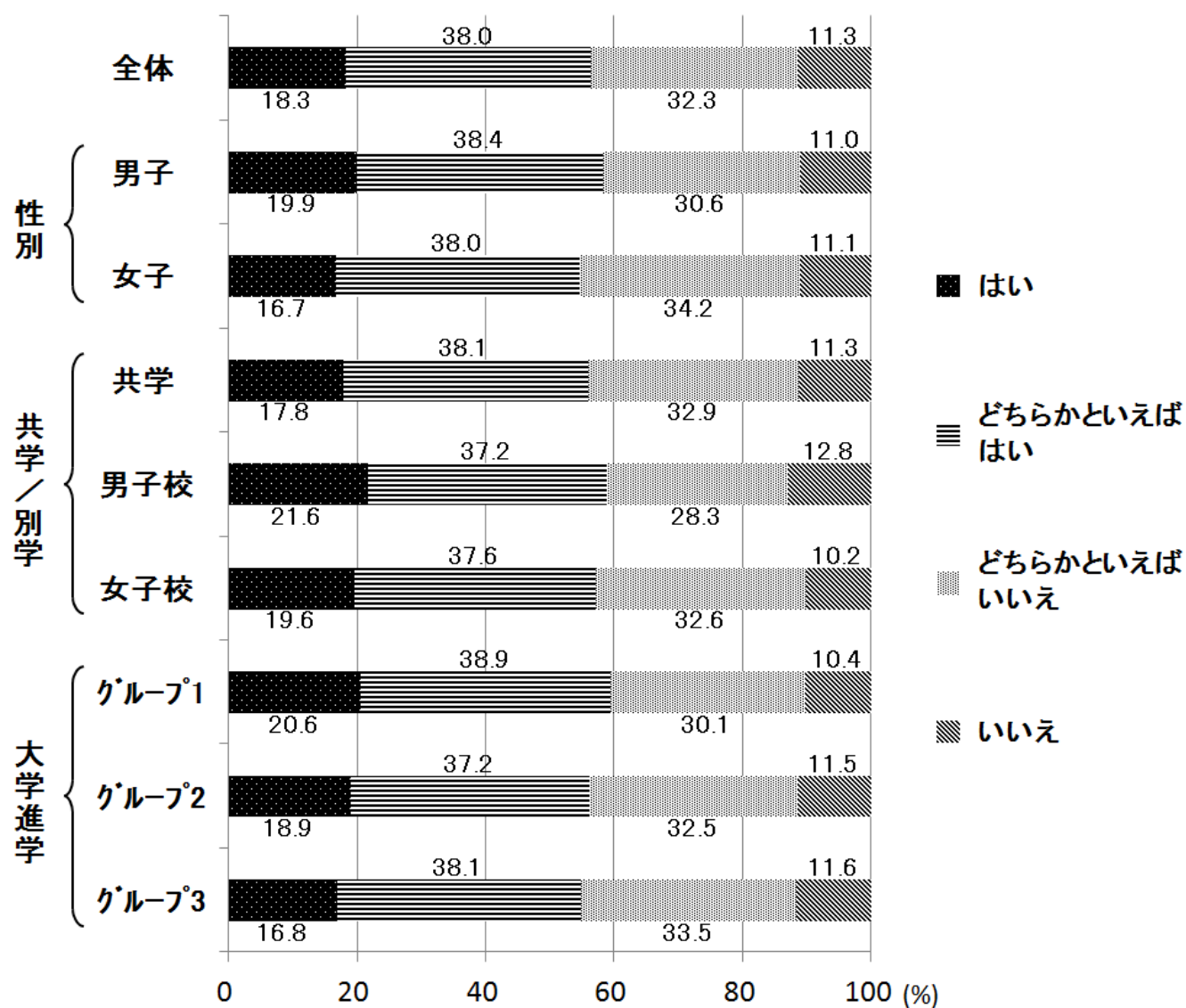
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 7. 自分の気持ちについて ― 続き ―

(6) 私は自分自身に対して、前向きな態度をとっている



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
はい	8135	4189	3749	6754	528	347	1673	1995	3937
	18.3	19.9	16.7	17.8	21.6	19.6	20.6	18.9	16.8
どちらかといえばはい	16867	8078	8529	14467	908	666	3165	3937	8919
	38.0	38.4	38.0	38.1	37.2	37.6	38.9	37.2	38.1
どちらかといえばいいえ	14346	6429	7665	12487	691	578	2451	3434	7848
	32.3	30.6	34.2	32.9	28.3	32.6	30.1	32.5	33.5
いいえ	5012	2321	2498	4287	313	181	847	1213	2712
	11.3	11.0	11.1	11.3	12.8	10.2	10.4	11.5	11.6
合計	44360	21017	22441	37995	2440	1772	8136	10579	23416
有効回答率	97.9	98.9	99.4	97.7	98.6	98.6	98.2	97.8	97.7

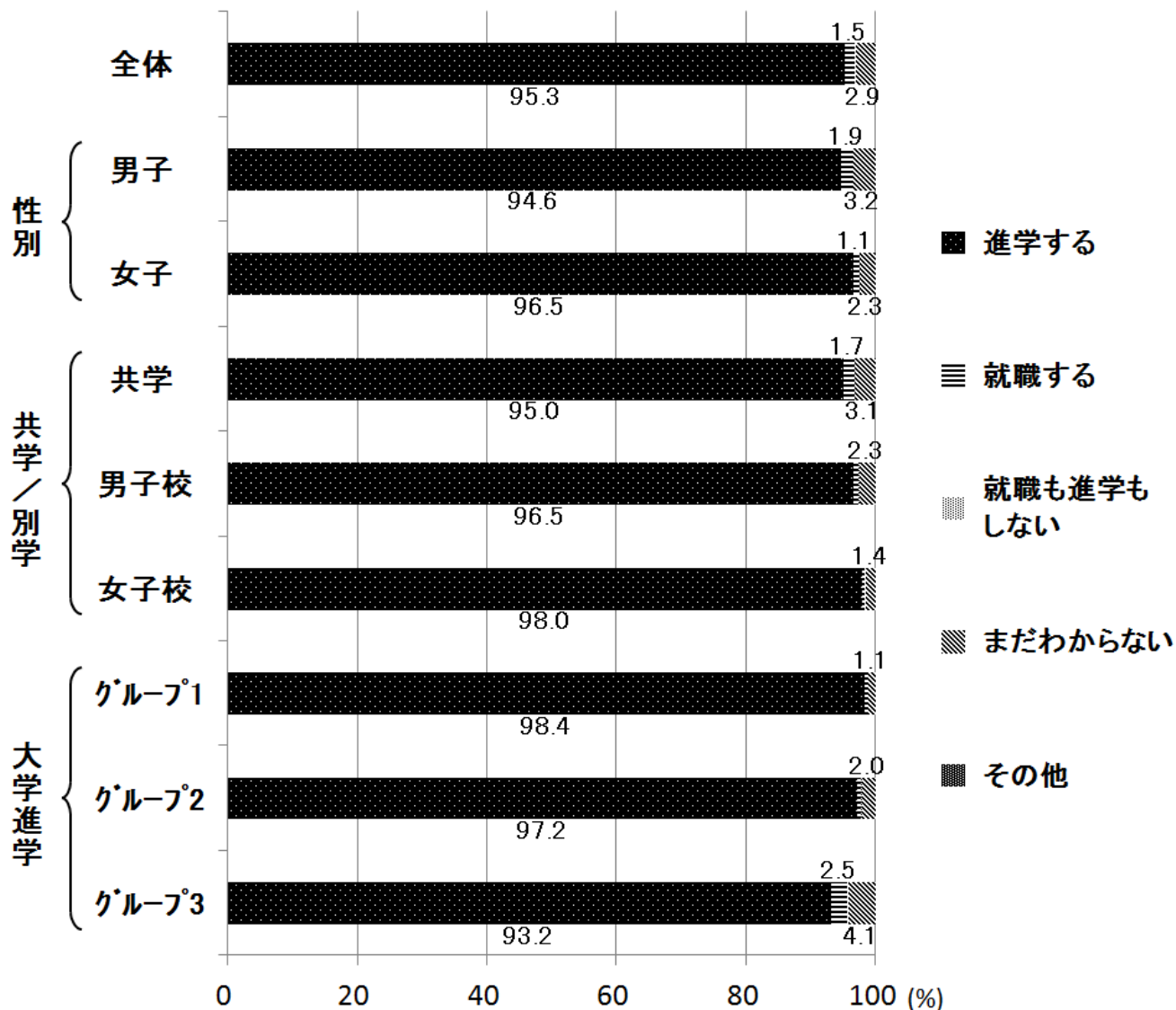
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 8. 進学・就職意識について

(1) あなたは学校(高校)卒業後、大学や短大、専門学校などに進学しますか、それとも就職しますか



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
進学する	42384	19929	21686	36150	2370	1739	8034	10300	21849
	95.3	94.6	96.5	95.0	96.5	98.0	98.4	97.2	93.2
就職する	689	409	258	646	20	7	30	61	582
	1.5	1.9	1.1	1.7	0.8	0.4	0.4	0.6	2.5
就職も進学もしない	43	26	7	36	5	1	6	12	24
	0.1	0.1	0.0	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1
まだわからない	1283	679	511	1187	56	24	93	216	958
	2.9	3.2	2.3	3.1	2.3	1.4	1.1	2.0	4.1
その他	53	24	19	43	4	3	4	13	33
	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.0	0.1	0.1
合計	44452	21067	22481	38062	2455	1774	8167	10602	23446
有効回答率	98.1	99.2	99.5	97.9	99.2	98.7	98.6	98.0	97.8

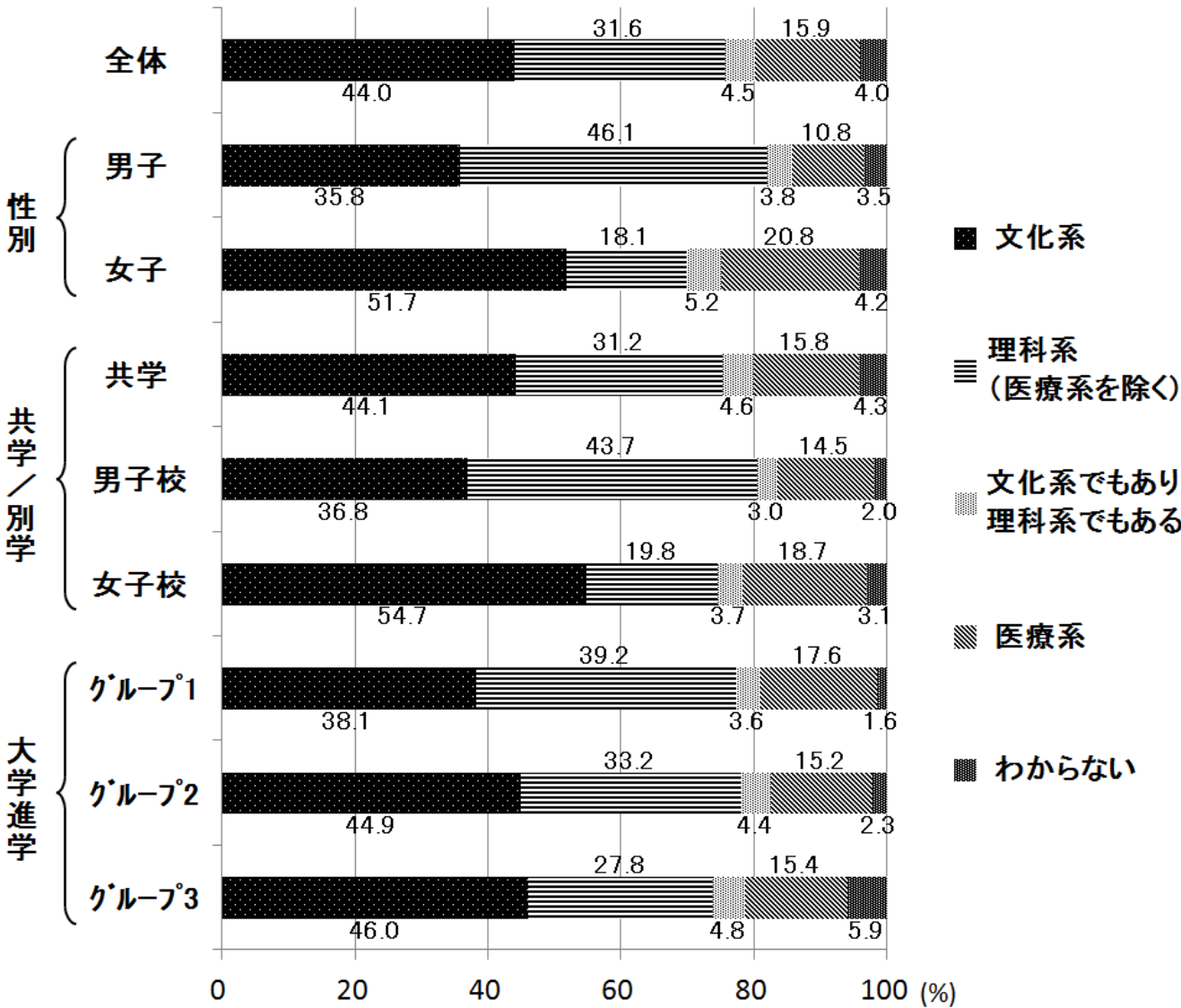
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 8. 進学・就職意識について ― 続き ―

(2) あなたの希望する進学先(大学や短大、専門学校など)
(質問 8 (1)で進学すると答えた生徒のみ回答)



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
文化系	18534	7090	11135	15834	867	943	3041	4597	9985
	44.0	35.8	51.7	44.1	36.8	54.7	38.1	44.9	46.0
理科系 (医療系を除く)	13311	9132	3895	11219	1028	342	3129	3405	6036
	31.6	46.1	18.1	31.2	43.7	19.8	39.2	33.2	27.8
文化系でもあり 理科系でもある	1904	751	1123	1663	70	63	290	456	1043
	4.5	3.8	5.2	4.6	3.0	3.7	3.6	4.4	4.8
医療系	6711	2131	4491	5674	341	323	1404	1559	3350
	15.9	10.8	20.8	15.8	14.5	18.7	17.6	15.2	15.4
わからない	1666	700	913	1539	47	54	125	232	1280
	4.0	3.5	4.2	4.3	2.0	3.1	1.6	2.3	5.9
合計	42126	19804	21557	35929	2353	1725	7989	10249	21694
有効回答率	99.4	99.4	99.4	99.4	99.3	99.2	99.4	99.5	99.3

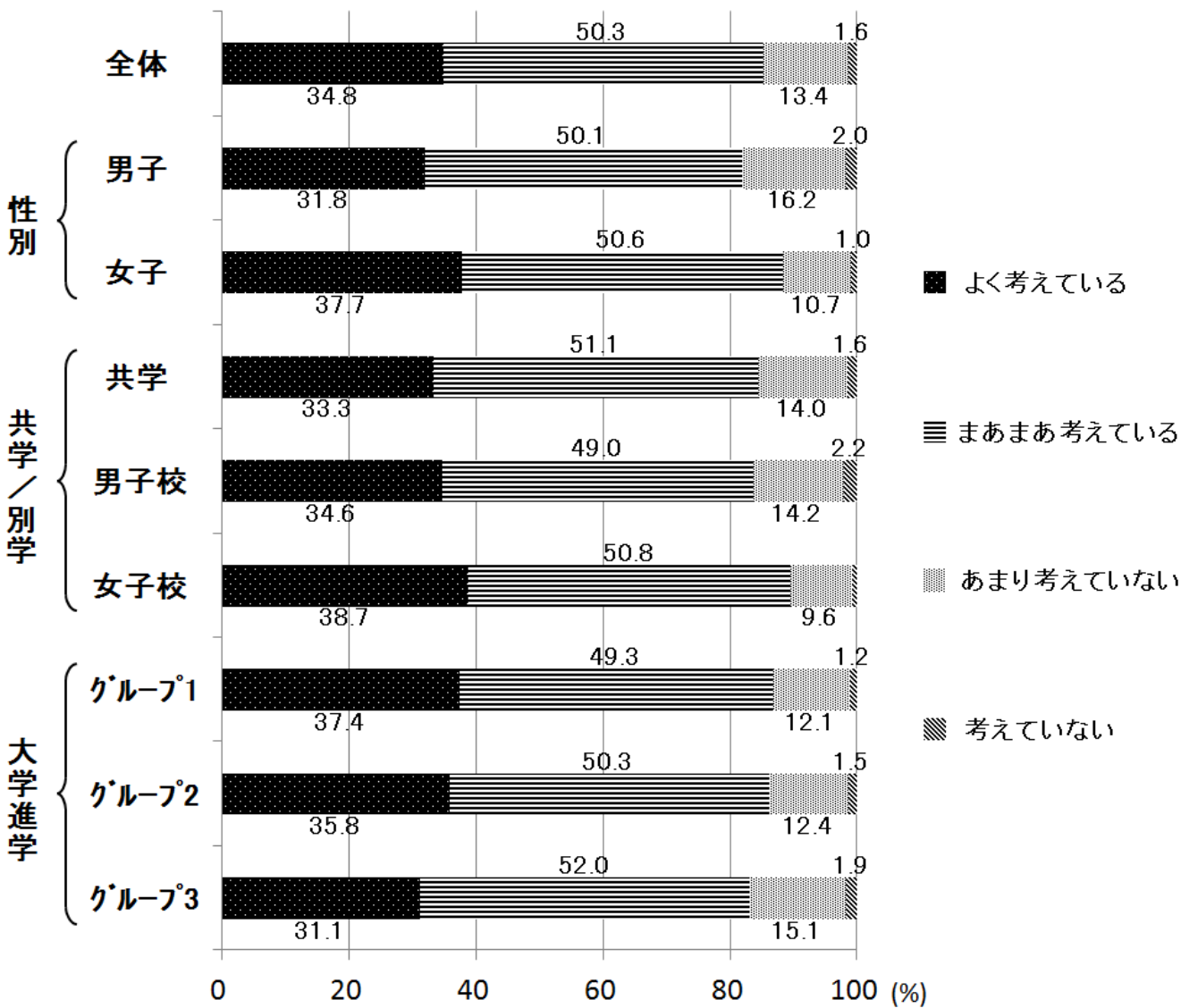
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ 1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ 2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ 3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 8. 進学・就職意識について ― 続き ―

(3)(A) どのような進学先(どの大学、どの学部、どの専門学校など)にするか、
どの程度考えていますか (質問 8 (1)で進学すると答えた生徒のみ回答)



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
よく考えている	14186	6090	7868	11595	786	645	2907	3558	6517
	34.8	31.8	37.7	33.3	34.6	38.7	37.4	35.8	31.1
まあまあ考えている	20507	9605	10567	17781	1112	846	3829	5000	10886
	50.3	50.1	50.6	51.1	49.0	50.8	49.3	50.3	52.0
あまり考えていない	5448	3101	2225	4856	323	160	943	1230	3160
	13.4	16.2	10.7	14.0	14.2	9.6	12.1	12.4	15.1
考えていない	638	385	213	566	49	14	93	146	390
	1.6	2.0	1.0	1.6	2.2	0.8	1.2	1.5	1.9
合計	40779	19181	20873	34798	2270	1665	7772	9934	20953
有効回答率	96.2	96.2	96.3	96.3	95.8	95.7	96.7	96.4	95.9

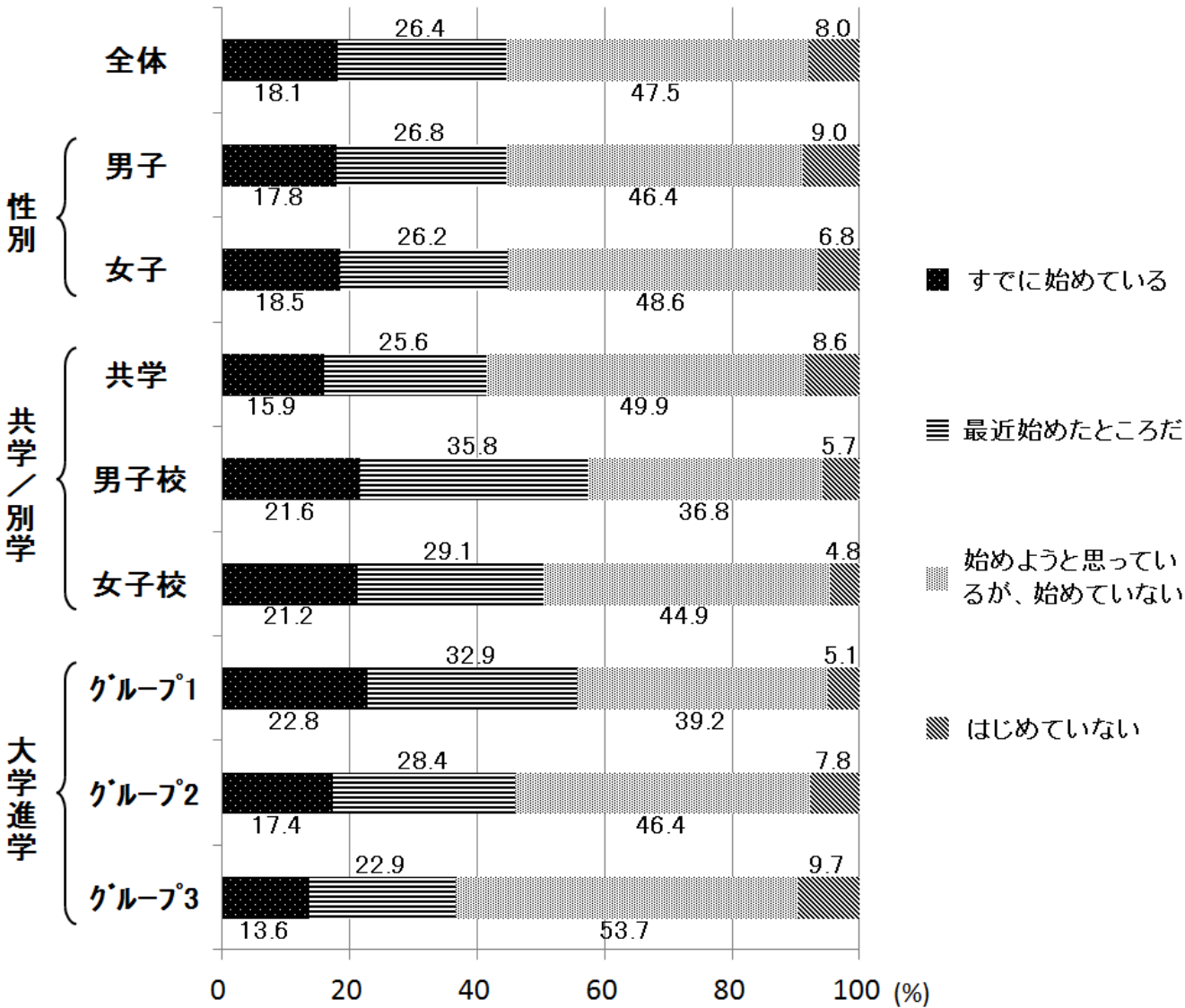
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ 1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ 2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ 3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 8. 進学・就職意識について ― 続き ―

(3)(B) 進学準備(受験勉強の開始、進学先に関する本や雑誌を読むなど)を始めていますか (質問 8 (1)で進学すると答えた生徒のみ回答)



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
すでに始めている	7392	3413	3850	5543	490	352	1772	1726	2854
	18.1	17.8	18.5	15.9	21.6	21.2	22.8	17.4	13.6
最近始めたところだ	10760	5133	5464	8882	813	483	2555	2820	4783
	26.4	26.8	26.2	25.6	35.8	29.1	32.9	28.4	22.9
始めようと思っているが、 始めていない	19335	8884	10132	17331	836	746	3043	4610	11240
	47.5	46.4	48.6	49.9	36.8	44.9	39.2	46.4	53.7
はじめていない	3243	1725	1409	3001	130	80	398	774	2038
	8.0	9.0	6.8	8.6	5.7	4.8	5.1	7.8	9.7
合計	40730	19155	20855	34757	2269	1661	7768	9930	20915
有効回答率	96.1	96.1	96.2	96.1	95.7	95.5	96.7	96.4	95.7

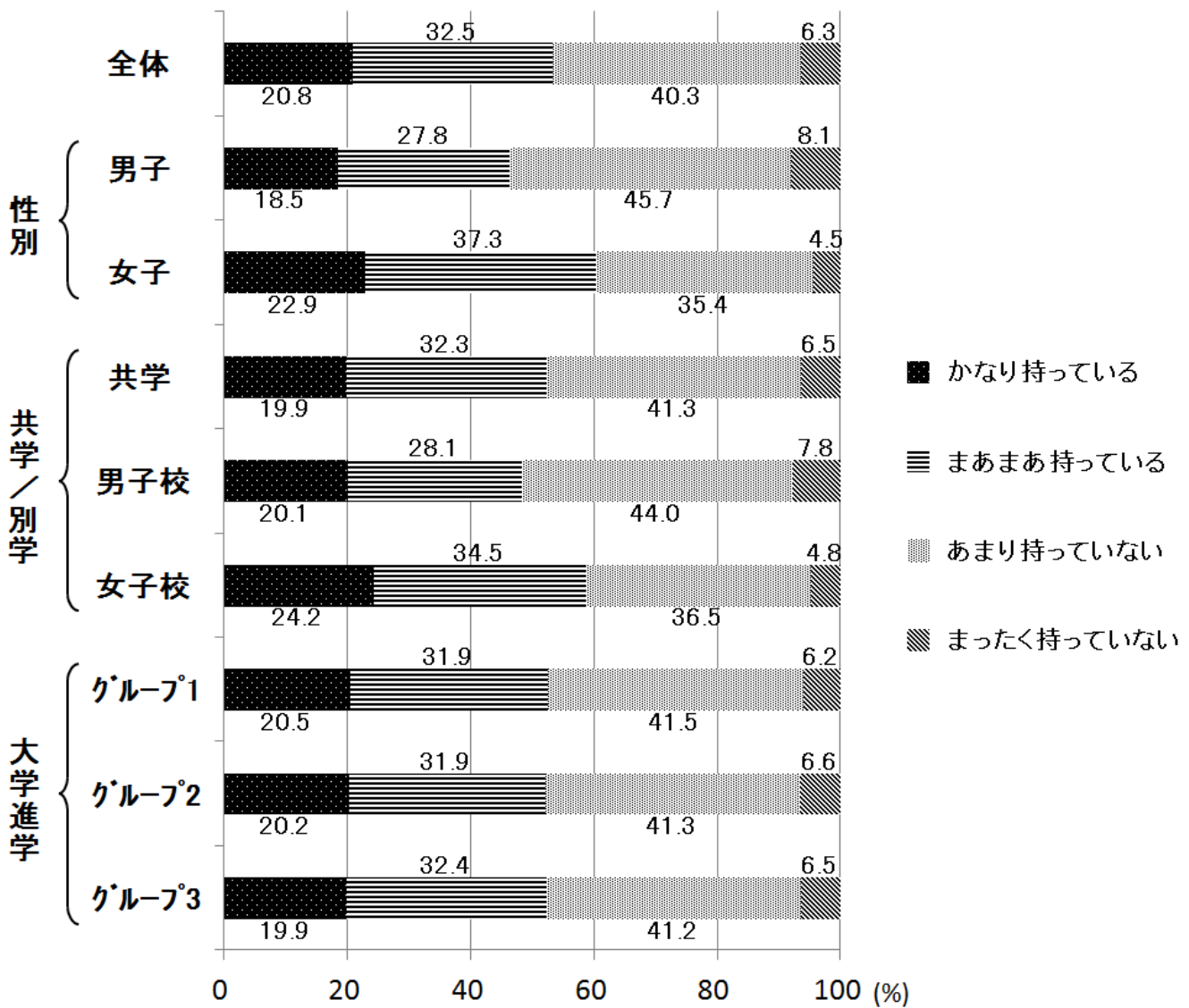
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ 1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ 2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ 3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 8. 進学・就職意識について ― 続き ―

(4) あなたは、進学先を卒業した後、どのような職業に就きたいか、その見通しをどの程度持っていますか（質問 8 (1)で進学すると答えた生徒のみ回答）



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
かなり持っている	8608	3602	4847	7039	466	410	1613	2037	4236
	20.8	18.5	22.9	19.9	20.1	24.2	20.5	20.2	19.9
まあまあ持っている	13462	5402	7894	11411	651	586	2513	3212	6899
	32.5	27.8	37.3	32.3	28.1	34.5	31.9	31.9	32.4
あまり持っていない	16691	8887	7482	14571	1019	619	3268	4164	8761
	40.3	45.7	35.4	41.3	44.0	36.5	41.5	41.3	41.2
まったく持っていない	2612	1572	942	2284	181	82	488	663	1393
	6.3	8.1	4.5	6.5	7.8	4.8	6.2	6.6	6.5
合計	41373	19463	21165	35305	2317	1697	7882	10076	21289
有効回答率	97.6	97.7	97.6	97.7	97.8	97.6	98.1	97.8	97.4

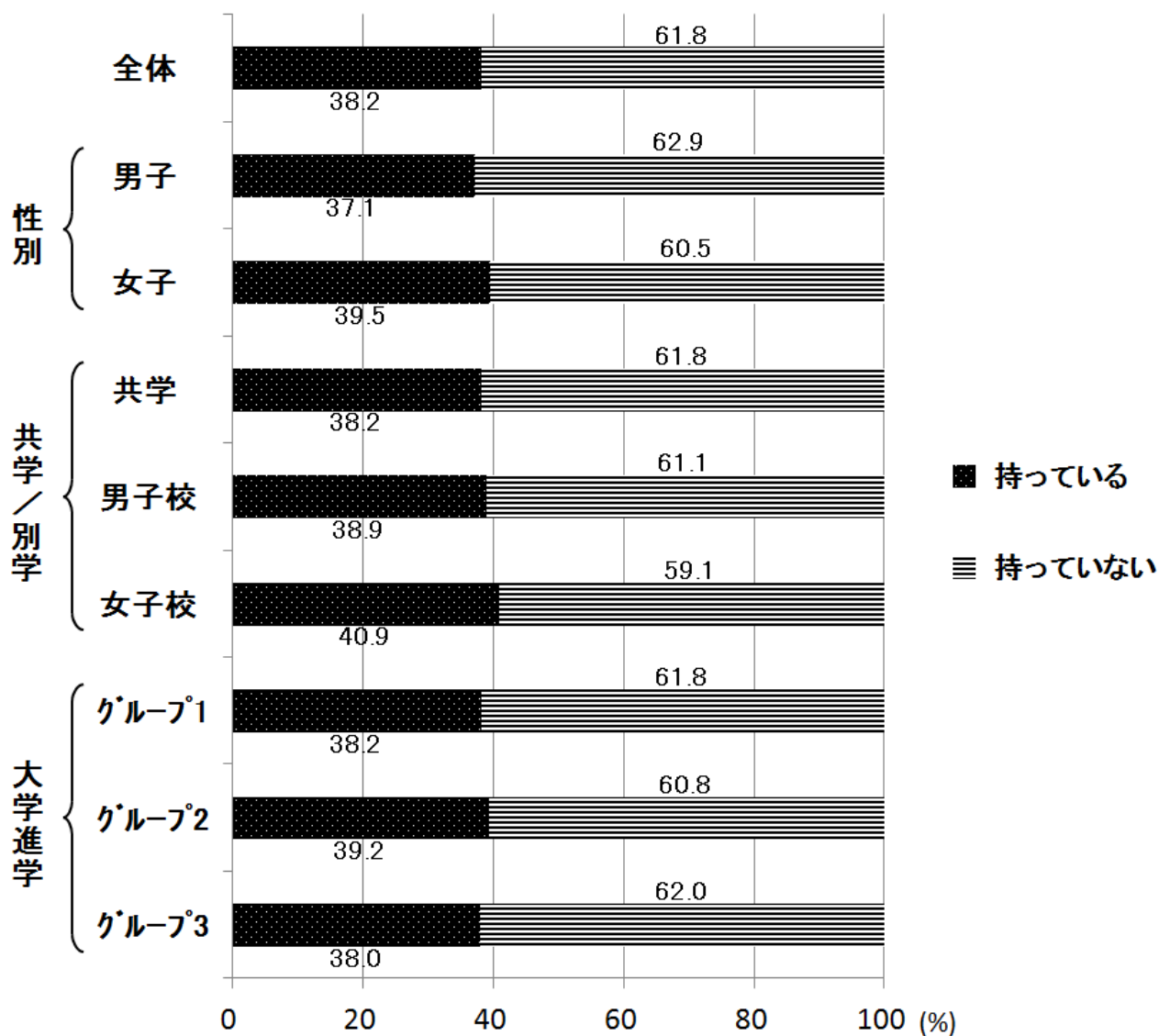
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ 1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ 2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ 3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 8. 進学・就職意識について ― 続き ―

(6) あなたは、進学や将来の職業、生き方を考える上で参考になるモデル、あるいは理想の人を持っていますか



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
持っている	15694	7183	8230	13402	873	671	2913	3844	8155
	38.2	37.1	39.5	38.2	38.9	40.9	38.2	39.2	38.0
持っていない	25337	12191	12625	21691	1374	970	4712	5965	13318
	61.8	62.9	60.5	61.8	61.1	59.1	61.8	60.8	62.0
合計	41031	19374	20855	35093	2247	1641	7625	9809	21473
有効回答率	90.6	91.2	92.3	90.3	90.8	91.3	92.0	90.7	89.6

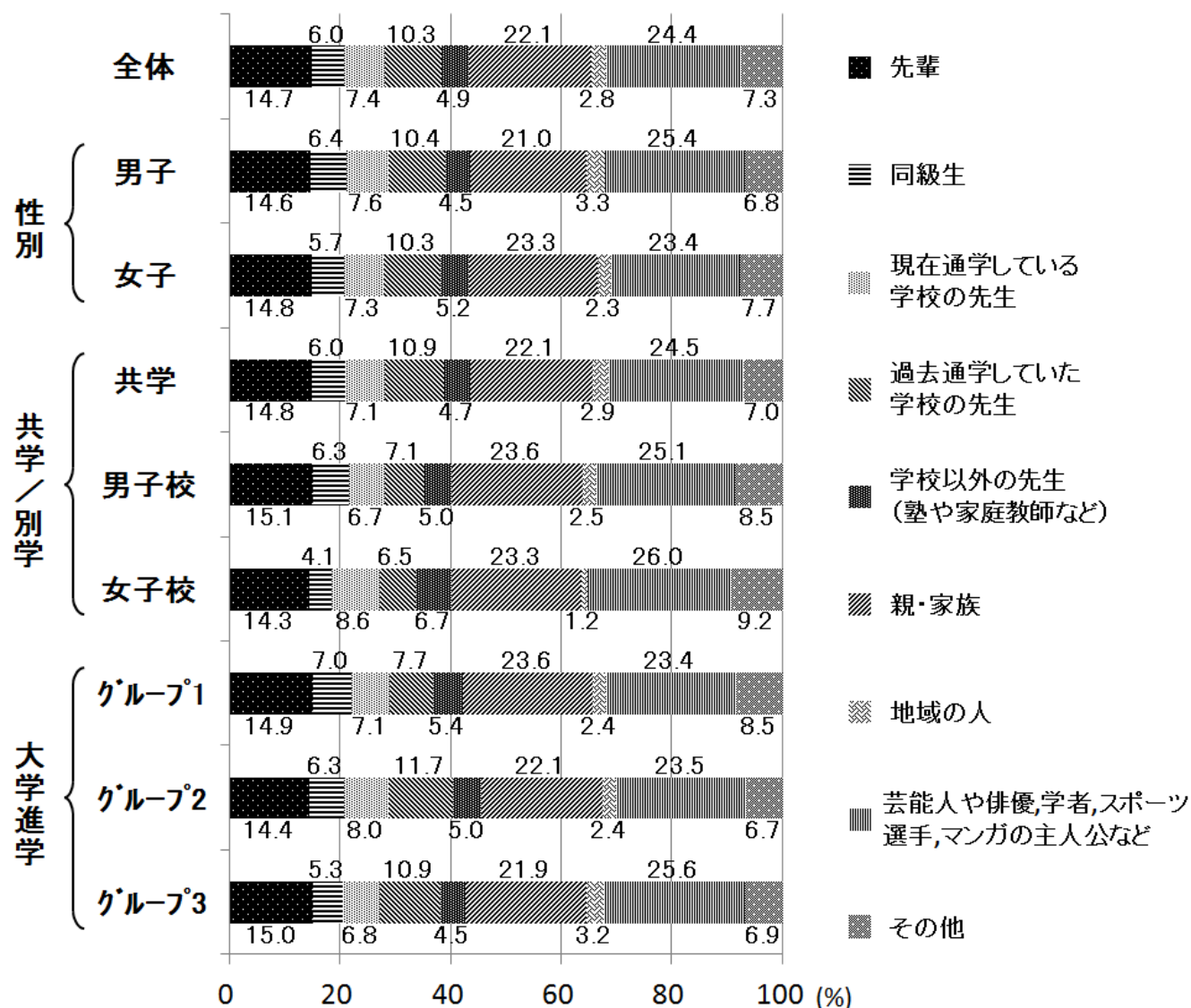
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 8. 進学・就職意識について ― 続き ―

(7) 理想の人はどのような人ですか（質問 8 (6)で持っていると答えた生徒のみ回答）



回答項目	全体	性別		共学/別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
先輩	3285	1473	1752	2800	182	134	627	787	1694
同級生	1341	644	673	1132	76	38	296	344	602
現在通学している学校の先生	1650	763	865	1348	81	80	300	438	767
過去通学していた学校の先生	2300	1048	1217	2061	86	61	323	644	1236
学校以外の先生 (塾や家庭教師など)	1101	457	620	887	60	63	227	276	505
親・家族	4935	2116	2765	4192	285	218	991	1211	2479
地域の人	616	328	274	549	30	11	99	130	359
芸能人や俳優、学者、スポーツ選手、マンガの主人公など	5444	2555	2774	4640	303	243	984	1286	2903
その他	1635	689	919	1323	103	86	356	368	783
合計	15239	6955	8017	13005	841	656	2834	3737	7897
有効回答率	97.1	96.8	97.4	97.0	96.3	97.8	97.3	97.2	96.8

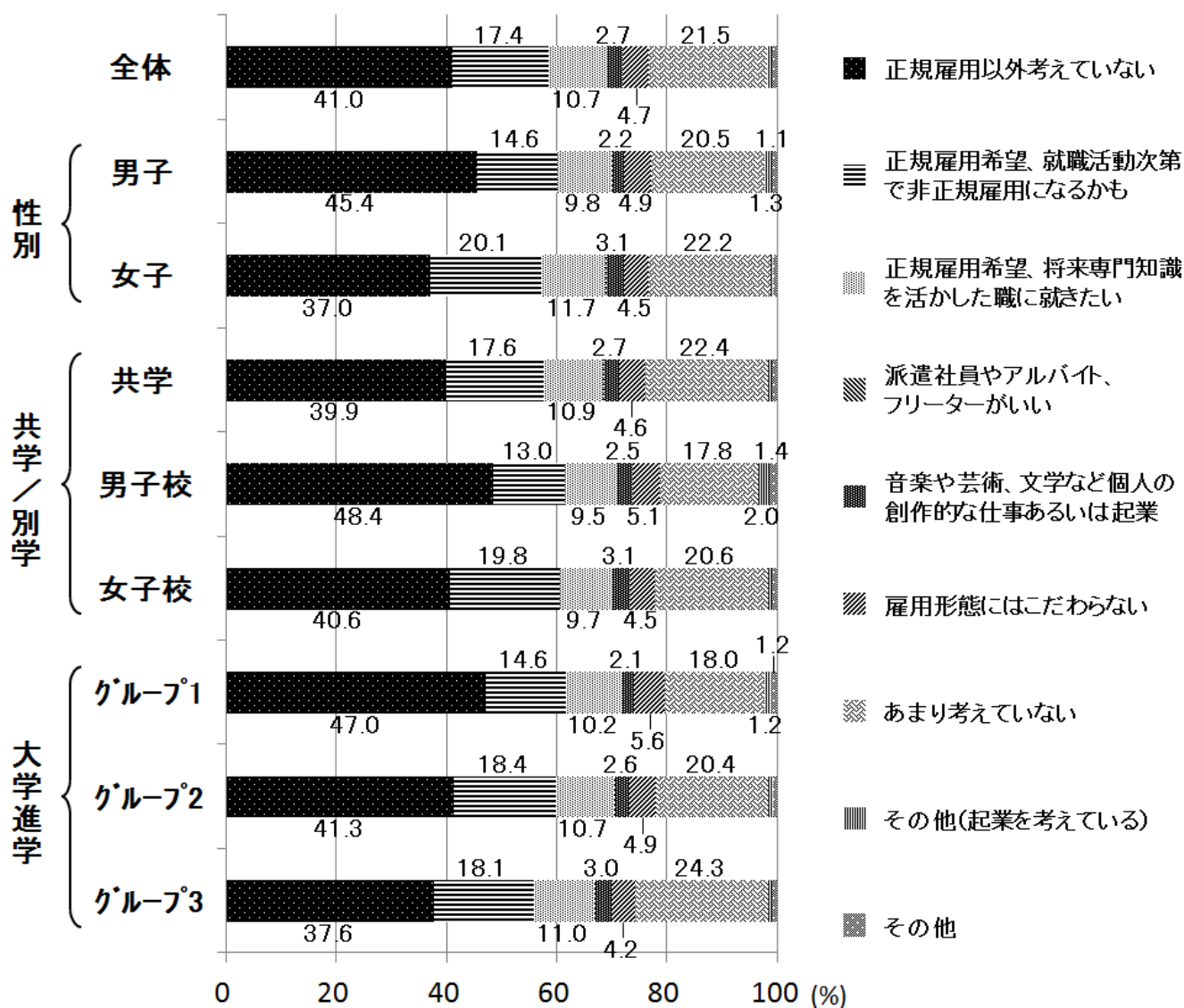
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 8. 進学・就職意識について ― 続き ―

(8) 将来の就職時の雇用形態について



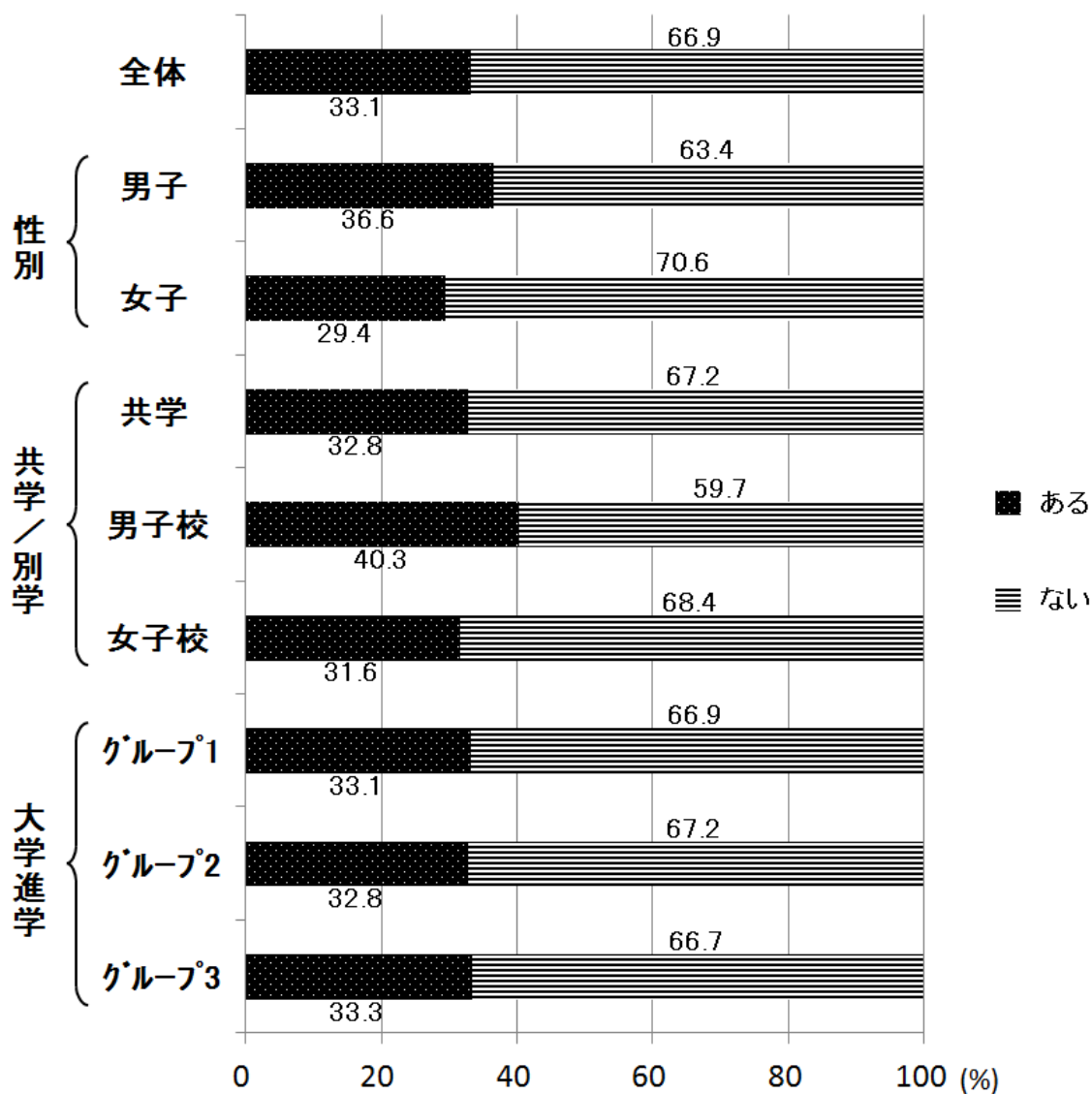
正規雇用希望、就職活動次第 で非正規雇用になるかも	6919	2748	4080	5994	283	315	1091	1758	3728
	17.4	14.6	20.1	17.6	13.0	19.8	14.6	18.4	18.1
正規雇用希望、将来専門知識 を活かした職に就きたい	4262	1838	2365	3691	208	155	763	1018	2266
	10.7	9.8	11.7	10.9	9.5	9.7	10.2	10.7	11.0
派遣社員やアルバイト、 フリーターがいい	70	33	31	62	5	2	8	13	47
	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2
音楽や芸術、文学など個人の 創作的な仕事あるいは起業	1076	416	633	922	55	50	156	246	622
	2.7	2.2	3.1	2.7	2.5	3.1	2.1	2.6	3.0
雇用形態にはこだわらない	1869	918	920	1570	112	72	417	471	860
	4.7	4.9	4.5	4.6	5.1	4.5	5.6	4.9	4.2
あまり考えていない	8576	3860	4505	7605	389	328	1345	1951	5018
	21.5	20.5	22.2	22.4	17.8	20.6	18.0	20.4	24.3
その他(起業を考えている)	346	241	80	265	44	9	91	74	150
	0.9	1.3	0.4	0.8	2.0	0.6	1.2	0.8	0.7
その他	378	207	158	314	31	15	90	77	193
	0.9	1.1	0.8	0.9	1.4	0.9	1.2	0.8	0.9
合計	39851	18792	20288	33979	2184	1592	7475	9552	20653
有効回答率	87.9	88.5	89.8	87.4	88.2	88.6	90.2	88.3	86.2

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 8. 進学・就職意識について ― 続き ―

(9) あなたは、進学や将来の職業、生き方に影響を及ぼすほどの挫折や失敗がこれまでにありましたか



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
ある	13791	7226	6210	11660	929	529	2566	3274	7248
	33.1	36.6	29.4	32.8	40.3	31.6	33.1	32.8	33.3
ない	27879	12519	14895	23933	1377	1143	5196	6708	14506
	66.9	63.4	70.6	67.2	59.7	68.4	66.9	67.2	66.7
合計	41670	19745	21105	35593	2306	1672	7762	9982	21754
有効回答率	92.0	93.0	93.4	91.6	93.2	93.0	93.7	92.3	90.7

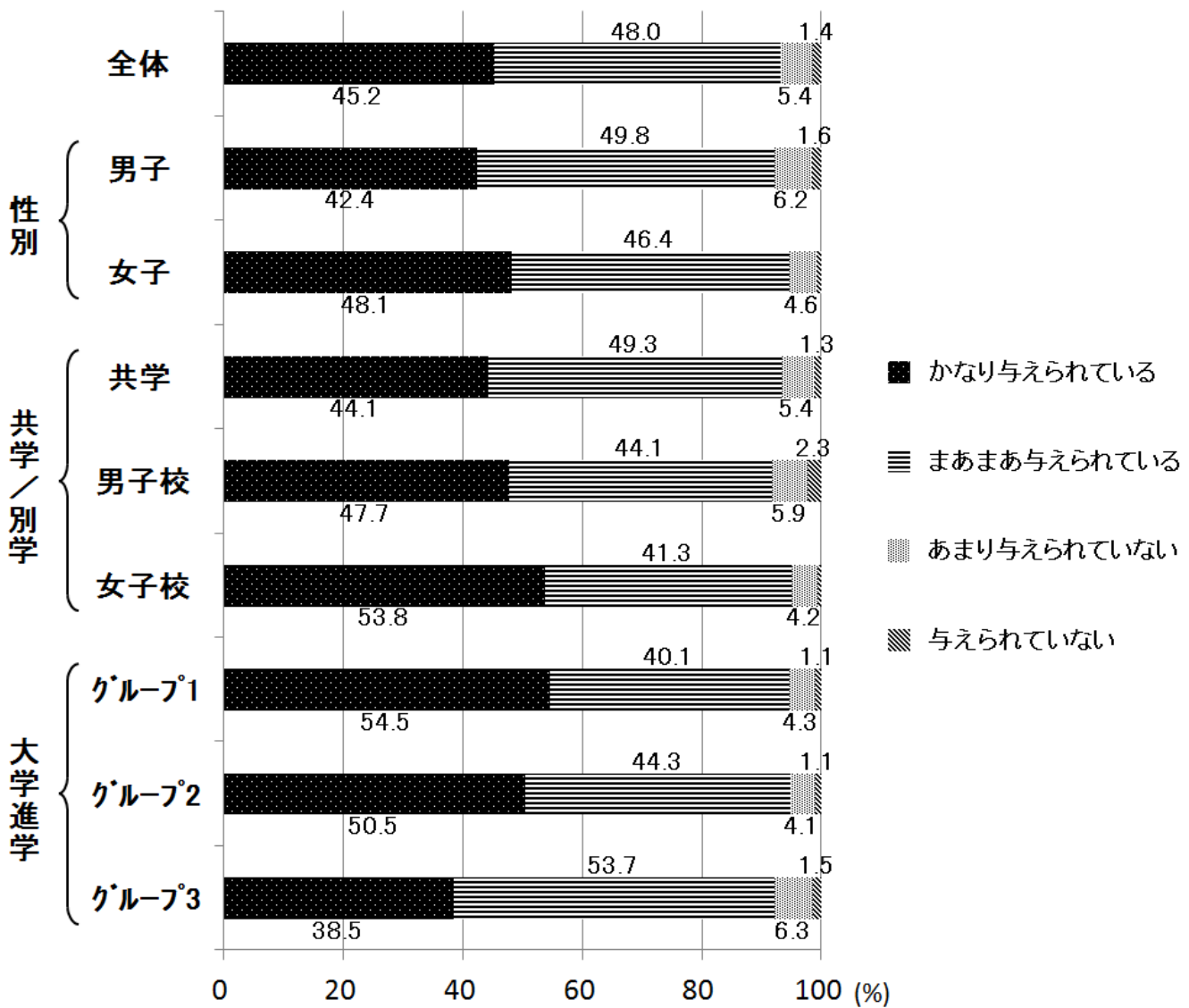
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 9. あなたの学校の進路指導について

(A) 進学についてどの程度考える機会を与られていますか



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
かなり与えられている	19947	8861	10761	16638	1162	951	4437	5332	8939
	45.2	42.4	48.1	44.1	47.7	53.8	54.5	50.5	38.5
まあまあ与えられている	21187	10392	10376	18617	1075	730	3262	4668	12466
	48.0	49.8	46.4	49.3	44.1	41.3	40.1	44.3	53.7
あまり与えられていない	2384	1293	1019	2030	143	74	350	436	1458
	5.4	6.2	4.6	5.4	5.9	4.2	4.3	4.1	6.3
与えられていない	606	338	195	478	57	13	90	112	342
	1.4	1.6	0.9	1.3	2.3	0.7	1.1	1.1	1.5
合計	44124	20884	22351	37763	2437	1768	8139	10548	23205
有効回答率	97.4	98.3	99.0	97.1	98.5	98.4	98.2	97.5	96.8

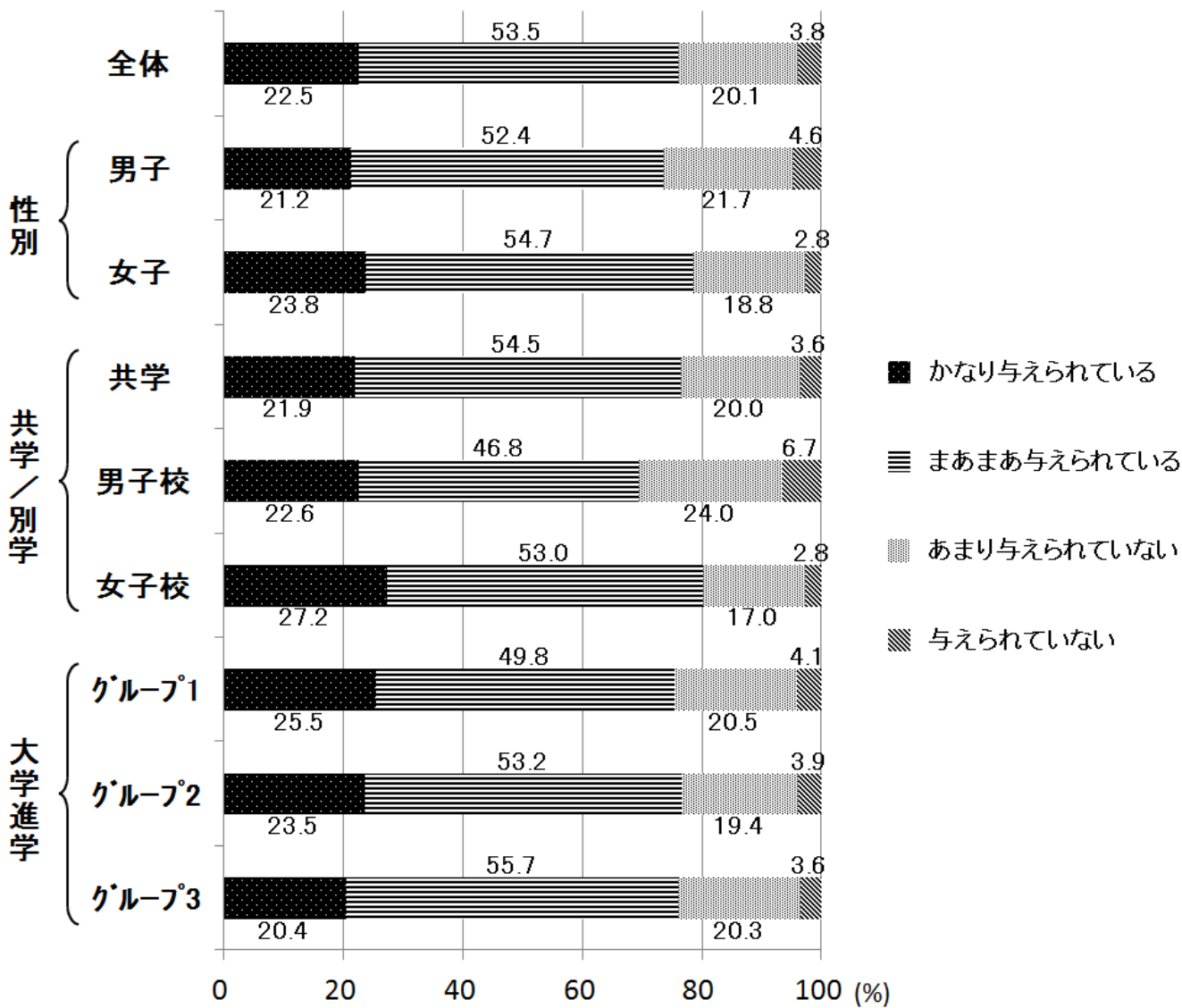
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 9. あなたの学校の進路指導について

(B) 就職や将来の職業についてどの程度考える機会を与られていますか



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
かなり与えられている	9923	4421	5293	8259	550	480	2077	2469	4721
	22.5	21.2	23.8	21.9	22.6	27.2	25.5	23.5	20.4
まあまあ与えられている	23545	10926	12199	20515	1137	935	4051	5599	12900
	53.5	52.4	54.7	54.5	46.8	53.0	49.8	53.2	55.7
あまり与えられていない	8857	4531	4179	7534	583	299	1667	2040	4699
	20.1	21.7	18.8	20.0	24.0	17.0	20.5	19.4	20.3
与えられていない	1692	967	615	1363	162	50	337	408	824
	3.8	4.6	2.8	3.6	6.7	2.8	4.1	3.9	3.6
合計	44017	20845	22286	37671	2432	1764	8132	10516	23144
有効回答率	97.1	98.1	98.7	96.9	98.3	98.2	98.1	97.2	96.5

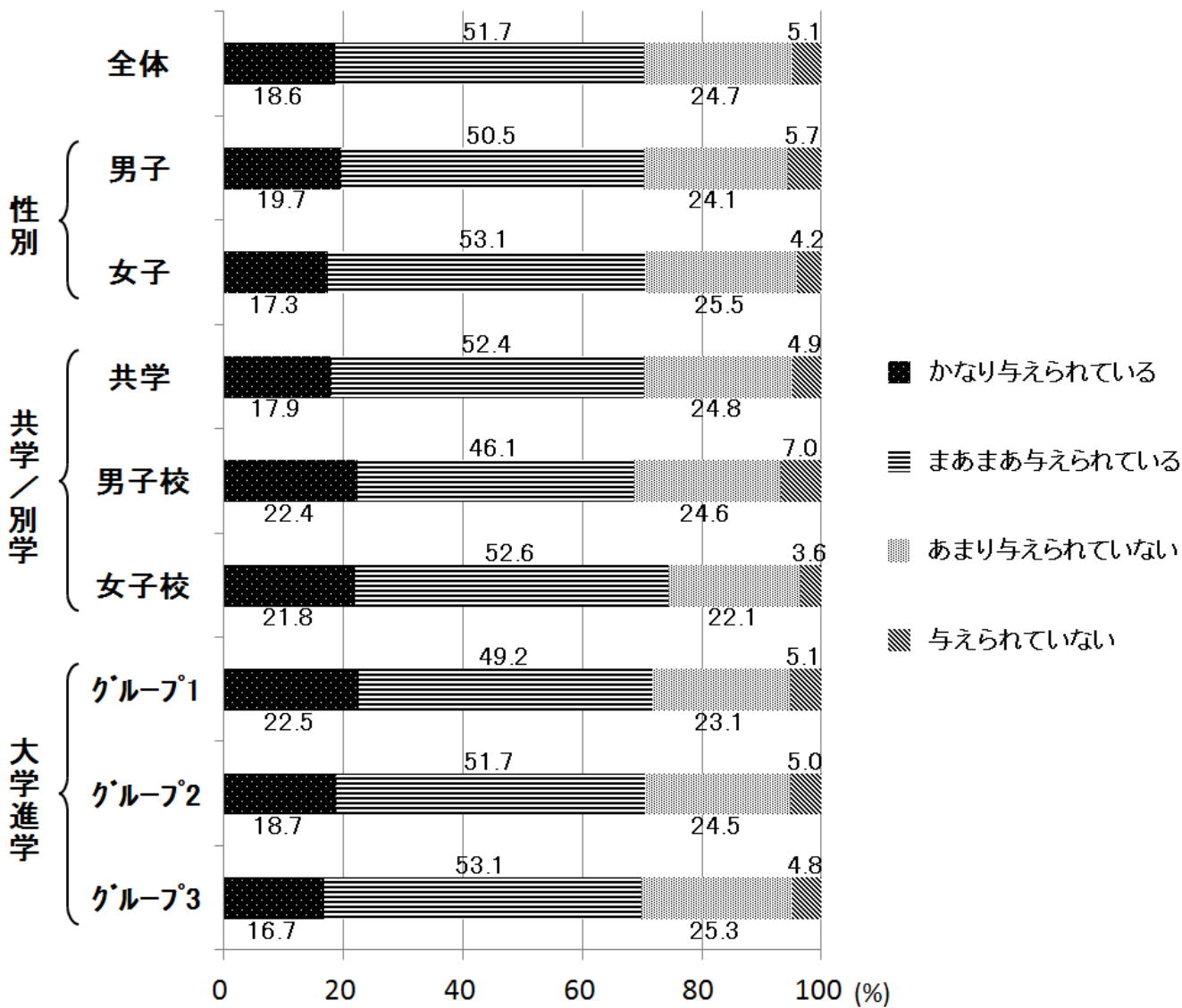
※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ3: その他の私立大、短大等に多数進学

質問 9. あなたの学校の進路指導について

(C) 将来の生き方についてどの程度考える機会を与えられていますか



回答項目	全体	性別		共学／別学			大学進学		
		男子	女子	共学	男子校	女子校	グループ1	グループ2	グループ3
かなり与えられている	8158	4097	3849	6746	544	384	1831	1970	3858
	18.6	19.7	17.3	17.9	22.4	21.8	22.5	18.7	16.7
まあまあ与えられている	22708	10497	11825	19700	1119	927	3999	5432	12277
	51.7	50.5	53.1	52.4	46.1	52.6	49.2	51.7	53.1
あまり与えられていない	10863	5016	5670	9336	597	389	1876	2579	5851
	24.7	24.1	25.5	24.8	24.6	22.1	23.1	24.5	25.3
与えられていない	2227	1192	925	1837	169	63	416	527	1119
	5.1	5.7	4.2	4.9	7.0	3.6	5.1	5.0	4.8
合計	43956	20802	22269	37619	2429	1763	8122	10508	23105
有効回答率	97.0	97.9	98.6	96.8	98.1	98.1	98.0	97.2	96.4

※点線の上段は各回答項目の生徒数、下段はその割合(%)を表す。合計はすべての回答項目の生徒の合計数で有効な回答をした生徒の総数を表す。有効回答率はアンケート調査対象者の中で有効な回答をした生徒の割合(%)を表す。

大学進学の説明

グループ 1: 難関国公立大・私立大に多数進学、グループ 2: 中堅国公立大・私立大に多数進学、グループ 3: その他の私立大、短大等に多数進学

卷末資料B

調査票 (高校2年生対象)

冊子コード

あなたのコードは

123456AB です。

高校2年生対象

学校と社会をつなぐ調査

京都大学

調査票管理コード
0123456

調査票提出までの流れ...

調査票回答

- ① 調査票を自宅に持ち帰って回答をお願いします。
(項目数は 80 項目程度。回答時間は 20 分程度です。)

メールアドレス & 冊子コードの登録

※調査結果のご報告や今後の
継続調査のために必要と
なります。



- ② ご自身もしくはご自宅のPC・スマートフォンから以下のURLにアクセスして、「メールアドレス」と「冊子コード」を入力して送信してください。
●URL ... <https://kjp.o.kawai-juku.ac.jp/trans/home/>
※右のQRコードからもアクセスできます。
●メールアドレス ... ご自身が確認することのできるアドレスで、なおかつ、なるべく変更する可能性の少ないアドレスを登録してください。
●冊子コード ... この調査票の表紙左上にあるコードです。
- ③ 返信されてきたメールに記されているURLをクリックしてください。
- ④ 登録完了メールを受け取り、完了です。
※③④のメールは、ご登録いただいたアドレス宛にお送りします。

調査票提出

- ⑤ 調査票についているシールで、中身が見えないようにしっかりと封をしてください。
- ⑥ 期日までに学校に提出してください。

それでは、次のページから質問にお答えください。

* 同じような質問が何度か繰り返されるかもしれませんが、気にせず問いにしたがって回答をお願いします。

高校2年生の皆様へ

2013 年 9 月

国立大学法人 京都大学
学校法人 河合塾

【個人情報の保護に関する事項】 について

本調査を継続的に行うため、個人情報（メールアドレス）をWeb上で登録いただく
必要があります。

以下ご確認いただき、ご承諾いただける場合は、メールアドレスの登録をお願い
いたします。

京都大学および河合塾グループは、ご記入いただいた個人情報を、京都大学の「京
都大学における個人情報の保護に関する規程（平成 17 年連示第 1 号）」*1、および
河合塾グループの「個人情報保護方針」*2 に基づき厳重に取り扱い、適正な個人情
報の管理を実施します。

*1： http://www.kyoto-u.ac.jp/notice/05_open/open07.htm

*2： <http://www.kawai-juku.ac.jp/privacy/>

1. 利用目的

以下の①～⑤の目的で、登録いただいたメールアドレスを利用します。

- ① メールアドレスと冊子コード登録後の確認メール（2013 年 10 ～ 12 月）
- ② 分析結果の報告（各回実施後半年以内、初回は 2014 年 4 月を予定）
- ③ アドレス確認（適宜）
- ④ 進路確認（毎年 4 月、高校卒業後～）
- ⑤ 調査依頼（実施年の 10 月）

※上記以外のことには利用しません。

※高校や外部には、個人を特定できるような（クラス、個人単位）報告は行い
ません。

※第 2 回目以降の調査では、謝礼をお支払いします。その際は、あらためて
個人情報の利用についてご承諾いただく予定です。

2. 個人情報提供の任意性

個人情報の提供は任意です。ただし、提供いただけない場合は、回答いただい
た結果は集計されず、また継続調査にもご協力いただけなくなります。あらかじめ
ご了承ください。

3. 個人情報の訂正・削除

個人情報の訂正・削除を希望される場合は、その旨お申し出ください。速やか
に必要な手続きをお取りいたします。

4. 個人情報の取り扱いの委託

個人情報の取り扱いの一部または全部を、京都大学・河合塾グループ内の法
人以外に委託する場合は、個人情報を適切に取り扱っていると認められる委託先
を選定し、「個人情報の取り扱いに関する契約」を取り交わすとともに適正な管
理および監督を行います。

5. 個人情報管理責任者

国立大学法人 京都大学 高等教育研究開発推進センター長
学校法人 河合塾 教育研究部部长

6. 個人情報の取り扱いに関するお問い合わせ先

学校法人 河合塾 教育研究部 学校と社会をつなぐ調査事務局
電話番号：03-6811-5531
受付時間：10:00 ～ 18:00（土日祝および年末年始を除く）
e-mail：kkt@kawai-juku.ac.jp

*お問い合わせの際にいただく個人情報は、お問い合わせへの対応にのみ利用いたします。



学校法人河合塾は、個人情報を適切に取り扱っている法人として
認定され、一般財団法人日本情報経済社会推進協会 (JIPDEC) から
「プライバシーマーク」の使用を認められています。

「個人情報の保護に関する事項」について、ご承諾いただける場合は以下の手順で、ご自身もしくはご自宅のPC・スマートフォンから以下のURLにアクセスして、「メールアドレス」と、この調査票の表紙左上の「冊子コード」を入力して送信してください。

- ① 以下のURLにアクセスして「メールアドレス」と「冊子コード」を登録
• URL ... <https://kjp.oo.kawai-juku.ac.jp/trans/home/>
※右のQRコードからもアクセスできます。
- ② 返信されてきたメールに記されているURLをクリック
- ③ 登録完了メールを受け取り、完了



確認のため、よろしければ、以下に登録いただいたメールアドレスをご記入ください。

@

1 以下の質問にお答えください。

(1) 性別 1. 男 2. 女 3. 答えたくない

* あてはまる番号に○をつけてください。

(2) 学科 1. 普通科 2. 普通科以外()

* どちらかに○をつけてください。1. 普通科以外の方は()内に学科を記入してください。

(3) あなたは学校(高校)に推薦入試で入学しましたか。

1. いいえ 2. はい

(4) あなたは中高一貫教育(あるいは小中高一貫教育)*で学ぶ生徒ですか。

もっとも近い番号に○をつけてください。

* 中学校(あるいは小学校)から無試験あるいはそれに近い形で高校に進学できるシステムを取っている学校のこと

1. はい
2. そうだが、この学校で学ぶのは高校からだ
3. いいえ
4. わからない

(5) あなたはSSH(スーパーサイエンスハイスクール)*のプログラム(あるいはそれに類似する学校独自のサイエンスプログラム)に参加していますか。

もっとも近い番号に○をつけてください。

* 文部科学省から指定を受け、理科・数学に重点を置いたカリキュラムの開発、大学や研究機関等との効果的な連携方策についての研究を推進し、将来有望な科学技術系人材を育成するプログラムのこと。

1. 参加している(した)し、満足している(満足した)
2. 参加している(した)が、あまり満足していない(満足しなかった)
3. 参加していない/わからない

2 学校や日々の生活についてお尋ねします。

もっとも近い番号に○をつけてください。

(例)	私は朝起きるのがはやい	①	2	3	4
1	私は、朝食を毎日とる	1	2	3	4
2	私は、新聞を毎日読む	1	2	3	4
3	私は、読書をする(電子書籍を含むが、マンガや雑誌は除く)	1	2	3	4
4	私は、インターネット上でニュースや出来事を読む	1	2	3	4
5	私は、規則正しい生活を送っている	1	2	3	4
6	私は、学校や授業に遅刻する	1	2	3	4
7	私は、授業の内容を理解している	1	2	3	4
8	私は、学習意欲が高い	1	2	3	4
9	私は、計画的に学習している	1	2	3	4
10	私は、勉強をしないで分らないことが出ると、それを解決する	1	2	3	4
11	私は、大学の入試科目にない勉強、将来に関係のない勉強をしないことがある	1	2	3	4
12	私は、学校行事(体育祭や文化祭など)には積極的に参加する	1	2	3	4
13	私は、今までにボランティア活動によく参加してきた	1	2	3	4
14	私は、今までにインターンシップ(企業や官公庁などでの職場体験、就労実習)に参加したことがある	1	2	3	4
15	私は、将来できれば海外の大学や学校に行きたい	1	2	3	4
16	私は、将来できれば海外で仕事をしたい	1	2	3	4

3 以下の質問にお答えください。

(1) 部活動と学習とを両立させることができますか。もっとも近い番号に○をつけてください。

1. できている
2. まあまあできている
3. あまりできていない
4. できていない
5. 部活動はやっていない

次ページにつづきます

(2) 授業におけるディスカッション(話し合い)・プレゼンテーション(発表)などに精いっぱい取り組んでいますか。もっとも近い番号に○をつけてください。

1. 取り組んでいる
2. まあまあ取り組んでいる
3. あまり取り組んでいない
4. 取り組んでいない
5. そういう授業はない

(3) 教科以外の学習(総合的な学習の時間やHR活動)に精いっぱい取り組んでいますか。もっとも近い番号に○をつけてください。

1. 取り組んでいる
2. まあまあ取り組んでいる
3. あまり取り組んでいない
4. 取り組んでいない
5. そういう授業はない

(4) 学校(高校)生活は充実していますか。もっとも近い番号に○をつけてください。

1. 充実している
2. まあまあ充実している
3. どちらとも言えない
4. あまり充実していない
5. 充実していない

4 最近の典型的な(1) 平日(月～金曜日)、(2) 休日(土・日曜日)の過ごし方を、下記の表を完成させて教えてください。 *ここは、最重要項目です。

* 曜日によって過ごし方は異なると思いますがたとえば、部活動は週2回で、部活動のある曜日とない曜日とは過ごし方が異なる場合、あなたを理解するためのもっとも典型的な過ごし方を教えてくださいたとえば、部活動があなたにとって重要であれば、部活動のある日の一般的な過ごし方を記入する、など。

No.	活動内容	記入例	(1) 平日	(2) 休日
1	部活動	3 時間	時間	時間
2	学校での授業以外の学習時間 (授業に駒連した宿題や課題、授業に関連しない自主学習、塾や予備校、家庭教師、自主学習など、あらゆる勉強を含みます)	1 時間	時間	時間
3	友だちと遊ぶ	時間	時間	時間
4	テレビを見る	1.5 時間	時間	時間
5	友だちと電話、LINE、メール交換、ツイッター、SNS(mixiやFacebookなど)などをする	2 時間	時間	時間
6	SNS(mixiやFacebookなど)などをするゲームをする	時間	時間	時間
7	読書をする(ただし、マンガ、雑誌を除く)	時間	時間	時間
8	マンガ、雑誌を読む	0.5 時間	時間	時間
9	睡眠	6 時間	時間	時間
10	その他 1()	時間	時間	時間
11	その他 2()	時間	時間	時間
12	その他 3()	時間	時間	時間

* 記入例を参考にして0.5時間(30分)単位で記入してください。

* 紙の合計が、学校での授業時間(7～8時間)を含めて24時間を越えないように注意してください。

(3) あなたのふだんの学習は、学校での学習が中心ですか、それとも学習塾や予備校、家庭教師などの学習が中心ですか。もっとも近い番号に○をつけてください。

学校で、あるいは
学校で課せられる
学習が中心

半々程度

学習塾や予備校、
家庭教師などでの
学習が中心

うまく答えられない方は、16. その他()
うまく答えられない方は、16. その他()
うまく答えられない方は、16. その他()
うまく答えられない方は、16. その他()

5 友だち関係についてお尋ねします。

もっとも近い番号に○をつけてください。

(例)	私は友だちづきあいがいい	1	2	3	4	5
1	友だちをたくさん作るように心がけている	1	2	3	4	5
2	初対面の人とでもすぐに友だちになる	1	2	3	4	5
3	友だちというより、ひとりでいるほうが気持ちよく落ち着く	1	2	3	4	5
4	友だちと意見が合わないときには、納得がいくまで話し合いをする	1	2	3	4	5
5	友だちといつも連絡をとっていないと不安だ	1	2	3	4	5
6	友だちとの関係はあっさりして、お互い深入りしないようにしている	1	2	3	4	5
7	一緒に勉強できる友だちがいる	1	2	3	4	5
8	悩みごとなど相談できる友だちがいる	1	2	3	4	5
9	SNS(mixiやGREE、Moogle、Facebookなど)上で会ったことのない友だちがたくさんいる	1	2	3	4	5

執筆者

- ・ 溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター教授） 第1章、第2章
- ・ 伊佐夏実（大阪大学大学院人間科学研究科助教） 第3章
- ・ 知念 歩（大阪大学大学院人間科学研究科助教） 第3章
- ・ 棕本 洋（立命館大学理工学部講師、前教育開発推進機構教授・接続教育センター長） 第4章

分析協力者

- ・ 柏木智子（大阪国際大学短期大学部講師）
- ・ 河井 亨（立命館大学教育開発推進機構講師）
- ・ 畑野 快（日本学術振興会 / 京都大学高等教育研究開発推進センター）

学校と社会をつなぐ調査

第1回調査(2013年秋実施) 分析結果報告 —1時点目(高校2年生) 報告書—

2014年（平成26年）6月

編集・発行：京都大学 高等教育研究開発推進センター
〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町
TEL 075-753-3087 FAX 075-753-3045

・ 学校法人河合塾 教育研究開発本部 教育研究部
〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-49-7
池袋パークビル6階
TEL 03-6811-5531

*無断転載を禁じます。